

安城市男女共同参画に関する
アンケート調査
【調査結果報告書】

令和5年1月

安 城 市

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	2
2	調査の実施概要	2
3	報告書の見方	3
II	市民調査結果	5
1	回答者の属性	6
2	家庭生活について	12
3	職業生活について	26
4	女性の活躍推進について	55
5	男性と女性の立場やあり方に関する意識について	65
6	コロナ禍について	88
7	DV（ドメスティック・バイオレンス）について	90
8	困難を抱える女性への支援について	113
9	性的マイノリティについて	114
10	市の施策への女性意見の反映について	116
11	男女共同参画に関する考え方について	122
III	企業調査結果	127
1	回答企業の概要	128
2	育児や介護に関する制度について	135
3	女性従業員について	138
4	男女共同参画全般について	145
IV	高校生調査結果	149
1	回答者の属性	150
2	男女共同参画の意識について	151
3	将来の働き方について	157
4	男女間の暴力について	159
5	性的マイノリティについて	164
V	町内会調査結果	167
1	回答者の属性	168
2	町内会活動における女性の参画について	170
3	災害時対策について	175

VI 保育士・幼稚園教諭調査結果	177
1 回答者の属性	178
2 男女共同参画に関する意識について	180
3 子育て家庭の状況について	185

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、家庭、地域、職場等における男女共同参画に関する市民の意識や男女の平等・社会参加の実態等を調査し、過去の意識調査と比較・検証することにより、男女共同参画社会の実現に向けての施策展開の基礎とするとともに「第5次安城市男女共同参画プラン」策定の基礎資料とすることを目的として実施しました。

2 調査の実施概要

●調査に関する事項

区分	内容	
調査対象	市民	18歳以上の男女各1,000人を無作為抽出
	企業	市内業者500社を無作為抽出
	高校生	市内の高校6校からクラスごとに262人を抽出
	町内会	市内81町内会の会長
	保育士・幼稚園教諭	市内施設に勤務する保育士・幼稚園教諭約500人
調査票の 配布・回収	市民	郵送配布・郵送回収及びWEB回答（督促状1回）
	企業	郵送配布・郵送回収及びWEB回答（督促状1回）
	高校生	学校を通じた配布・回収
	町内会	郵送配布・郵送回収及びWEB回答
	保育士・幼稚園教諭	園を通じた配布・WEB回答
調査基準日	令和4年8月1日	
調査期間	市民	令和4年8月20日～9月12日
	企業	令和4年8月20日～9月12日
	高校生	令和4年9月5日～9月16日
	町内会	令和4年8月20日～9月12日
	保育士・幼稚園教諭	令和4年9月2日～9月16日

●配布・回収に関する事項

調査対象	市民	企業	高校生	町内会	保育士・ 幼稚園教諭
配布数(A)	2,000	500	262	81	—
回収件数(B)	928	179	217	66	424
紙面回答	550	142	217	58	—
WEB回答	378	37	—	8	424
回収率(B/A)	46.4%	35.8%	82.8%	81.5%	—

3 報告書の見方

●集計について

本報告書では、設問ごとに全体の集計結果とクロス集計結果を記載しています。なお、クロス集計結果では、性別等の不明・無回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数の合計と全体の回答者総数は合致しません。

●「N」について

グラフ中の「n」とは、Number of Cases の略で、各設問に該当する回答者総数を表します。

●「%」について

グラフ中の「%」は、小数点第2位以下を四捨五入しているため、単数回答の設問（1つだけに○をつけるもの）であっても、合計が100%にならない場合があります。また、複数回答の設問の場合（あてはまるものすべてに○をつけるもの等）は、「N」に対する各選択肢の回答者数の割合を示します。

●選択肢の記載について

グラフ中の選択肢は、原則として調査票に記載された表現のまま記載していますが、一部、必要に応じて省略しています。

●「不明・無回答」について

図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。

●「単数回答」「複数回答」について

図表のタイトルにある「単数回答」は、選択肢の中から1つだけを選ぶもの、「複数回答」は選択肢の中から2つ以上を選ぶものを表します。

●表について

表中の網掛けは、「不明・無回答」を除き、**最も割合の高い項目**と**二番目に割合の高い項目**を表しています。

●結果の読取文について

集計対象者総数（n）が10未満の場合は順位付けを省略し、読取文の対象外としています。

●比較分析について

比較分析において使用したデータの調査名は次のとおりです。なお、全国調査において、「無回答」は除外して集計されているため、国との比較や過去のデータとの経年比較では「不明・無回答」を除いて算出しています。このため、令和4年度調査結果の本編とは異なる値となっています。

【国比較】

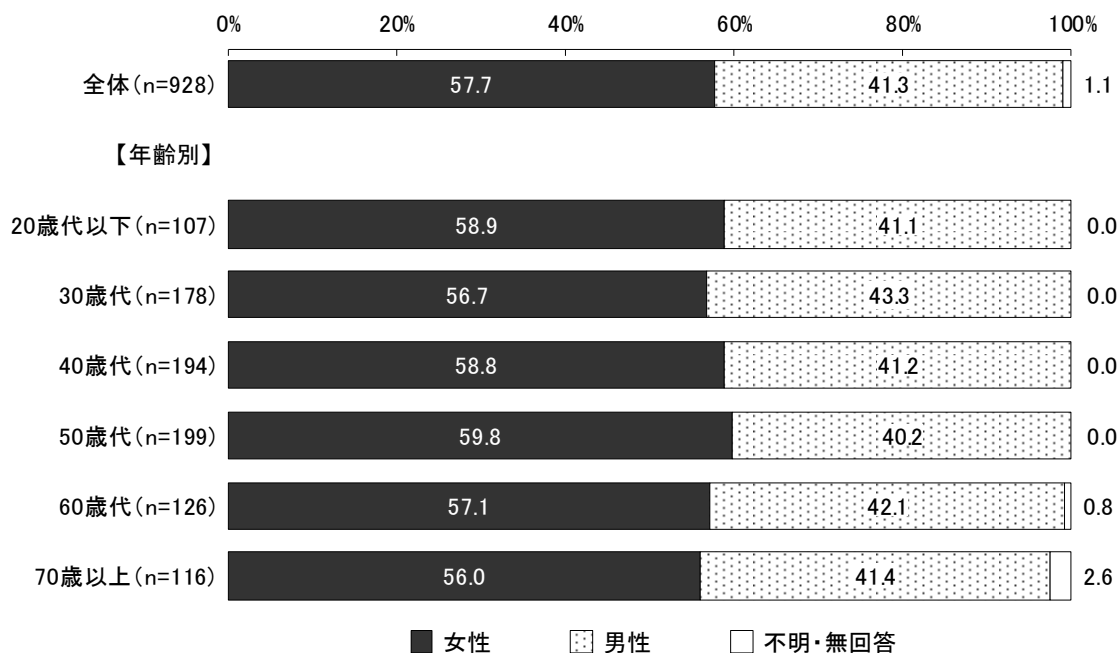
対象調査	有効回収数		
	全体	男性	女性
男女共同参画社会に関する世論調査 (令和元年9月調査、内閣府)	2,645	1,407	1,238

II 市民調查結果

1 回答者の属性

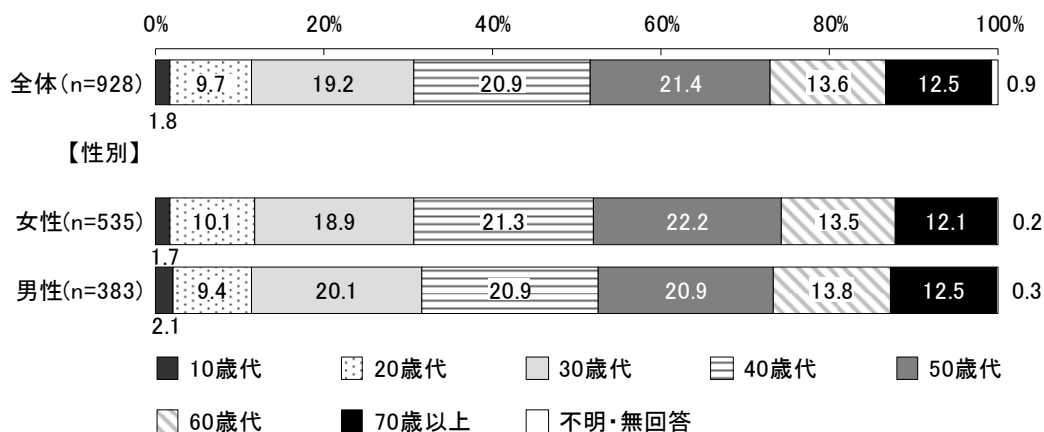
問1 性別 (単数回答)

回答者の性別は、全体で「女性」が57.7%、「男性」が41.3%となっています。
年齢別では、いずれの年代も「女性」が半数を超えています。



問2 年齢 (単数回答)

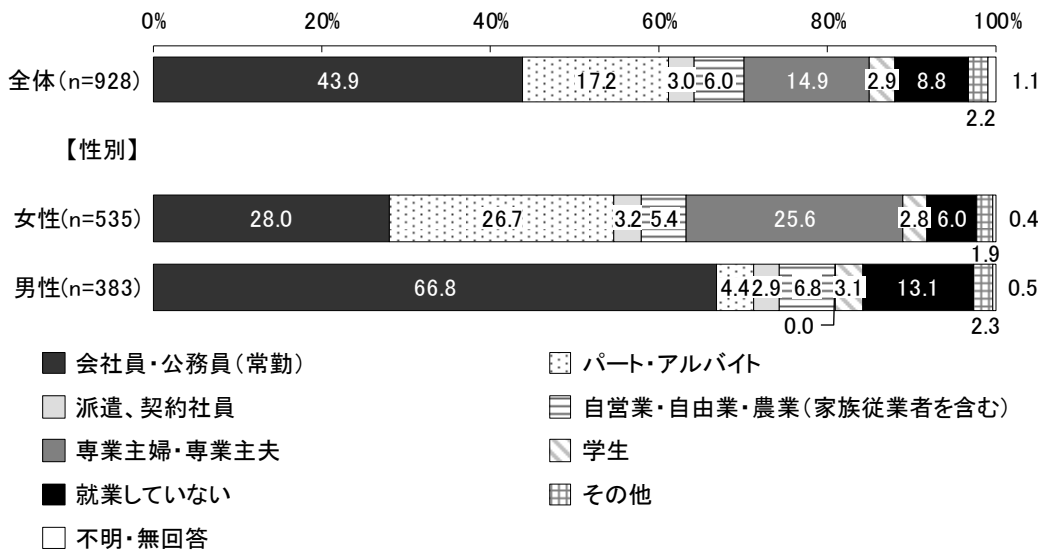
回答者の年齢は、全体で「50歳代」が21.4%と最も高く、次いで「40歳代」が20.9%となっています。
性別では、女性で40~50歳代が約2割、男性では30~50歳代が約2割と、それぞれ高くなっています。



問3 職業（単数回答）

回答者の職業は全体で「会社員・公務員（常勤）」が43.9%と最も高く、次いで「パート・アルバイト」が17.2%となっています。

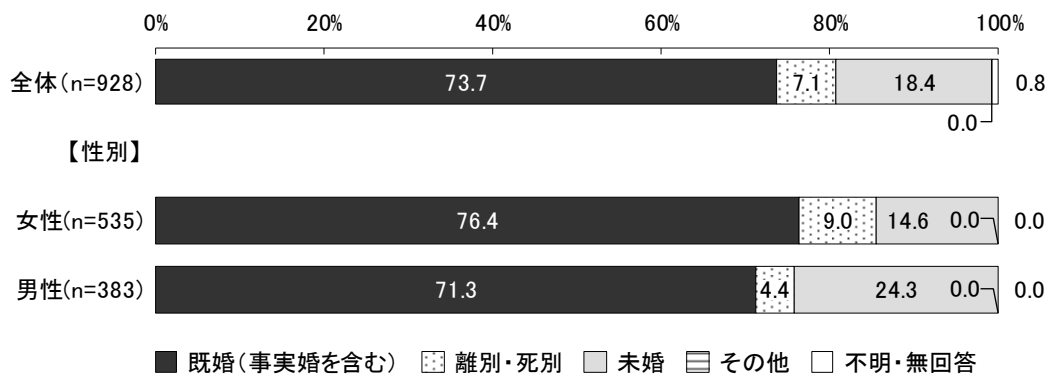
性別では、女性で「会社員・公務員（常勤）」が28.0%と最も高く、次いで「パート・アルバイト」が26.7%、「専業主婦・専業主夫」が25.6%となっています。男性では「会社員・公務員（常勤）」が66.8%と最も高く、次いで「就業していない」が13.1%となっています。



問4 婚姻状況 (単数回答)

回答者の婚姻状況は、全体で「既婚 (事実婚を含む)」が 73.7%と最も高く、次いで「未婚」が 18.4%となっています。

性別では、「既婚 (事実婚を含む)」が女性で 76.4%、男性で 71.3%となっています。一方、「未婚」は男性で 24.3%と、女性と比べて 9.7ポイント高くなっています。

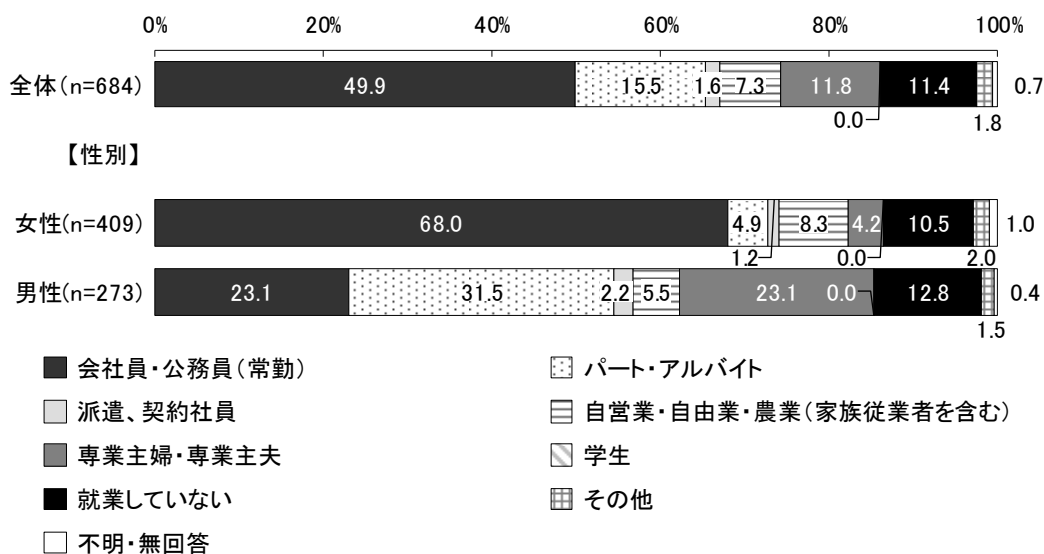


問4で「1. 既婚 (事実婚を含む)」と回答した方のみ

問4-1 配偶者・パートナーの職業 (単数回答)

回答者の配偶者・パートナーの職業は、全体で「会社員・公務員 (常勤)」が 49.9%と最も高く、次いで「パート・アルバイト」が 15.5%となっています。

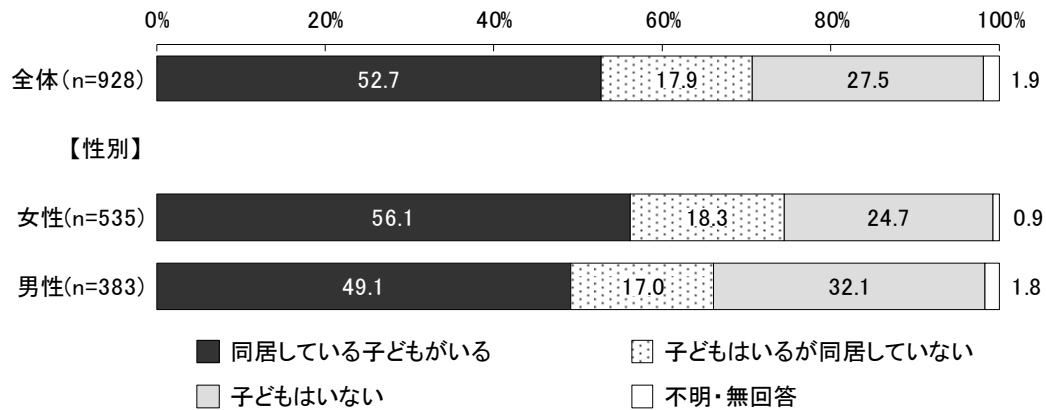
性別では、女性回答者の配偶者・パートナーは「会社員・公務員 (常勤)」が 68.0%と最も高く、次いで「就業していない」が 10.5%となっています。男性回答者の配偶者・パートナーは「パート・アルバイト」が 31.5%と最も高く、次いで「会社員・公務員 (常勤)」 「専業主婦・専業主夫」がそれぞれ 23.1%となっています。



問5 子どもの有無（単数回答）

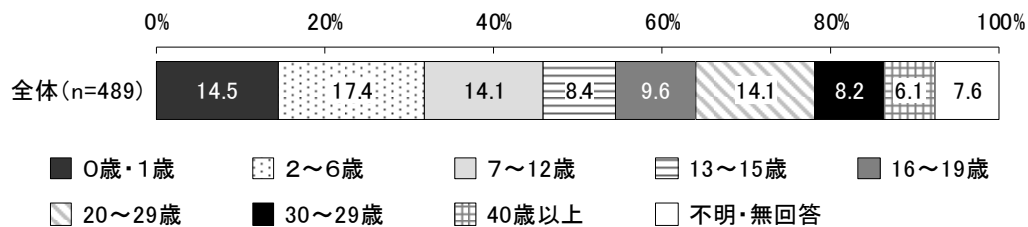
回答者の子どもの有無は、全体で「同居している子どもがいる」が 52.7%と最も高く、次いで「子どもはいない」が 27.5%となっています。なお、「同居している子どもがいる」方の最も年齢が低い子どもの年齢は、19歳以下が約6割となっています。

性別では、「同居している子どもがいる」が女性で56.1%、男性で49.1%となっています。



問5で「1.同居している子どもがいる」と回答した方のみ

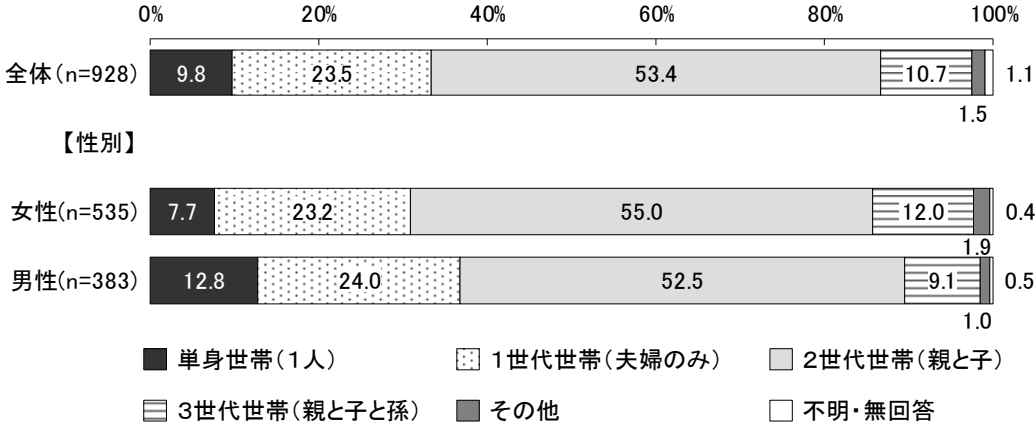
※最も年齢が低い子どもの年齢（数量回答）



問6 家族構成 (単数回答)

回答者の家族構成は、全体で「2世代世帯（親と子）」が53.4%と最も高く、次いで「1世代世帯（夫婦のみ）」が23.5%となっています。

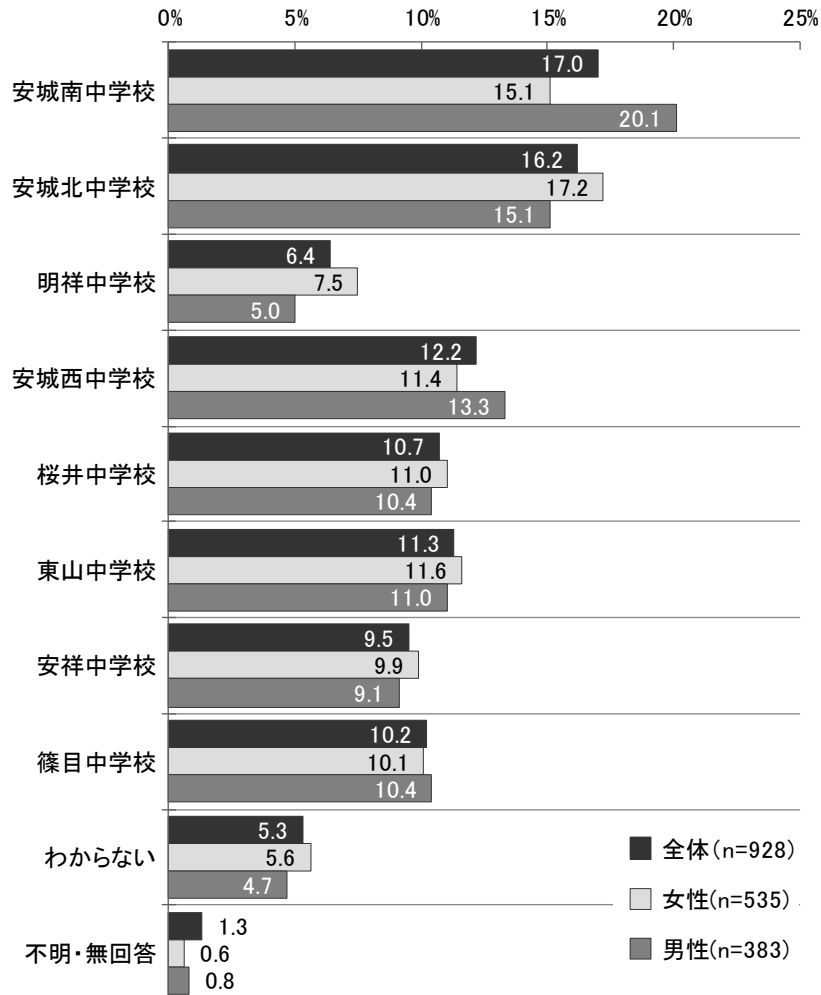
性別では、「単身世帯（1人）」が男性で12.8%と、女性と比べて5.1ポイント高くなっています。



問7 お住まいの中学校区 (単数回答)

回答者の住まいの中学校区は、全体で「安城南中学校」が17.0%と最も高く、次いで「安城北中学校」が16.2%となっています。

性別では、女性で「安城北中学校」が17.2%、男性で「安城南中学校」が20.1%と、それぞれ最も高くなっています。



2 家庭生活について

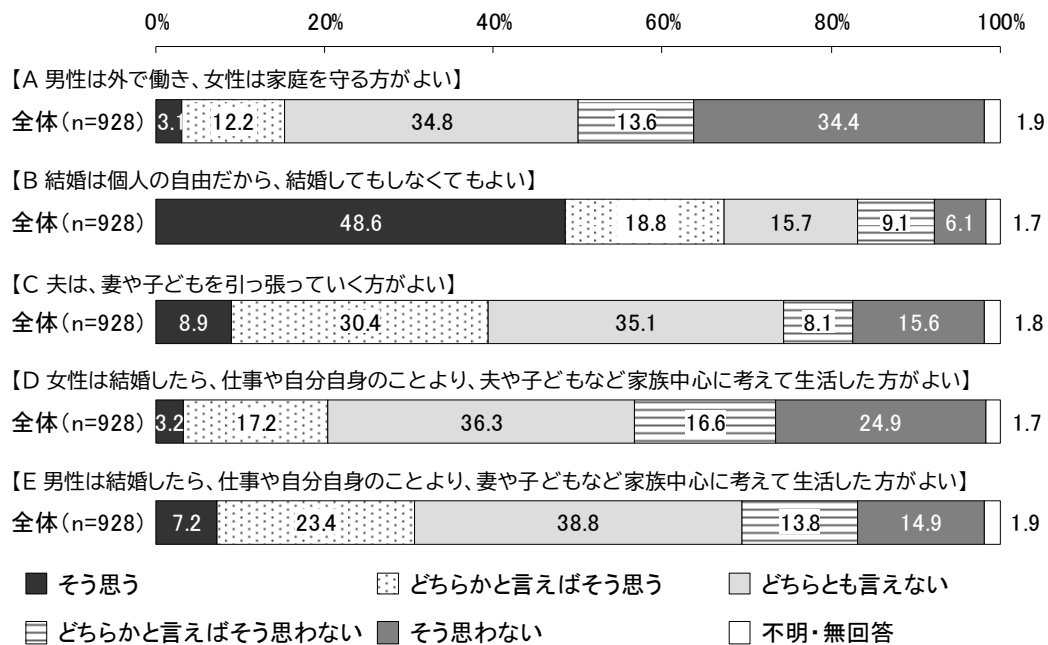
問8 次にあげる考え方について、あなたはどのように思いますか。(単数回答)

問8の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『賛成』…「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合算

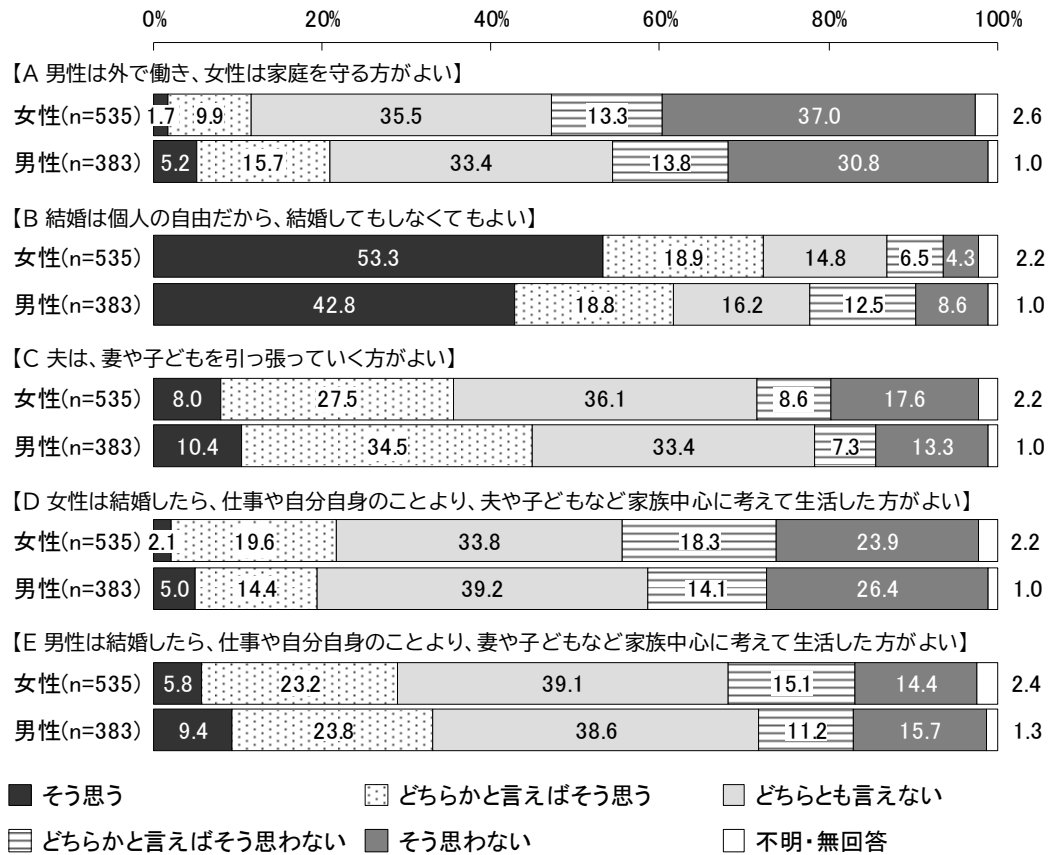
『反対』…「そう思わない」と「どちらかと言えばそう思わない」の合算

家庭生活における考えでは、「B 結婚は個人の自由だから、結婚してもしなくてもよい」で『賛成』が約7割と高く、「A 男性は外で働き、女性は家庭を守る方がよい」「D 女性は結婚したら、仕事や自分自身のことより、夫や子どもなど家族中心に考えて生活した方がよい」で『反対』が、それぞれ約4～5割と高くなっています。



性別比較

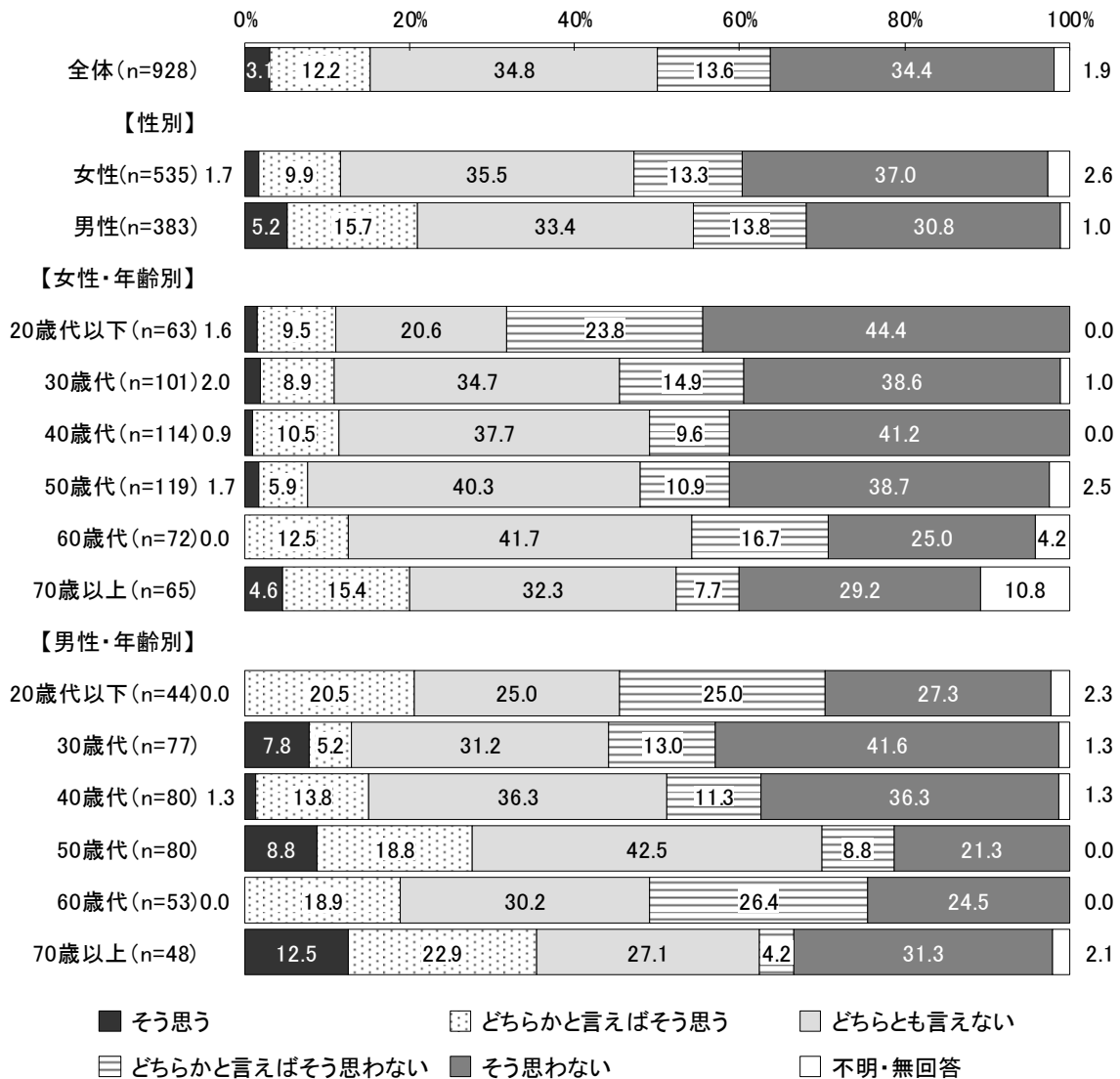
女性と男性で最も差が大きい項目は「B 結婚は個人の自由だから、結婚してもしなくてもよい」となっており、『賛成』は女性で72.2%と男性と比べて10.6ポイント、『反対』は男性で21.1%と女性と比べて10.3ポイント、それぞれ高くなっています。また、「A 男性は外で働き、女性は家庭を守る方がよい」「C 夫は、妻や子どもを引っ張っていく方がよい」では、『賛成』する男性が、女性と比べて約10ポイント、それぞれ高くなっています。



項目別集計結果

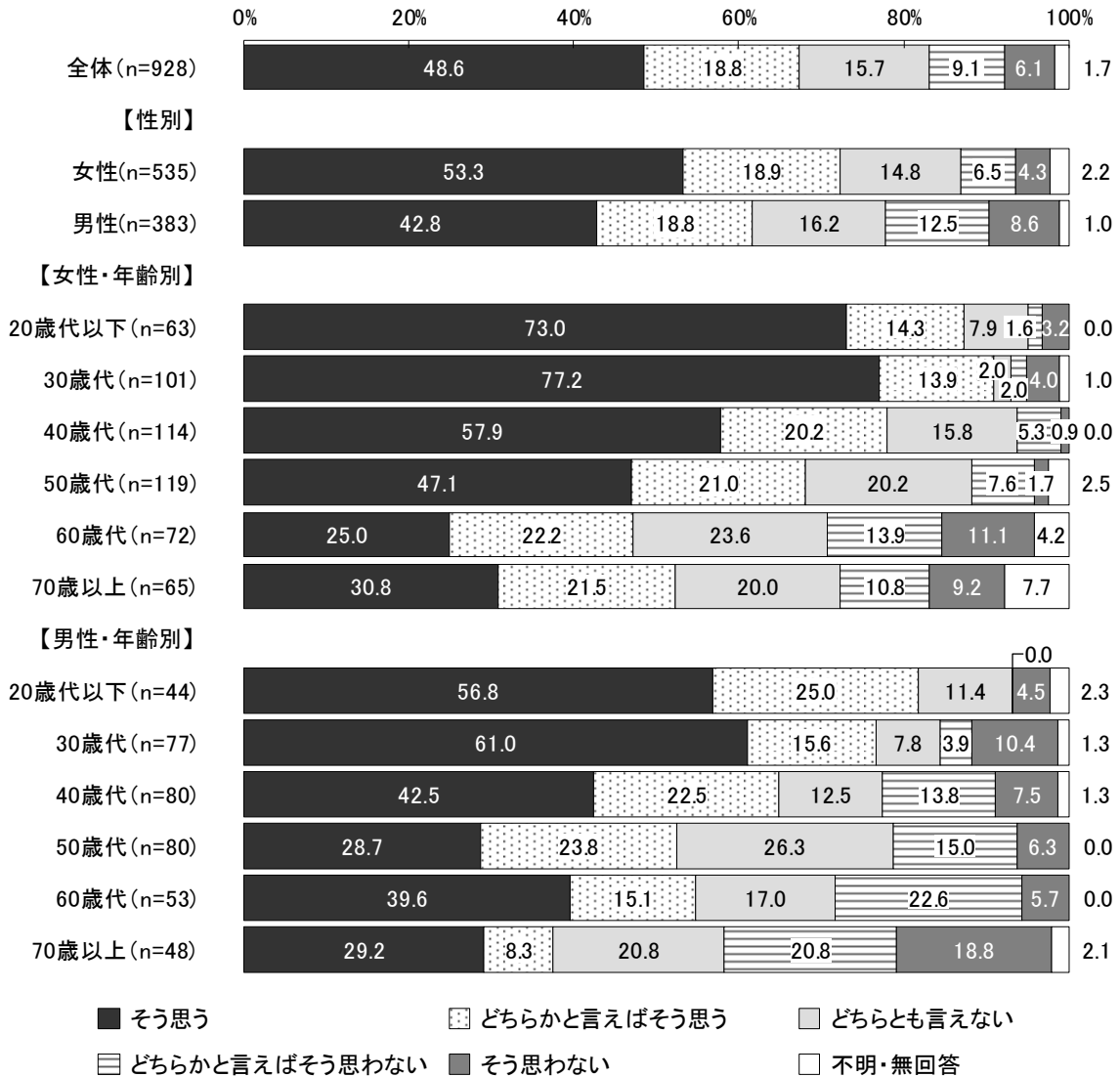
【A 男性は外で働き、女性は家庭を守る方がよい】

「男性は外で働き、女性は家庭を守る方がよい」という考えについては、男性の70歳以上で『賛成』が3割を超えて高くなっています。一方、『反対』は女性の50歳代以下、男性の40歳代以下及び60歳代で約5割を超えて高くなっており、特に女性の20歳代以下は68.2%と、女性の他の年代や同年代の男性と比べても高い割合となっています。



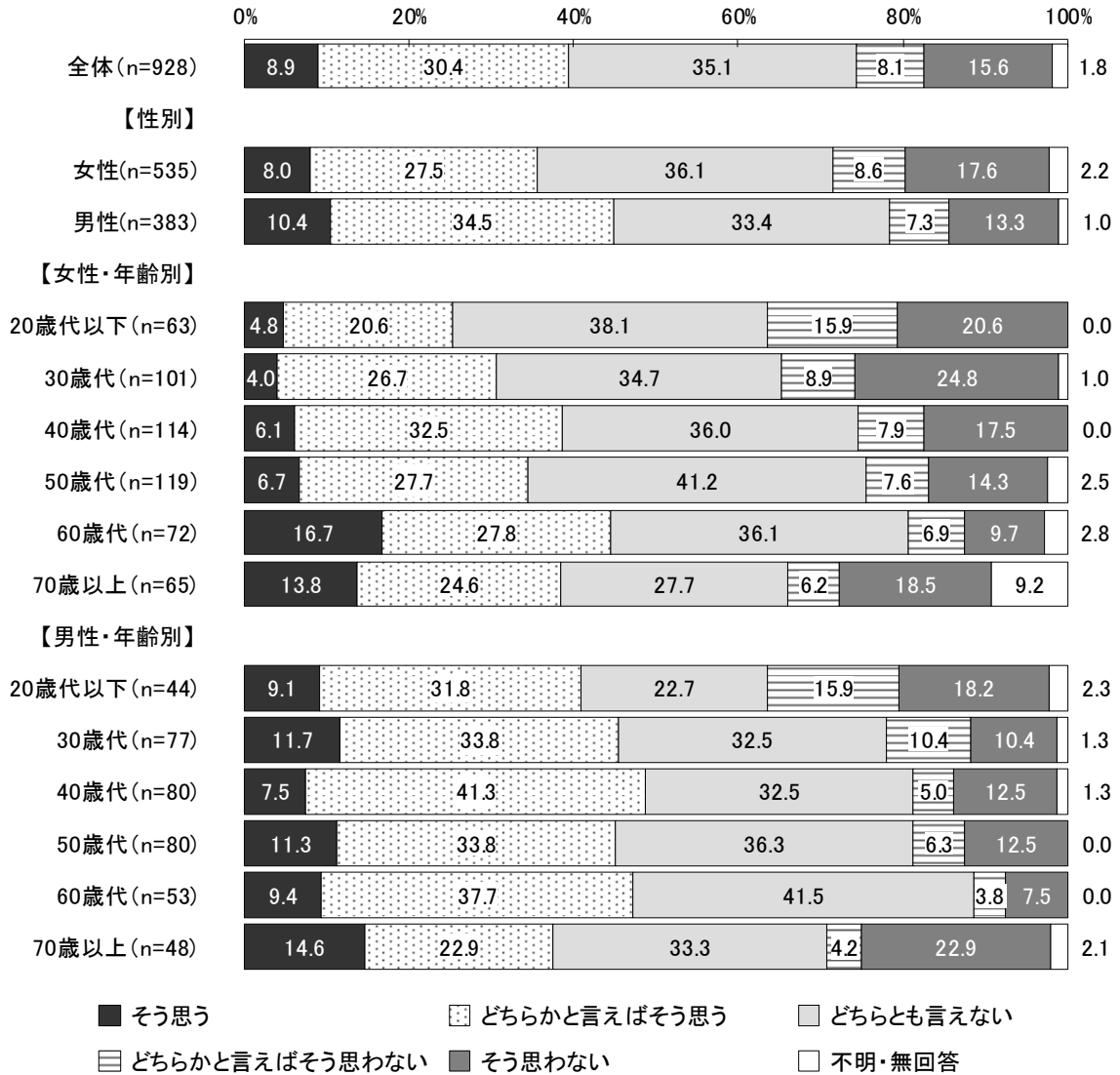
【B 結婚は個人の自由だから、結婚してもしなくてもよい】

「結婚は個人の自由だから、結婚してもしなくてもよい」という考えについては、女性の60歳代、男性の70歳以上を除き『賛成』が5割以上と高く、特に女性の20歳代以下・30歳代は9割前後となっています。また、男女ともに年齢が上がるにつれて『賛成』が低下する傾向にあります。なお、『反対』は男性の70歳以上で39.6%と、女性の各年代及び男性の他の年代と比べて高くなっています。



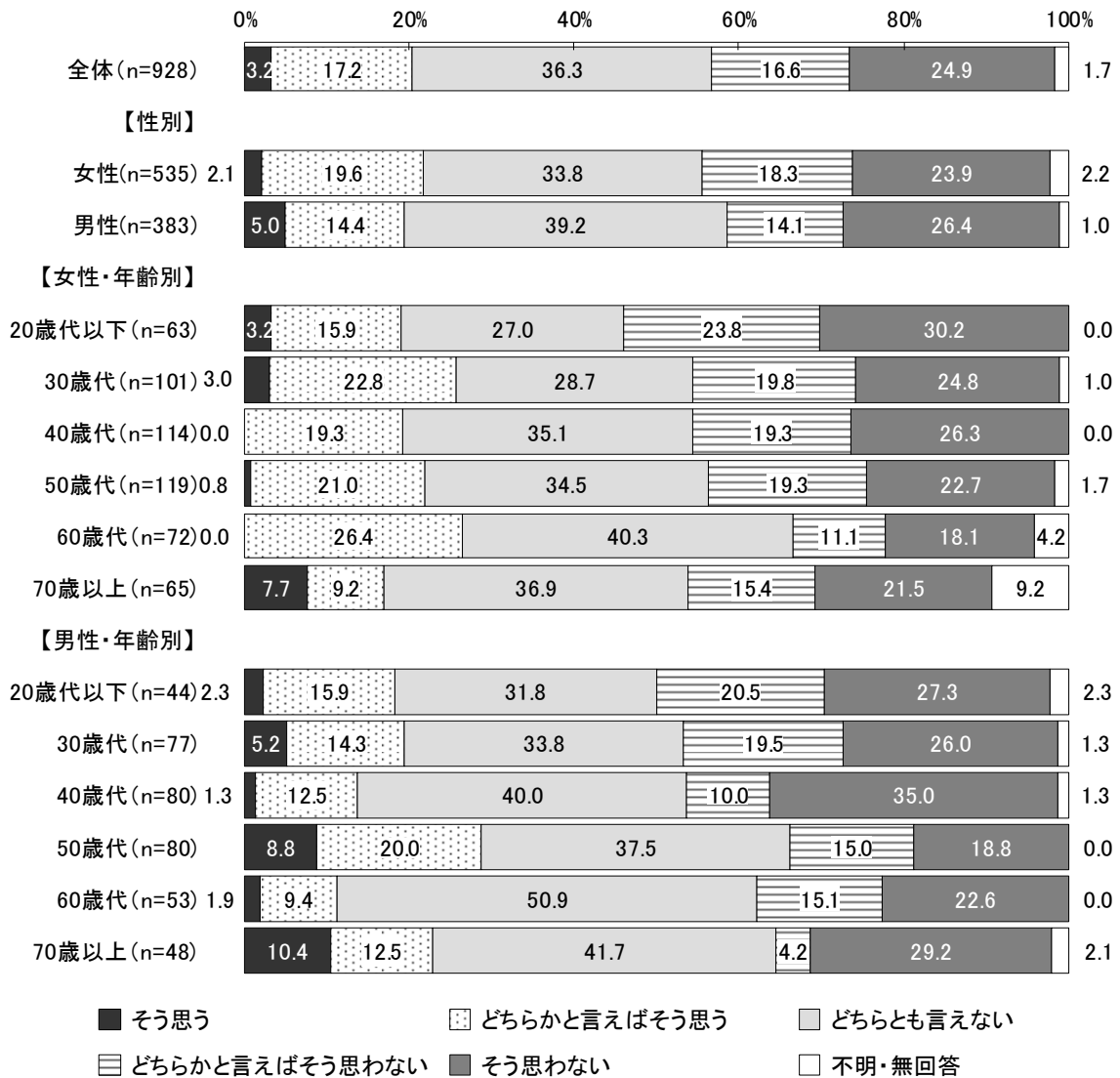
【C 夫は、妻や子どもを引っ張っていく方がよい】

「夫は、妻や子どもを引っ張っていく方がよい」という考えについては、女性の 60 歳代、男性の 60 歳以下で『賛成』が 4 割台と高くなっています。なお、女性の 30 歳代以下、男性の 20 歳代以下で『反対』が 3 割台と、他の年代と比べて高くなっています。



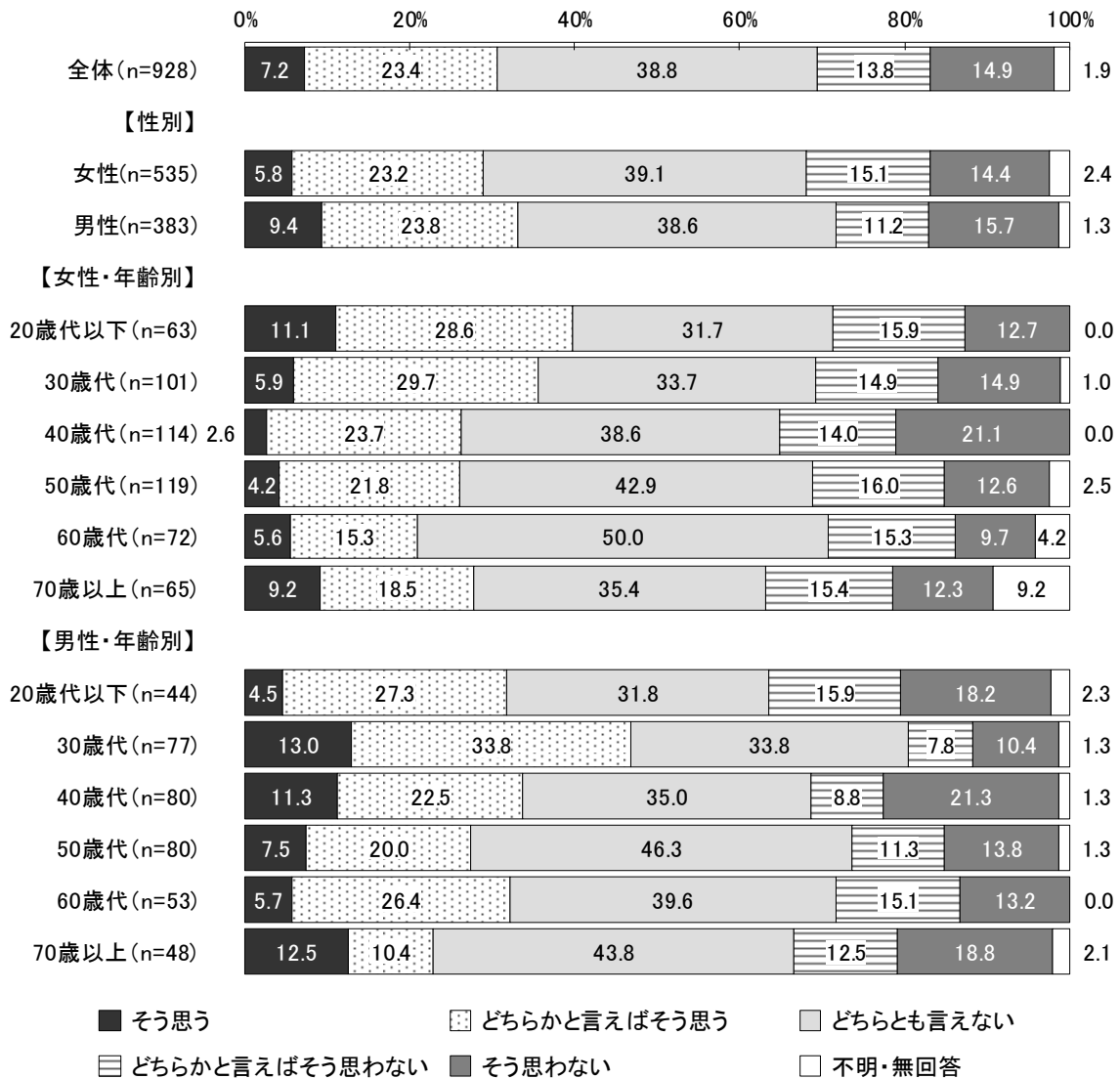
【D 女性は結婚したら、仕事や自分自身のことより、夫や子どもなど家族中心に考えて生活した方がよい】

「女性は結婚したら、仕事や自分自身のことより、夫や子どもなど家族中心に考えて生活した方がよい」という考えについては、男性の50歳代で『賛成』28.8%と高くなっています。また、女性の20歳代以下では『反対』が54.0%と、同性の他の年代や男性の各年代と比べて高くなっています。



【E 男性は結婚したら、仕事や自分自身のことより、妻や子どもなど家族中心に考えて生活した方がよい】

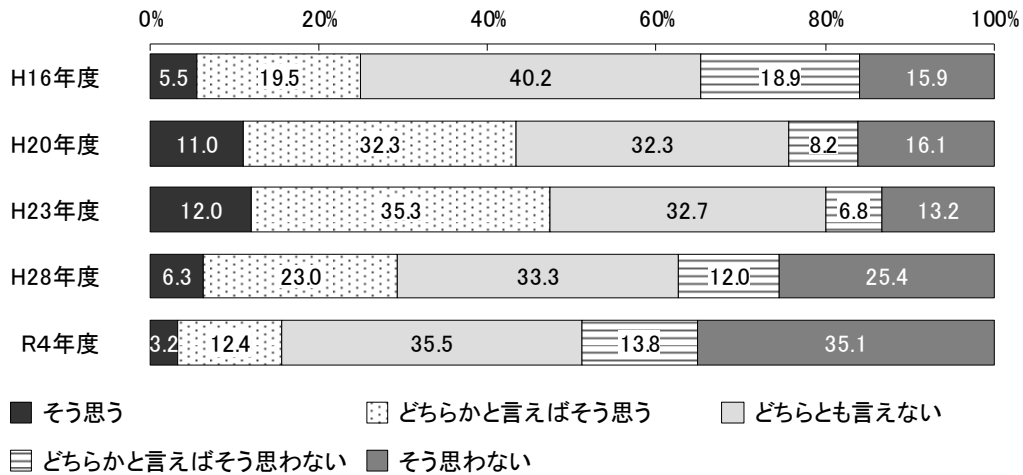
「男性は結婚したら、仕事や自分自身のことより、妻や子どもなど家族中心に考えて生活した方がよい」という考えについては、女性の30歳代以下、男性の40歳代以下で『賛成』が3割を超えて高くなっています。特に男性の30歳代では46.8%と、同年代の女性や男性の他の年代と比べても高い割合となっています。



経年比較及び国比較

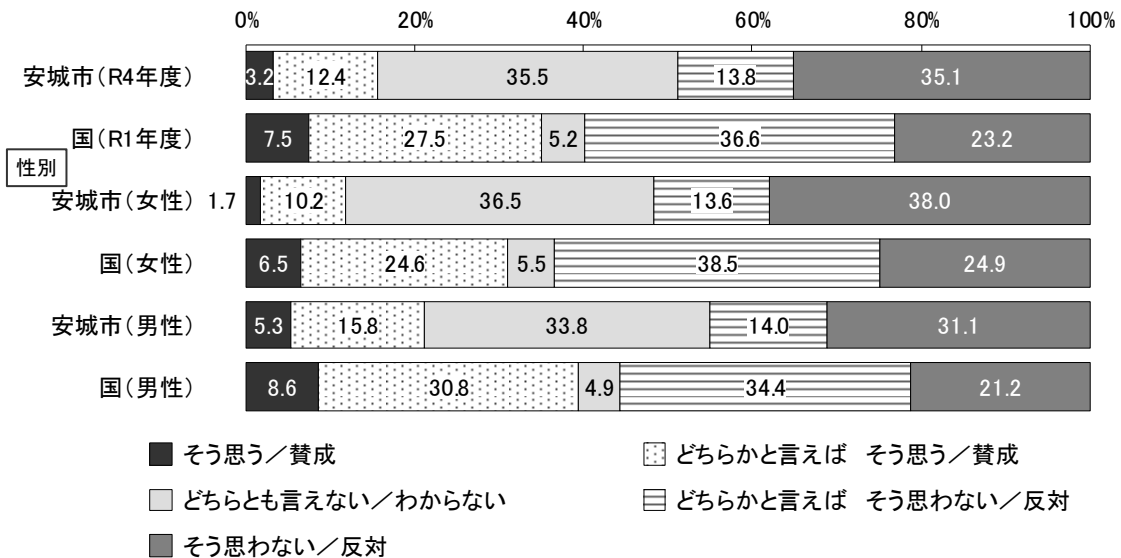
【A 男性は外で働き、女性は家庭を守る方がよい】

『賛成』がH20年度及びH23年度に4割を超えていたものの、R4年度には15.6%と、H23年度と比べて31.7ポイント低くなっています。一方、『反対』はH23年度に20.0%と過去3回の調査で最も低かったものの、R4年度には48.9%と28.9ポイント高くなっています。



※各年度の調査結果は、「不明・無回答」を除いて算出した割合です。

国比較 ※選択肢が異なるため、参考値

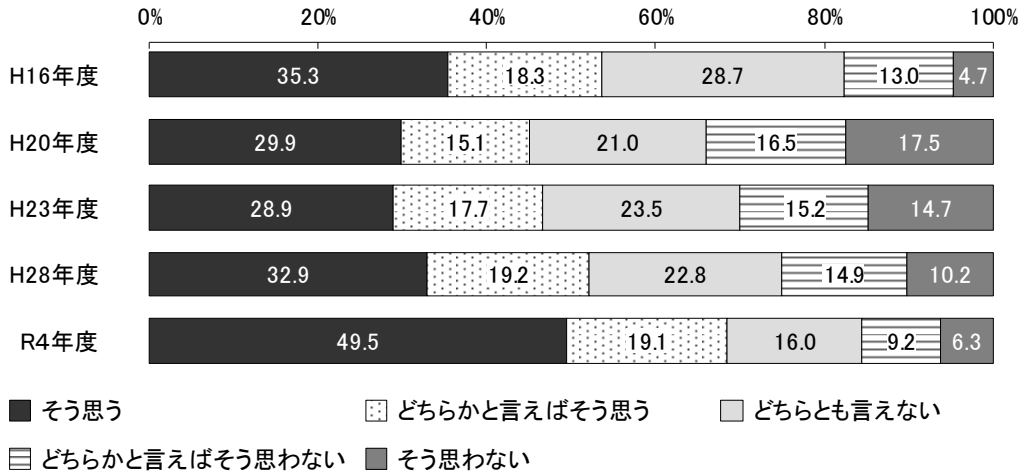


※選択肢の表現について、安城市は『そう思う／そう思わない』、国は『賛成／反対』となっています。

国の資料：男女共同参画社会に関する世論調査報告書（令和元年9月調査）

【B 結婚は個人の自由だから、結婚してもしなくてもよい】

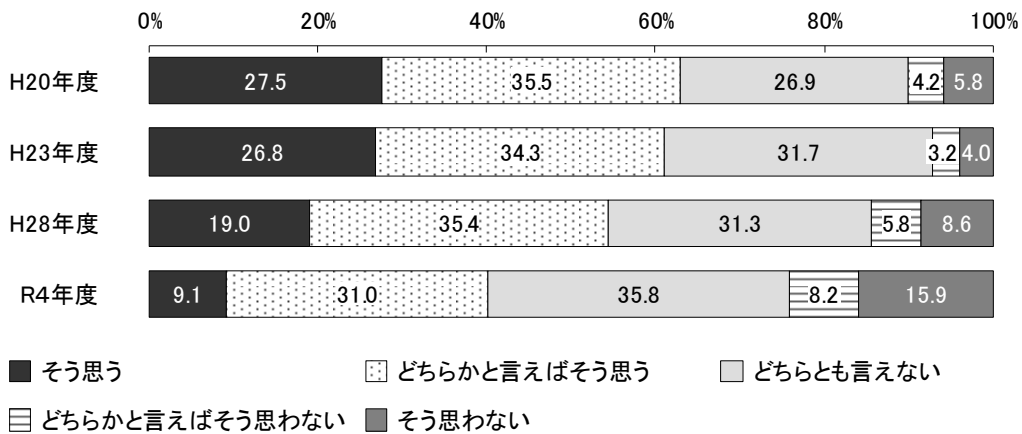
『賛成』がH16年度の53.6%からH20年度の45.0%に低くなったものの、以降増加傾向にあり、R4年度には68.6%と、H16年度以降最も高い割合となっています。一方、『反対』は、H20年度の34.0%から減少傾向となっています。



※各年度の調査結果は、「不明・無回答」を除いて算出した割合です。

【C 夫は、妻や子どもを引っ張っていく方がよい】

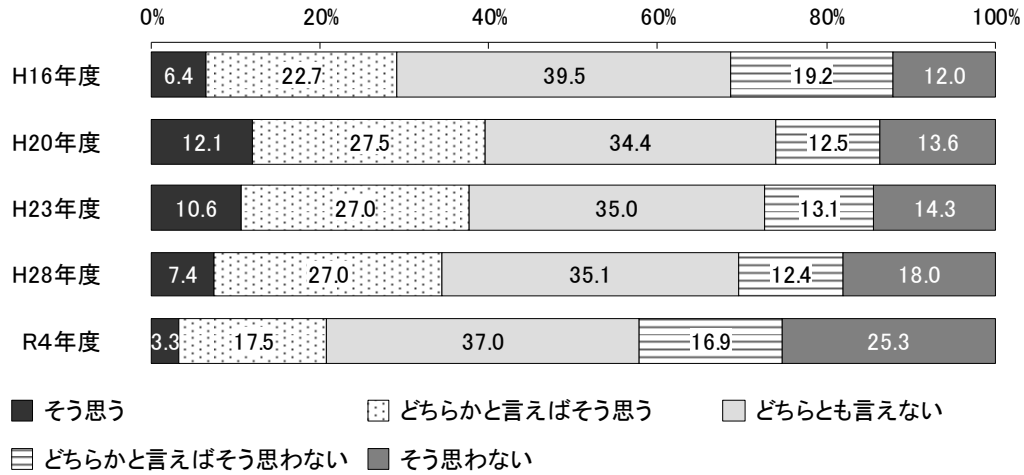
『賛成』はH20年度以降減少傾向にあり、R4年度には40.1%となっています。



※各年度の調査結果は、「不明・無回答」を除いて算出した割合です。

【D 女性は結婚したら、仕事や自分自身のことより、夫や子どもなど家族中心に考えて生活した方がよい】

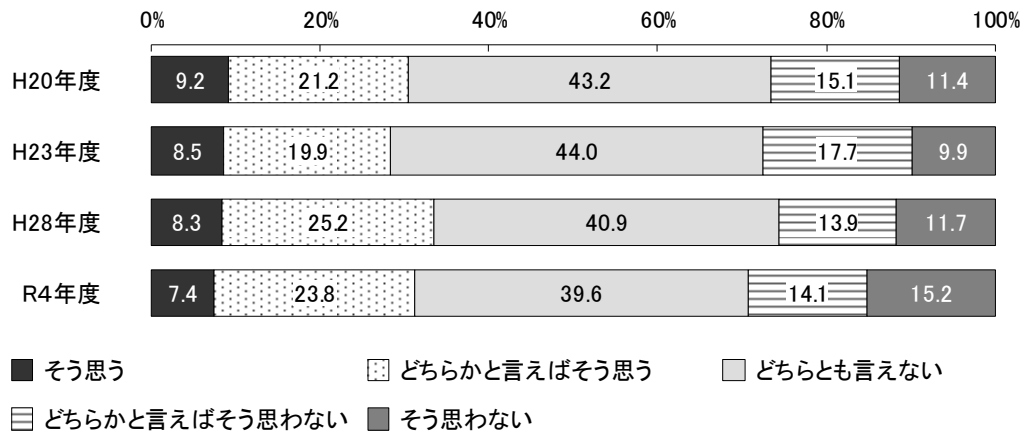
『賛成』はH20年度以降減少傾向にあり、R4年度には20.8%となっています。一方、『反対』はH20年度以降増加傾向にあり、R4年度には42.2%となっています。



※各年度の調査結果は、「不明・無回答」を除いて算出した割合です。

【E 男性は結婚したら、仕事や自分自身のことより、妻や子どもなど家族中心に考えて生活した方がよい】

『賛成』はH20年度以降3割前後で、『反対』は3割弱でそれぞれ推移しています。



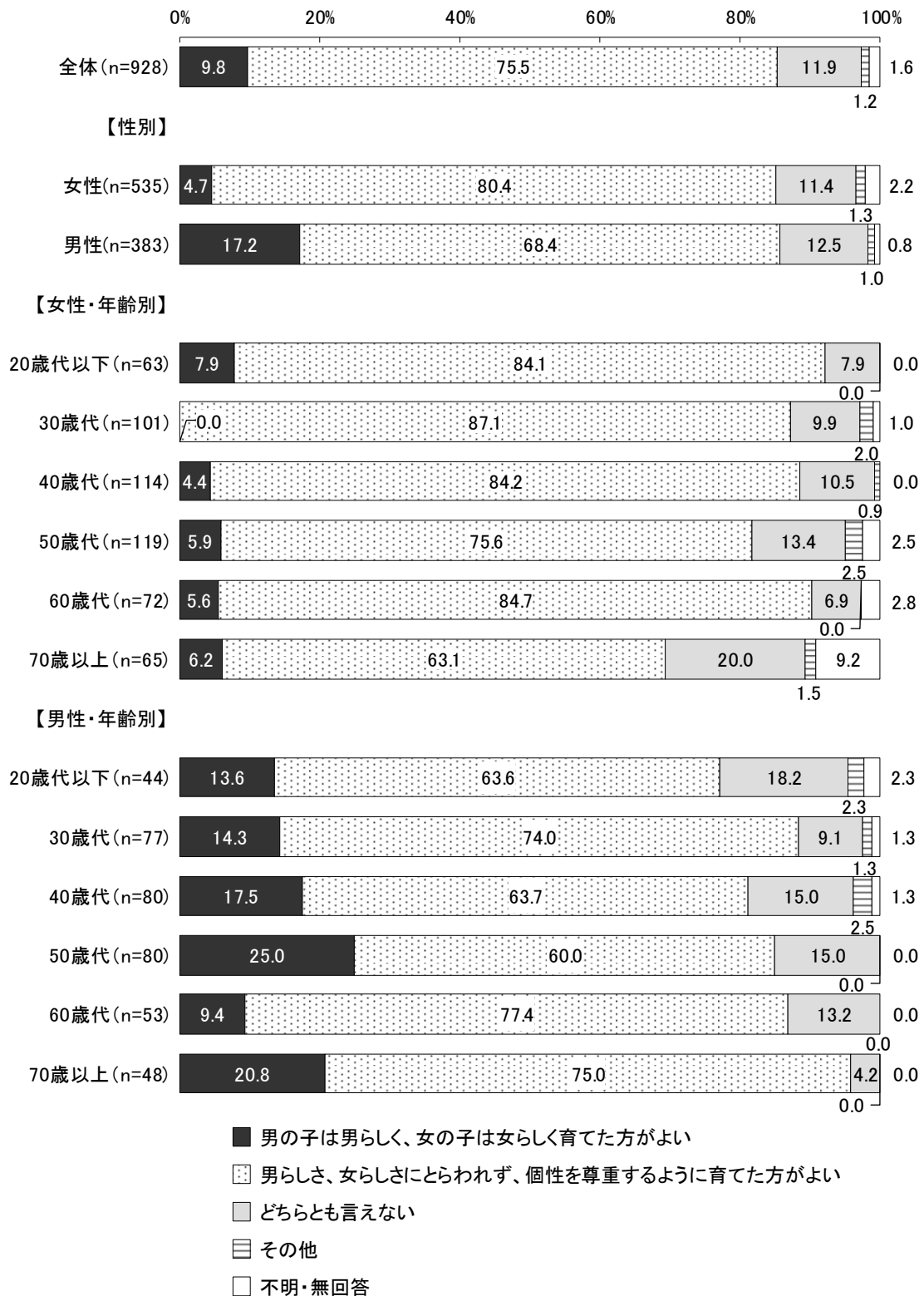
※各年度の調査結果は、「不明・無回答」を除いて算出した割合です。

問9 「男の子は男らしく、女の子は女らしく」という子どもの育て方について、どのように考えますか。(単数回答)

「男の子は男らしく、女の子は女らしく」という子どもの育て方についての考えは、全体で「男らしさ、女らしさにとらわれず、個性を尊重するように育てた方がよい」が 75.5%と最も高く、次いで「どちらとも言えない」が 11.9%となっています。

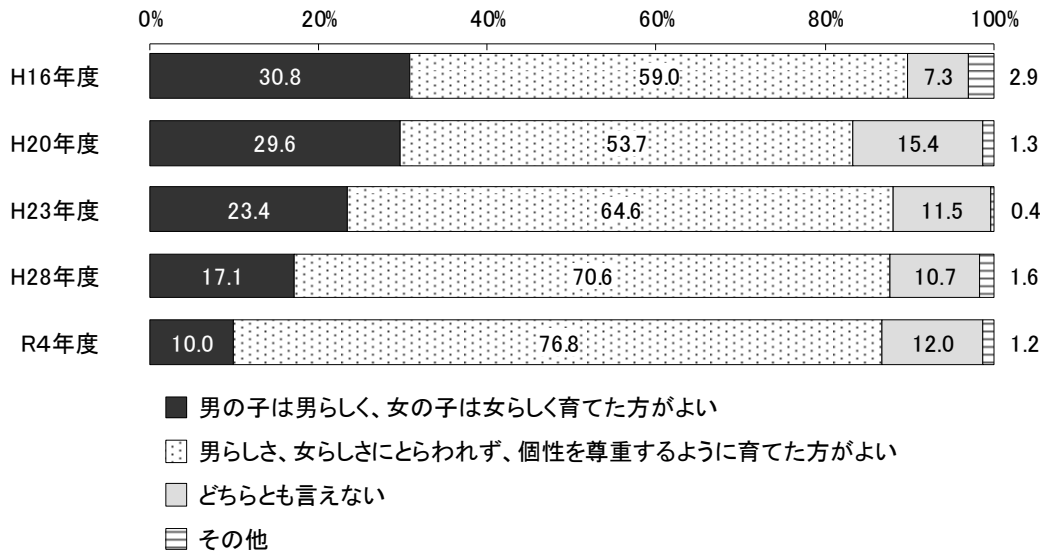
性別では、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい」が男性で 17.2%と、女性と比べて 12.5ポイント高くなっています。

性別・年齢別では、男性の 50 歳代及び 70 歳以上で「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい」が 2割を超えて高くなっており、男性は同じ年代の女性と比べても全体的に高くなっています。



経年比較

H16年度以降「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい」という考えは減少しており、R4年度には10.0%となっています。また、「男らしさ、女らしさにとらわれず、個性を尊重するように育てた方がよい」という考えはH20年度以降増加しており、R4年度には76.8%となっています。

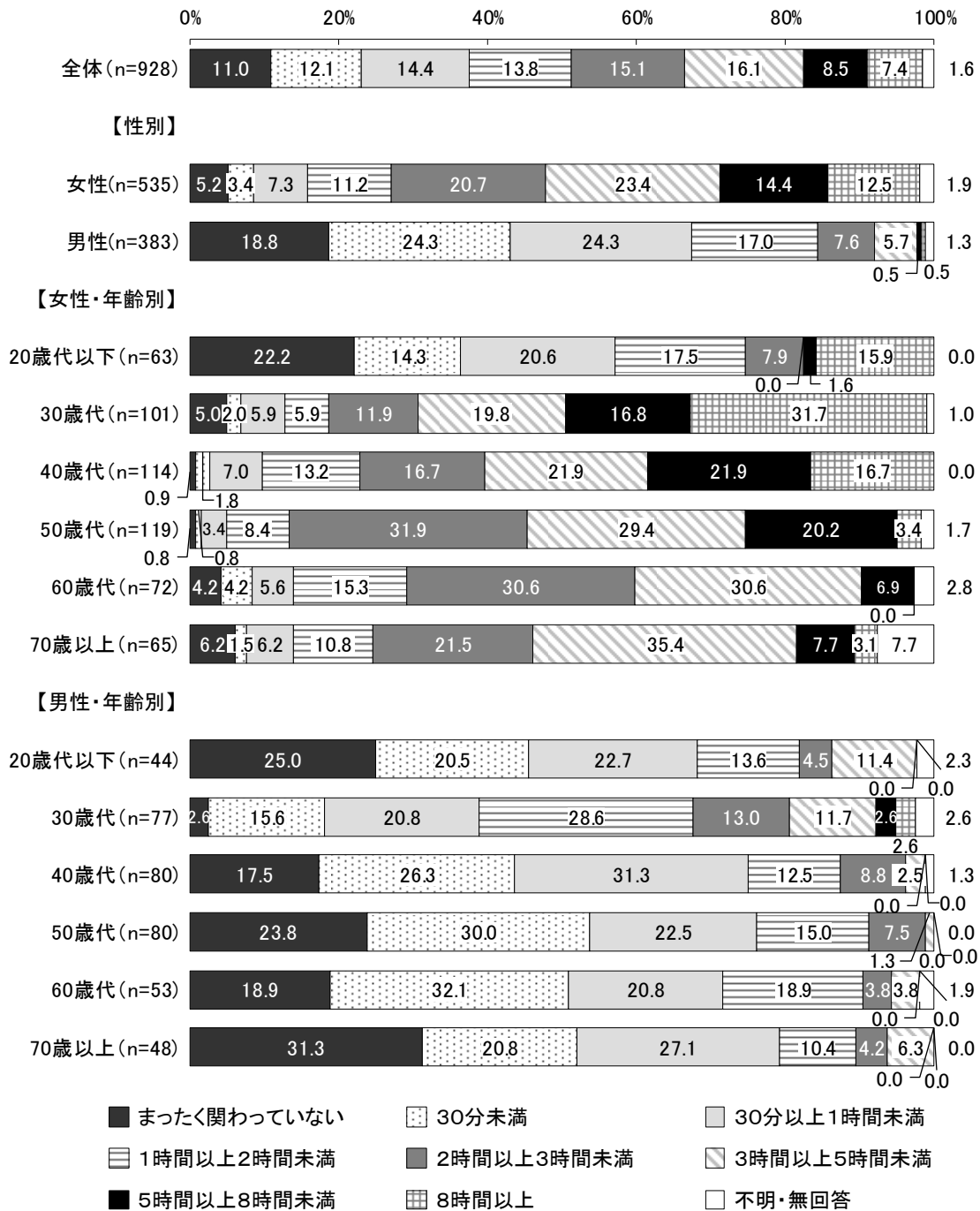


※各年度の調査結果は、「不明・無回答」を除いて算出した割合です。

問10 あなたが、家事・育児に携わる平日1日あたりの平均的な時間はどのくらいですか。
(単数回答)

家事・育児に携わる平日一日あたりの平均的な時間は、女性は「3時間以上5時間未満」が、男性は「30分未満」「30分以上1時間未満」がそれぞれ最も高くなっています。

性別・年齢別では、女性は20歳代以下を除いた年代で2時間以上が高く、特に30歳代は半数近くが5時間以上となっています。男性は20歳代以下及び70歳以上で「まったく関わっていない」が最も高く、30歳代を除いた年代で1時間未満が高くなっています。

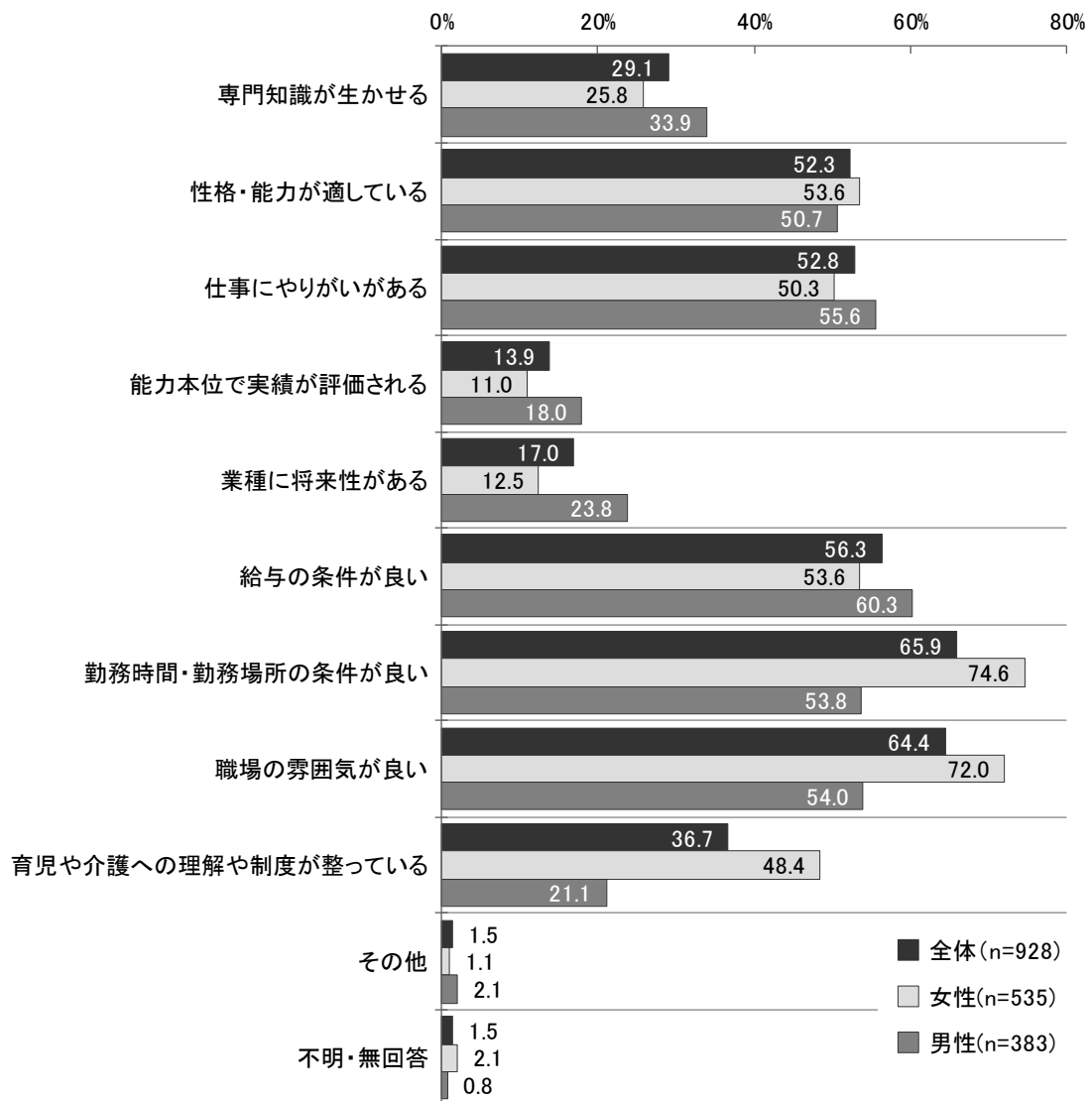


3 職業生活について

問 11 あなたが仕事を選ぶ際に重視すること、またはしたいことは何ですか。仕事をしていない方も、仕事をすると仮定してお答えください。(複数回答)

仕事を選ぶ際に重視すること、またはしたいことは、全体で「勤務時間・勤務場所の条件が良い」が65.9%と最も高く、次いで「職場の雰囲気が良い」が64.4%となっています。

性別では、女性で「育児や介護への理解や制度が整っている」「勤務時間・勤務場所の条件が良い」「職場の雰囲気が良い」について、男性と比べてそれぞれ27.3ポイント、20.8ポイント、18.0ポイント高くなっています。一方、男性では「業種に将来性がある」について、女性と比べて11.3ポイント高くなっています。



性別・年齢別比較

女性で「勤務時間・勤務場所の条件が良い」「職場の雰囲気が良い」がいずれの年代も上位であり、特に30歳代・40歳代では「勤務時間・勤務場所の条件が良い」が8割を超えて高く、「育児や介護への理解や制度が整っている」が5割を超えて高くなっています。なお、20歳代以下の女性、男性ともに「性格・能力が適している」が6割を超えており、他の年代と比べても高くなっています。

(単位:%)	n=	専門知識が生かせる	性格・能力が適している	仕事にやりがいがある	能力本位で実績が評価される	業種に将来性がある	給与の条件が良い	勤務時間・勤務場所の条件が良い	職場の雰囲気が良い	育児や介護への理解や制度が整っている	その他	不明・無回答
女性・年齢別												
20歳代以下	63	38.1	63.5	49.2	12.7	20.6	69.8	63.5	76.2	34.9	0.0	0.0
30歳代	101	16.8	58.4	47.5	8.9	10.9	61.4	82.2	76.2	65.3	1.0	1.0
40歳代	114	28.1	56.1	56.1	10.5	11.4	55.3	80.7	74.6	54.4	1.8	0.0
50歳代	119	23.5	52.1	46.2	10.9	9.2	53.8	76.5	76.5	47.9	1.7	2.5
60歳代	72	37.5	43.1	54.2	16.7	15.3	45.8	69.4	65.3	43.1	1.4	2.8
70歳以上	65	13.8	47.7	47.7	7.7	10.8	32.3	64.6	55.4	32.3	0.0	7.7
男性・年齢別												
20歳代以下	44	29.5	63.6	56.8	15.9	25.0	59.1	56.8	72.7	31.8	0.0	0.0
30歳代	77	29.9	46.8	45.5	13.0	24.7	71.4	68.8	51.9	27.3	2.6	1.3
40歳代	80	36.3	53.8	51.2	18.8	25.0	71.3	52.5	56.3	21.3	1.3	1.3
50歳代	80	35.0	53.8	61.3	18.8	17.5	56.3	46.3	46.3	16.3	2.5	0.0
60歳代	53	35.8	50.9	67.9	15.1	22.6	52.8	50.9	58.5	15.1	1.9	0.0
70歳以上	48	37.5	35.4	54.2	29.2	31.3	39.6	43.8	43.8	14.6	4.2	2.1

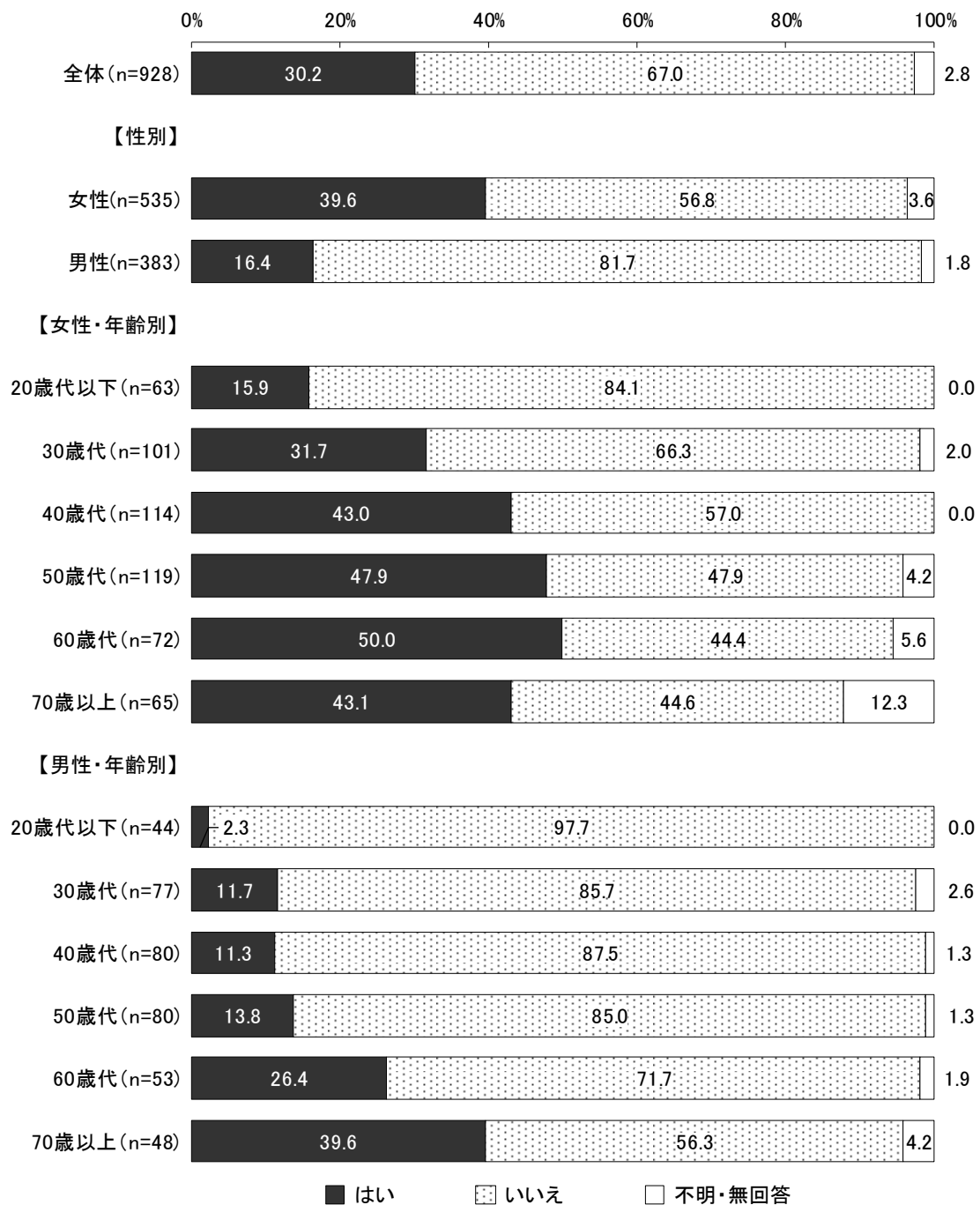
※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目**第1位**と**第2位**に網かけをしています。

問12 あなたは、働きたいけれど、仕事をやめざるを得なかったことはありますか。(単数回答)

働きたいけれど、仕事をやめざるを得なかったことの有無は、全体で「はい」が30.2%、「いいえ」が67.0%となっています。

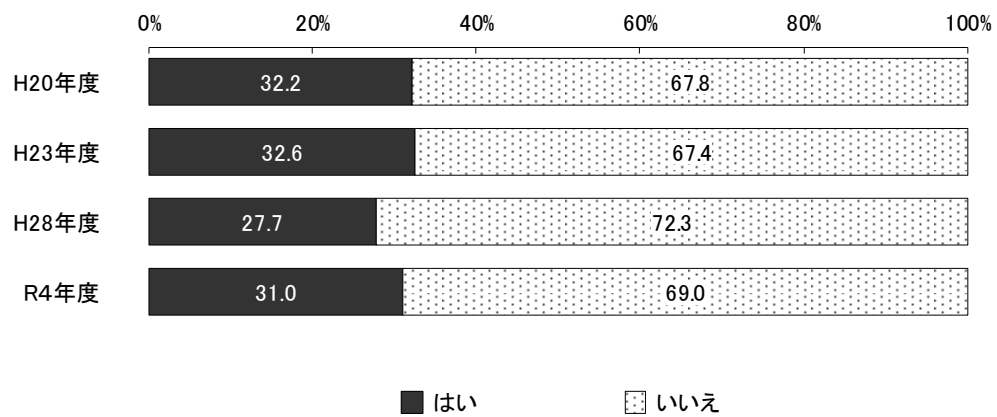
性別では、「はい」が女性で39.6%と、男性と比べて23.2ポイント高くなっています。

性別・年齢別では、女性の40歳代以上で「はい」が4割を超えています。



経年比較

「はい」と回答した人はR4年度に31.0%であり、H20年度・H23年度と同程度の割合となっています。



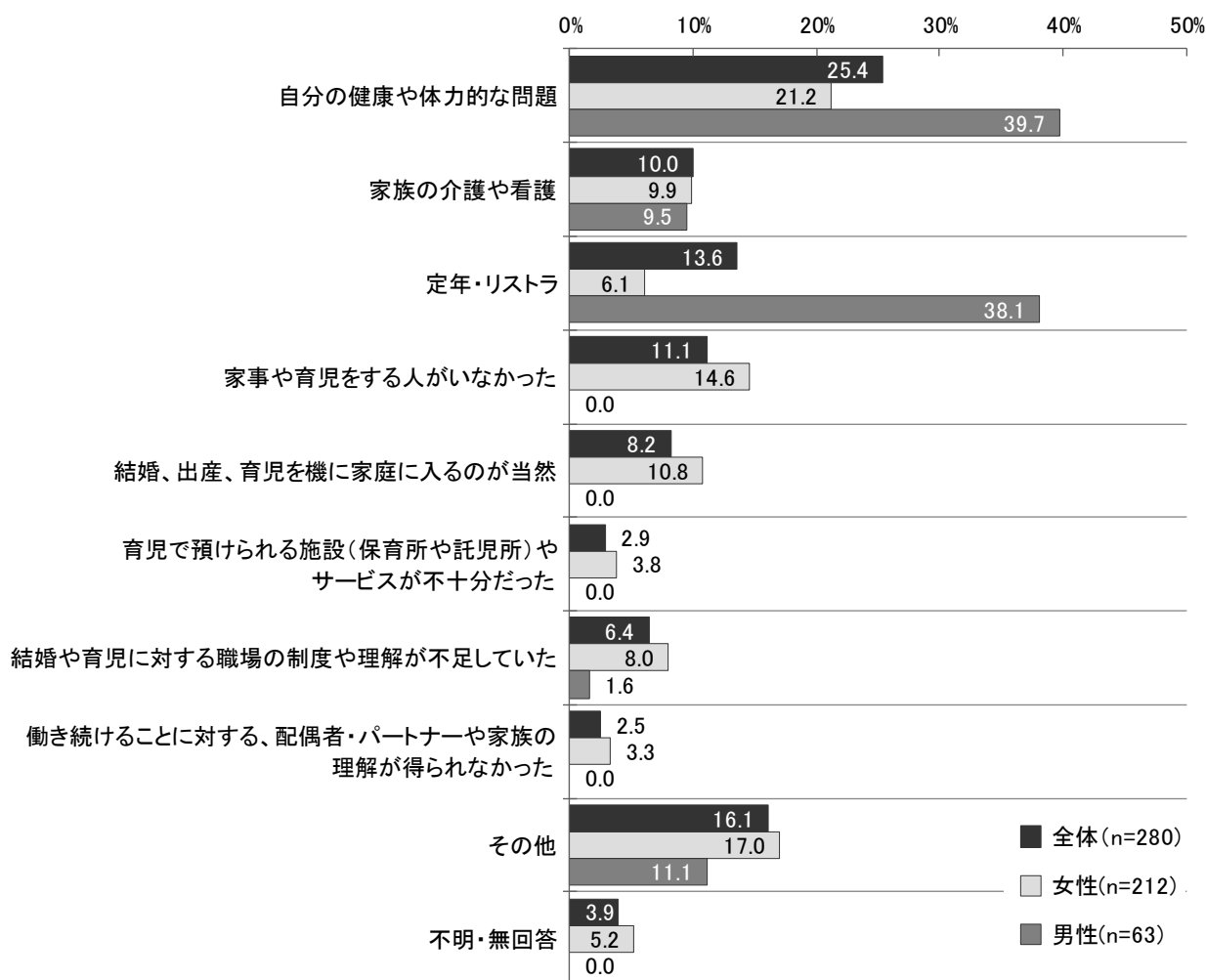
※各年度の調査結果は、「不明・無回答」を除いて算出した割合です。

問12で「1. はい」と回答した方のみ

問12-1 仕事をやめざるを得なかった理由の一番は何ですか。(単数回答)

仕事をやめざるを得なかった一番の理由は、全体で「自分の健康や体力的な問題」が25.4%と最も高く、次いで「その他」が16.1%となっています。

性別では、女性は「家事や育児をする人がいなかった」「結婚、出産、育児を機に家庭に入るのが当然」「結婚や育児に対する職場の制度や理解が不足していた」で、男性と比べて高くなっています。男性は「自分の健康や体力的な問題」「定年・リストラ」で、女性と比べて高くなっています。なお、「家族の介護や看護をするため」は、女性・男性ともに9%台となっています。



性別・年齢別比較

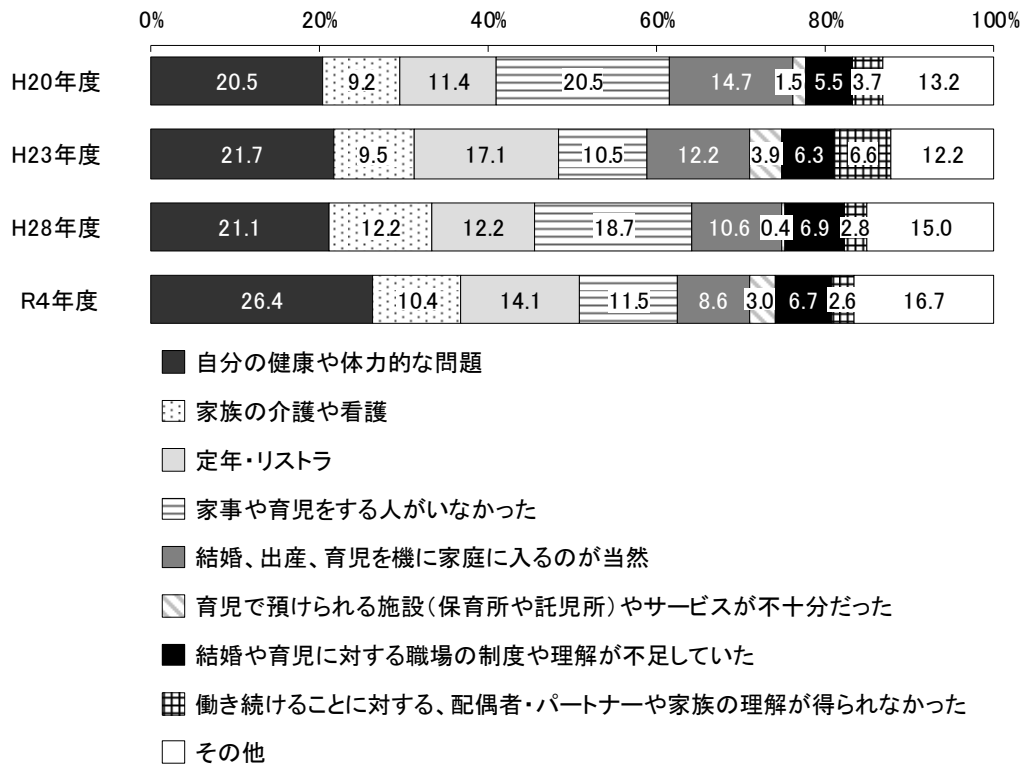
女性の40歳代・50歳代で「家事や育児をする人がいなかった」がそれぞれ約2割となっており、女性の他の年代においても一定割合みられます。また、女性の40歳代以上で「結婚、出産、育児を機に家庭に入るのが当然」の理由も一定割合みられます。

(単位: %)	n=	自分の健康や体力的な問題	家族の介護や看護	定年・リストラ	家事や育児をする人がいなかった	結婚、出産、育児を機に家庭に入るのが当然	育児で預けられる施設(保育所や託児所)やサービスが不十分だった	結婚や育児に対する職場の制度や理解が不足していた	働き続けることに対する、配偶者・パートナーや家族の理解が得られなかった	その他	不明・無回答
女性・年齢別											
20歳代以下	10	40.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
30歳代	32	34.4	0.0	3.1	9.4	3.1	3.1	12.5	9.4	21.9	3.1
40歳代	49	16.3	8.2	4.1	16.3	14.3	4.1	12.2	0.0	18.4	6.1
50歳代	57	15.8	5.3	7.0	19.3	10.5	7.0	5.3	3.5	19.3	7.0
60歳代	36	22.2	13.9	5.6	13.9	16.7	2.8	5.6	5.6	5.6	8.3
70歳以上	28	17.9	32.1	14.3	10.7	10.7	0.0	7.1	0.0	7.1	0.0
男性・年齢別											
20歳代以下	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳代	9	55.6	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	11.1	0.0
40歳代	9	44.4	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
50歳代	11	54.5	9.1	27.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0
60歳代	14	42.9	0.0	42.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0
70歳以上	19	15.8	15.8	68.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目**第1位**と**第2位**に網かけをしています。なお、年齢別回答者(n)が10件未満の場合は、順位の表記を省略しています。

経年比較

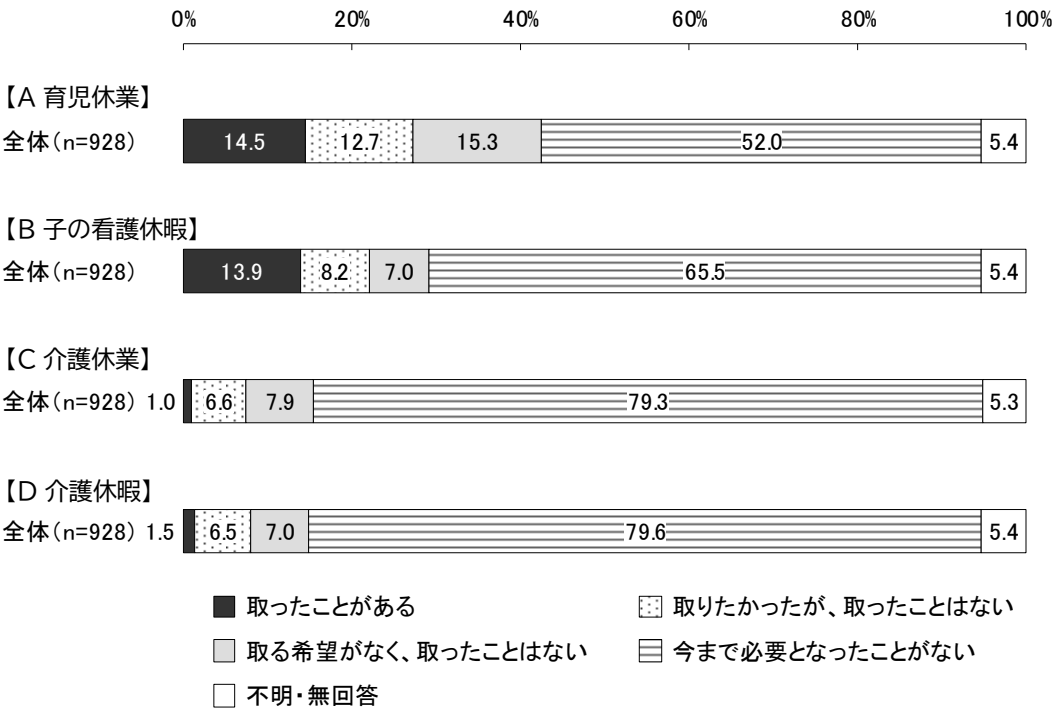
「自分の健康や体力的な問題」がR4年度に26.4%と、H20年度以降で最も高くなっています。



※各年度の調査結果は、「不明・無回答」を除いて算出した割合です。

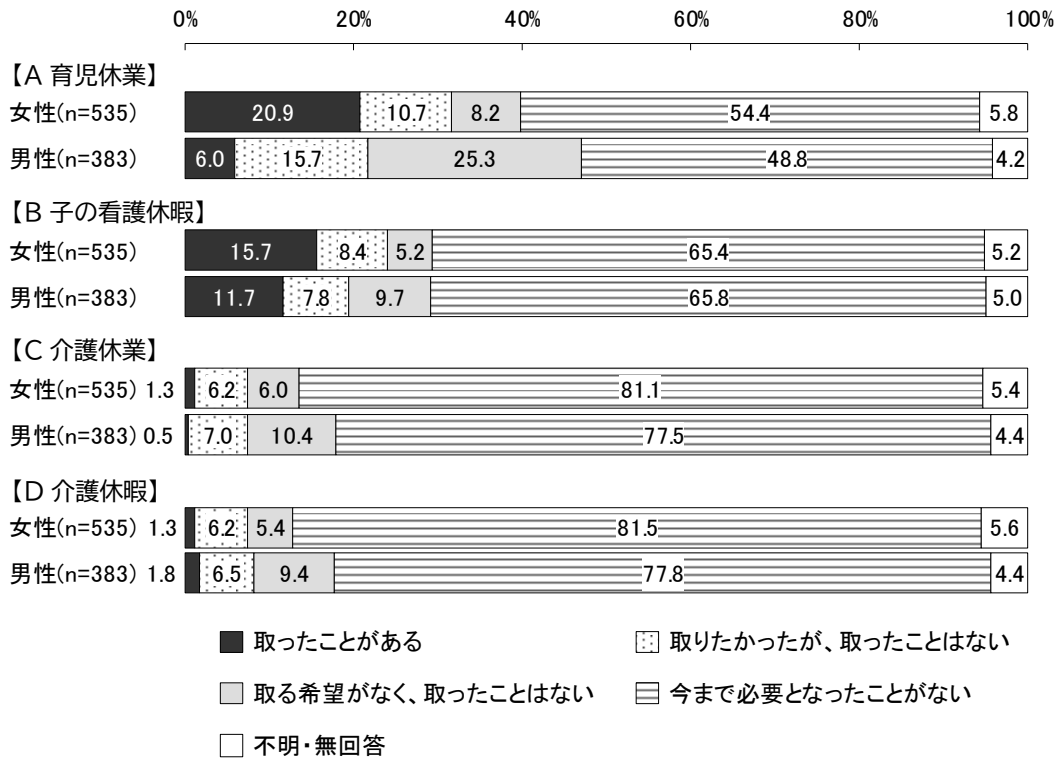
問 13 あなたは、職場で以下のような制度を使って休暇等を取ったことがありますか。複数のお子さんがある場合、直近の状況でお答えください。(単数回答)

職場において各種制度を使った休暇等の取得の有無については、「取ったことがある」が「A 育児休業」で14.5%、「B 子の看護休暇」で13.9%となっているものの、「C 介護休業」は1.0%、「D 介護休暇」は1.5%にとどまっています。いずれも「取りたかったが、取ったことはない」方が1割程度みられます。



性別比較

女性と男性で最も差が大きい項目は「A 育児休業制度」であり、「取ったことがある」は男性で 6.0%と、女性と比べて 14.9 ポイント低くなっています。なお、「取りたかったが、取ったことはない」について女性で 10.7%、男性で 15.7%となっています。この他、「B 子の看護休暇」「C 介護休業」「D 介護休暇」において「取りたかったが、取ったことはない」がいずれも 1 割程度みられます。

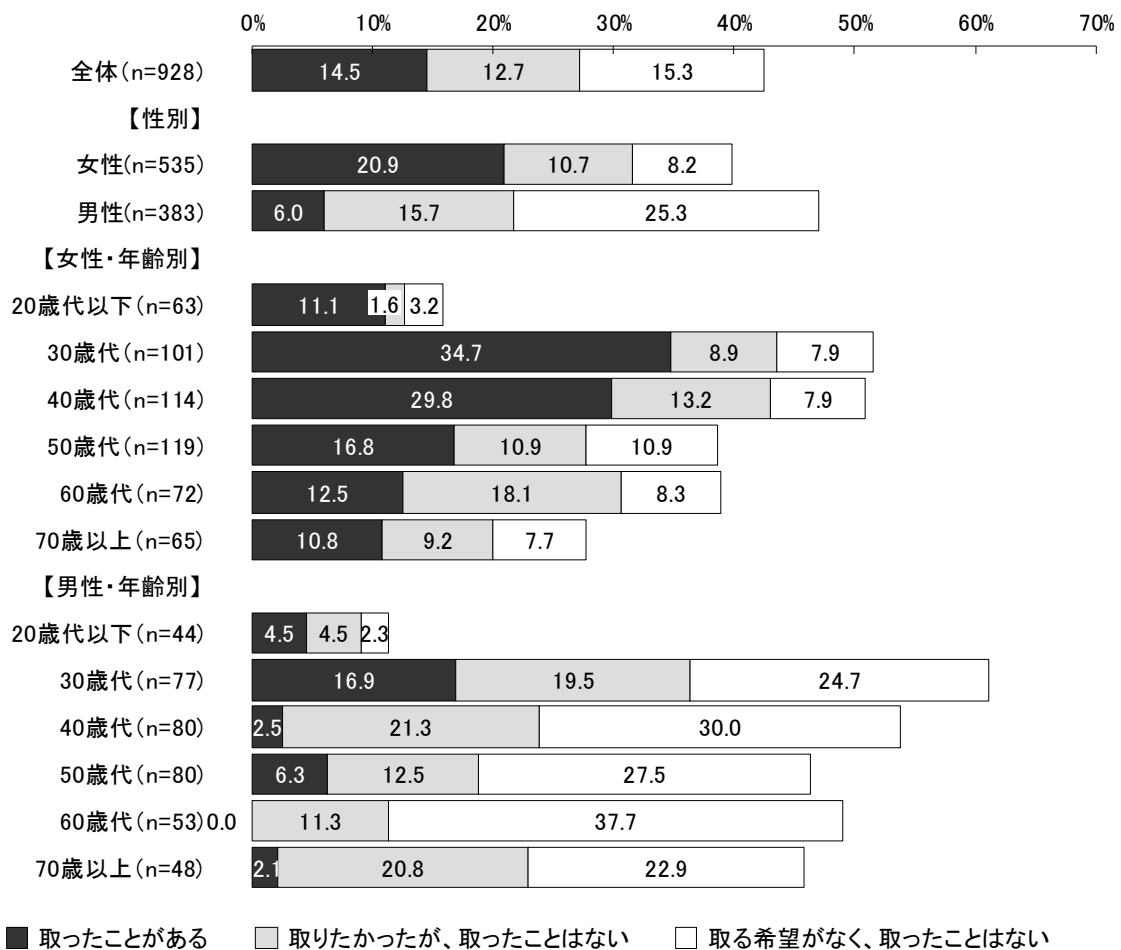


項目別集計結果

※項目別集計結果は、割合が高い「今まで必要となったことがない」と「不明・無回答」を除いてグラフ化しています。

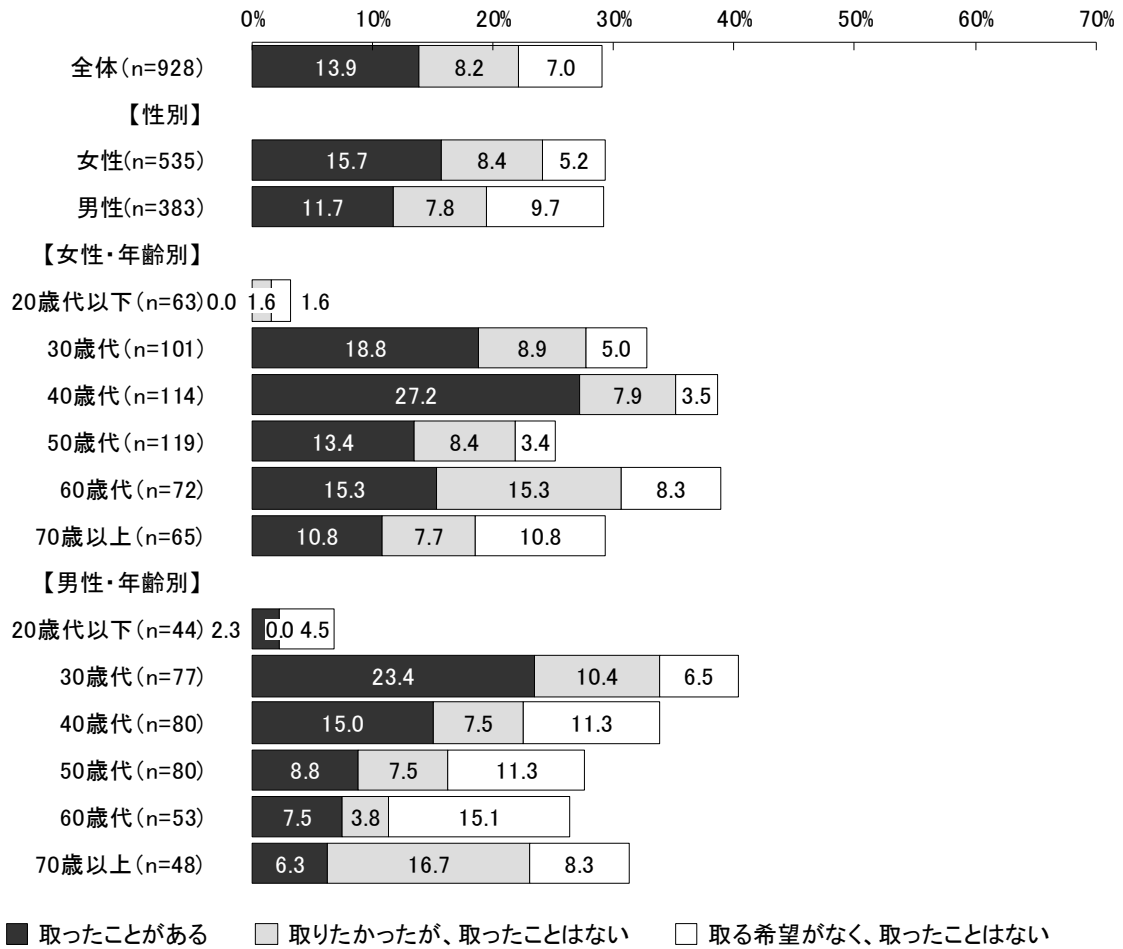
【A 育児休業】

「育児休業」の取得状況は、男性の30歳代で「取ったことがある」が16.9%と他の同性の年代と比べて高くなっていますが、男性の20歳代以下で4.5%、40歳代で2.5%にとどまっています。なお、「取りたかったが、取ったことはない」が、女性の60歳代、男性の30歳代、40歳代及び70歳以上でそれぞれ約2割みられます。



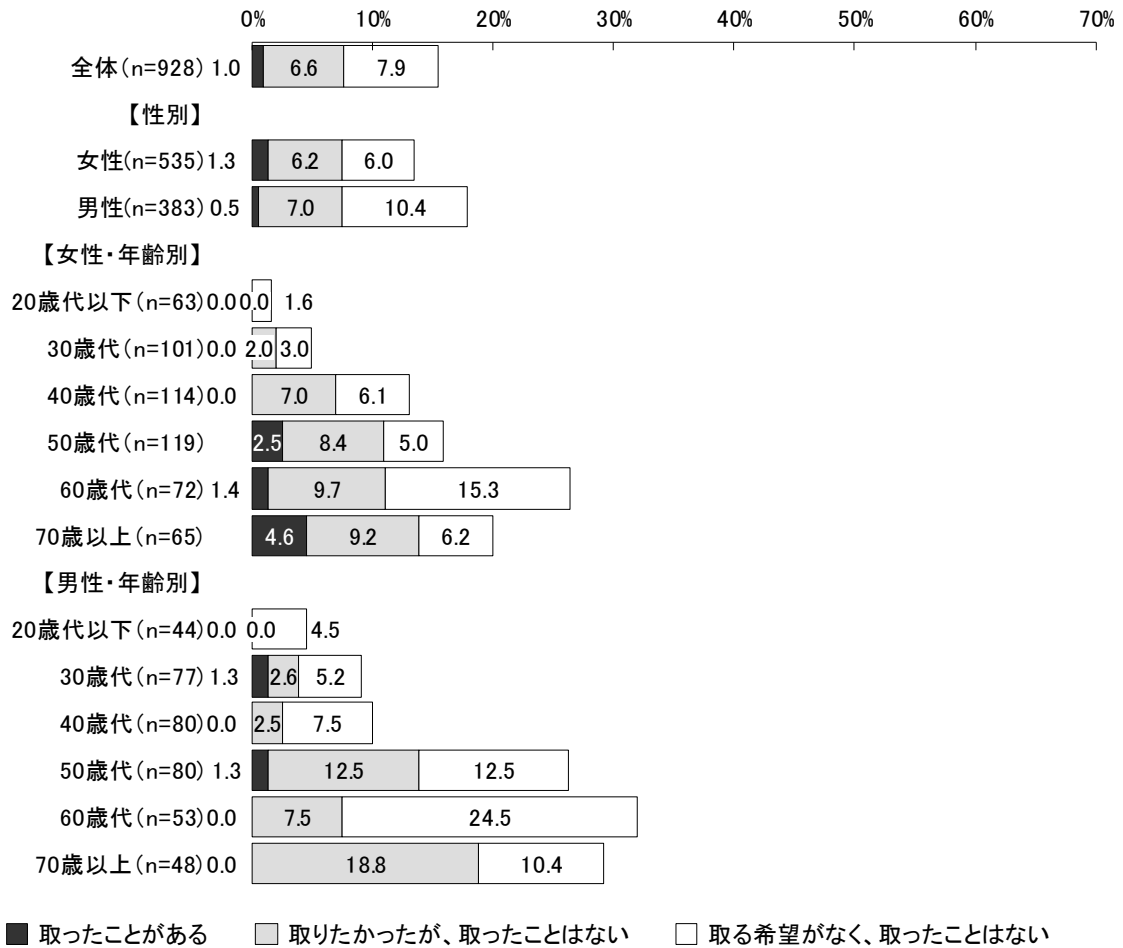
【B 子の看護休暇】

「子の看護休暇」の取得状況は、「取ったことがある」が女性の40歳代で27.2%、男性の30歳代で23.4%となっている一方で、女性の20歳代以下は0.0%と男性の同年代と比べても低くなっています。



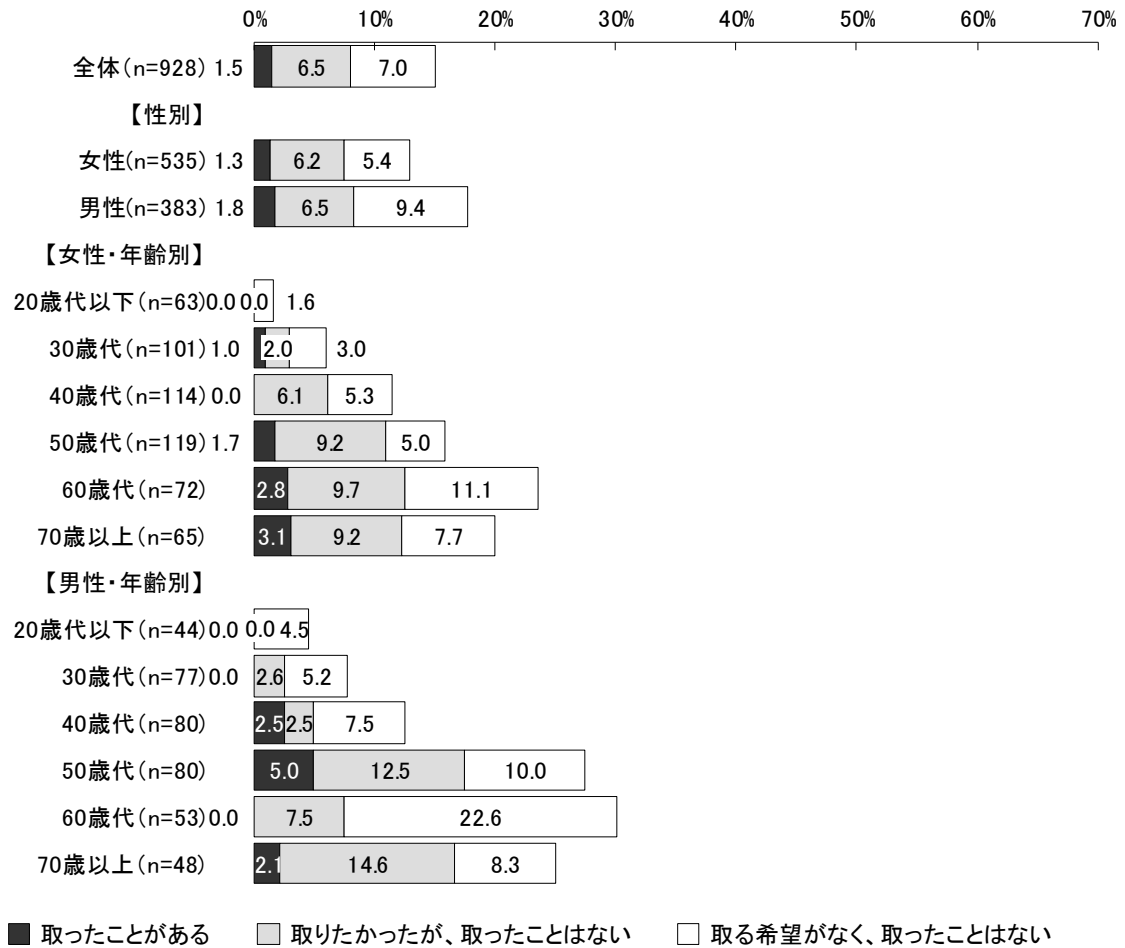
【C 介護休業】

「介護休業」の取得状況は、「取ったことがある」が女性の50歳代以上、男性の30歳代及び50歳代で、それぞれ5%未満となっています。一方、「取りたかったが、取ったことはない」が、女性の40歳代以上、男性の50歳代以上でそれぞれ約1～2割みられます。



【D 介護休暇】

「介護休暇」の取得状況は、「取ったことがある」は女性の30歳代及び50歳代以上、男性の40歳代、50歳代、70歳以上で5%以下となっています。一方、「取りたかったが、取ったことはない」が、女性・男性ともに50歳代以上でそれぞれ約1割みられます。

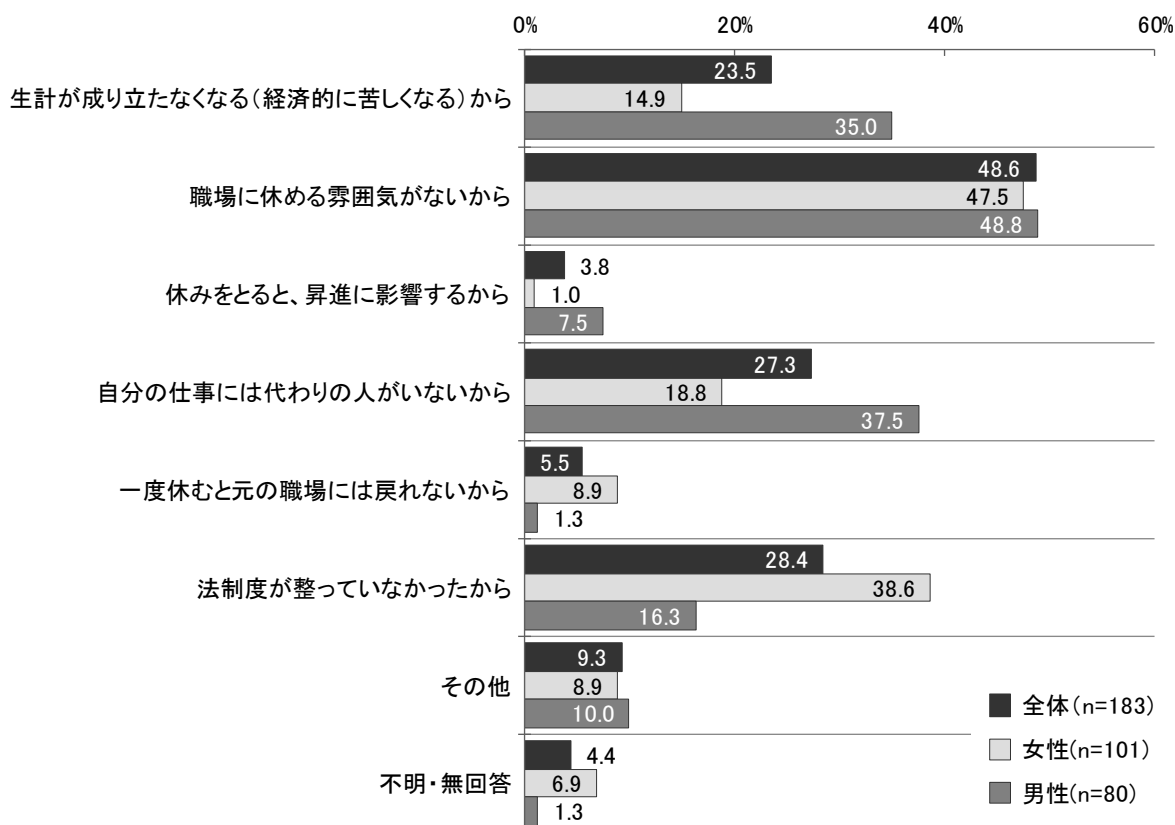


問13のA～Dのいずれかで「取りたかったが、取ったことはない」と回答した方のみ

問 13-1 取得することができなかった理由について、あなたの考えに近いものを選んでください。(複数回答)

取りたかったが、取ったことはない・取ることができなかった理由は、全体で「職場に休める雰囲気がないから」が48.6%と最も高く、次いで「法制度が整っていなかったから」が28.4%となっています。

性別では、女性では「法制度が整っていなかったから」が38.6%と、男性と比べて22.3ポイント高くなっています。また、男性で「生計が成り立たなくなる(経済的に苦しくなる)から」「自分の仕事には代わりの人がいないから」が、女性と比べてそれぞれ20ポイント前後高くなっています。



性別・年齢別比較

女性の30歳代～50歳代、男性の30歳代・40歳代及び70歳以上で「職場に休める雰囲気がないから」がそれぞれ最も高くなっており、男性の40歳代では61.1%と高くなっています。

(単位:%)	n=	生計が成り立たなくなる(経済的に苦しくなる)から	職場に休める雰囲気がないから	休みをとると、昇進に影響するから	自分の仕事には代わりの人がいないから	一度休むと元の職場には戻れないから	法制度が整っていなかったから	その他	不明・無回答
女性・年齢別									
20歳代以下	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳代	16	6.3	50.0	6.3	31.3	6.3	18.8	18.8	6.3
40歳代	27	14.8	55.6	0.0	11.1	11.1	25.9	11.1	11.1
50歳代	26	15.4	53.8	0.0	7.7	7.7	38.5	7.7	7.7
60歳代	19	15.8	36.8	0.0	36.8	5.3	63.2	0.0	5.3
70歳以上	12	16.7	33.3	0.0	16.7	16.7	58.3	8.3	0.0
男性・年齢別									
20歳代以下	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
30歳代	19	36.8	57.9	15.8	47.4	0.0	0.0	10.5	0.0
40歳代	18	27.8	61.1	11.1	38.9	0.0	5.6	16.7	5.6
50歳代	17	58.8	41.2	0.0	35.3	5.9	17.6	17.6	0.0
60歳代	10	30.0	30.0	0.0	50.0	0.0	30.0	0.0	0.0
70歳以上	14	14.3	50.0	7.1	21.4	0.0	35.7	0.0	0.0

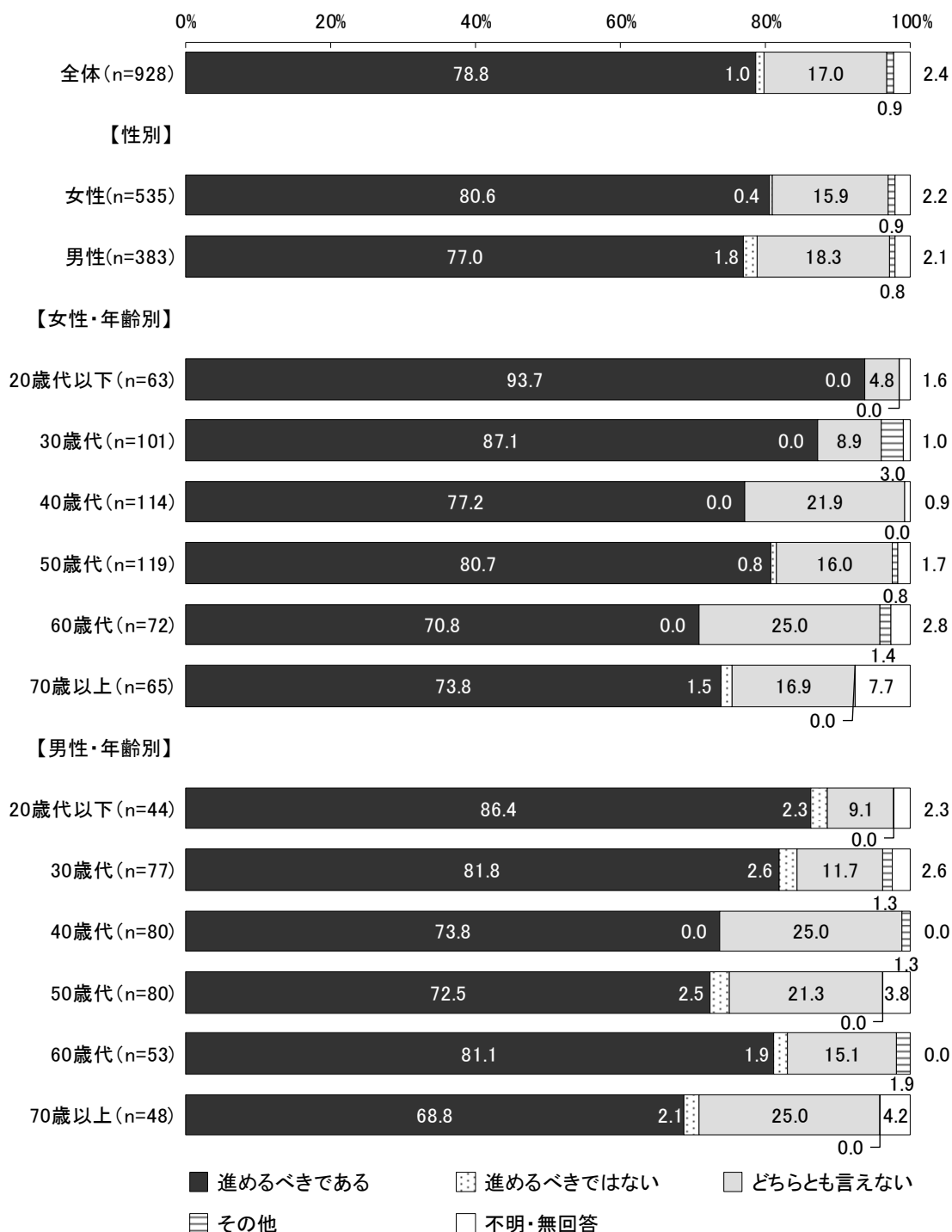
※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目**第1位**と**第2位**に網かけをしています。なお、年齢別回答者(n)が10件未満の場合は、順位の表記を省略しています。

問 14 男性が育児や介護のための休業制度をとることを社会的に進めることについて、あなたの考えに近いものを選んでください。(単数回答)

男性が育児や介護のための休業制度をとることを社会的に進めることについては、全体で「進めるべきである」が78.8%と最も高く、次いで「どちらとも言えない」が17.0%となっています。

性別では、「進めるべきである」が女性で80.6%、男性で77.0%と、大差はみられません。

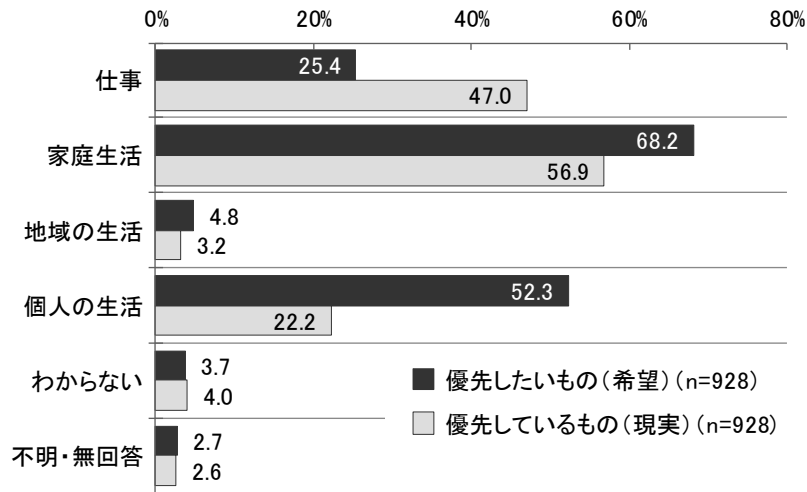
性別・年齢別では、「進めるべきである」が女性の30歳代以下及び50歳代で、男性の30歳代以下及び60歳代で、いずれも8割を超えて高くなっています。一方、男性の70歳以上では「進めるべきである」が68.8%と他の年代と比べて低くなっています。



問 15 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」などについて、優先させたいものの希望と現実を教えてください。(単数回答)

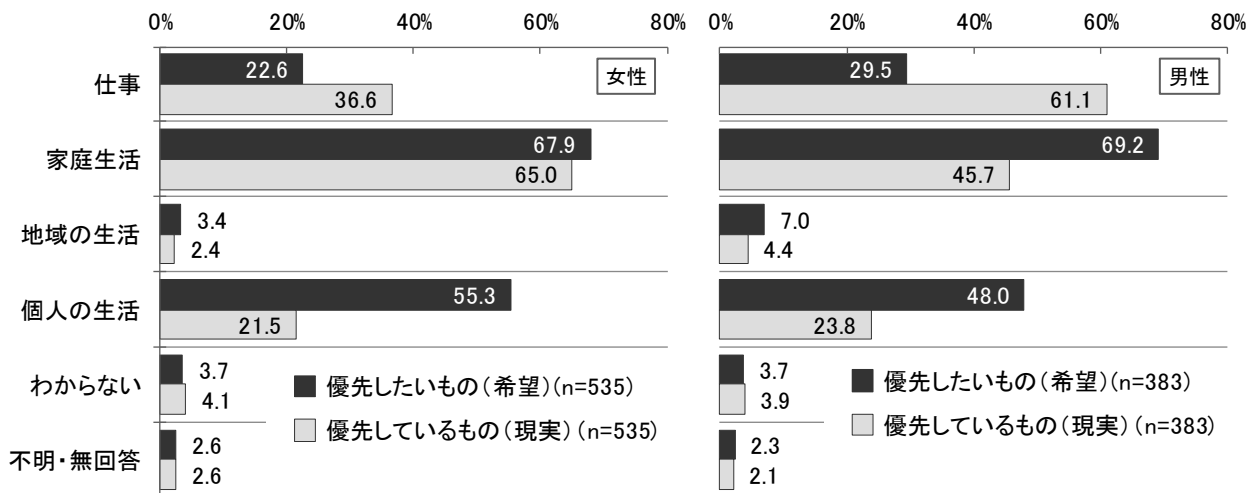
生活の中で優先させたいものの希望と現実とは、全体で「優先したいもの(希望)」は、「家庭生活」で68.2%と最も高く、次いで「個人の生活」が52.3%となっています。一方、「優先しているもの(現実)」は、「家庭生活」で56.9%と最も高く、次いで「仕事」が47.0%となっています。

なお、「優先したいもの(希望)」と「優先しているもの(現実)」の差が大きい項目は、「個人の生活」で30.1ポイント、「仕事」が21.6ポイント、「家庭生活」が11.3ポイントとなっています。



性別比較

性別で見ると、「優先したいもの(希望)」と「優先しているもの(現実)」の差が大きい項目は、女性で「個人の生活」が33.8ポイント、「仕事」で14.0ポイント、男性で「仕事」が31.6ポイント、「個人の生活」が24.2ポイント、「家庭生活」が23.5ポイントとなっています。



項目別集計結果

【A 優先したいもの（希望）】

「優先したいもの（希望）」は、女性・男性ともに「家庭生活」「個人の生活」が上位となっており、30歳代で「家庭生活」が8割を超えて高くなっています。なお、20歳代以下の男女、女性の50歳代では「個人の生活」が最も高く、それぞれ6割を超えて高くなっています。

(単位: %)	n=	仕事	家庭生活	地域の生活	個人の生活	わからない	不明・無回答
女性・年齢別							
20歳代以下	63	27.0	55.6	1.6	73.0	1.6	0.0
30歳代	101	23.8	85.1	1.0	55.4	2.0	0.0
40歳代	114	26.3	71.9	4.4	50.9	1.8	2.6
50歳代	119	19.3	61.3	1.7	61.3	2.5	3.4
60歳代	72	25.0	59.7	5.6	50.0	9.7	1.4
70歳以上	65	13.8	67.7	7.7	41.5	6.2	9.2
男性・年齢別							
20歳代以下	44	20.5	47.7	0.0	63.6	6.8	2.3
30歳代	77	22.1	83.1	5.2	42.9	1.3	1.3
40歳代	80	36.3	65.0	10.0	61.3	6.3	0.0
50歳代	80	33.8	71.3	7.5	40.0	2.5	3.8
60歳代	53	34.0	67.9	5.7	50.9	1.9	0.0
70歳以上	48	25.0	70.8	10.4	29.2	4.2	8.3

※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目**第1位**と**第2位**に網かけをしています。

【B 優先しているもの（現実）】

「優先しているもの（現実）」は、「家庭生活」「仕事」がいずれも上位となっているものの、女性の20歳代以下では「個人の生活」が42.9%と最も高くなっています。

(単位: %)	n=	仕事	家庭生活	地域の生活	個人の生活	わからない	不明・無回答
女性・年齢別							
20歳代以下	63	36.5	39.7	0.0	42.9	7.9	0.0
30歳代	101	44.6	74.3	0.0	12.9	3.0	1.0
40歳代	114	37.7	71.1	1.8	21.1	3.5	0.9
50歳代	119	39.5	67.2	2.5	16.0	1.7	3.4
60歳代	72	38.9	65.3	5.6	18.1	6.9	1.4
70歳以上	65	15.4	61.5	6.2	29.2	3.1	10.8
男性・年齢別							
20歳代以下	44	59.1	31.8	0.0	40.9	2.3	2.3
30歳代	77	62.3	54.5	1.3	18.2	2.6	1.3
40歳代	80	71.3	42.5	5.0	20.0	5.0	0.0
50歳代	80	71.3	43.8	2.5	18.8	2.5	3.8
60歳代	53	49.1	45.3	9.4	34.0	3.8	0.0
70歳以上	48	39.6	52.1	10.4	18.8	8.3	6.3

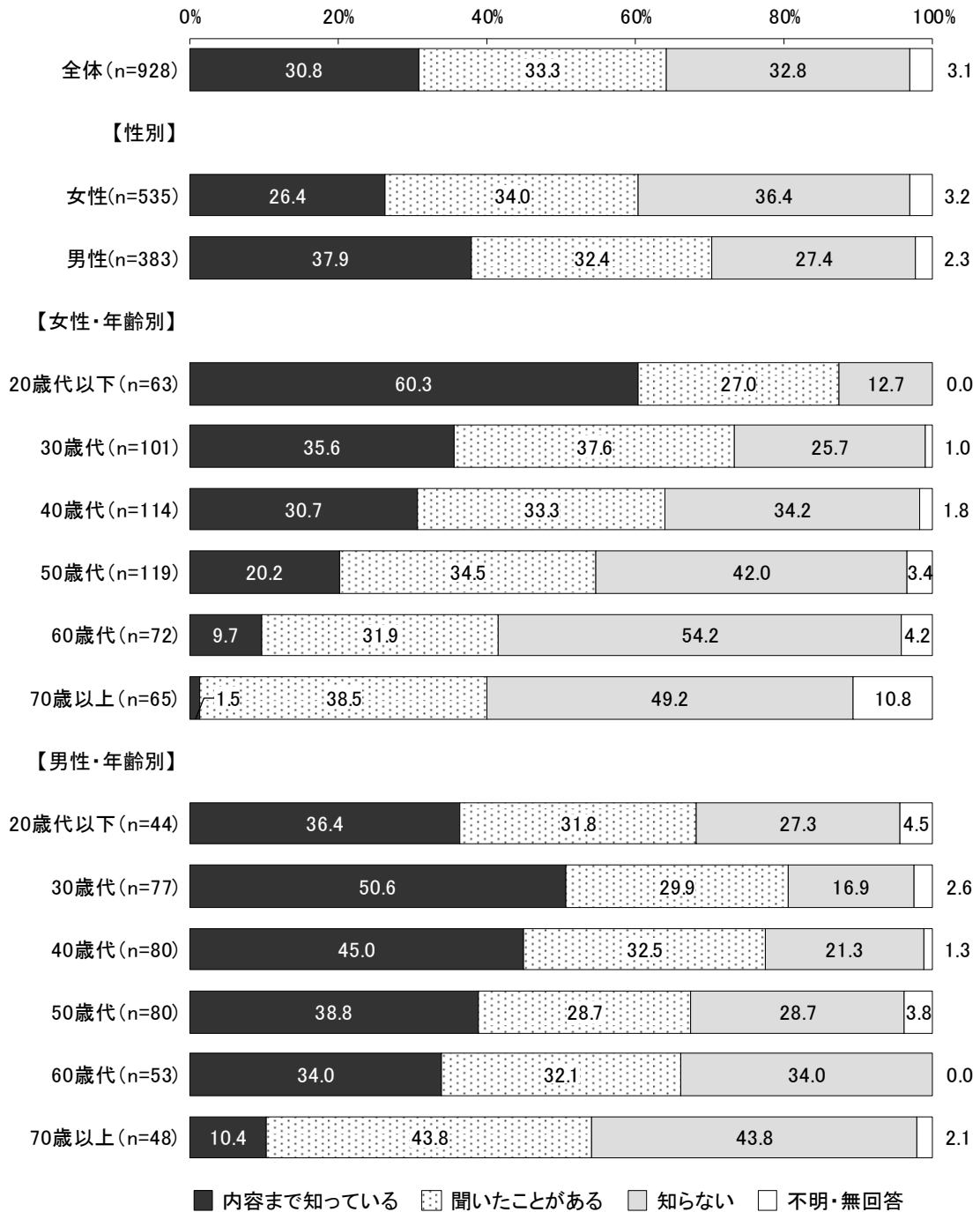
※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目**第1位**と**第2位**に網かけをしています。

問16 ワーク・ライフ・バランスという言葉についておたずねします。(単数回答)

ワーク・ライフ・バランスという言葉の認知度は、全体で「内容まで知っている」が30.8%、「聞いたことがある」が33.3%、「知らない」が32.8%となっています。

性別では、「内容まで知っている」が女性で26.4%と、男性と比べて11.5ポイント低くなっています。

性別・年齢別では、「内容まで知っている」が男性の60歳代以下で3割以上に対し、女性で3割を超える年代は40歳代以下となっています。なお、「知らない」が女性の50歳代以上及び男性の70歳以上で4割以上と高くなっています。



問 17 あなたご自身のワーク・ライフ・バランス実現のための努力の状況について教えてください。(単数回答)

問 17 の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

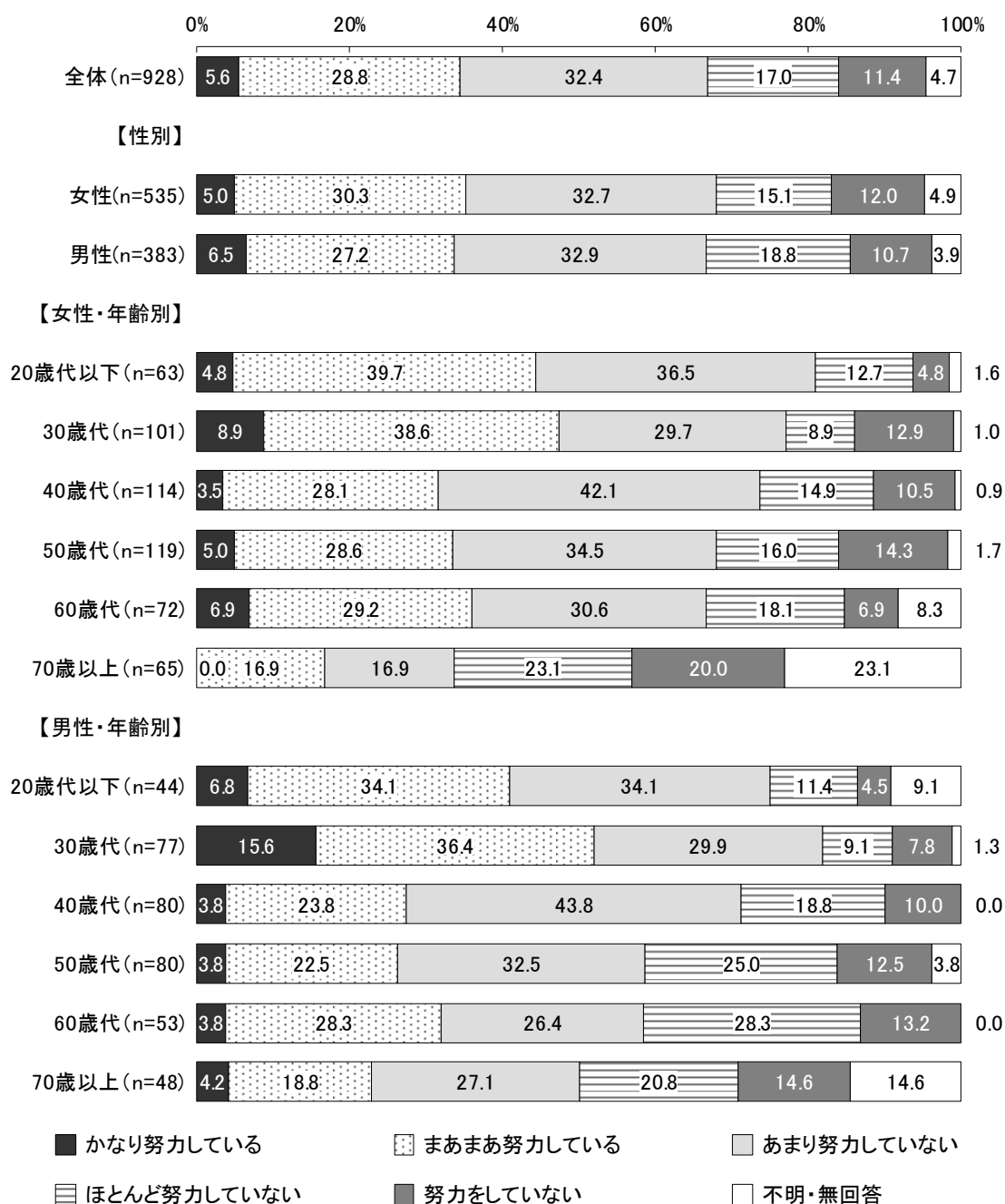
『努力している』…「かなり努力している」と「まあまあ努力している」を合算

『努力していない』…「あまり努力していない」と「ほとんど努力していない」と「努力をしていない」を合算

自身のワーク・ライフ・バランス実現のための努力の状況は、全体で『努力している』が 34.4%、『努力していない』が 60.8%となっています。

性別では、『努力している』が女性で 35.3%、男性で 33.7%となっています。

性別・年齢別では、女性・男性ともに 30 歳代以下で『努力している』が 4 割を超えており、特に、男性の 30 歳代では 52.0%と高くなっています。なお、男性の 40 歳代・50 歳代では『努力していない』が 7 割以上と高くなっています。



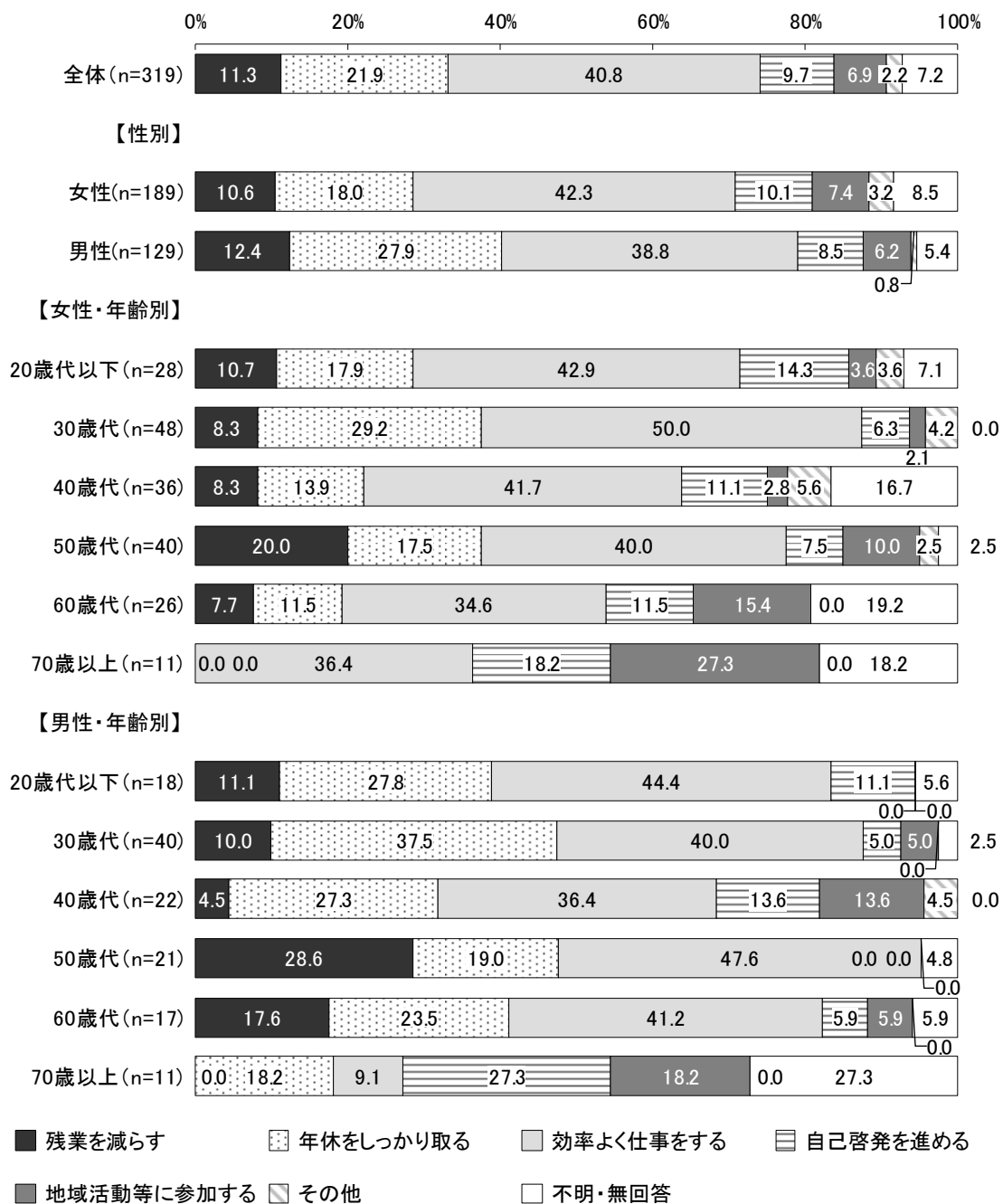
問17で「1.かなり努力している」または「2.まあまあ努力している」と回答した方のみ

問 17-1 あなたがワーク・ライフ・バランス実現のために行っていることをお答えください。(単数回答)

ワーク・ライフ・バランス実現のために行っていることは、全体で「効率よく仕事をする」が40.8%と最も高く、次いで「年休をしっかりと取る」が21.9%となっています。

性別では、男性で「年休をしっかりと取る」が27.9%と、女性と比べて9.9ポイント高くなっています。

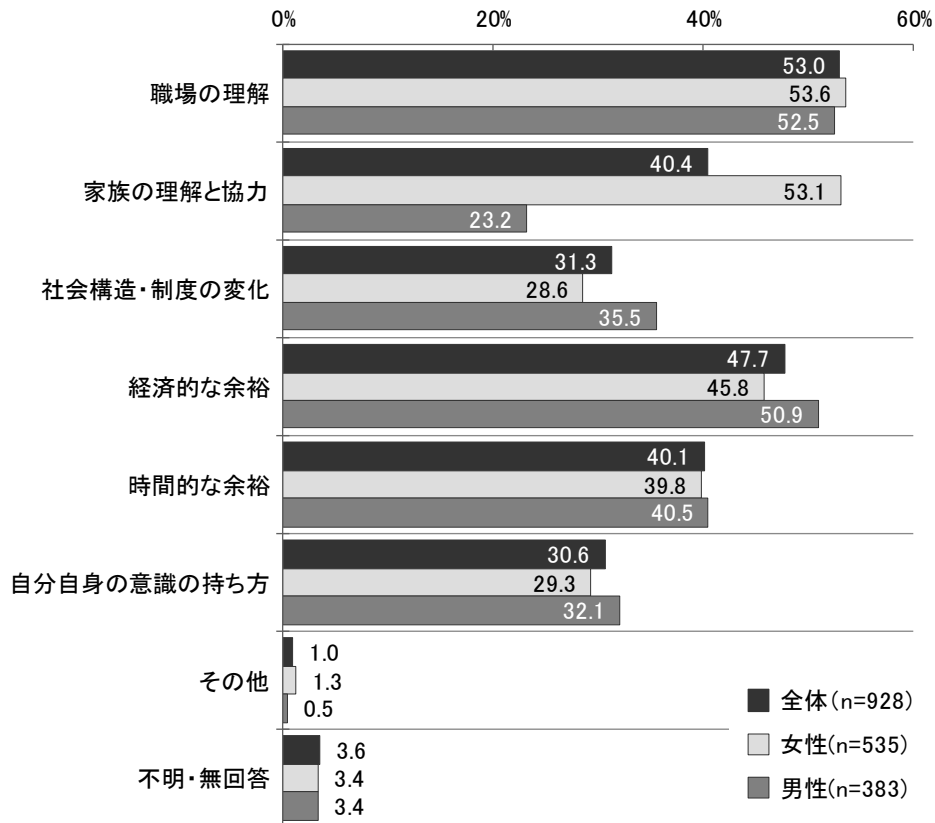
性別・年齢別では、男性の70歳以上の除いた男女で「効率よく仕事をする」が3割を超えており、特に女性の30歳代では50.0%と高くなっています。



問18 ワーク・ライフ・バランス実現のために必要だと思うものをお答えください。(複数回答)

ワーク・ライフ・バランス実現のために必要だと思うものは、全体で「職場の理解」が 53.0%と最も高く、次いで「経済的な余裕」が 47.7%となっています。

性別では、女性で「家族の理解と協力」が 53.1%と、男性と比べて 29.9 ポイント高くなっています。



性別・年齢別比較

女性の40歳代以下及び男性の50歳代以下では「職場の理解」が、女性の50歳代以上では「家族の理解と協力」が、男性の60歳代以上では「自分自身の意識の持ち方」が、70歳以上では「経済的な余裕」「自分自身の意識の持ち方」がそれぞれ最も高くとなっており、性別・年代別の差がでています。

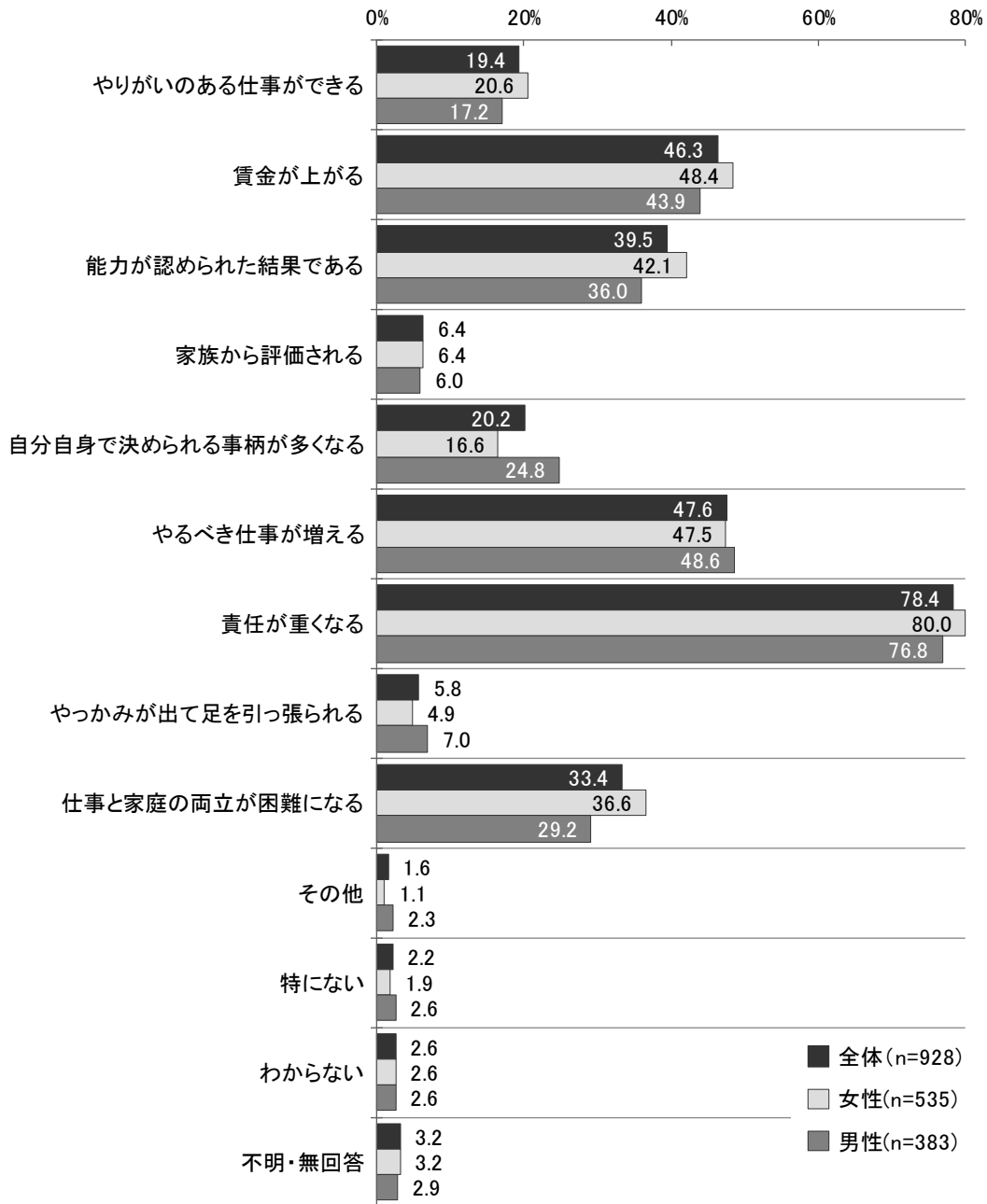
(単位: %)	n=	職場の理解	家族の理解と協力	社会構造・制度の変化	経済的な余裕	時間的な余裕	自分自身の意識の持ち方	その他	不明・無回答
女性・年齢別									
20歳代以下	63	61.9	44.4	31.7	50.8	50.8	17.5	0.0	0.0
30歳代	101	64.4	45.5	39.6	46.5	50.5	21.8	2.0	1.0
40歳代	114	64.0	53.5	28.1	57.9	33.3	23.7	0.9	0.9
50歳代	119	49.6	58.0	30.3	42.9	39.5	37.8	1.7	2.5
60歳代	72	40.3	61.1	25.0	40.3	37.5	38.9	2.8	2.8
70歳以上	65	33.8	55.4	10.8	30.8	27.7	36.9	0.0	15.4
男性・年齢別									
20歳代以下	44	52.3	22.7	36.4	50.0	45.5	20.5	0.0	4.5
30歳代	77	67.5	37.7	32.5	51.9	46.8	19.5	0.0	1.3
40歳代	80	53.8	23.8	45.0	48.8	40.0	27.5	1.3	0.0
50歳代	80	56.3	13.8	33.8	52.5	40.0	30.0	1.3	3.8
60歳代	53	43.4	15.1	35.8	52.8	39.6	54.7	0.0	0.0
70歳以上	48	29.2	25.0	25.0	47.9	27.1	47.9	0.0	14.6

※ 「不明・無回答」を除き、回答の高い項目**第1位**と**第2位**に網かけをしています。

問 19 あなたは、管理職以上に昇進することについてどのようなイメージを持っていますか。(複数回答)

管理職以上に昇進することについては、全体で「責任が重くなる」が 78.4%と最も高く、次いで「やるべき仕事が増える」が 47.6%となっています。

性別では、女性で「仕事と家庭の両立が困難になる」が 36.6%と、男性と比べて 7.4 ポイント高く、男性で「自分自身で決められる事柄が多くなる」が 24.8%と、女性と比べて 8.2 ポイント高くなっています。



性別・年齢別比較

女性・男性のいずれの年代も「責任が重くなる」が最も高く、特に女性の30歳代・40歳代では約9割となっています。なお、「仕事と家庭の両立が困難になる」は女性の30歳代・40歳代及び男性の30歳代で4割以上と、他の年代と比べても高くなっています。

(単位:%)	n=	やりがいのある仕事ができる	賃金上がる	能力が認められた結果である	家族から評価される	自分自身で決められる事柄が多くなる	やるべき仕事が増える	責任が重くなる	やっかみが出て足を引っ張られる	仕事と家庭の両立が困難になる	その他	特にない
女性・年齢別												
20歳代以下	63	11.1	68.3	39.7	3.2	17.5	49.2	76.2	4.8	36.5	0.0	1.6
30歳代	101	20.8	64.4	35.6	5.0	14.9	51.5	90.1	5.0	42.6	0.0	1.0
40歳代	114	23.7	50.9	43.9	6.1	15.8	57.0	87.7	4.4	41.2	1.8	0.9
50歳代	119	19.3	44.5	47.9	8.4	21.8	44.5	83.2	5.9	37.8	0.8	1.7
60歳代	72	30.6	33.3	47.2	6.9	18.1	45.8	75.0	4.2	33.3	1.4	2.8
70歳以上	65	15.4	24.6	35.4	7.7	9.2	30.8	55.4	4.6	21.5	3.1	4.6
男性・年齢別												
20歳代以下	44	18.2	38.6	40.9	9.1	20.5	47.7	79.5	9.1	34.1	0.0	0.0
30歳代	77	13.0	44.2	29.9	5.2	11.7	66.2	80.5	5.2	44.2	1.3	0.0
40歳代	80	7.5	51.2	40.0	7.5	28.7	56.3	85.0	10.0	23.8	6.3	0.0
50歳代	80	22.5	43.8	40.0	2.5	23.8	40.0	71.3	6.3	26.3	2.5	2.5
60歳代	53	24.5	43.4	30.2	3.8	35.8	41.5	75.5	5.7	22.6	0.0	5.7
70歳以上	48	22.9	37.5	35.4	10.4	33.3	31.3	64.6	4.2	22.9	2.1	10.4

(単位:%)	n=	わからない	不明・無回答
女性・年齢別			
20歳代以下	63	1.6	0.0
30歳代	101	1.0	0.0
40歳代	114	0.9	0.9
50歳代	119	2.5	2.5
60歳代	72	4.2	4.2
70歳以上	65	7.7	13.8
男性・年齢別			
20歳代以下	44	2.3	4.5
30歳代	77	1.3	1.3
40歳代	80	2.5	0.0
50歳代	80	3.8	3.8
60歳代	53	1.9	0.0
70歳以上	48	4.2	10.4

※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目**第1位**と**第2位**に網かけをしています。

問 20 あなたは、現在通常業務でテレワークによる勤務をしていますか。(単数回答)

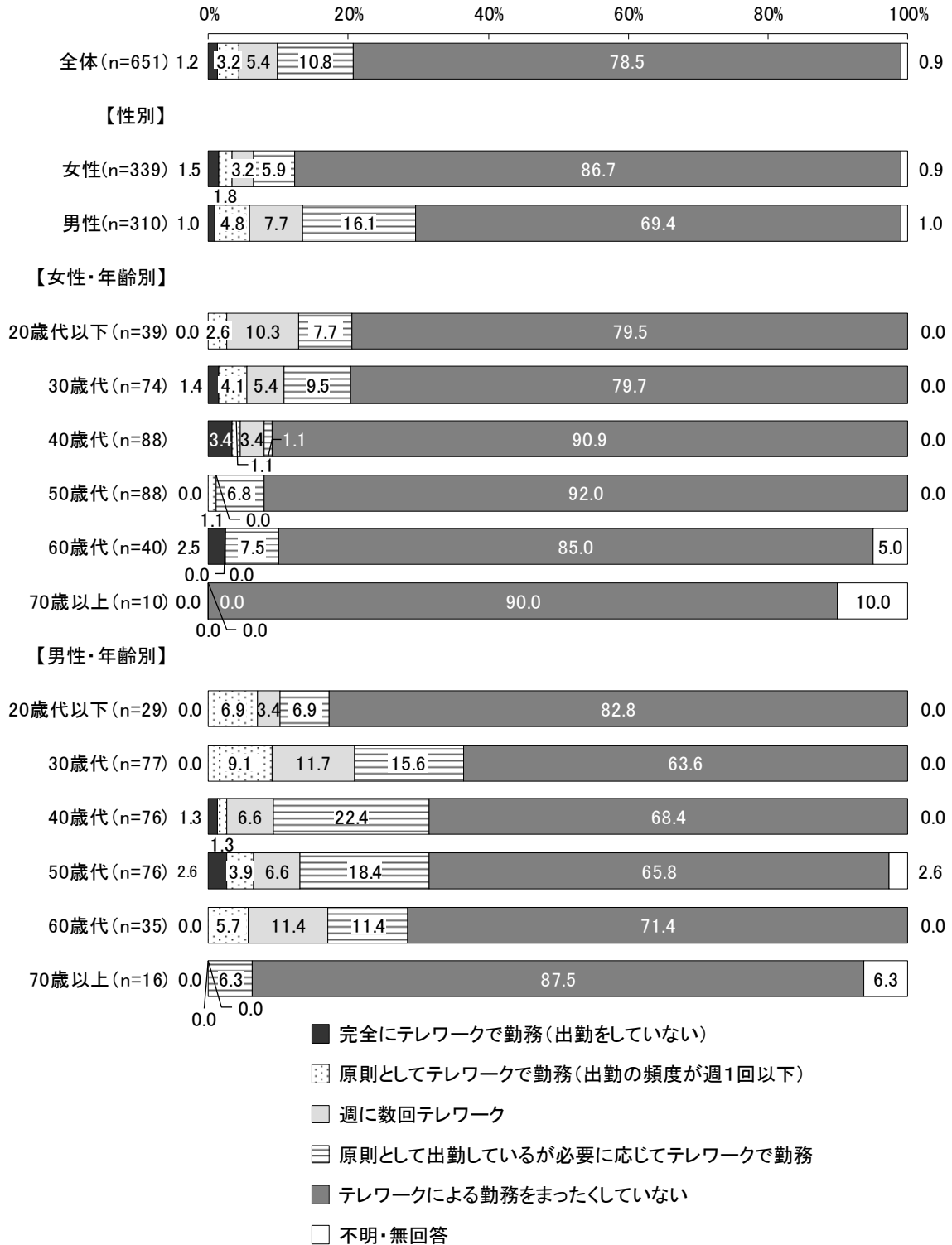
問 20 の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『テレワークを行う勤務形態がある』…「完全にテレワークで勤務（出勤をしていない）」と「原則としてテレワークで勤務（出勤の頻度が週 1 回以下）」と「週に数回テレワーク」と「原則として出勤しているが必要に応じてテレワークで勤務」を合算

通常業務でのテレワークによる勤務の状況については、全体で「テレワークによる勤務をまったくしていない」が 78.5%と最も高く、次いで「原則として出勤しているが必要に応じてテレワークで勤務」が 10.8%となっています。なお、『テレワークを行う勤務形態がある』は 20.6%となっています。

性別では、「テレワークによる勤務をまったくしていない」で女性が 86.7%と、男性と比べて 17.3 ポイント低くなっています。

性別・年齢別では、女性のいずれの年代も「テレワークによる勤務をまったくしていない」がそれぞれ約 8 割を超えており、『テレワークを行う勤務形態がある』は 30 歳代以下で約 2 割にとどまっています。一方、男性の 30 歳代～50 歳代では「テレワークによる勤務をまったくしていない」は約 6～7 割弱、同年代の『テレワークを行う勤務形態がある』は 3 割を超えています。



※問3で「会社員・公務員(常勤)」「パート・アルバイト」「派遣、契約社員」「自営業・自由業・農業(家族従業者を含む)」と回答した方で限定をかけています。

問 21 あなたは、時間や場所にとらわれない柔軟な働き方を可能にするテレワークで働きたいと思いますか。仕事をしていない方も、仕事をすると仮定してお答えください。
(単数回答)

問 21 の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

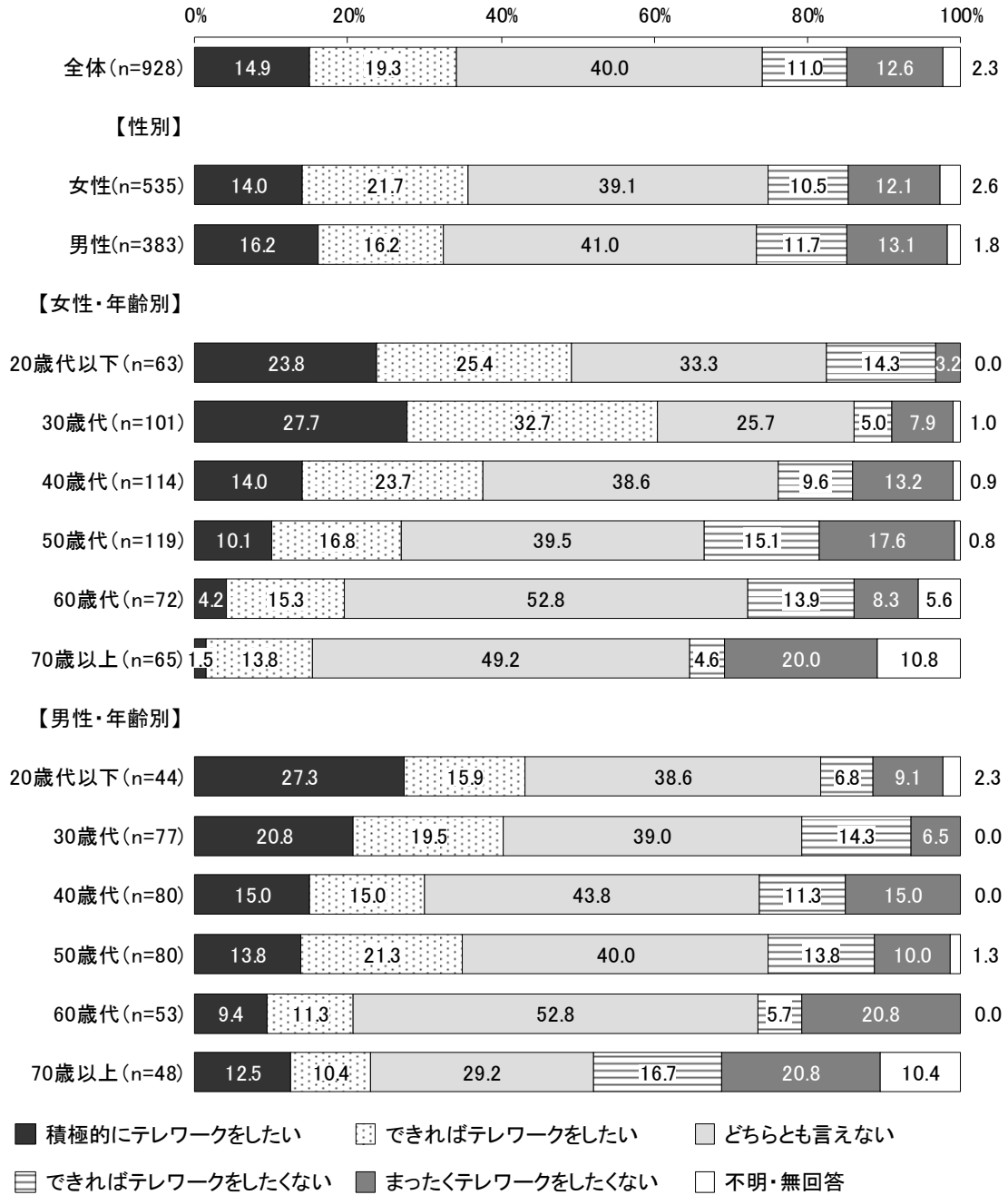
『テレワークをしたい』 … 「積極的にテレワークをしたい」と「できればテレワークをしたい」を合算

『テレワークをしたくない』 … 「まったくテレワークをしたくない」と「できればテレワークをしたくない」を合算

時間や場所にとらわれない柔軟な働き方を可能にするテレワークによる就労意向は、全体で『テレワークをしたい』が 34.2%、「どちらとも言えない」が 40.0%、『テレワークをしたくない』が 23.6%となっています。

性別では、女性・男性ともに『テレワークをしたい』『テレワークをしたくない』はそれぞれ同程度となっており、大差はみられません。

性別・年齢別では、女性の 30 歳代で『テレワークをしたい』が 60.4%と、女性の他の年代や男性と比べても高くなっています。また、女性の 50 歳代、男性の 70 歳以上で『テレワークをしたくない』がそれぞれ 3 割を超えて高くなっています。



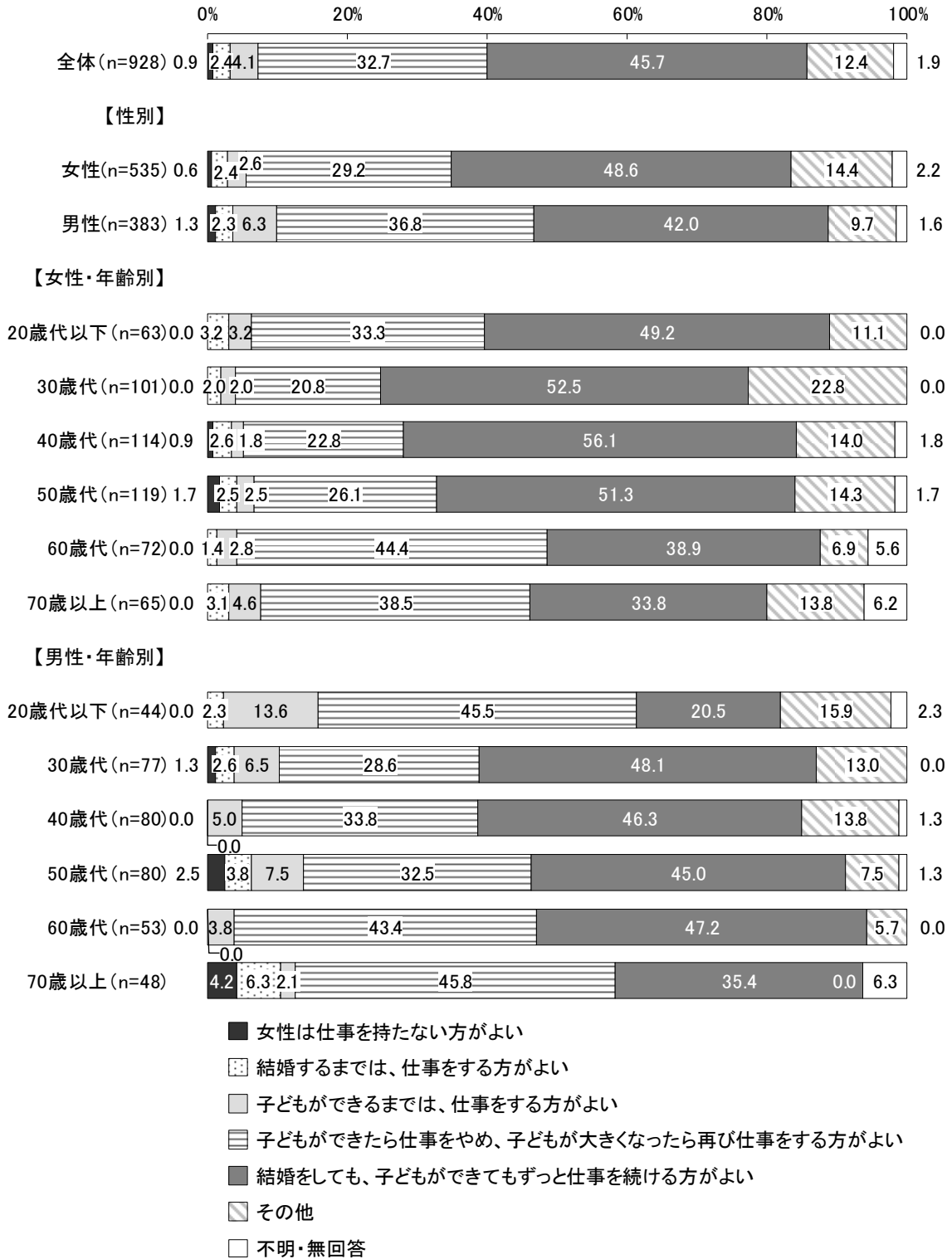
4 女性の活躍推進について

問22 あなたは女性の仕事について、どのような形が望ましいと思いますか。(単数回答)

女性の仕事について、どのような形が望ましいと思うかは、全体で「結婚をしても、子どもができてもずっと仕事を続ける方がよい」が45.7%と最も高く、次いで「子どもができたら仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事をする方がよい」が32.7%となっています。

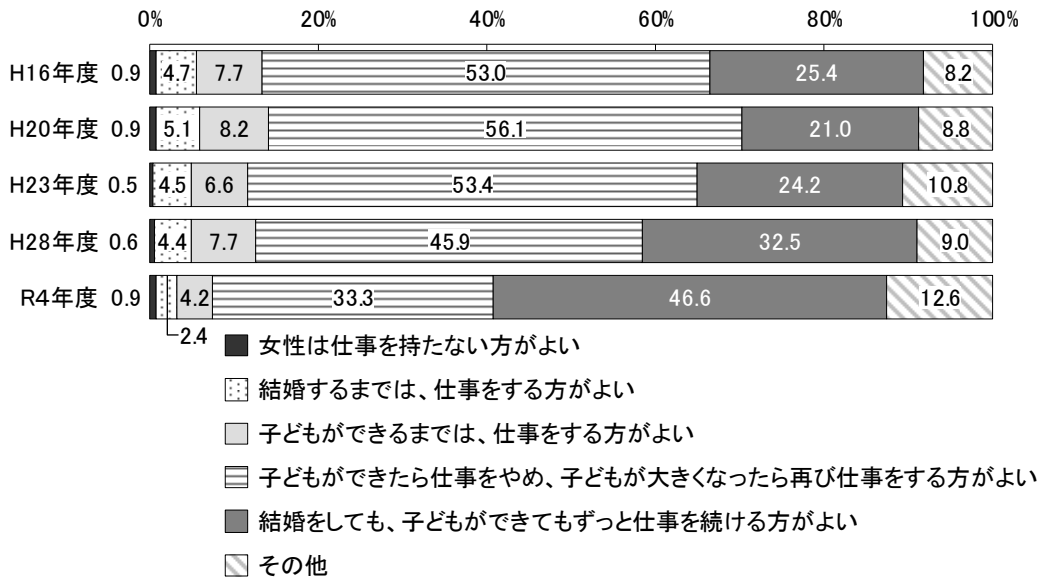
性別では、女性では「結婚をしても、子どもができてもずっと仕事を続ける方がよい」が男性と比べて、男性では「子どもができたら仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事をする方がよい」が女性と比べて、それぞれ約7ポイントの差がみられます。

性別・年齢別では、女性の20歳代以下で「結婚をしても、子どもができてもずっと仕事を続ける方がよい」が49.2%と、男性と比べて28.7ポイント高くなっています。なお、「女性は仕事を持たない方がよい」が女性の40歳代・50歳代及び男性の30歳代、50歳代、70歳以上で数パーセント出現しています。



経年比較

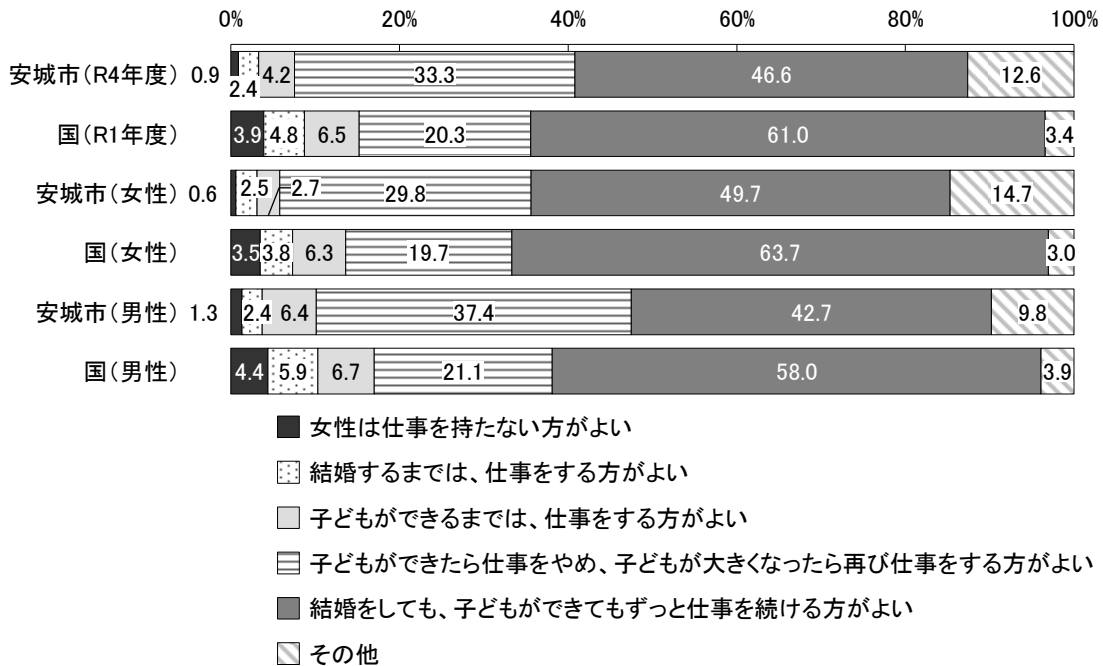
H20 年度以降、「子どもができれば仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事をする方がよい」が減少し、「結婚をしても、子どもができてずっと仕事を続ける方がよい」の割合が高くなっています。



※各年度の調査結果は、「不明・無回答」を除いて算出した割合です。

国比較

「子どもができれば仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事をする方がよい」は、安城市は国と比べて全体で 13.0 ポイント、女性で 10.1 ポイント、男性で 16.3 ポイント、それぞれ高くなっています。「結婚をしても、子どもができてずっと仕事を続ける方がよい」は、国と比べて全体で 14.4 ポイント、女性で 14.0 ポイント、男性で 15.3 ポイント、それぞれ低くなっています。



※国の選択肢「わからない」は「その他」に合算しました。

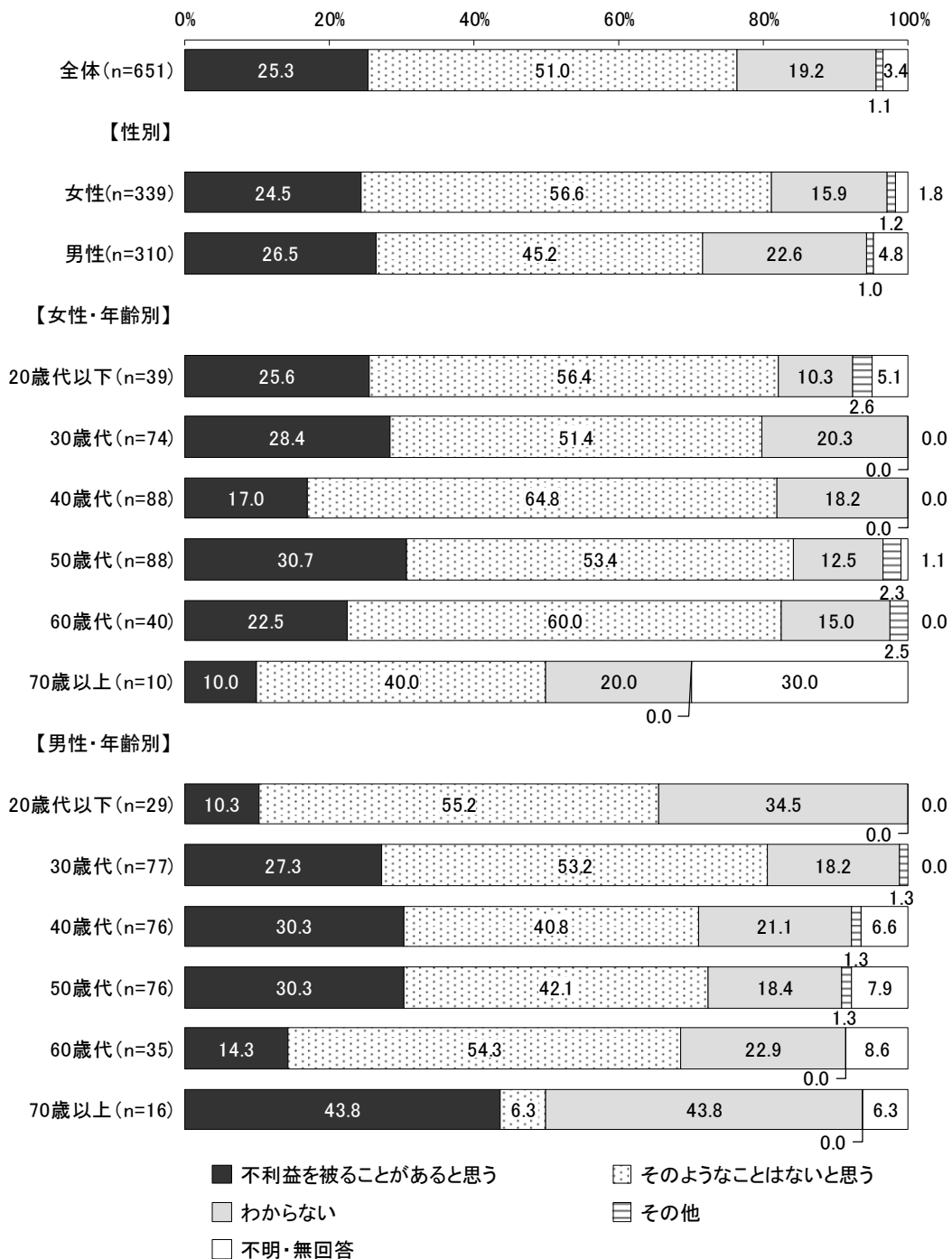
国の資料：男女共同参画社会に関する世論調査報告書（令和元年9月調査）

問 23 現在働いている方におたずねします。現在の職場で、仕事内容や待遇面で女性であるという理由で男性に比べて不利益を被ることがあると思いますか。(単数回答)

現在働いている職場で、仕事内容や待遇面で女性であるという理由で男性に比べて不利益を被ることがあると思うかは、全体で「そのようなことはないと思う」が 51.0%と最も高く、次いで「不利益を被ることがあると思う」が 25.3%となっています。

性別では、「不利益を被ることがあると思う」が女性で 24.5%、男性で 26.5%となっています。

性別・年齢別では、「不利益を被ることがあると思う」が女性の 30 歳代、50 歳代及び男性の 30 歳代～50 歳代で約 3 割となっており、男性の 70 歳以上では約 4 割となっています。



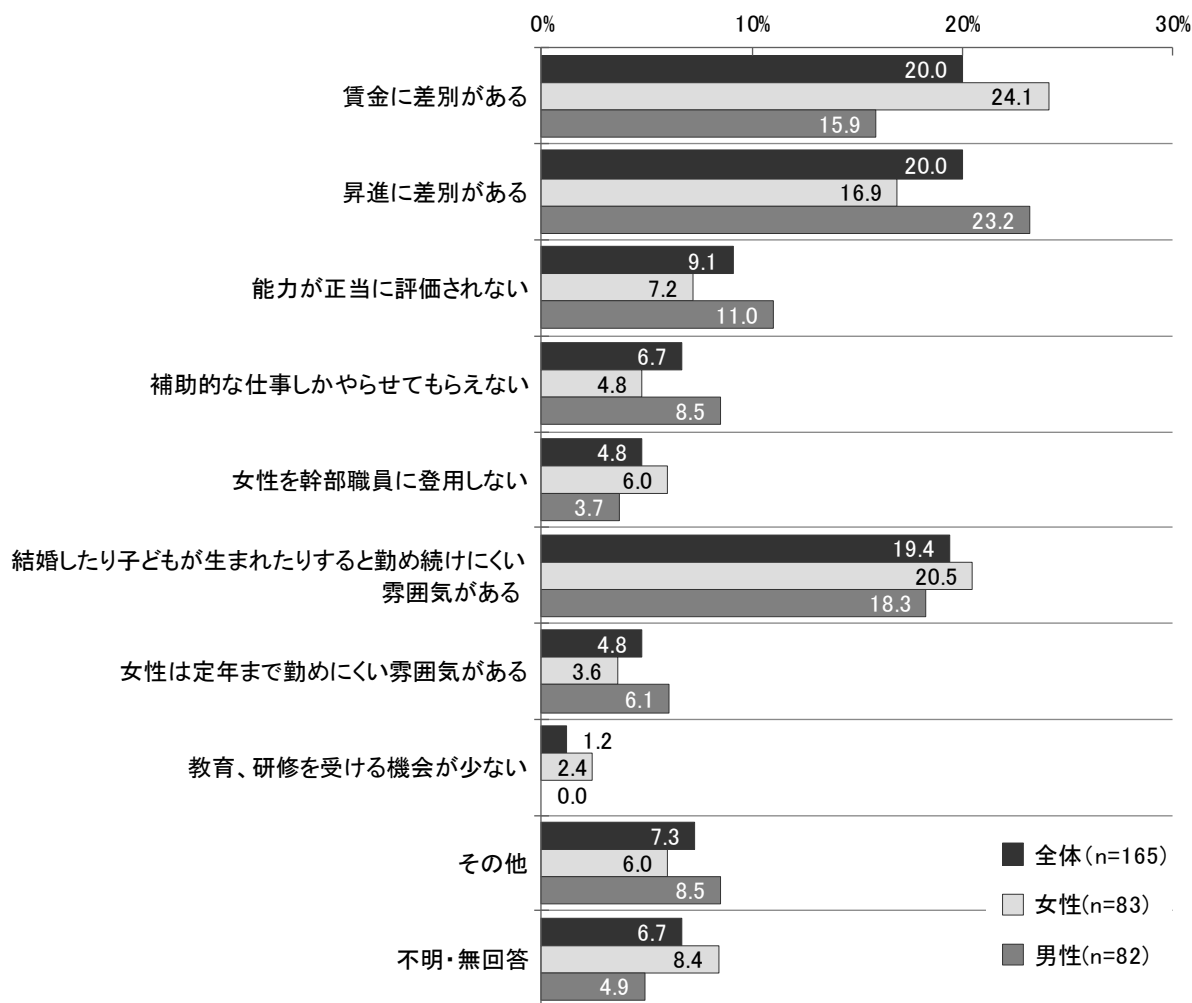
※問 3 で「会社員・公務員（常勤）」「パート・アルバイト」「派遣、契約社員」「自営業・自由業・農業（家族従業者を含む）」と回答した方で限定をかけています。

問 23 で「1. 不利益を被ることがあると思う」と回答した方のみ

問 23-1 具体的にはどのようなことですか。(単数回答)

不利益を被ることがあると思う具体的な内容は、全体で「賃金に差別がある」「昇進に差別がある」がそれぞれ 20.0%と最も高く、次いで「結婚したり子どもが生まれたりすると勤め続けにくい雰囲気がある」が 19.4%となっています。

性別では、「賃金に差別がある」が女性で 24.1%と、男性と比べて 8.2 ポイント高くなっています。



性別・年齢別比較

「賃金に差別がある」が女性の40歳代・50歳代で高くなっています。なお、「結婚したり子どもが生まれたりすると勤め続けにくい雰囲気がある」が女性の20歳代以下で40.0%、30歳代で28.6%となっています。

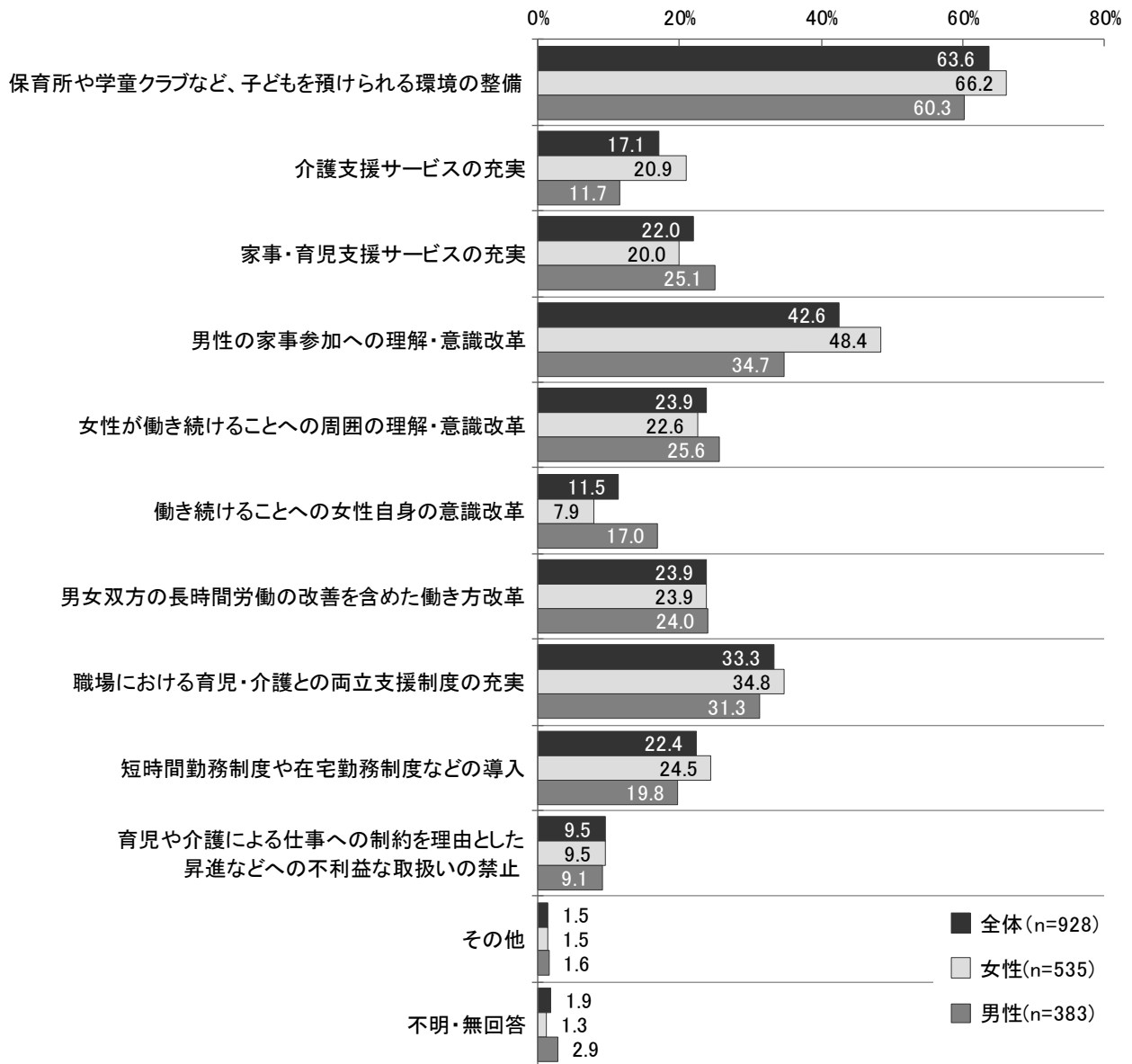
(単位:%)	n=	賃金に差別がある	昇進に差別がある	能力が正当に評価されない	補助的な仕事しかやらせてもらえない	女性を幹部職員に登用しない	結婚したり子どもが生まれたりすると勤め続けにくい雰囲気がある	女性は定年まで勤めにくい雰囲気がある	教育、研修を受ける機会が少ない	その他	不明・無回答
女性・年齢別											
20歳代以下	10	10.0	10.0	10.0	10.0	0.0	40.0	0.0	10.0	10.0	0.0
30歳代	21	14.3	23.8	0.0	4.8	4.8	28.6	4.8	0.0	9.5	9.5
40歳代	15	40.0	13.3	0.0	0.0	0.0	26.7	0.0	6.7	0.0	13.3
50歳代	27	29.6	22.2	14.8	3.7	7.4	11.1	3.7	0.0	3.7	3.7
60歳代	9	22.2	0.0	11.1	11.1	22.2	0.0	11.1	0.0	0.0	22.2
70歳以上	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
男性・年齢別											
20歳代以下	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	33.3
30歳代	21	14.3	9.5	9.5	19.0	0.0	33.3	0.0	0.0	9.5	4.8
40歳代	23	21.7	34.8	8.7	0.0	4.3	8.7	8.7	0.0	13.0	0.0
50歳代	23	13.0	21.7	8.7	8.7	8.7	17.4	4.3	0.0	8.7	8.7
60歳代	5	20.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0
70歳以上	7	14.3	14.3	42.9	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0

※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目**第1位**と**第2位**に網かけをしています。なお、年齢別回答者(n)が10件未満の場合は、順位の表記を省略しています。

問 24 女性が働き続けるために必要なことは何だと思えますか。(複数回答)

女性が働き続けるために必要なことは、全体で「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が63.6%と最も高く、次いで「男性の家事参加への理解・意識改革」が42.6%となっています。

性別では、女性は「男性の家事参加への理解・意識改革」で13.7ポイント、「介護支援サービスの充実」で9.2ポイント、それぞれ男性と比べて高くなっています。また、男性では「働き続けることへの女性自身の意識改革」が9.1ポイント、女性と比べて高くなっています。



性別・年齢別比較

女性の50歳代・60歳代で「介護支援サービスの充実」がそれぞれ約3割、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」がそれぞれ約4割、男性の50歳代以上で「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」が約4割と、他の年代と比べても高くなっています。また、女性の30歳代では、「男性の家事参加への理解・意識改革」が59.4%と、同性の他の年代及び男性と比べて高くなっています。

(単位:%)	n=	保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備	介護支援サービスの充実	家事・育児支援サービスの充実	男性の家事参加への理解・意識改革	女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革	働き続けることへの女性自身の意識改革	働き方改革	男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革	職場における育児・介護との両立支援制度の充実	短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入	育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止	その他
女性・年齢別													
20歳代以下	63	69.8	4.8	36.5	50.8	28.6	6.3	23.8	28.6	15.9	11.1	0.0	
30歳代	101	68.3	8.9	23.8	59.4	18.8	5.9	32.7	24.8	38.6	12.9	0.0	
40歳代	114	65.8	23.7	22.8	42.1	20.2	4.4	32.5	38.6	28.9	4.4	2.6	
50歳代	119	62.2	32.8	12.6	47.9	19.3	8.4	22.7	42.9	22.7	10.1	1.7	
60歳代	72	69.4	30.6	18.1	50.0	23.6	11.1	9.7	38.9	18.1	8.3	2.8	
70歳以上	65	64.6	18.5	9.2	40.0	30.8	13.8	13.8	29.2	13.8	10.8	1.5	
男性・年齢別													
20歳代以下	44	63.6	6.8	25.0	31.8	15.9	11.4	38.6	22.7	34.1	9.1	0.0	
30歳代	77	61.0	7.8	35.1	39.0	24.7	20.8	33.8	19.5	19.5	11.7	0.0	
40歳代	80	66.3	11.3	23.8	40.0	30.0	25.0	13.8	30.0	15.0	7.5	3.8	
50歳代	80	60.0	16.3	21.3	40.0	22.5	11.3	15.0	37.5	16.3	7.5	3.8	
60歳代	53	52.8	13.2	30.2	26.4	35.8	15.1	26.4	37.7	18.9	5.7	0.0	
70歳以上	48	56.3	14.6	10.4	22.9	22.9	14.6	22.9	41.7	22.9	14.6	0.0	

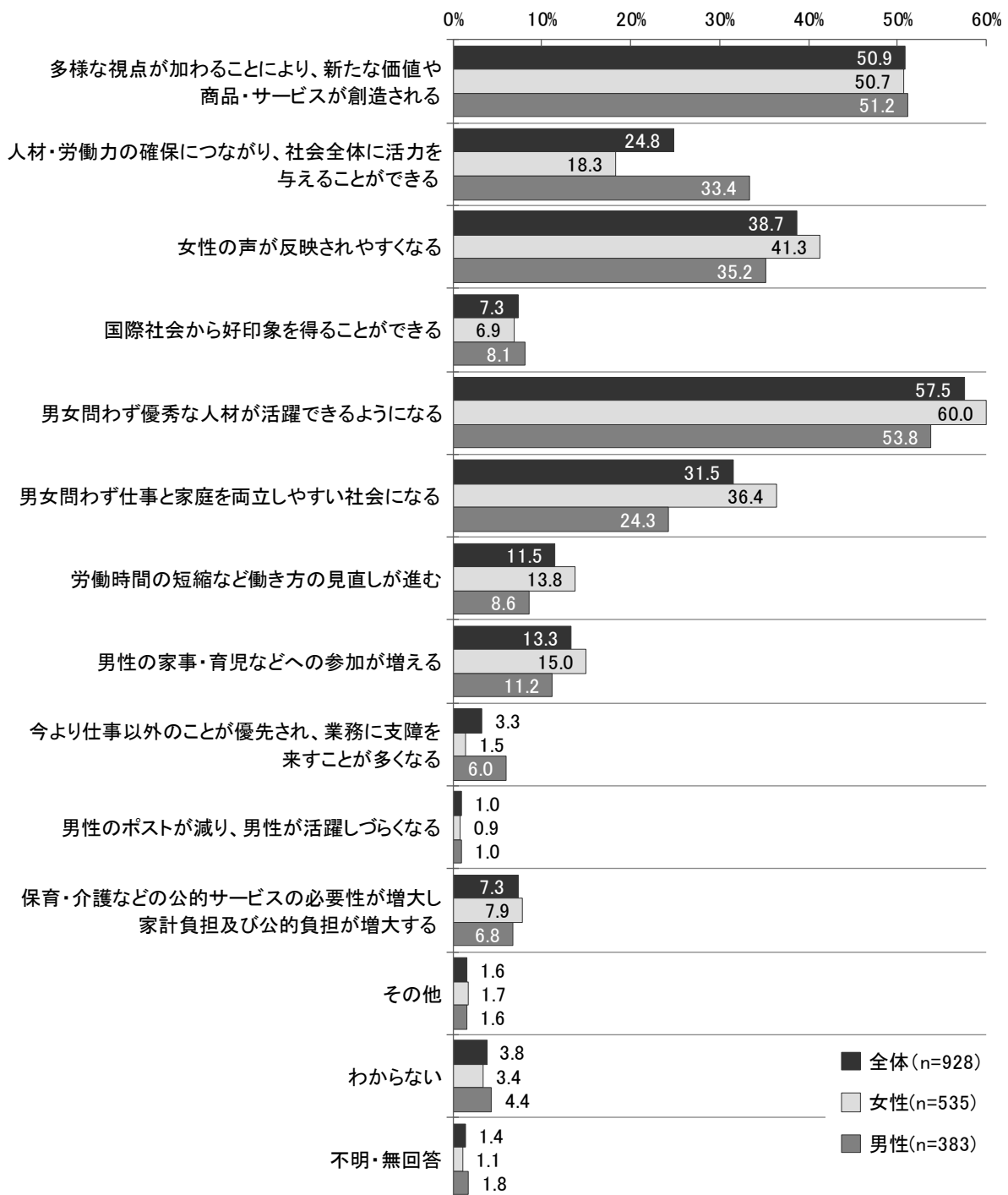
(単位:%)	n=	不明・無回答
女性・年齢別		
20歳代以下	63	0.0
30歳代	101	0.0
40歳代	114	0.0
50歳代	119	0.8
60歳代	72	2.8
70歳以上	65	6.2
男性・年齢別		
20歳代以下	44	2.3
30歳代	77	1.3
40歳代	80	1.3
50歳代	80	2.5
60歳代	53	1.9
70歳以上	48	10.4

※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目**第1位**と**第2位**に網かけをしています。

問 25 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思いますか。(複数回答)

政治・経済・地域などの各分野で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思うかは、全体で「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」が 57.5%と最も高く、次いで「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」が 50.9%となっています。

性別では、女性で「男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる」が男性と比べて、男性で「人材・労働力の確保につながり、社会全体に活力を与えることができる」が女性と比べて、それぞれ 10 ポイント以上の差がみられます。



性別・年齢別比較

「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」「多様な視点加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」が上位となっているほか、「女性の声が反映されやすくなる」という期待も高くなっています。さらに、女性は各年代の男性と比べて「男女問わず仕事と家庭を両立しやすい社会になる」が高く、特に女性の30歳代で48.5%となっています。

(単位: %)		多様な視点加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される	人材・労働力の確保につながり、社会全体に活力を与えることができる	女性の声が反映されやすくなる	国際社会から好印象を得ることができる	男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる	男女問わず仕事と家庭を両立しやすい社会になる	労働時間の短縮など働き方の見直しが進む
	n=							
女性・年齢別								
20歳代以下	63	52.4	14.3	49.2	14.3	49.2	36.5	11.1
30歳代	101	48.5	14.9	43.6	5.9	60.4	48.5	12.9
40歳代	114	50.9	17.5	39.5	9.6	57.9	39.5	14.9
50歳代	119	57.1	21.8	38.7	5.0	64.7	31.1	12.6
60歳代	72	48.6	22.2	45.8	2.8	72.2	26.4	13.9
70歳以上	65	43.1	18.5	33.8	4.6	52.3	33.8	18.5
男性・年齢別								
20歳代以下	44	43.2	18.2	47.7	6.8	31.8	18.2	9.1
30歳代	77	51.9	27.3	35.1	6.5	54.5	31.2	9.1
40歳代	80	55.0	33.8	40.0	15.0	52.5	25.0	7.5
50歳代	80	46.3	40.0	32.5	6.3	57.5	25.0	6.3
60歳代	53	54.7	34.0	28.3	3.8	73.6	17.0	11.3
70歳以上	48	56.3	45.8	27.1	8.3	47.9	25.0	8.3
(単位: %)		男性の家事・育児などへの参加が増える	今より仕事以外のことが優先され、業務に支障を来すことが多くなる	男性のポストが減り、男性が活躍しづらくなる	保育・介護などの公的サービスの必要性が増大し家計負担及び公的負担が増大する	その他	わからない	不明・無回答
	n=							
女性・年齢別								
20歳代以下	63	14.3	1.6	0.0	4.8	1.6	3.2	0.0
30歳代	101	14.9	3.0	0.0	11.9	3.0	3.0	0.0
40歳代	114	13.2	1.8	1.8	2.6	2.6	4.4	0.0
50歳代	119	16.0	0.0	2.5	10.9	1.7	2.5	0.0
60歳代	72	15.3	2.8	0.0	11.1	0.0	0.0	2.8
70歳以上	65	16.9	0.0	0.0	4.6	0.0	7.7	4.6
男性・年齢別								
20歳代以下	44	11.4	6.8	2.3	11.4	2.3	9.1	2.3
30歳代	77	13.0	6.5	2.6	6.5	2.6	3.9	0.0
40歳代	80	12.5	5.0	0.0	7.5	3.8	2.5	0.0
50歳代	80	10.0	8.8	1.3	6.3	0.0	6.3	1.3
60歳代	53	9.4	3.8	0.0	1.9	0.0	3.8	0.0
70歳以上	48	8.3	4.2	0.0	8.3	0.0	2.1	10.4

※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目第1位と第2位に網かけをしています。

5 男性と女性の立場やあり方に関する意識について

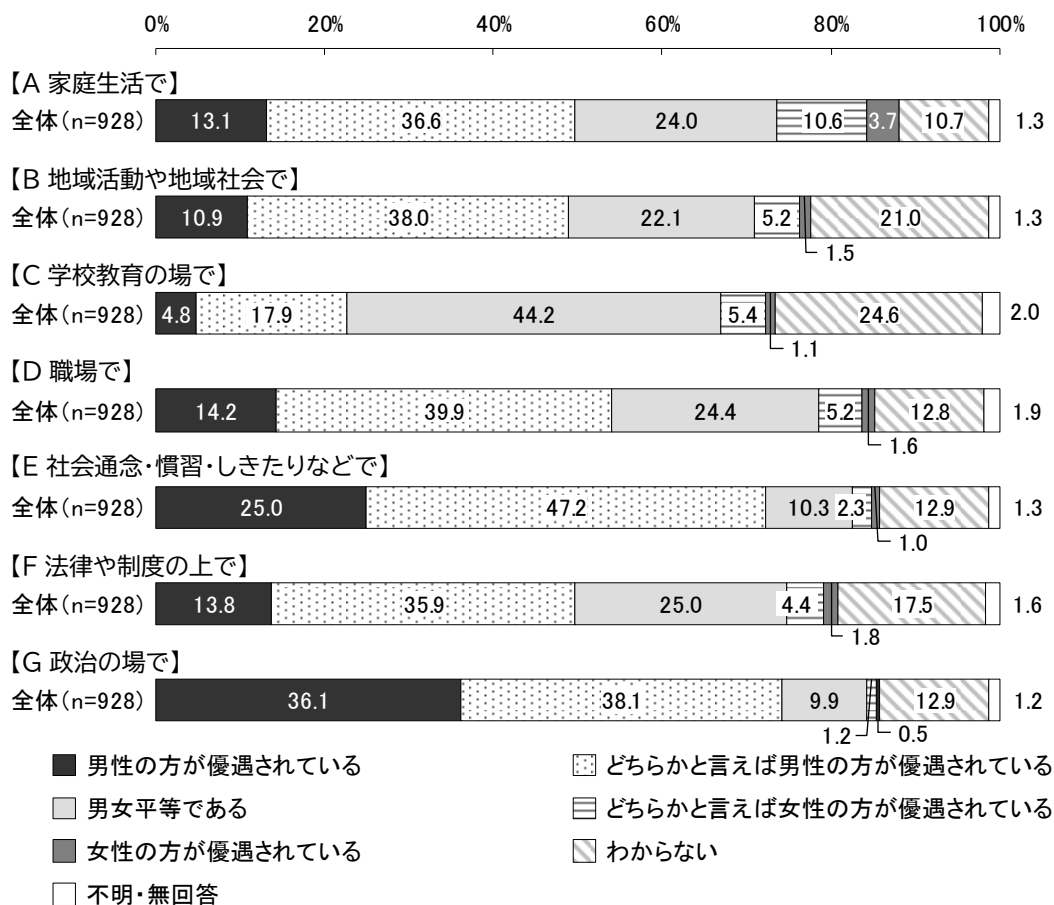
問 26 あなたは、次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたの気持ちに最も近いものをお答えください。(単数回答)

問 26 の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『男性優遇』…「男性の方が優遇されている」と「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」を合算

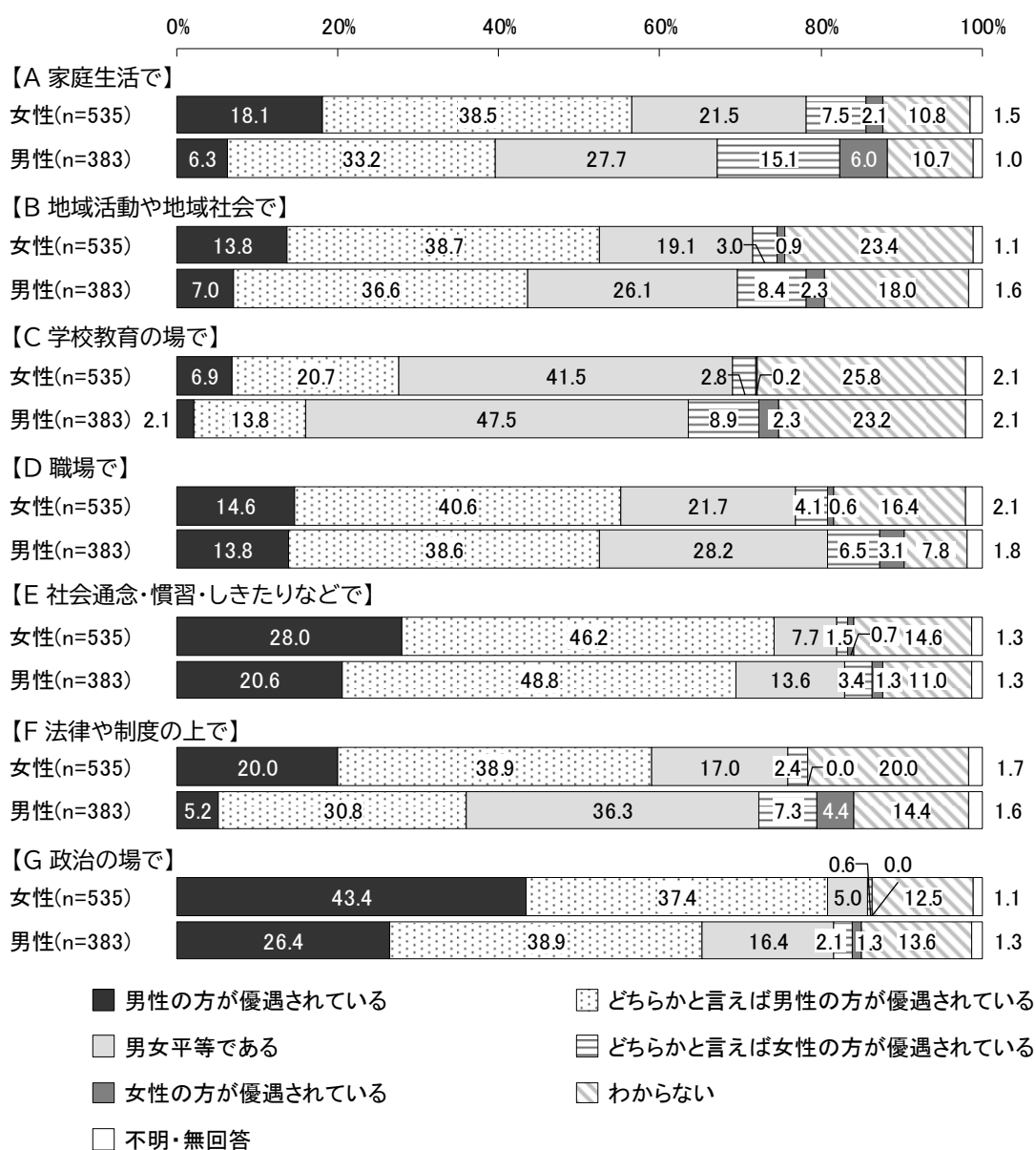
『女性優遇』…「女性の方が優遇されている」と「どちらかと言えば女性の方が優遇されている」を合算

各分野での男女の平等意識について、最も「男女平等である」が高い分野は「C 学校教育の場で」となっています。『男性優遇』が高い分野は、「E 社会通念・慣習・しきたりなどで」「G 政治の場で」が7割を超えています。



性別比較

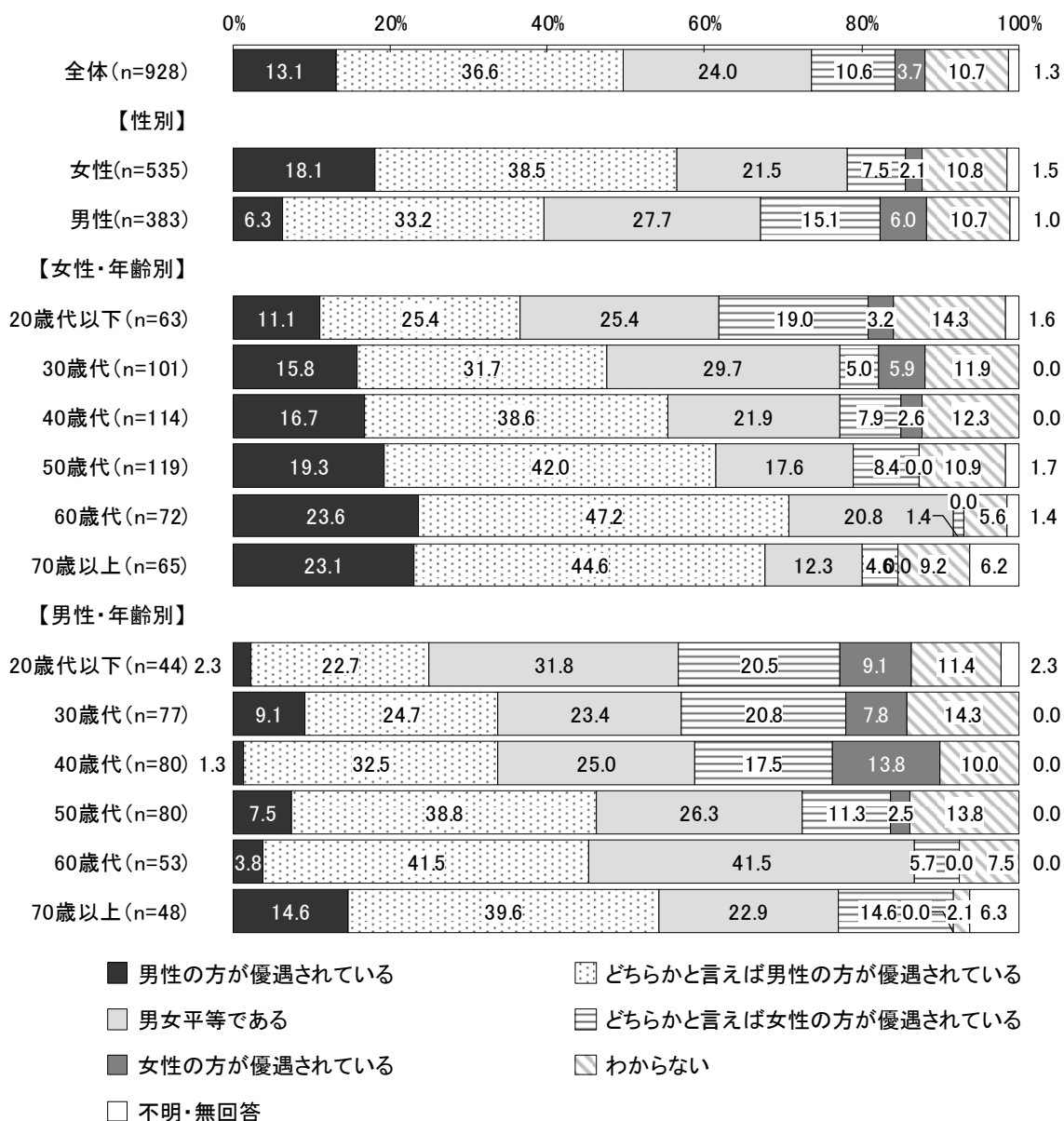
いずれの分野においても女性は男性と比べて『男性優遇』が高く、「F 法律や制度の上で」「A 家庭生活で」「G 政治の場で」「C 学校教育の場で」の分野で男性と比べて10ポイント以上の差となっています。一方、いずれの分野においても男性は女性に比べて「男女平等である」が高く、特に「F 法律や制度の上で」「G 政治の場で」の分野で女性と比べて10ポイント以上高くなっています。また、男性は女性と比べて「A 家庭生活で」は『女性優遇』が11.5ポイント高くなっています。



項目別集計結果

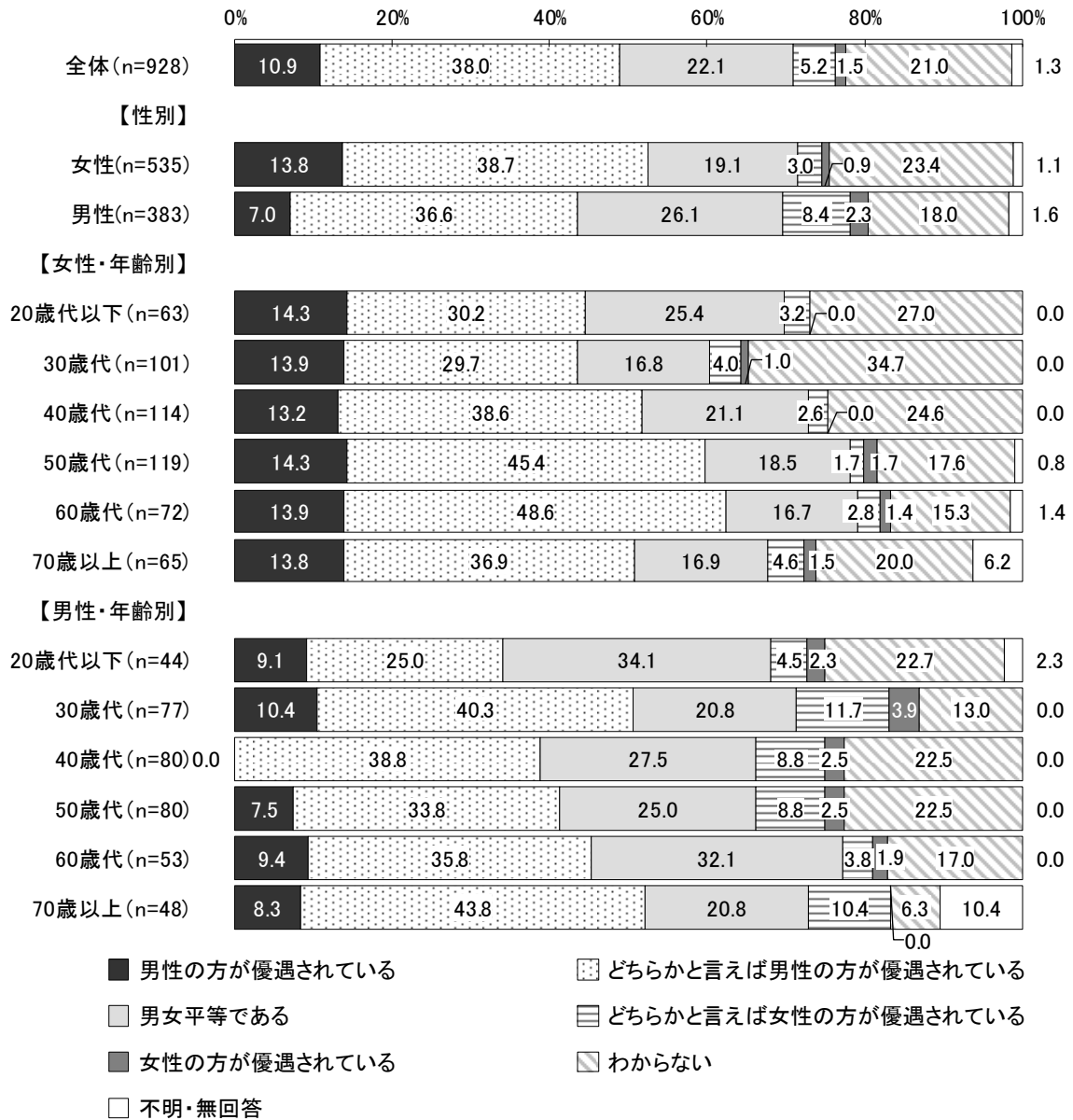
【A 家庭生活で】

家庭生活における男女の平等意識については、女性の40歳代以上で『男性優遇』が約5割を超えて高くなっています。男性では20歳代以下及び60歳代で「男女平等である」が3割を超えており、特に60歳代で41.5%と高くなっています。また、男性の40歳代以下で『女性優遇』が約3割と高くなっています。



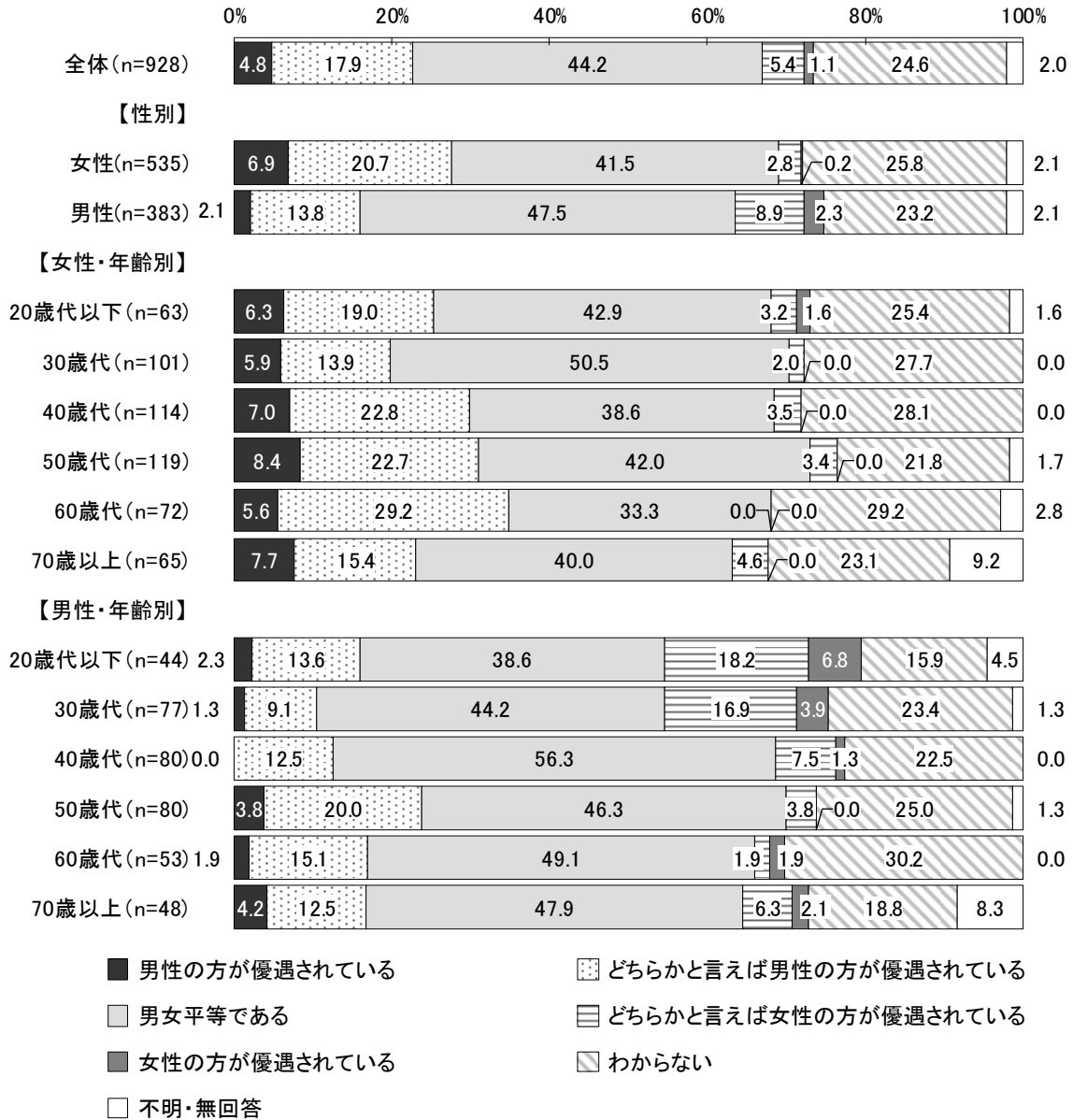
【B 地域活動や地域社会で】

地域活動や地域社会における男女の平等意識については、女性の50歳代・60歳代で『男性優遇』が約6割と高くなっています。また、男性のいずれの年代でも『女性優遇』が女性の同年代と比べて高くなっています。



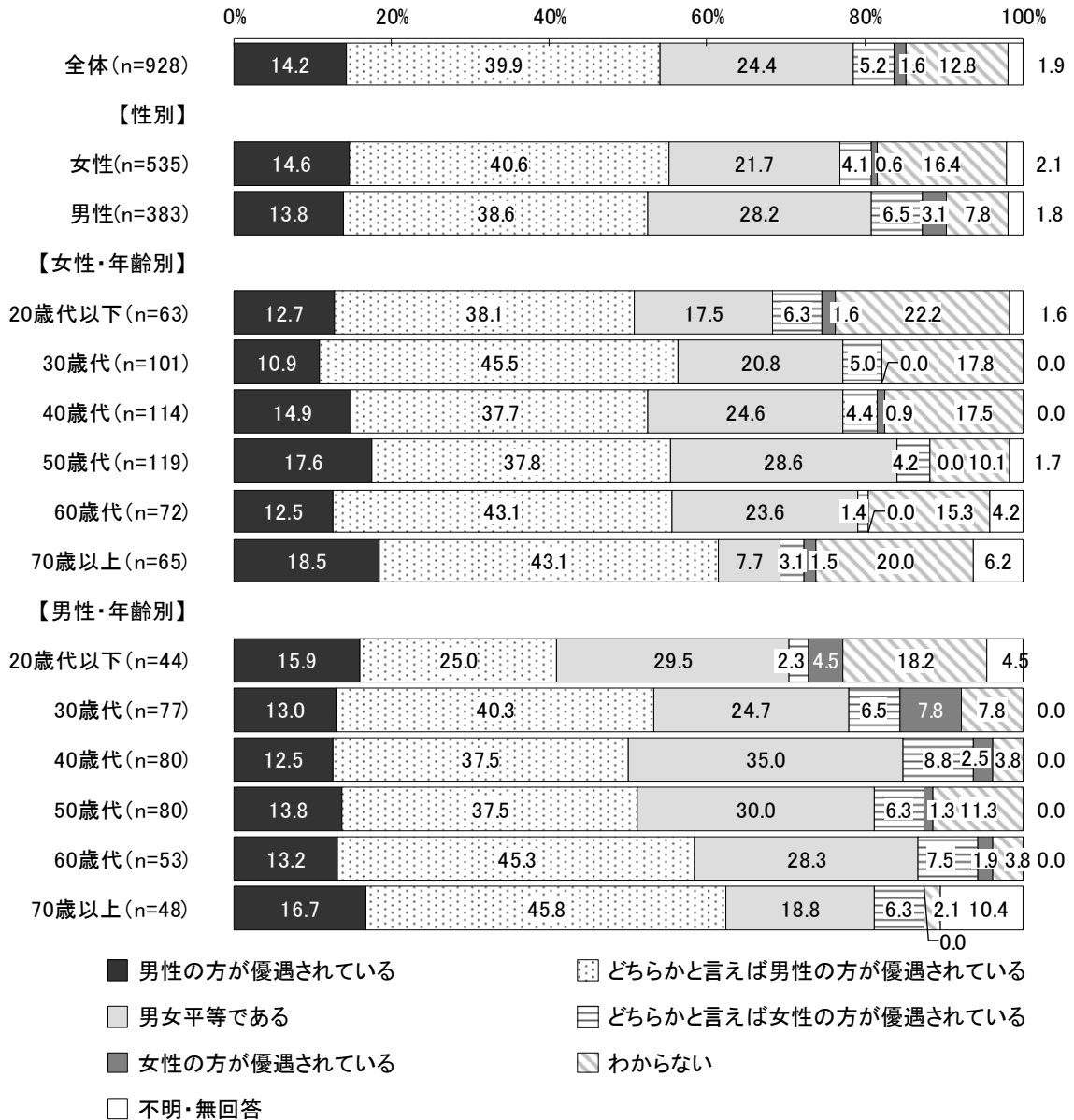
【C 学校教育の場で】

学校教育の場における男女の平等意識については、女性の60歳代を除いて「男女平等である」が高くなっています。なお、女性の60歳代で『男性優遇』が、男性の20歳代以下で『女性優遇』がそれぞれ他の年代と比べて高くなっています。



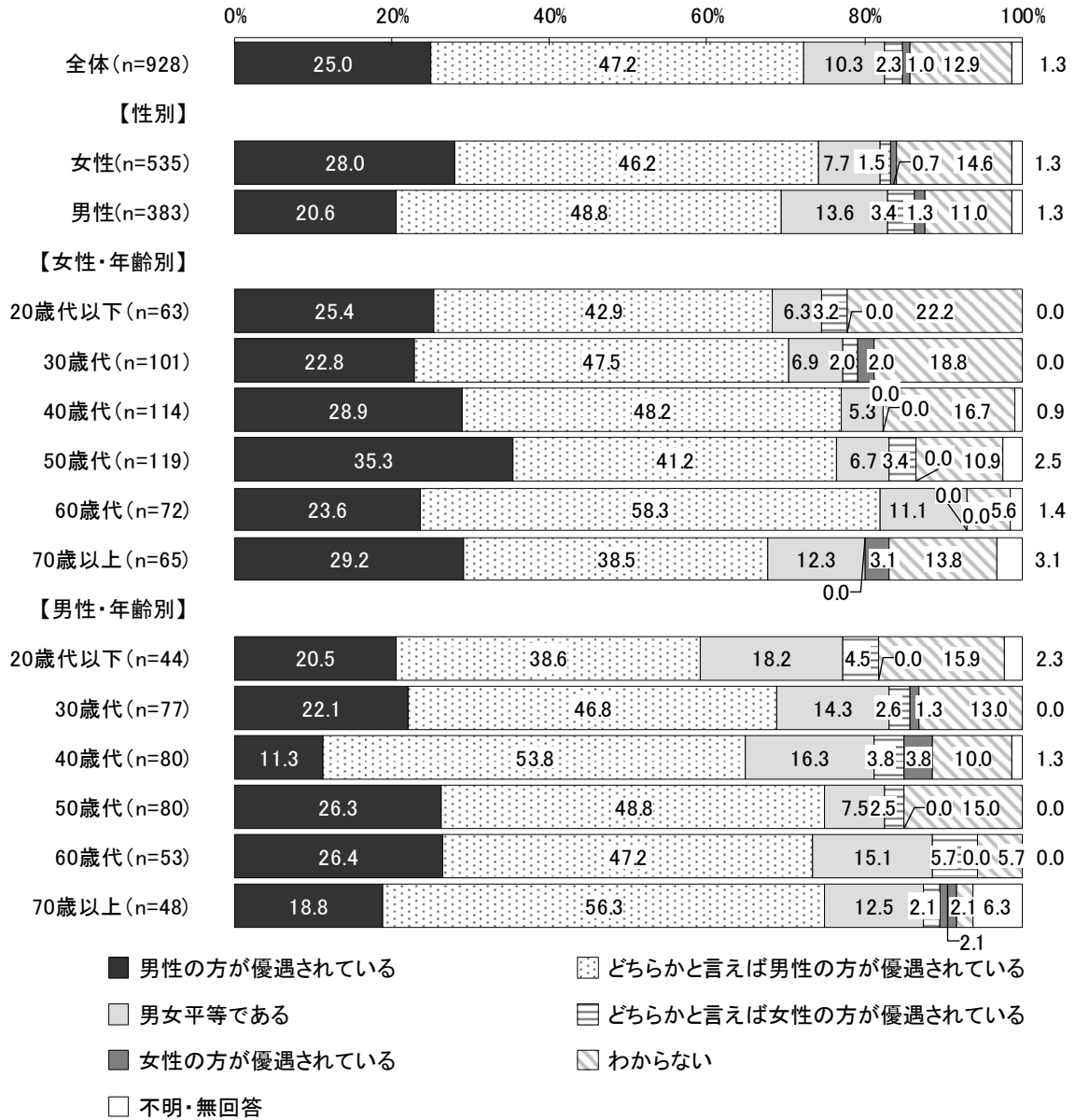
【D 職場で】

職場における男女の平等意識については、男性の20歳代以下を除いた男女で『男性優遇』が5割以上となっており、女性・男性ともに70歳以上でそれぞれ6割を超えて高くなっています。なお、女性の50歳代、男性の20歳代以下及び40歳代～60歳代で「男女平等である」がそれぞれ約3割と、他の年代と比べて高くなっています。



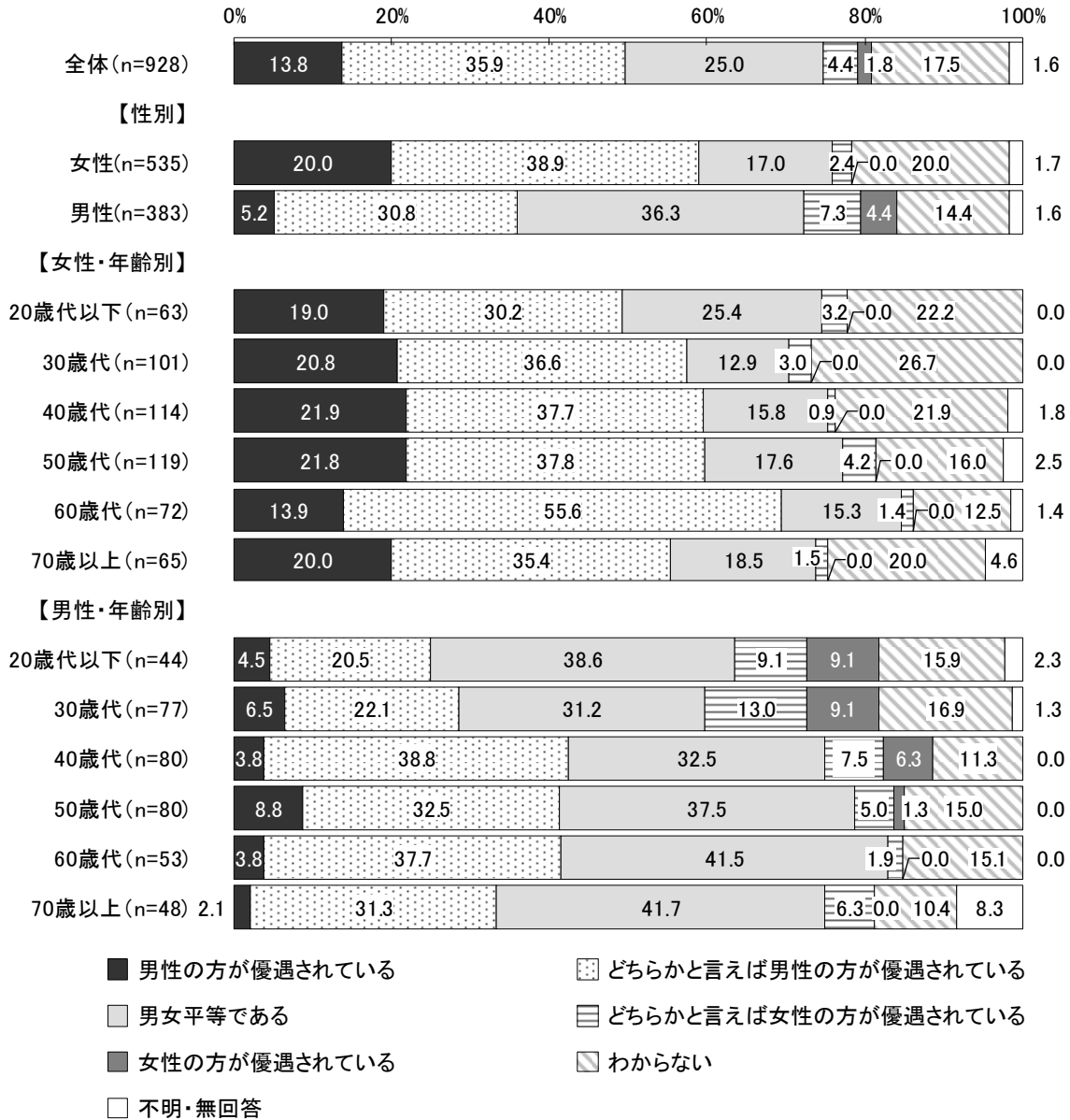
【E 社会通念・慣習・しきたりなどで】

社会通念・慣習・しきたりなどにおける男女の平等意識については、『男性優遇』が女性の30～60歳代及び男性の50歳代以上でそれぞれ7割以上と高くなっています。特に女性の60歳代では81.9%と、他の年代と比べても高くなっています。



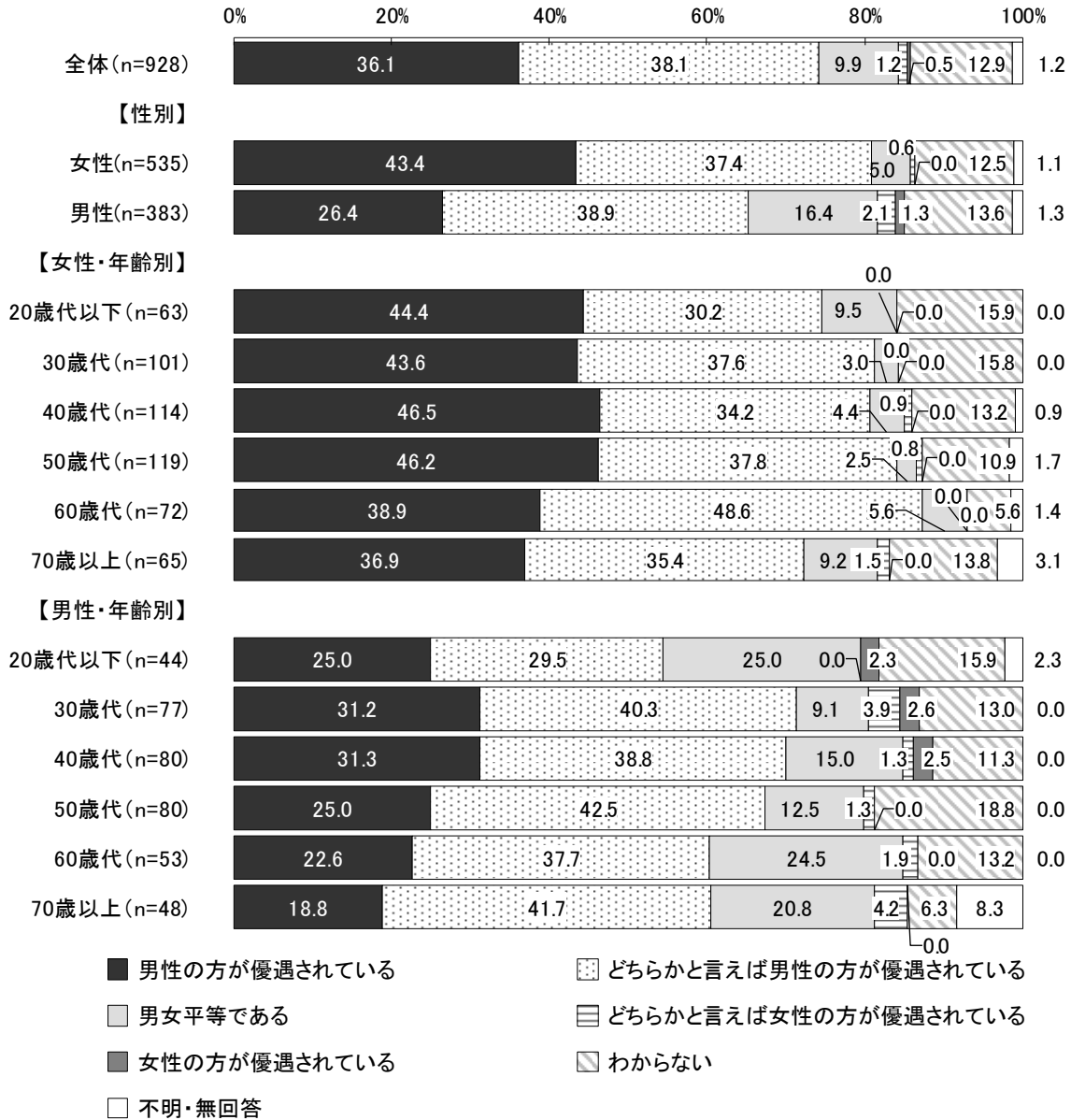
【F 法律や制度の上で】

法律や制度の上における男女の平等意識については、女性の30歳代以上は『男性優遇』が6割前後と高くなっています。なお、男性のいずれの年代でも「男女平等である」がそれぞれ約3～4割となっており、女性の同年代と比べて高くなっています。



【G 政治の場で】

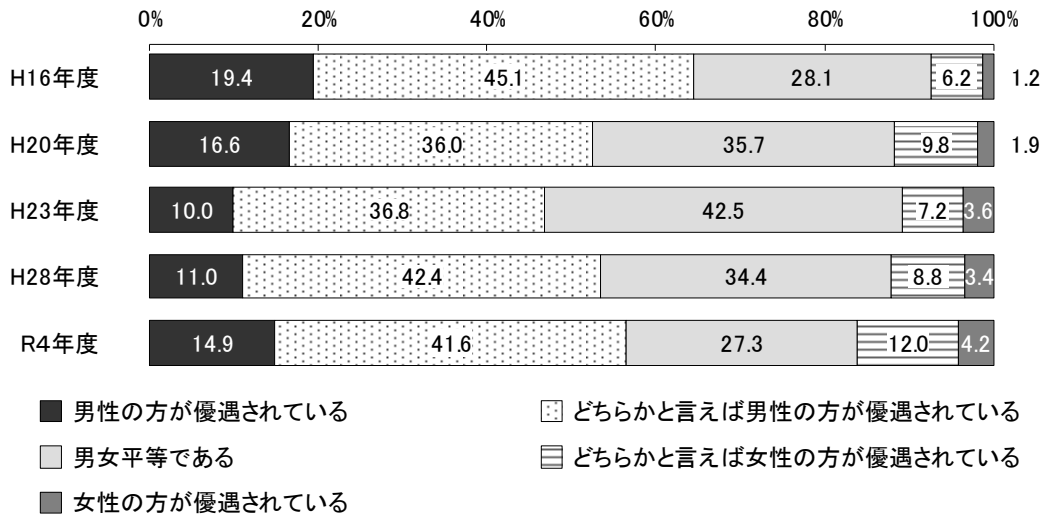
政治の場における男女の平等意識については、女性のいずれの年代及び男性の30歳代・40歳代は『男性優遇』が7割以上と高くなっています。なお、男性のいずれの年代でも「男女平等である」が女性の同年代と比べて高くなっています。



経年比較及び国比較

【A 家庭生活で】

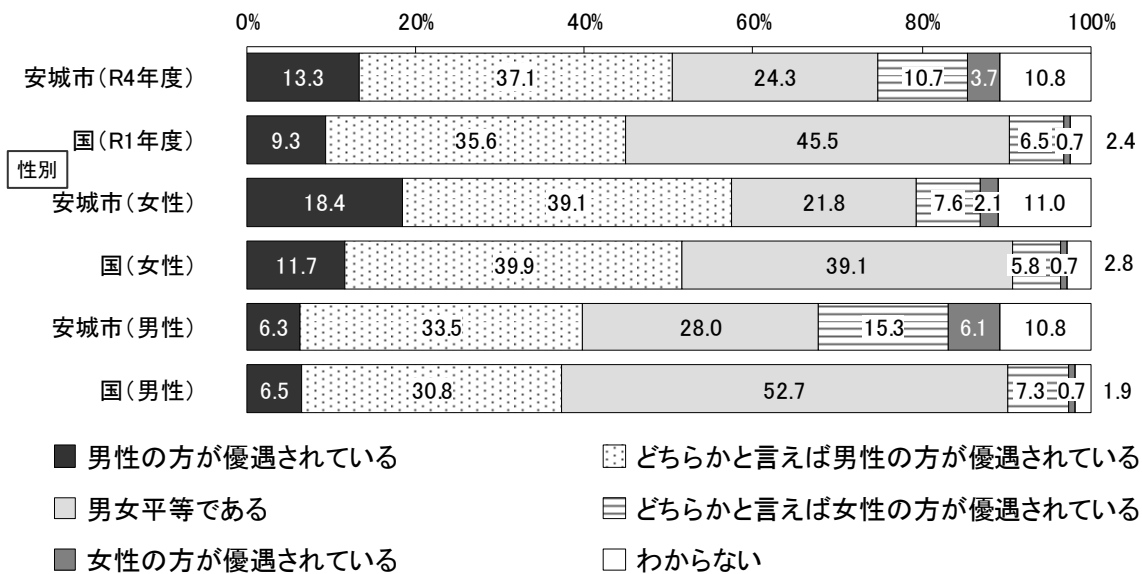
「男女平等である」はH16年度以降増加傾向にあったものの、R4年度には27.3%と、最も高いH23年度と比べて15.2ポイント低くなっています。一方、『男性優遇』はH16年度以降減少傾向にあったものの、H28年度以降高くなっています。



※同様の比較を行うため、H20年度以降の「わからない」は、母数から除外して再計算しています。このため、次の「国との比較」における「安城市（R4年度）」のデータとは異なります。

国比較

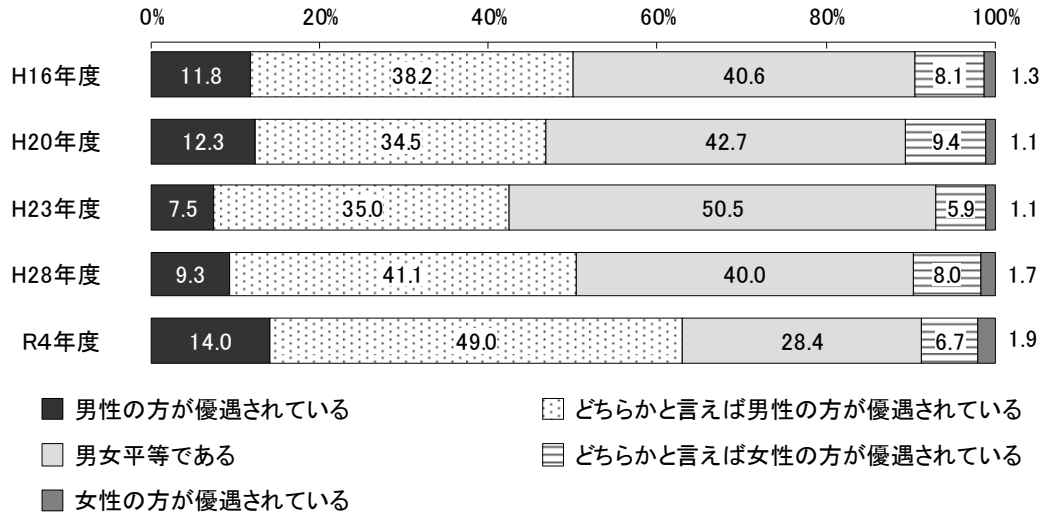
「男女平等である」は、安城市は国と比べて全体、男性、女性のいずれも17ポイント以上低く、特に男性では24.7ポイント低くなっています。



国の資料：男女共同参画社会に関する世論調査報告書（令和元年9月調査）

【B 地域活動や地域社会で】

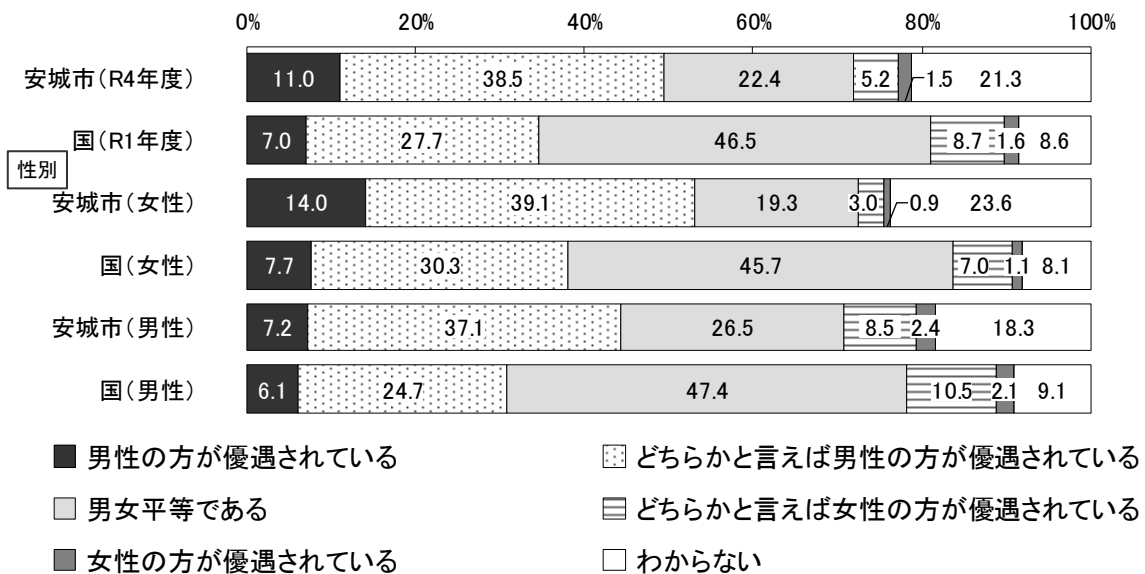
「男女平等である」はH16年度以降増加傾向にあったものの、H28年度には減少に転じ、R4年度には28.4%と最も低くなっています。一方、『男性優遇』はH16年度以降減少傾向にあったものの、H28年度には増加に転じ、R4年度には63.0%と最も高くなっています。



※同様の比較を行うため、H20年度以降の「わからない」は、母数から除外して再計算しています。このため、次の「国との比較」における「安城市（R4年度）」のデータとは異なります。

国比較

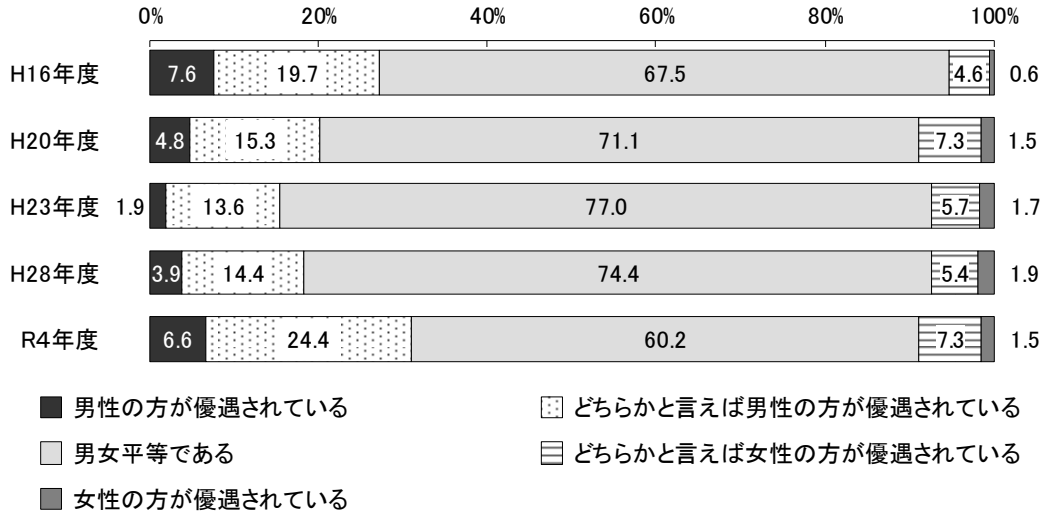
「男女平等である」は、安城市は国と比べて全体で24.1ポイント、女性で26.4ポイント、男性で20.9ポイント、それぞれ低くなっています。また、安城市の全体、女性、男性で『男性優遇』が国と比べてそれぞれ10ポイント以上高くなっています。



国の資料：男女共同参画社会に関する世論調査報告書（令和元年9月調査）

【C 学校教育の場で】

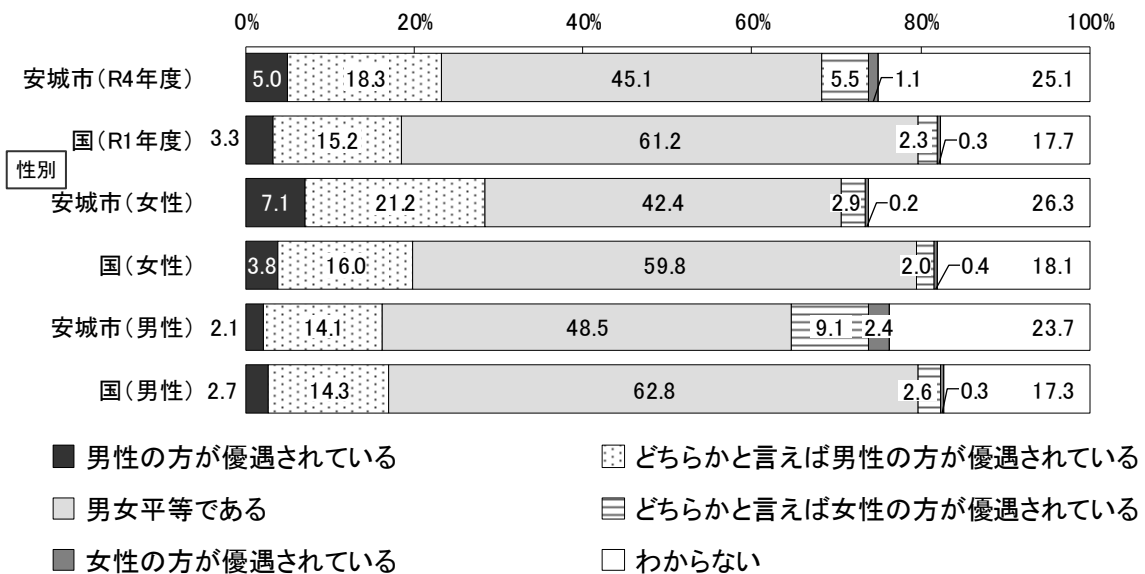
「男女平等である」はH16年度以降増加傾向にあったものの、H28年度には減少に転じ、R4年度には60.2%と最も低くなっています。一方、『男性優遇』はH16年度以降減少傾向にあったものの、H28年度には増加に転じ、R4年度には31.0%と最も高くなっています。



※同様の比較を行うため、H20年度以降の「わからない」は、母数から除外して再計算しています。このため、次の「国との比較」における「安城市（R4年度）」のデータとは異なります。

国比較

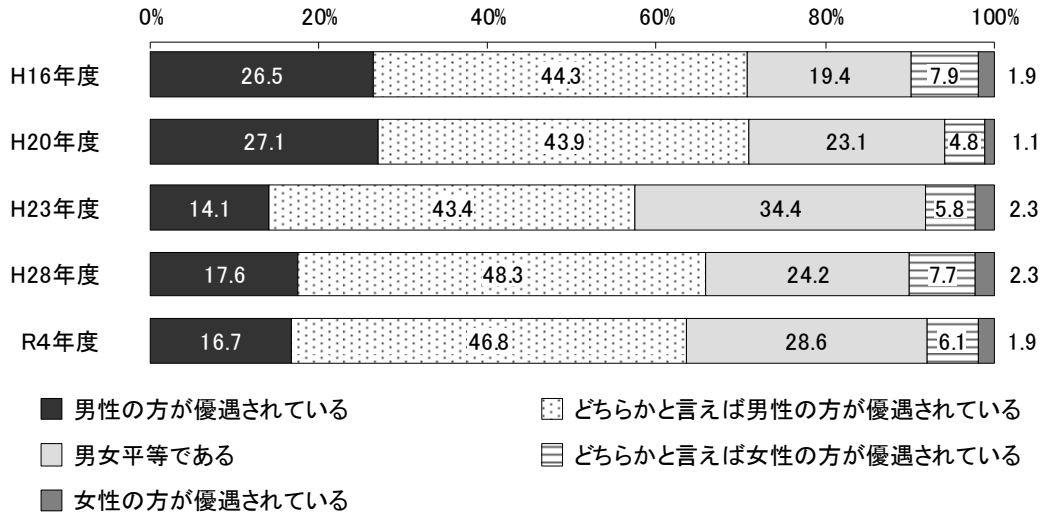
「男女平等である」は、安城市は国と比べて全体で16.1ポイント、女性で17.4ポイント、男性で14.3ポイント、それぞれ低くなっています。また、安城市の女性で『男性優遇』が国と比べて8.5ポイント高くなっています。



国の資料：男女共同参画社会に関する世論調査報告書（令和元年9月調査）

【D 職場で】

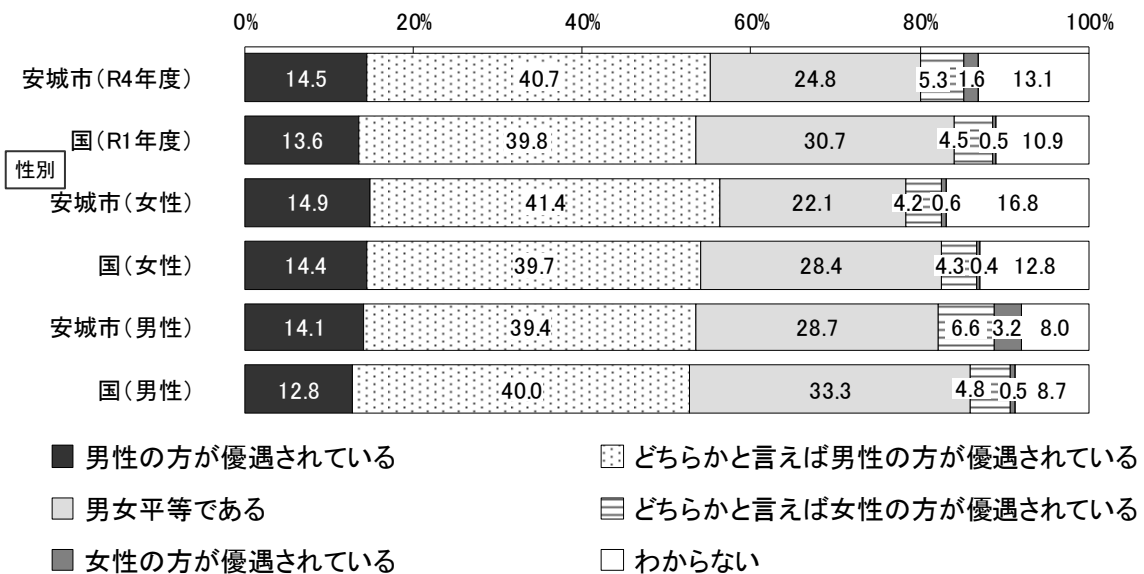
「男女平等である」は H16 年度以降増加傾向にあったものの、H28 年度には減少、R4 年度には 28.6%と再び増加に転じています。一方、『男性優遇』は H23 年度に減少したものの、H28 年度以降約 6 割台と高くなっています。



※同様の比較を行うため、H20 年度以降の「わからない」は、母数から除外して再計算しています。このため、次の「国との比較」における「安城市 (R4 年度)」のデータとは異なります。

国比較

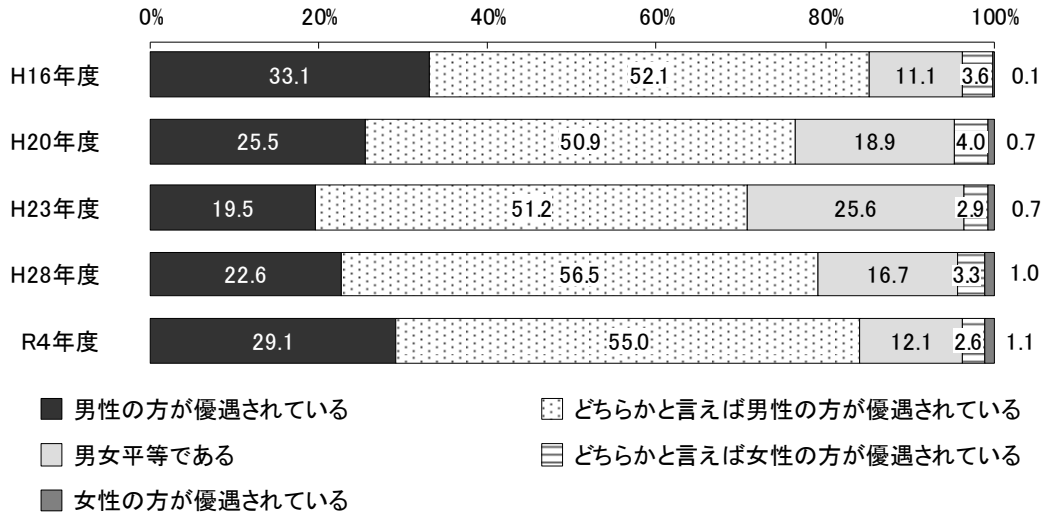
「男女平等である」は、安城市は国と比べて全体で 5.9 ポイント、女性で 6.3 ポイント、男性で 4.6 ポイント、それぞれ低くなっています。『男性優遇』『女性優遇』については、安城市と国との大差はみられません。



国の資料：男女共同参画社会に関する世論調査報告書（令和元年 9 月調査）

【E 社会通念・慣習・しきたりなどで】

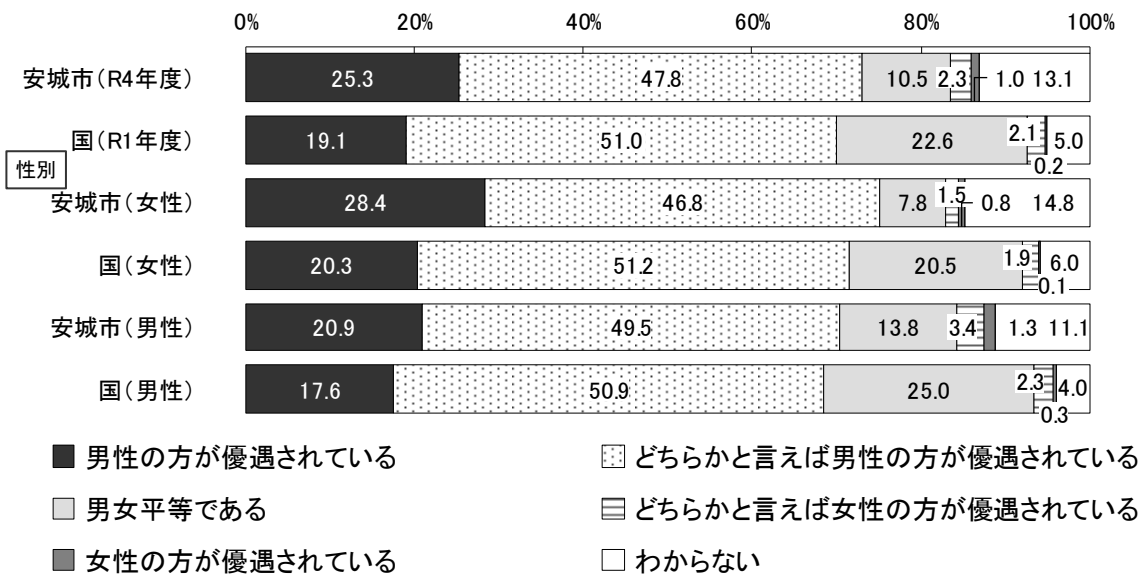
「男女平等である」はH16年度以降増加傾向にあったものの、H28年度には減少、R4年度には12.1%とさらに低くなっています。一方、『男性優遇』はH16年度以降減少傾向にあったものの、H28年度には増加に転じ、R4年度には84.1%とH16年度に次いで高くなっています。



※同様の比較を行うため、H20年度以降の「わからない」は、母数から除外して再計算しています。このため、次の「国との比較」における「安城市（R4年度）」のデータとは異なります。

国比較

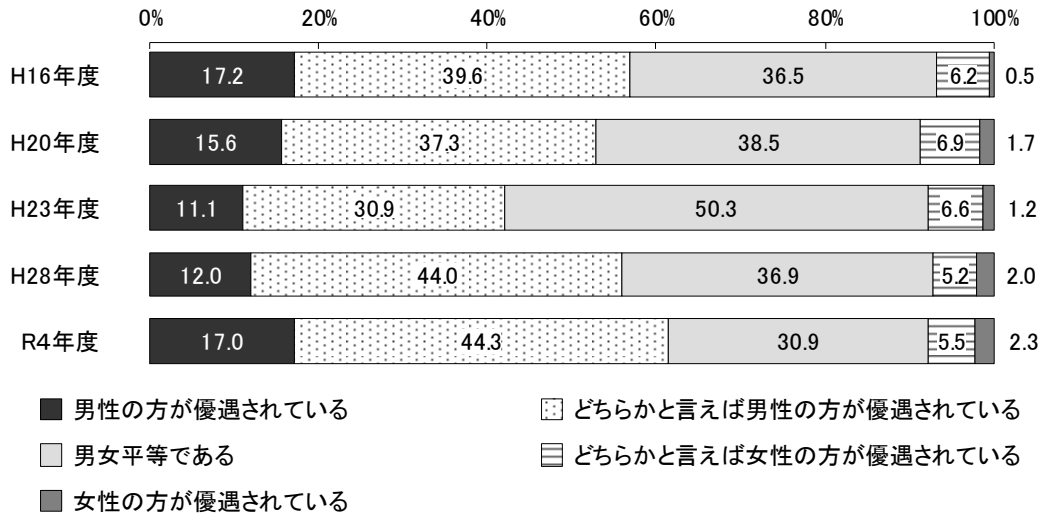
「男女平等である」は、安城市は国と比べて全体で12.1ポイント、女性で12.7ポイント、男性で11.2ポイント、それぞれ低くなっています。『男性優遇』『女性優遇』については、安城市と国との大差はみられません。



国の資料：男女共同参画社会に関する世論調査報告書（令和元年9月調査）

【F 法律や制度の上で】

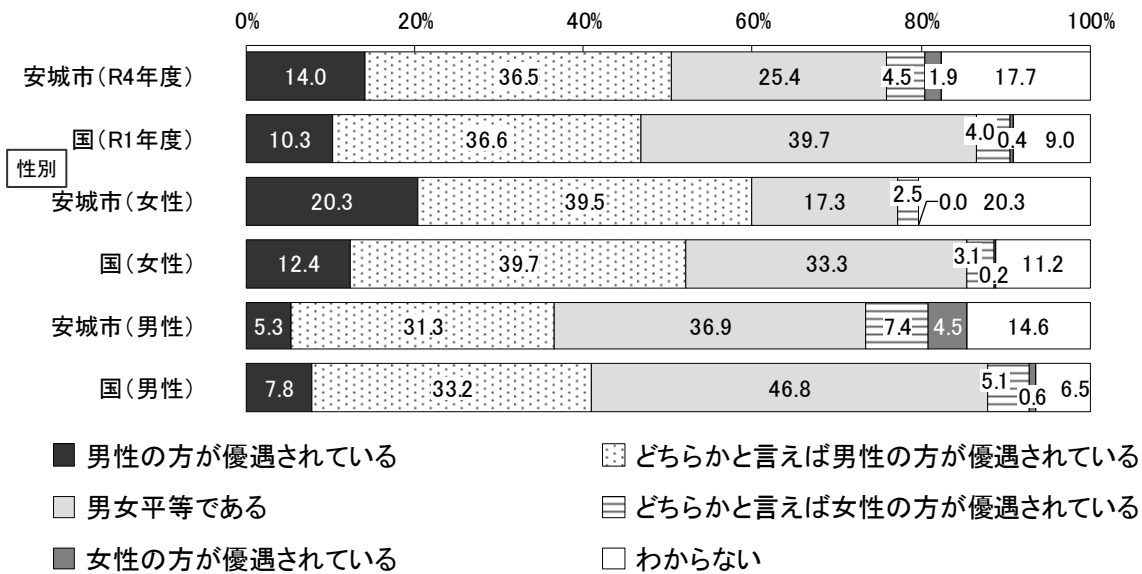
「男女平等である」はH16年度以降増加傾向にあったものの、H28年度には減少に転じ、R4年度には30.9%と最も低くなっています。一方、『男性優遇』はH16年度以降減少傾向にあったものの、H28年度には増加に転じ、R4年度には61.3%と最も高くなっています。



※同様の比較を行うため、H20年度以降の「わからない」は、母数から除外して再計算しています。このため、次の「国との比較」における「安城市（R4年度）」のデータとは異なります。

国比較

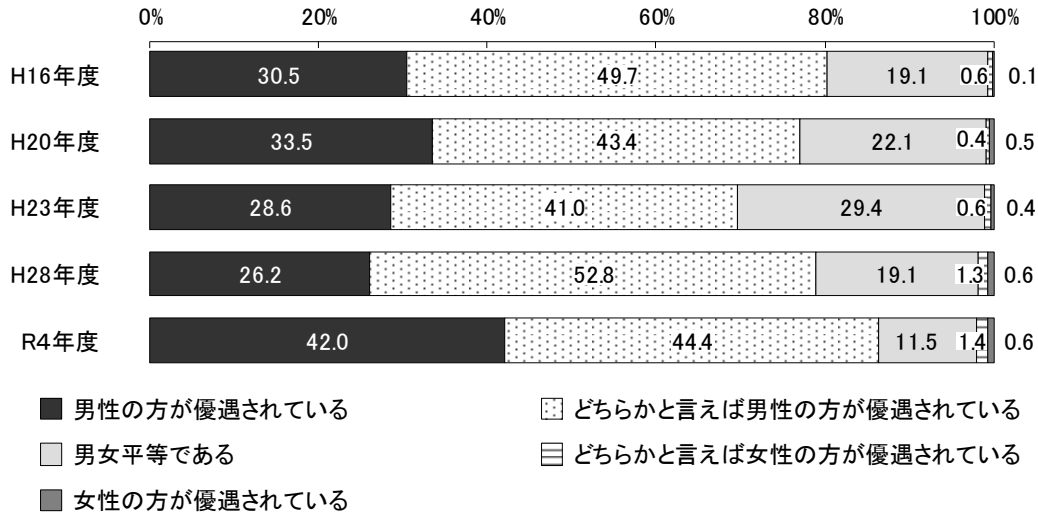
「男女平等である」は、安城市は国と比べて全体で14.3ポイント、女性で16.0ポイント、男性で9.9ポイント、それぞれ低くなっています。また、安城市の女性で『男性優遇』が国と比べて7.7ポイント高くなっています。



国の資料：男女共同参画社会に関する世論調査報告書（令和元年9月調査）

【G 政治の場で】

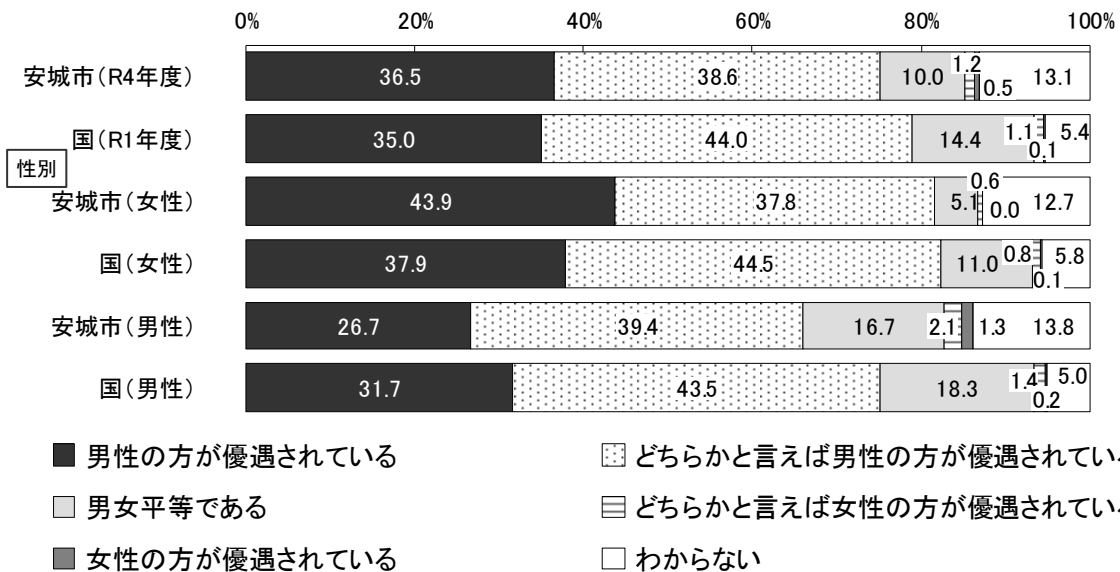
「男女平等である」はH16年度以降増加傾向にあったものの、H28年度には減少に転じ、R4年度には11.5%と最も低くなっています。一方、『男性優遇』はH20年度以降減少傾向にあったものの、H28年度には増加に転じ、R4年度には86.4%と最も高くなっています。



※同様の比較を行うため、H20年度以降の「わからない」は、母数から除外して再計算しています。このため、次の「国との比較」における「安城市（R4年度）」のデータとは異なります。

国比較

「男女平等である」は、安城市は国と比べて全体で4.4ポイント、女性で5.9ポイントそれぞれ低く、男性で1.6ポイント、それぞれ低くなっています。また、安城市の男性で『男性優遇』が国と比べて9.1ポイント低くなっています。

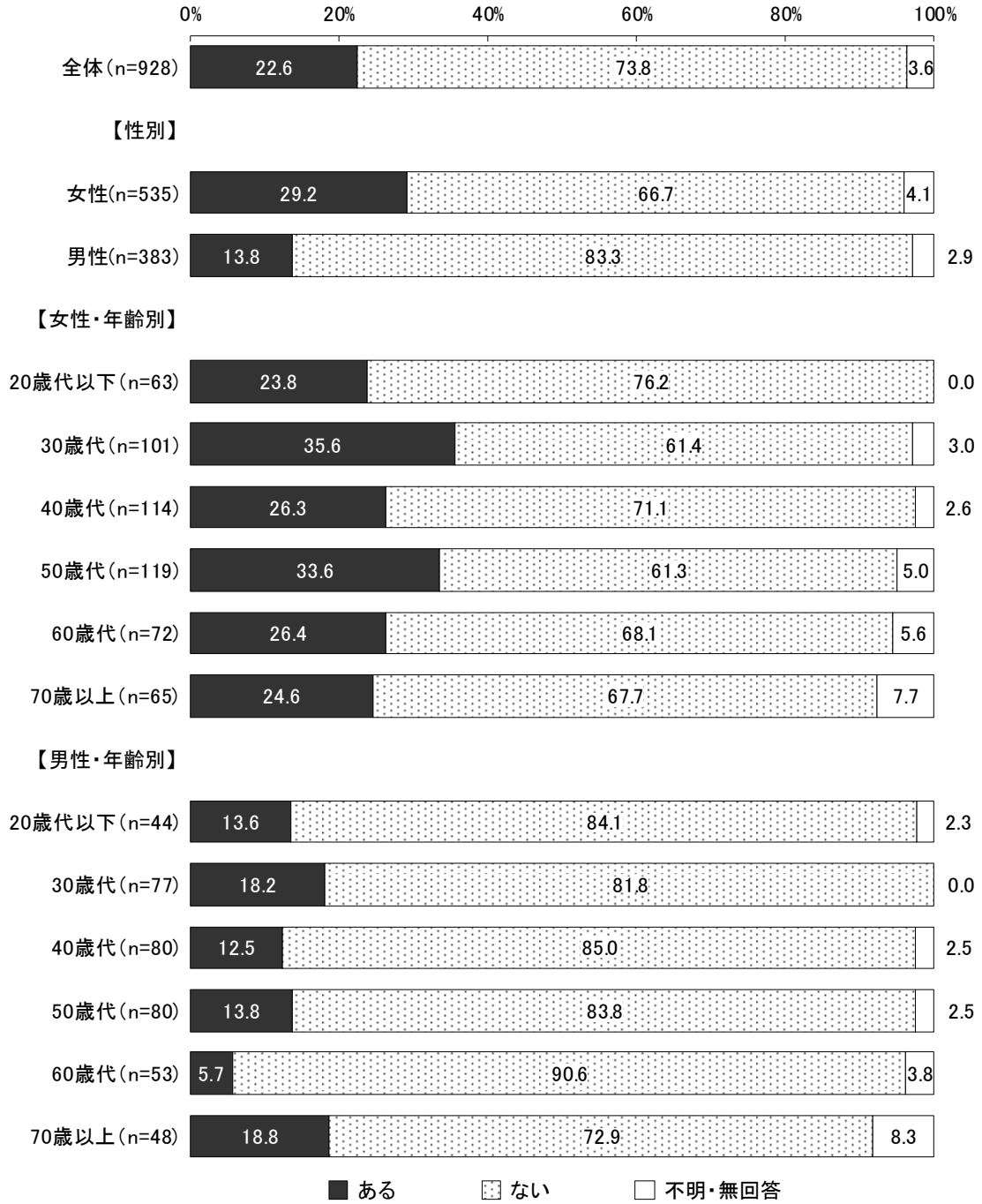


国の資料：男女共同参画社会に関する世論調査報告書（令和元年9月調査）

問 27 あなたはこれまでに、男だから、女だから、といった思い込みによって差別または不利益を受けたことがありますか。(単数回答)

男だから、女だから、といった思い込みによって差別または不利益を受けたことの有無は、全体で「ある」が22.6%、「ない」が73.8%となっています。

性別では、「ある」が女性で29.2.%と、男性と比べて15.4ポイント高くなっています。



問27で「1. ある」と回答した方のみ

問27-1 具体的にどのような差別または不利益を受けましたか。(自由記述)

差別または不利益を受けた内容
■10歳代 ・男性
男だから大丈夫と、別にやると言っていないのに代表になる。
■20歳代 ・女性
父から女なんだからお淑やかにしなさい、歩き方に気をつけなさい、部屋を綺麗にしなさい、もっとお洒落な恰好をしなさいと言われたことがある。
お茶入れや後片付けなど、職場で「こういうのは女の仕事」と言われ、やらされた(他の業務のおしつけ)。
結婚してから、やはり私より夫の稼ぎの方がはるかに多いので、誰がどう見ても夫の出向に私が仕事を辞めてついて行くしかなかった。
家事や家族の介護は女性の仕事だ。という考えが家庭内でもある。また、職場では結婚や年齢を聞かれ、子どもを産むなら早い方がいいなどと言われることがある。
学校内でリーダーを決める時、女は向いていないという雰囲気。
学校の体育祭で男子は騎馬戦、女子は綱引きで、私は綱引きはしたくなくて騎馬戦をしたかったのに男女どちらもできるのならいいが、なぜ男子だけ騎馬戦ができるのかと思った 小学校では男女どちらも両方やって、私は騎馬戦が好きなのに中学ではできなかった。
女性は大学に行かなくて良いと言われた。
親戚の集まりのときにお茶出しをする。食事の準備をする。その間、男性側は座っている。
女だから痩せると男性上司に言われたり、子どもを妊娠する前に育児関係で煙たがられたりしました。
■20歳代 ・男性
女性には更衣室があるのに、男性にはない。
男らしくしろと言われた。
「男性なので難しい内容の仕事もしなければいけない」と、性別に関係ない仕事内容でありながら、固定的役割分担に関する思い込み。
■30歳代 ・女性
職場でトイレ掃除は女性が行うと決められていた。掃除中でも男性が用を足そうと来るので嫌だった。理事長に伝えたがまったく変わらず、理事長も用を足しに来た。地域活動で男性老人から女性に対して給仕を求められた。
家事・育児について。女性だからと残業してまで仕事に一生懸命になる必要が無い。
育児は女性が担うべきだという思い込みで、学級閉鎖等で子どもを看るために仕事を休むのはほとんど女性ばかり。
家事育児は女性がすべきだと言われ、ワンオペ状態。
男は仕事に出ているから子育てや家事をやらなくて良いと言う考え方で、家族(夫や義理の両親)から不快な発言をされる。
以前の職場において、「女はどうせ結婚して仕事を辞めるので責任感がない」と言われた。また、「男性は未婚だと昇進が難しい」とよく耳にした。
元上司から、「若いうちに子どもを産んだほうがいい」という考えを押しつけられた。
前職にて同期男性が先に昇進した。
「女なのだからお茶を入れる」等。おじさん、おじいさんに多い。
「女はずっと家にいるから暇だ」＝家事・育児やれ！「長男の嫁は同居するのがあたり前だ」「父親は家の中で一番偉い」by 義父。
家庭の都合の休みは、男性はとりづらい。男性の育休はとれる制度はあっても、職場のスタッフの理解が乏しい。男性の休みがもっと取りやすくなれば女性が働きやすくなる。男性の休みを積極的に取る人が増えるのが望ましい。私の夫は半年育休を取ったし、子どもの看護のために休みを取ってくれるが、職場の理解がどうなのか不安。私の夫は周りからの嫌みなど気にしないが、周りの反応を気にする人は休めてないと思う。
子どもが体調を崩した時は、母である自分が仕事を休むか早退して病院に連れて行かなくてはならない。これがあたりまえのように夫の職場でも思われている。お客様に迷惑をかけてしまう、代わりがないという点ではどちらも同じなのに。
女だから料理をしなければならぬ(できなくてはならない)。

差別または不利益を受けた内容
子どもの体調不良などで休むのは「母」。そうすると職場で「また…」と思われる。特に男性の方がそう思っている。女性は同じ経験をされていたりするので理解を得やすい。
仕事関係者の男性に、高圧的な態度を取られ、言動も受けたことがある。
おっばいが出ないから泣いても助けられないという雰囲気。
子が熱を出すと会社を早退し、迎えに行くのは聞くまでもなく母親。休むのも母親。たまに父親が子を連れて歩くと「良い父親」と言われる。母親が一人で出かけると「子どもはどうしてるの？」と聞かれる。
産後の育児に関して、育休を推進しているにもかかわらず、まだまだ取得しづらい環境にあり、平日は母親のワンオペ育児になってしまうことが実情。仕事への復帰を考える時も、勤務地、労働時間を気にするのは母親で、育児をしつつの労働の負担は女性の方が大きいように感じる。
結婚すると育児休暇を取ると思われるため、長期的な大きな仕事は振られない。よって、昇格は遅れる。
結婚したら女性が姓を変えるべき。家事育児は基本的には女性がすべき。
職場結婚の際、どちらかが異動しなければならない。新しい職場ですぐに産休に入ると代わりを探さなければならず、余計なことが増えるから異動できない。
当時 20 代、結婚を機に正社員を辞めてパートを探していたときの面接で、こちらは子どもの有無を何も言っていないのに「新婚はすぐ子どもできて辞めちゃうから」と言われた。言われたのは 1 回ではない。面接官はすべて 50 代以降の男性。
女性は腰掛け社員のイメージがある男性からの差別、無責任と勘違いされる。
専業主婦時代は家事、育児などをすべてこなしてあたり前。兼業主婦ですら、完全な休み時間はない。
女の子なんだから家事ができてあたり前。
結婚したら子どもを産むのがあたり前。育児家事は妻がすべき。生理で仕事を休むな。
「女性の幸せは結婚して子どもを産むこと」と言われる。
小学生のランドセルは、男の子は黒、女の子は赤という意識が強い時代だったので、茶色のランドセルを使っていたいじめられたことがある。
服装や趣味嗜好に関する考え方。制服、リクルートスーツはスカートが主であることがずっと違和感だった。
契約の場で発言がきちんと受け止めてもらえない。
「仕事より、早く結婚して子どもを産むのが女性が目指すもの。そのあとにだって、いくらでも働けるから」と言われた。
女性が家事をすべきと言われたことがある。
女性だから、と業務を決められたことがある。
■30歳代 ・男性
女性は失敗しても上司は嫌われたくないために怒らない。
体力仕事。
長時間の残業をする際、男性だからと命じられる。
男は力仕事。
以下すべて男だから…更衣室がない（学校）。トイレの個室が少ない。服は少なくてよい（男物の服のお店が少ない）。きれいなお店でなくてよい（きれいなお店で女性が入りやすい）。〇〇男子と言われる前からそうだったのにミーハー・にわかとされた。残業できる。力仕事ができる。汚れてよい。
男なんだからと言う声はよくある。
職場の 50 代以上が仕事に重きを置くべきとの感覚が強く、従わざるを得ない。
男性は仕事をするもんだから、家庭の事で仕事を休むのは周りから変な目で見られる。
仕事を押し付けられる、私にはできないなど逃げに走られる。
■40歳代 ・女性
新卒で入社すると男性は数年サイクルで部署が変わっているいろいろな経験を積ませるが、女性には無かった。
夫は家事をしない。
共働きをしていたのですが、家事子育てに追われて仕事の時間も以前より残業、休日出勤が多くなり、どちらかが退職せざる事になった。その時に「女性の方が仕事を辞めるべき」と周囲に言われて私の方が退職した。配偶者からは「忙しいから家事育児はできない」との発言があった。
親、親戚、近所の人等、時代的に仕方が無いように思う。女性らしく振舞う、服装などの指摘があり、家庭環境によってできる人とできない人がいると思う。
女は台所に立つもの。
会社で上司に「ババアの意見は聞いていない」と、どなられる事がしばしばある。

差別または不利益を受けた内容
女は黙れ。家事をしろ。男の前に出るな。結婚したら仕事を辞めてください。切れる発言をするな。スカートはけ。笑え。帰れなど。
会社において、通常業務に加え、補助的なことを頼まれることが多いように思う。
女はごはんをつくる。
町内行事、職場でのお茶出し（女性が出すものだ）。
女性がやってあたりまえと思われる事が多い（育児も家事も）。
子どもが熱を出したときに休みをとるのは女性の方。
食事は女が用意すべき。
50才以上の人と物事を進める時、女性の意見を取り入れてもらえない（女性が意見しにくい）時がある。同じ議題でも、若い人との話し合いの時はそのような事はほとんど感じないです。
家事育児は女の仕事。
出産、育児や子育て、子どもの病気や行事、地域の役など個人の事以外のものに個人的な通院などが重なり、自分の努力ではどうにもならないことがあります。差別ではなく、区別が必要です。体力、体調など男女に差があります。すべて同じではないので理解が必要です。
家事・育児は女性がしてあたり前。子どもの体調不良時、母親が仕事を調整して園や学校に迎えに行ったり、看病のため休んだりすることが求められる。
子どもが学校を休んだりする際は、母親が仕事を休むのが普通と思われていること。
平日に夫の帰りが遅いのはあたり前で、平日の家事育児は妻の仕事だと思い込んでいること。
子どもは母親の教育である。子どもが悪いことをすれば母親が悪い。
家事、育児は女性がすべき、女性はニコニコしてればいい。
母性があるので家事育児は男性よりもでき、さらに男性並に働くこともできると言われたが、無理なので退職に追い込まれた。
質問の趣旨と違うかもしれませんが、高校時代、（主に性的な？被害から）女性は自衛が必要と言われ、加害者を生まないための教育や啓発が先ではないのか？ただ女性だから力が弱いから、身を守ることしかできないのか？と腹立たしかった記憶があります。
女性的なことを求められる。
家事は女性(妻)。
■40歳代 ・男性
「男だから」と言う理由で汚い事や力仕事を優先的にさせられる。
地域での作業など。
女性は自分の都合のよい時にだけ、男女平等を口にする。男のクセにと言うわりには、女のクセにと言われると怒る。
力仕事は男に。
男なら強くなりなさいと。
どの家庭に話を聞いても、女性から男性に対するリスペクトが低すぎる。女尊男卑の時代。
力仕事の担当になる。
結婚後は男は仕事、女性は専業主婦、それで収入が少なければ男が非難される。
性別で判断されている。
子育てや家事に参加する（またはした）ことを、すごいことであるかのように言われる。
■50歳代 ・女性
契約社員は女性の割合が多く勤続年数、経験も積んでいて、業務にたけているが賃金は安い。この状況をつくっているのは男性社員である事から、何かしかの思いがあるように感じる。
主人が育児に参加しない。
結婚後は女性は家庭に入るべきと言う社会通念があった時代だったので、仕事を続ける事ができなかった。
自分の子どもが生まれた時、女とわかるとがっかりされた。
出産のために仕事を辞め、正社員として働く時間や気持ちに余裕が無くなった。ずっと家事育児は一人でやっている。
家庭内で、男性と同等の賃金が稼げないくせにと圧力をかけられた事がある。
教育を受ける機会が決められた。
家事育児は女性がするべきだ。近所の目があるから、親族から「ゴミ捨ては女性(妻)がするべきだ」と言われた。
仕事中に買い物に行かされた。会社の旅行で体をさわられた。
「女の子だから大学までいかなくてよい」と周囲からいわれたことがある。

差別または不利益を受けた内容
昇進のための試験で、女性が1人も合格しなかったことがあった。
離婚して、経済的に負担が多い。男性には、かなわない。
「女三界に家なし」といわれた。
家族の協力もあり仕事をしているのに、土日に仕事を入れるとは家族団らんの時間が必要ないのか？子どもと過ごす時間がないはずだ！と決めつけられ、土日の仕事を外されたことがある。
女だから進学せずに働け（中卒で）。
自分が育った家庭環境において、男尊女卑（日常生活面や大学進学）。忙しく残業が多い夫に家事や育児の協力を得られず、働きたくても収入の差を理由に専業主婦になることを求められた（働いた場合収入が少ない方が家事や育児を負担するのが当然という考え）。大手企業に勤めていたが男女の年収の差が大きく、女子社員としての雑用を頼まれ、結婚したら働きにくい職場だった。
男性は（外で）仕事を一生懸命して、女性は家庭を守るようにと言われた。
仕事ができるできない関係なく、男性の方が上に立つ。
家事・育児はすべて私が行ってきました（親の介護も）。
男性の方が何かと優先される。
家事介護は女性がするべきと言われる。
結婚をしたら男性の姓になる。男性の親と同居。家事は女性が行う。物事の決断は男性が行う。
家事は女性がすべきものという事で、共働きであっても結婚後の生活は負担とストレスが増えた。また、その考え方が地域でも強くあり、男性が家事を手伝いづらい環境にあった。
育児や家事 時代がそのような時代だったから。
家事、育児、介護は女性がするものだと言われた。
家事、育児はほとんど私だった。
時代が変わったので今では笑い話ですが、私が子どもの頃、私の住む地域では女の子はお神輿を担ぐ事もできませんでした。男子のみでした。ちょっとした事、小学校の行事等でも代表で出るのは男子のみという事が多かったです。有無を言わさぬ理由なので悔しかったですね。今、子ども達を見ていると女子が強いなあと思います。この改善をつなげていってほしいですね。今の子ども達が育てば、きっと変わります。
パートナーに「男並みに給料はもらえない」とか、子育て中に働いてなくて、更年期になって家事をおろそかにした時に、「家事ができないのなら、妻、母でなくて家政婦でいいよね」って言われた。
家事、育児は女性がやる。給料の昇給率が低い。
出産後、家に入ることをお願いされました。子育ては、基本母親がするものだという事です。
男性がやる仕事をふられても身体的に重くて運べないなど、できないことを見て見ぬふりをして手伝ってくれない。
家事や育児について古い世代(舅姑)の価値観の押し付け。
家事、育児は、女性(というより母親)がやってあたりまえ。
職場復帰した時に、保育園や義母に協力してもらっていたが、職場の隣の部署の年上の女性に、「子どもが小さいうちは母親が育てるものだ」と言われた。
第一子を妊娠した際、上司から「いつ辞めるのか」と言われ続けた。
■50歳代 ・男性
男だから仕事をこれ以上も行うべきだ。家庭より仕事、何より業務。
男だから働くべし。
子どもの体調不良で、休みが取りづらい。
集落の係がまわってきた。
地域の大役は男性に限られている。
力仕事や不審者対応などに女性が出て行くことは無い。
汚い、きつい、危険な作業は男がやるべきだ。
男らしく、女らしく、がうっとおしい。
■60歳代 ・女性
上司、管理職は男の人がと言われた事がある。
出産育児のために、正社員からパートに移行せざるを得なかった。
結婚当初から四世代の世帯だったため、物の考え方が女性は家事育児をやってあたり前と言う考え方で生活して来て、現在子ども達は結婚しても自分からは親と同居している以上家事をさせられません。でも自分に何かあったら誰が家事をするのか？男でも家事をできるようにしなくてはと思いながら毎日を送ります。
家事育児は女性がするべきだ。

差別または不利益を受けた内容
私達の年代では女性が家事育児はあたり前でした。今でこそ男性の育児参加の声が多く聞かれるようになり、あたり前のように男性が育児参加に積極的になっています。しかし、まだまだそのような考え方はあり得ないという考え方をしている男性は多いのではないのでしょうか。
家事は女性がするべきで、子どもが大きくなるまで仕事をしてはいけない。
家事は女性。
男が夜勤をすると高額で、介護で夜勤をしても男性程収入が無い。手当に差がある。
他県の大学を希望したが、親から反対された。弟は他県の大学に進学した。女友達との旅行も許してくれなかった。弟は一人旅を一週間楽しんできた。
家事・育児は女性がするべきだ。
男性が管理職に選ばれた方がよい。
職場で意見を伝えたら「女は黙れ」と言われた。聞こうとする意識さえない。
家庭を守るのは女性（母親）。
あったかもしれないが記憶していない。おそらく昭和の頃は数多くあったが、差別される側も鈍感になっていて、差別を感じ取れなかったことがあったように思う。
以前の職場で女性は管理職になれなかった。
能力がなくても、男性の方が優遇され昇格する。
「女だから、大学やそれ以上の勉強をする必要は無い」と親戚の人から言われた事がある。しかし、私の両親は自由な考えの持ち主だったので、私を四年制大学までだしてくれた。
家事、育児は女（嫁）。
■60歳代 ・男性
会社の制度について、「男なんだから…」と言われた事が何度もある。
男だから決定しろ。男だから我慢しろ。
地域活動のリーダーは世帯主である男性が適してる、という概念がある。
組織のリーダーは男性で選ぶという慣習。
■70歳以上 ・女性
年代的に上記のような事は日常。今でも変わらずに70歳以上の男の人は他人を見てても変わるべき時代かと思う。
食事、掃除洗濯、学校行事等、家事は女性がすべき。
女のくせにとよく言われる。
両親の介護は嫁がするものと言う意見が多くて職場を辞めた。
自分自身、周囲の考えが、結婚すれば家事・育児・介護は女性がするものとしている。その上立って、すべきことが、他の人は”手伝ってあげる”という立場で考え行動している。平等とはほど遠い、と感じている。
在職中の事ですが、忘年会等の酒・ビールなどの酌、掃除など。
家事・育児は女性がするべき。
ある支援を行った際、夫婦で共に努力したことで周囲はすべて夫（男性）の実績と捉える。存在感のなさに落胆したことがある。
家事は女性がする。
夫は仕事しかなかった。私は仕事、子ども、家、町内全部。会社の男から「女のくせに給料をもらいすぎ、女は生活がかかってなくて楽でいいな。」
家事しながら仕事は大変。
家事・育児は手伝ってもらった事がない。
家事・育児は女性がするべき…これはいつの時代もあると思います。仕事はかなり前に退職しましたが、その頃はもちろん職場のお茶入れ、掃除は女性のみでした。
同じ年数の社員なのに、男性（機械調整員）の責任で不良品が出たのに、上司から「男は将来がある身だから黙っているように」と女性である私が責任を負わされた。
女のくせに、がいつも出る。
■70歳以上 ・男性
男性の転勤は遠方で、女性は自宅に近い場所。
男だからと仕事、家庭で責任を持たされる。
夜勤は男がする女にはさせない。母は夜勤ができないために賃金が低い。管理職は男でないと間に合わない。

差別または不利益を受けた内容

地域、会社においても女性の方が率先して前面に出て来ないし、子ども、家庭の事を考慮して控えてしまう。また、独身の女性でも積極的に意見や考え方を言われる人が少ない。

「男だから〇〇しなさい」と言われて育った。

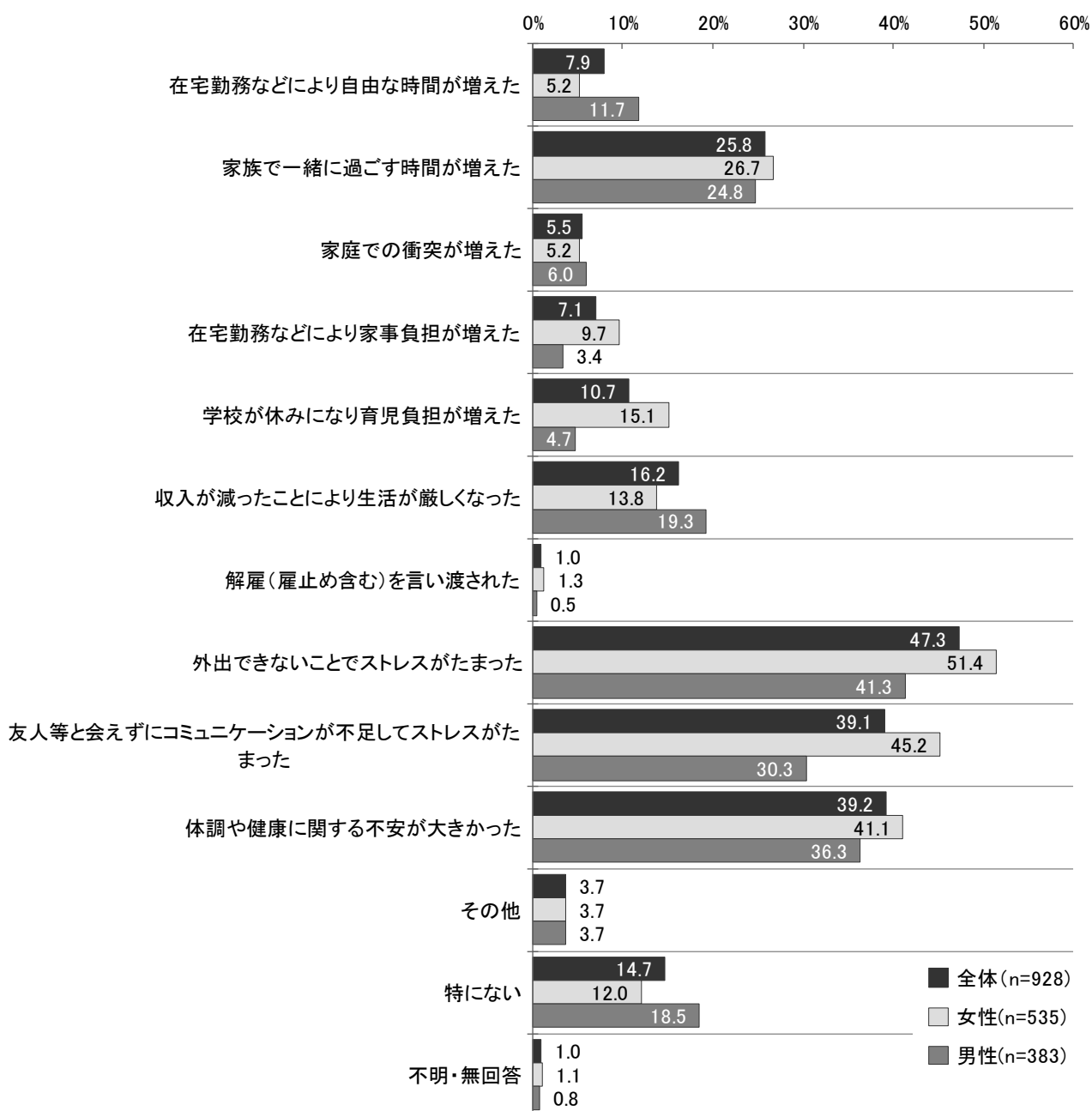
重い物を下げる。女性でも下がる。

6 コロナ禍について

問 28 新型コロナウイルス感染症拡大による自粛期間などにおいて、あなたは次のようなことがありましたか。(複数回答)

新型コロナウイルス感染症拡大による自粛期間などにおける影響等は、全体で「外出できないことでストレスがたまった」が47.3%と最も高く、次いで「体調や健康に関する不安が大きかった」が39.2%となっています。

性別では、女性で「友人等と会えずにコミュニケーションが不足してストレスがたまった」「学校が休みになり育児負担が増えた」「外出できないことでストレスがたまった」が、男性と比べてそれぞれ10ポイント以上高くなっています。



性別・年齢別比較

女性の30歳代以下で「外出できないことでストレスがたまった」が6割前後、「友人等と会えずにコミュニケーションが不足してストレスがたまった」が5割前後と高くなっています。

(単位:%)		在宅勤務などにより自由な時間が増えた	家族で一緒に過ごす時間が増えた	家庭での衝突が増えた	在宅勤務などにより家事負担が増えた	学校が休みになり育児負担が増えた	収入が減ったことにより生活が厳しくなった	解雇(雇止め含む)を言い渡された	外出できないことでストレスがたまった	友人等と会えずにコミュニケーションが不足してストレスがたまった	体調や健康に関する不安が大きかった	その他
	n=											
女性・年齢別												
20歳代以下	63	19.0	31.7	9.5	1.6	1.6	6.3	1.6	60.3	46.0	41.3	4.8
30歳代	101	10.9	42.6	5.0	12.9	26.7	17.8	0.0	58.4	54.5	44.6	4.0
40歳代	114	1.8	28.9	7.9	11.4	30.7	20.2	4.4	45.6	44.7	40.4	2.6
50歳代	119	2.5	21.8	3.4	17.6	4.2	10.9	0.8	47.9	42.0	37.8	4.2
60歳代	72	0.0	16.7	4.2	4.2	8.3	13.9	0.0	56.9	40.3	43.1	4.2
70歳以上	65	0.0	13.8	1.5	1.5	10.8	7.7	0.0	43.1	41.5	40.0	3.1
男性・年齢別												
20歳代以下	44	11.4	20.5	0.0	0.0	0.0	15.9	0.0	36.4	29.5	34.1	4.5
30歳代	77	16.9	37.7	10.4	2.6	9.1	16.9	0.0	45.5	36.4	39.0	6.5
40歳代	80	16.3	31.3	7.5	10.0	8.8	18.8	0.0	43.8	31.3	37.5	3.8
50歳代	80	10.0	17.5	3.8	1.3	3.8	27.5	0.0	41.3	26.3	28.7	3.8
60歳代	53	11.3	20.8	7.5	1.9	0.0	18.9	1.9	32.1	26.4	39.6	1.9
70歳以上	48	0.0	14.6	4.2	2.1	2.1	12.5	2.1	43.8	29.2	41.7	0.0

(単位:%)		特 に な い	不 明 ・ 無 回 答
	n=		
女性・年齢別			
20歳代以下	63	6.3	0.0
30歳代	101	5.9	0.0
40歳代	114	8.8	0.9
50歳代	119	16.8	0.8
60歳代	72	18.1	0.0
70歳以上	65	16.9	6.2
男性・年齢別			
20歳代以下	44	25.0	2.3
30歳代	77	9.1	0.0
40歳代	80	15.0	0.0
50歳代	80	20.0	0.0
60歳代	53	24.5	0.0
70歳以上	48	25.0	4.2

※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目**第1位**と**第2位**に網かけをしています。

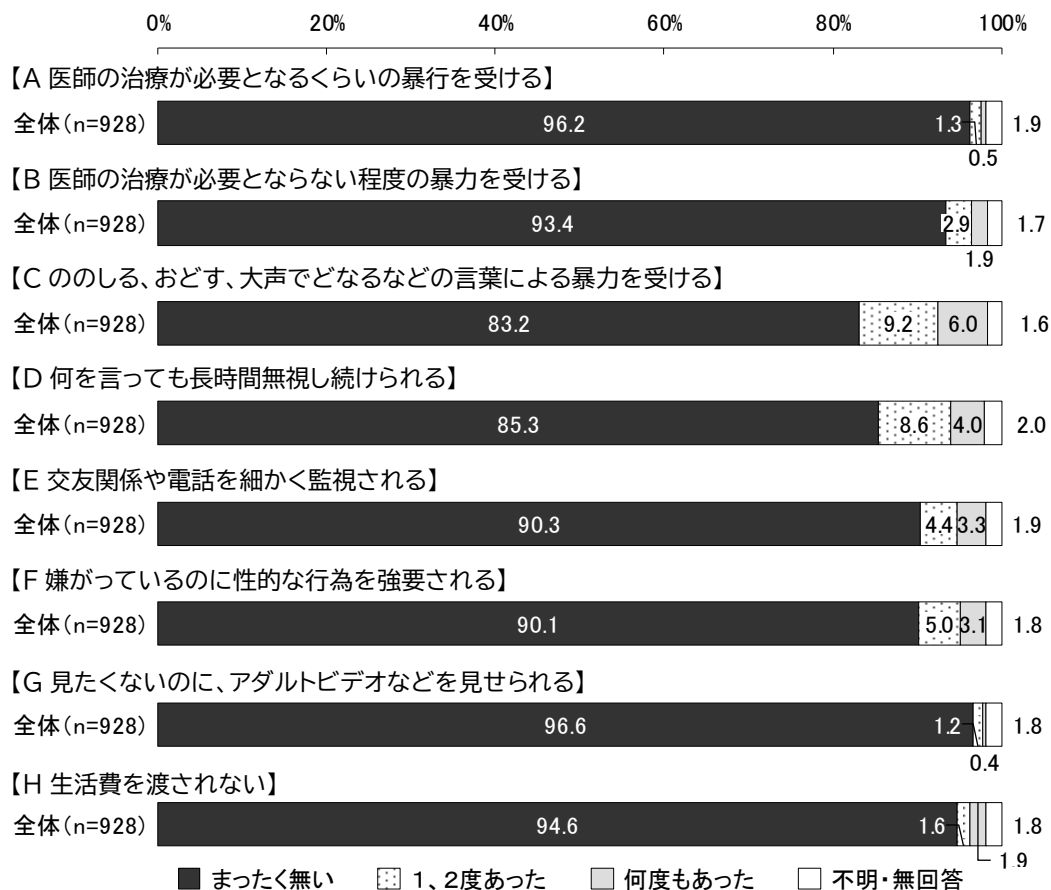
7 DV（ドメスティック・バイオレンス）について

問 29 あなたはこれまでに、配偶者や恋人などから次にあげるような行為を受けたことがありますか。(単数回答)

問 29 の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『被害を受けた』…「1、2度あった」と「何度もあった」を合算

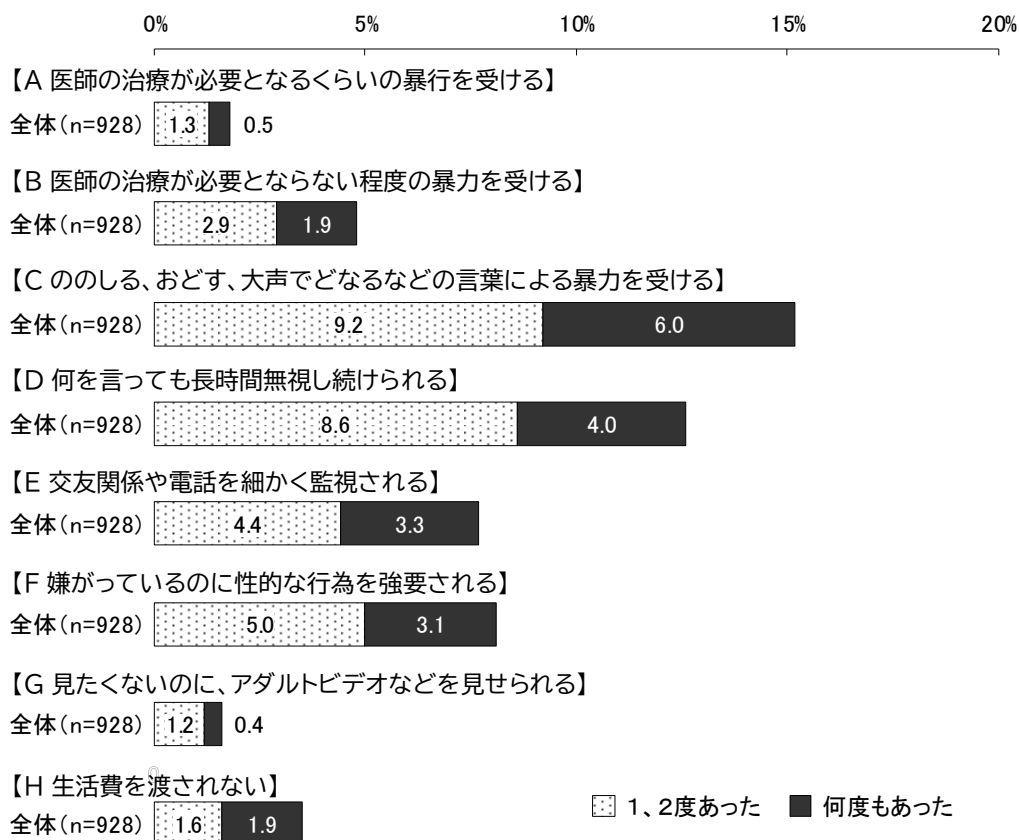
配偶者や恋人などからの暴力等の経験の有無について、全体で『被害を受けた』が高い内容は「C ののしる、おどす、大声でどなるなどの言葉による暴力を受ける」が 15.2%、「D 何を言っても長時間無視し続けられる」が 12.6%となっています。その他の項目についても数%～約 1 割みられ、様々な暴力等の行為を受けている実情がみられます。



項目別DV経験者

配偶者や恋人などからの暴力等の経験がある人は、「1、2度あった」「何度もあった」のいずれも「C ののしる、おどす、大声でどなるなどの言葉による暴力を受ける」が最も高く、それぞれ9.2%、6.0%となっています。次いで「D 何を言っても長時間無視し続けられる」が、それぞれ8.6%、4.0%となっています。

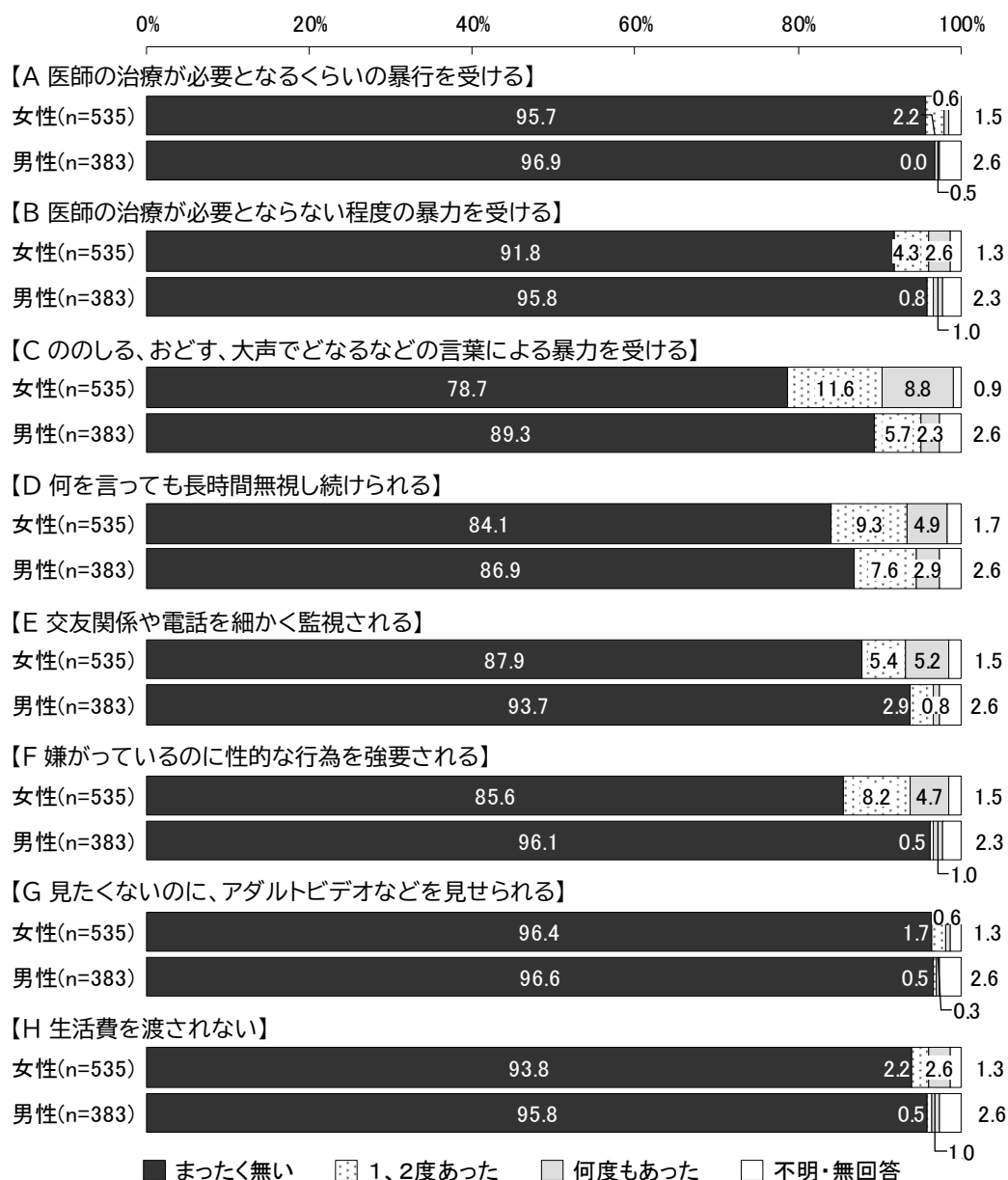
なお、『被害を受けた』方のうち、「A 医師の治療が必要となるくらいの暴行を受ける」は1.8%、「B 医師の治療が必要とされない程度の暴力を受ける」は4.8%となっています。



※割合が高い「まったく無い」と「不明・無回答」を除いてグラフ化しています。

性別比較

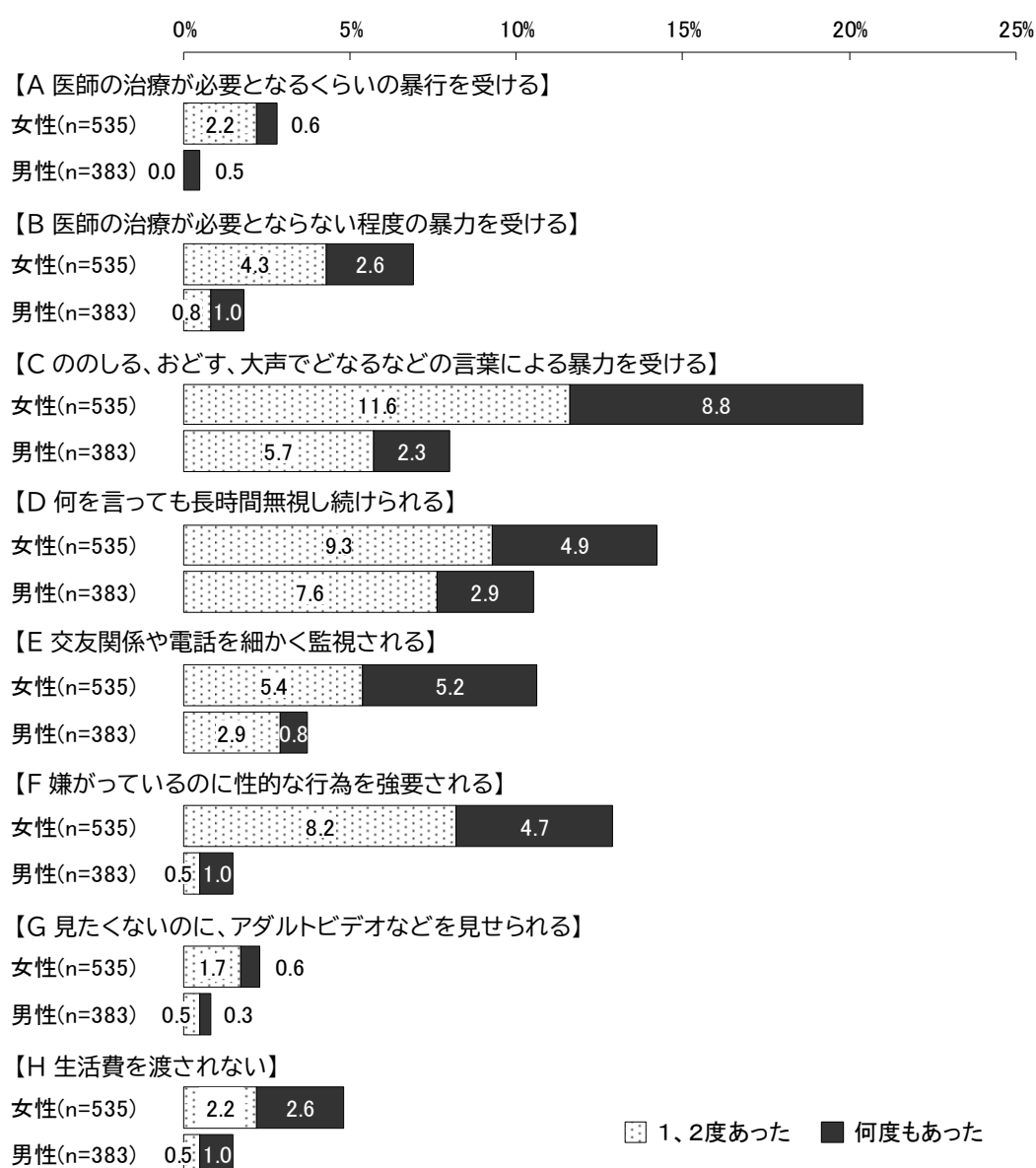
ほとんどの暴力において女性に対する暴力が多く、『被害を受けた』方は「C ののしる、おどす、大声でどなるなどの言葉による暴力を受ける」が20.4%と高くなっています。なお、「A 医師の治療が必要となるくらいの暴行を受ける」女性は2.8%、男性は0.5%となっています。



項目別性別DV経験者

女性に対する暴力では、「1、2度あった」「何度もあった」のいずれも「C ののしる、おどす、大声でどなるなどの言葉による暴力を受ける」が最も高く、それぞれ11.6%、8.8%となっています。男性に対する暴力では、「1、2度あった」「何度もあった」のいずれも「D 何を言っても長時間無視し続けられる」が最も高く、それぞれ7.6%、2.9%となっています。

なお、「A 医師の治療が必要となるくらいの暴行を受ける」ような『被害を受けた』方は女性で2.8%、男性で0.5%であり、「B 医師の治療が必要とされない程度の暴力を受ける」ような『被害を受けた』方は女性で6.9%、男性で1.8%となっています。



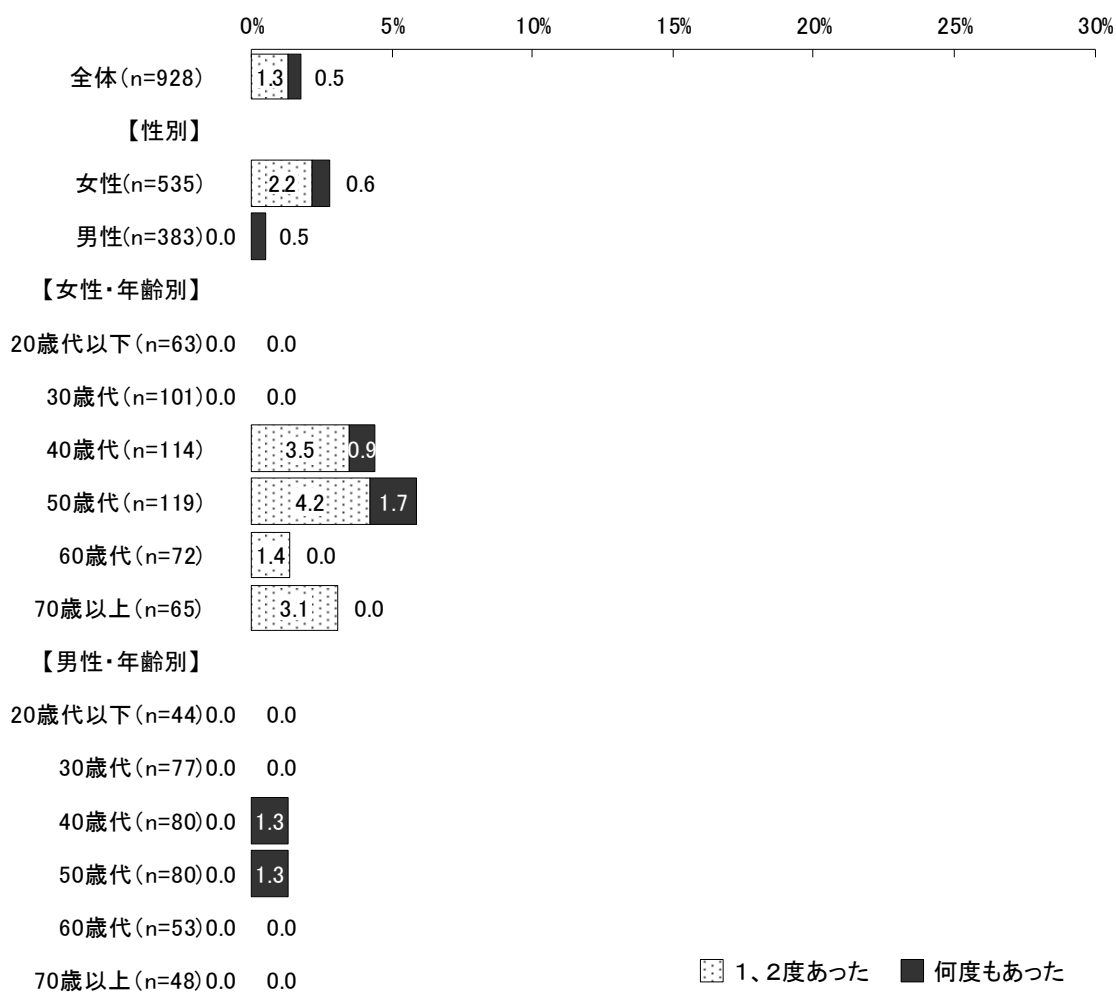
※割合が高い「まったく無い」と「不明・無回答」を除いてグラフ化しています。

項目別集計結果

※項目別集計結果は、割合が高い「まったく無い」と「不明・無回答」を除いてグラフ化しています。

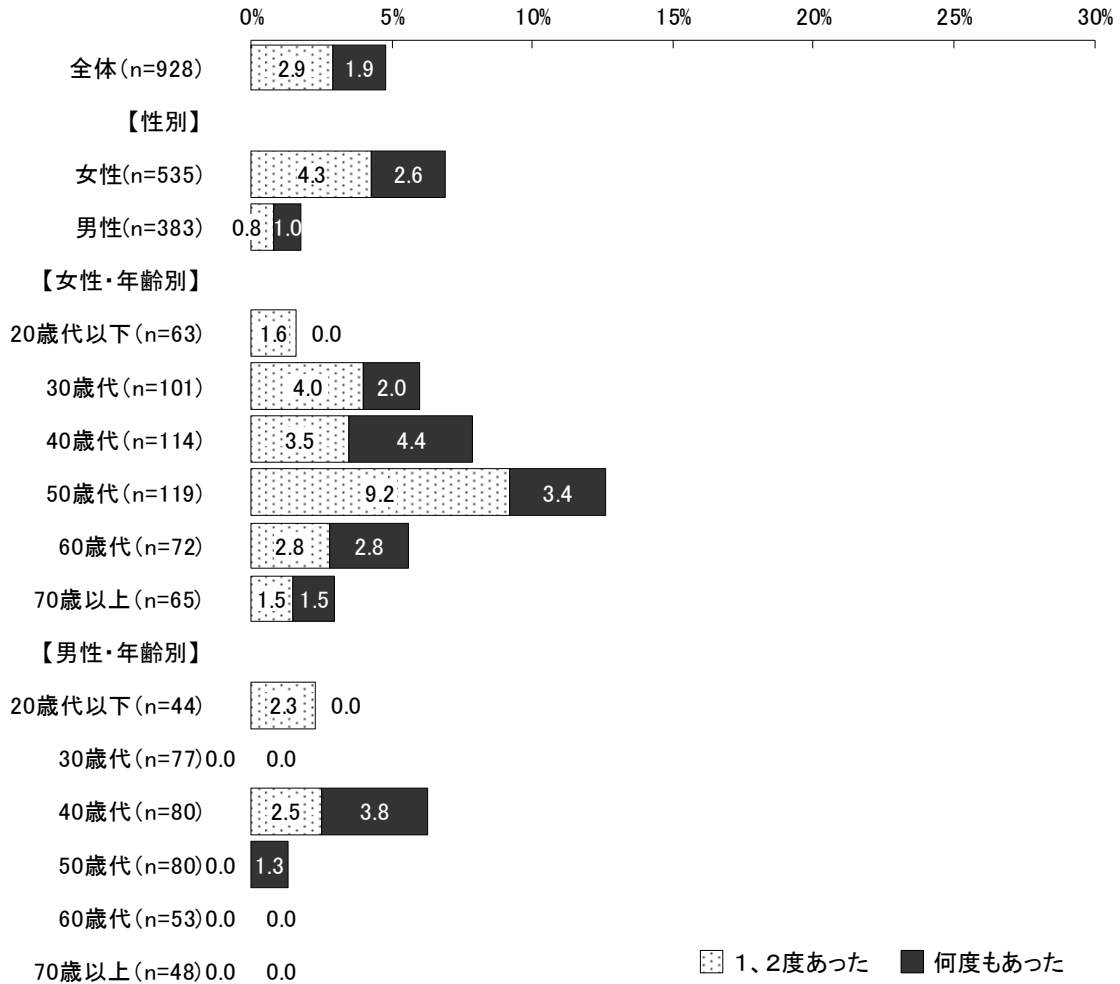
【A 医師の治療が必要となるくらいの暴行を受ける】

医師の治療が必要となるくらいの暴行については、『被害を受けた』女性が40歳代以上で、『被害を受けた』男性が40歳代・50歳代でそれぞれみられます。



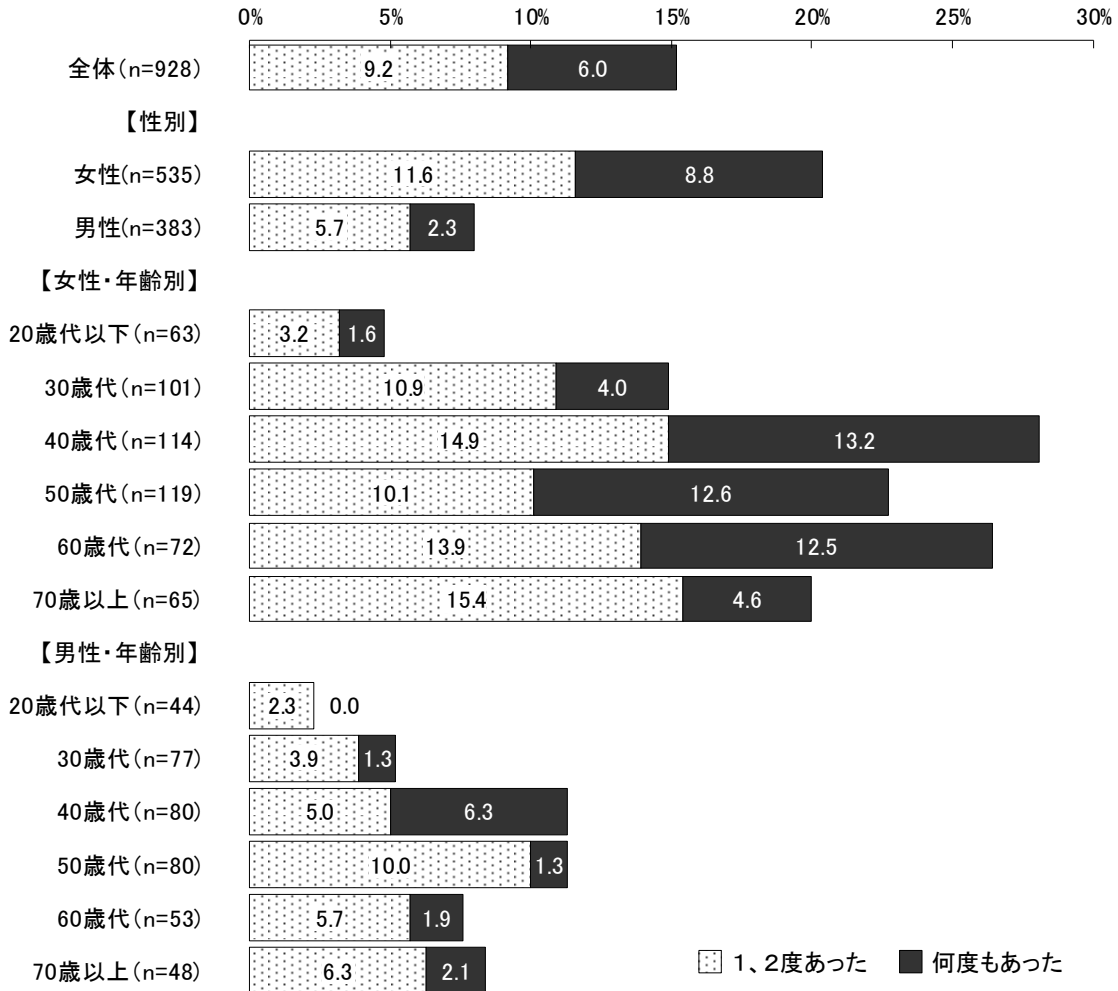
【B 医師の治療が必要とならない程度の暴力を受ける】

医師の治療が必要とならない程度の暴力については、女性のすべての年代で『被害を受けた』が出現しており、40歳代・50歳代で「何度もあった」が高くなっています。また、男性の20歳代以下、40歳代・50歳代で『被害を受けた』がそれぞれみられ、特に40歳代で高くなっています。



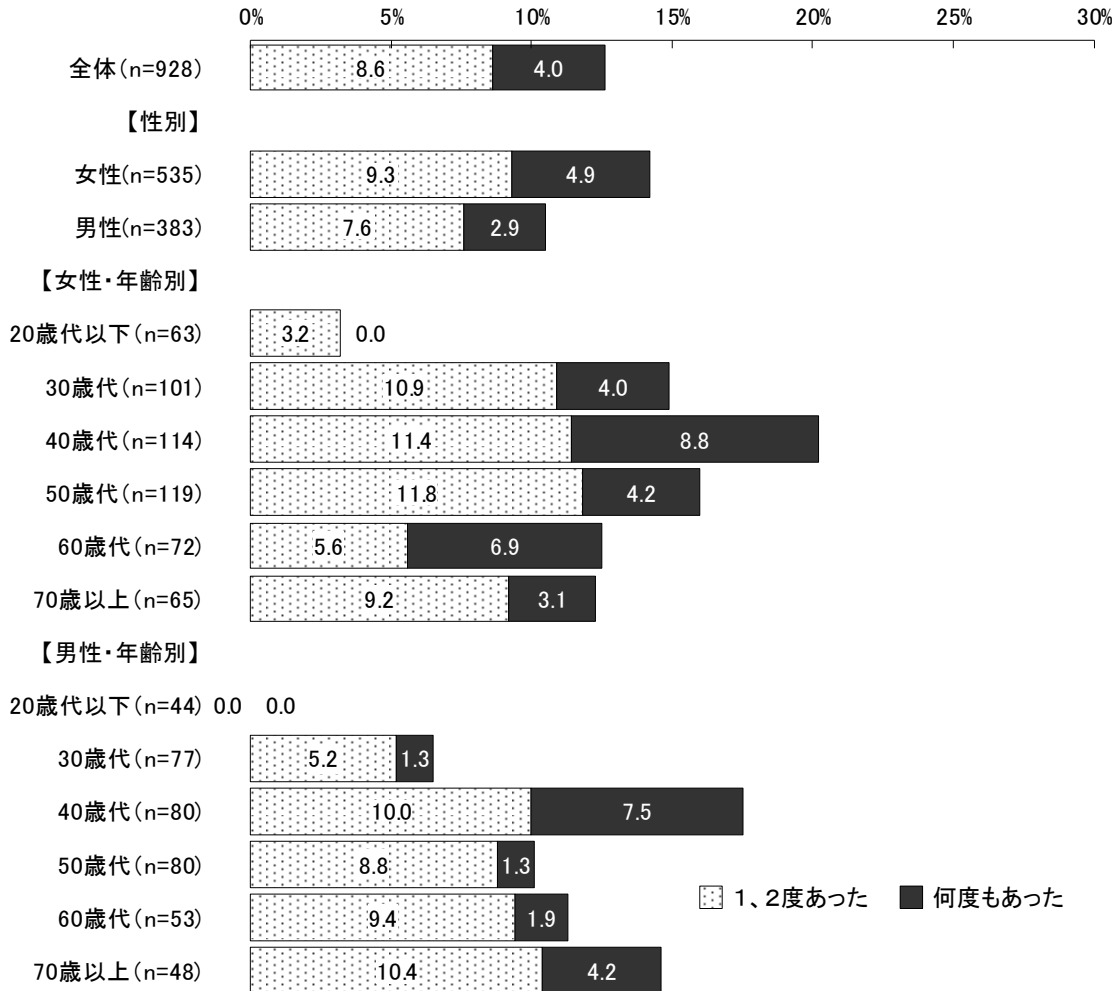
【C ののしる、おどす、大声でどなるなどの言葉による暴力を受ける】

ののしる、おどす、大声でどなるなどの言葉による暴力については、女性・男性ともにすべての年代で『被害を受けた』が出現しています。特に女性の40～60歳代で「何度もあった」が1割を超えて高くなっています。また、男性の40歳代で「何度もあった」が、他の年代と比べて高くなっています。



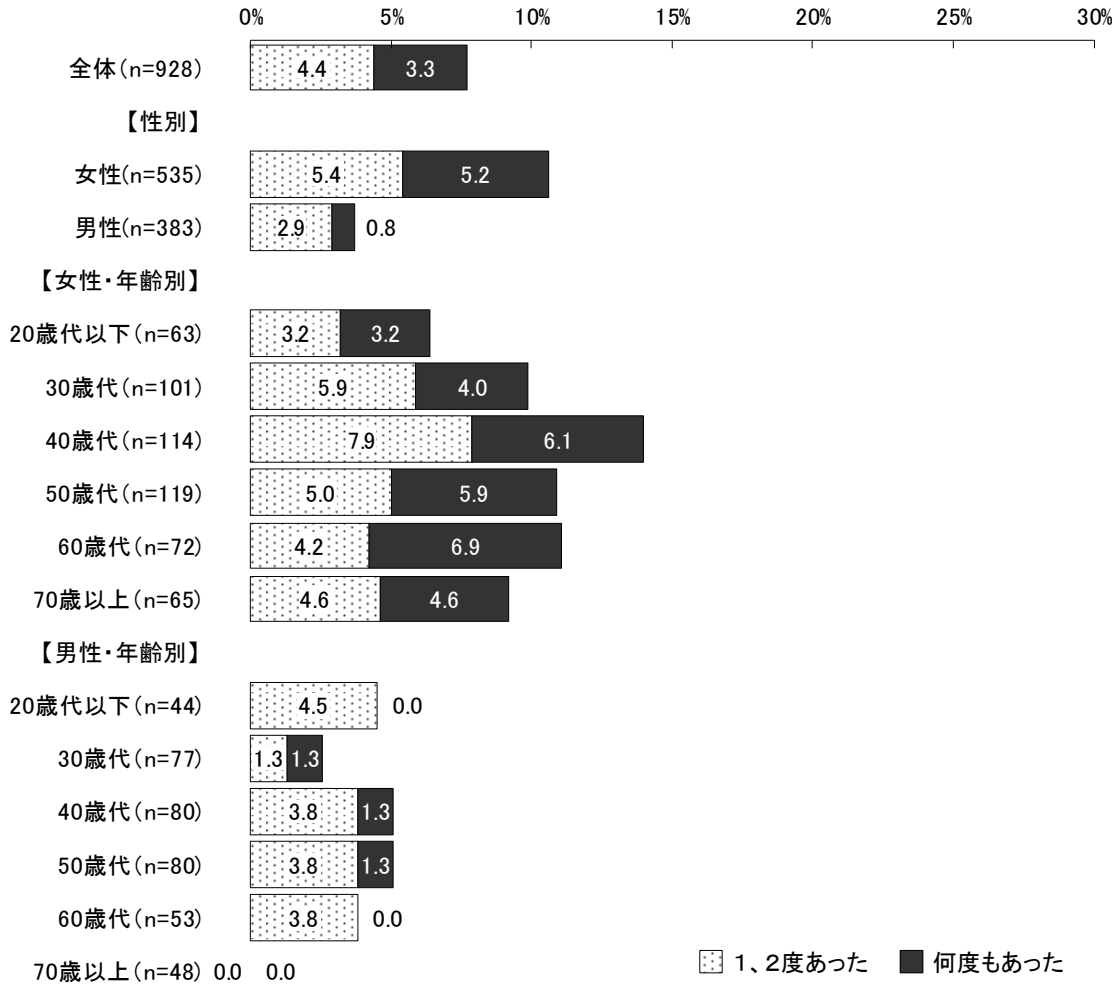
【D 何を言っても長時間無視し続けられる】

何を言っても長時間無視し続けられる暴力については、女性のすべての年代と20歳代以下を除いた男性の他の年代で『被害を受けた』が出現しています。特に女性の40歳代・60歳代、男性の40歳代で「何度もあった」がそれぞれ約1割となっています。



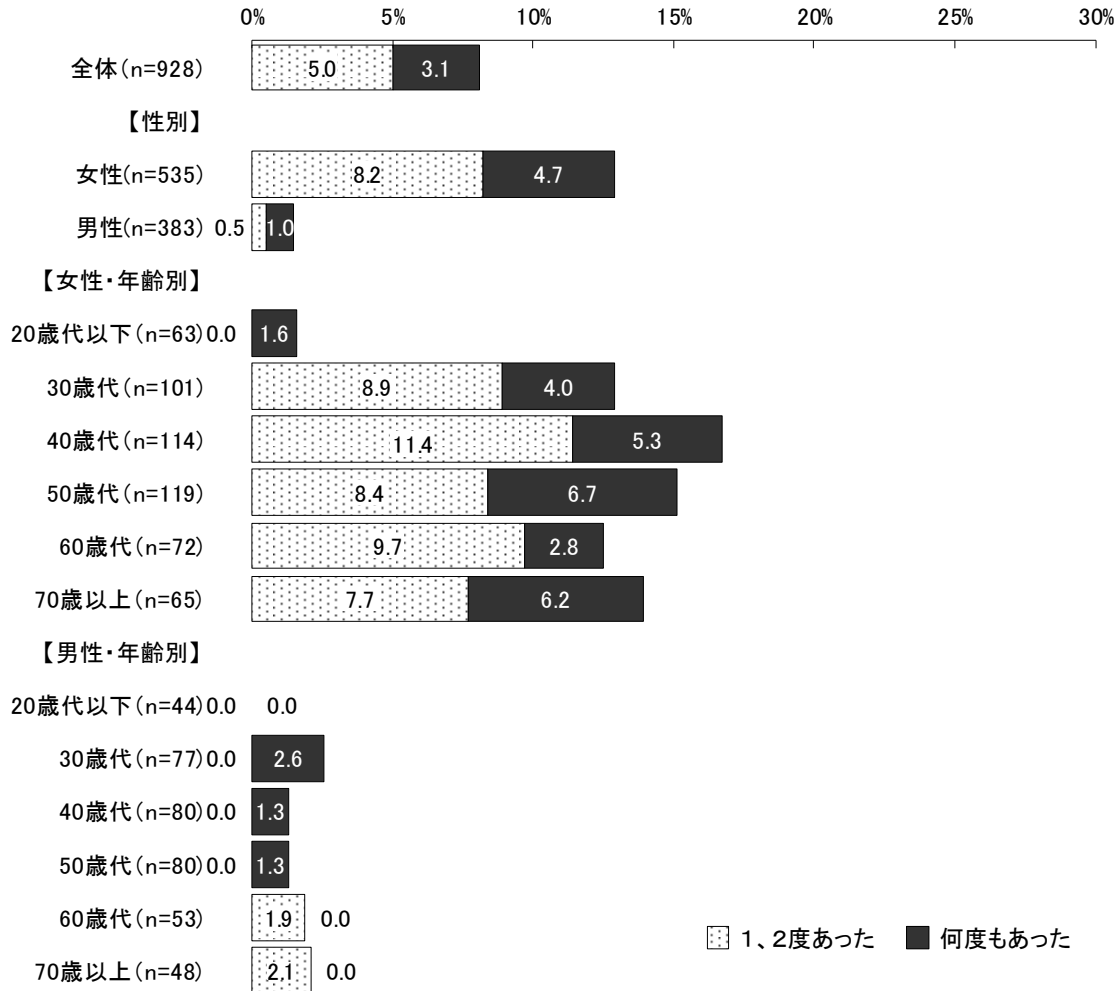
【E 交友関係や電話を細かく監視される】

交友関係や電話を細かく監視される暴力については、女性のすべての年代と70歳代以上を除いた男性の他の年代で『被害を受けた』が出現しています。特に、女性の40歳代で「1、2度あった」「何度もあった」が高くなっています。特に女性では年代問わず、「何度もあった」が男性と比べて高くなっています。



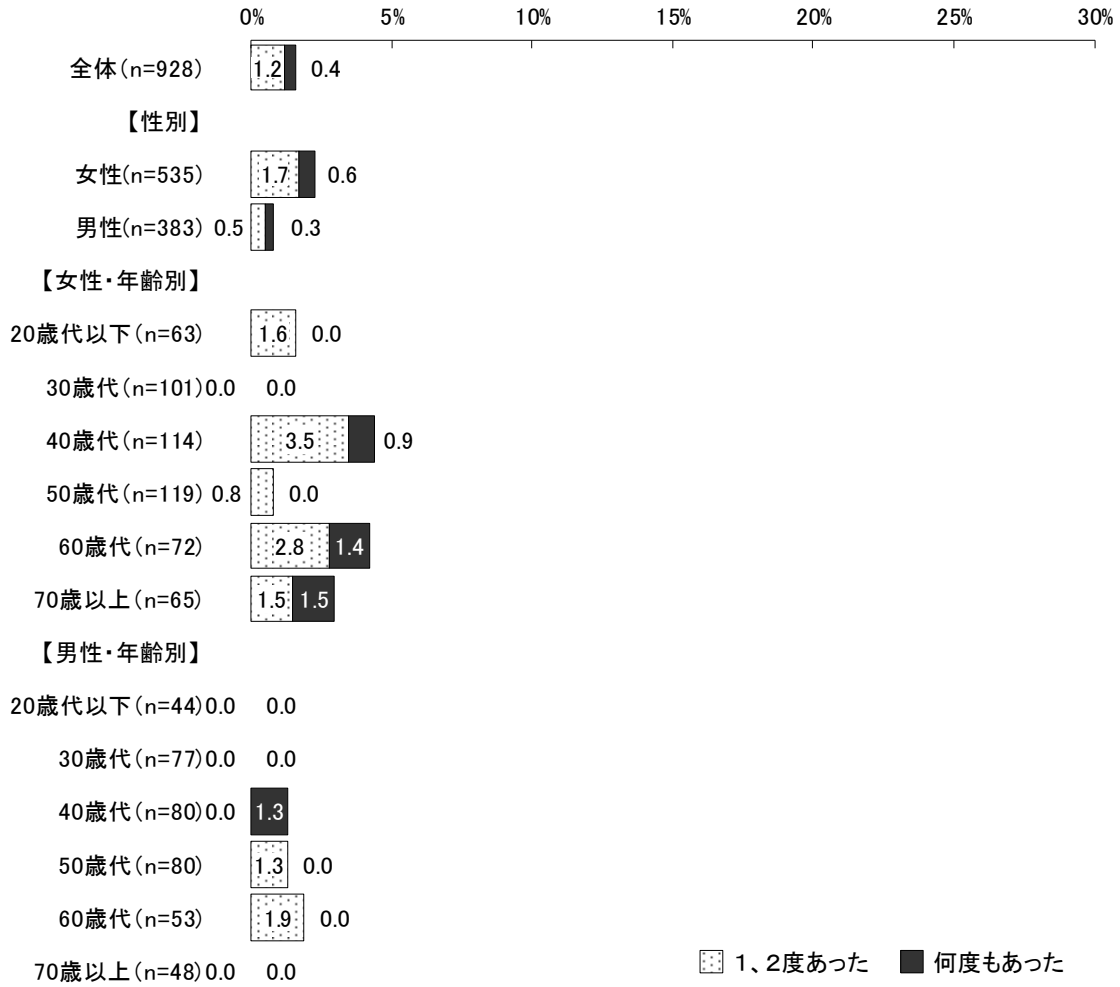
【F 嫌がっているのに性的な行為を強要される】

嫌がっているのに性的な行為を強要される暴行については、女性のすべての年代と 20 歳代以下を除いた男性の他の年代で『被害を受けた』が出現しています。特に、女性の 30 歳代以上で「1、2 度あった」「何度もあった」が 15%前後と高くなっています。



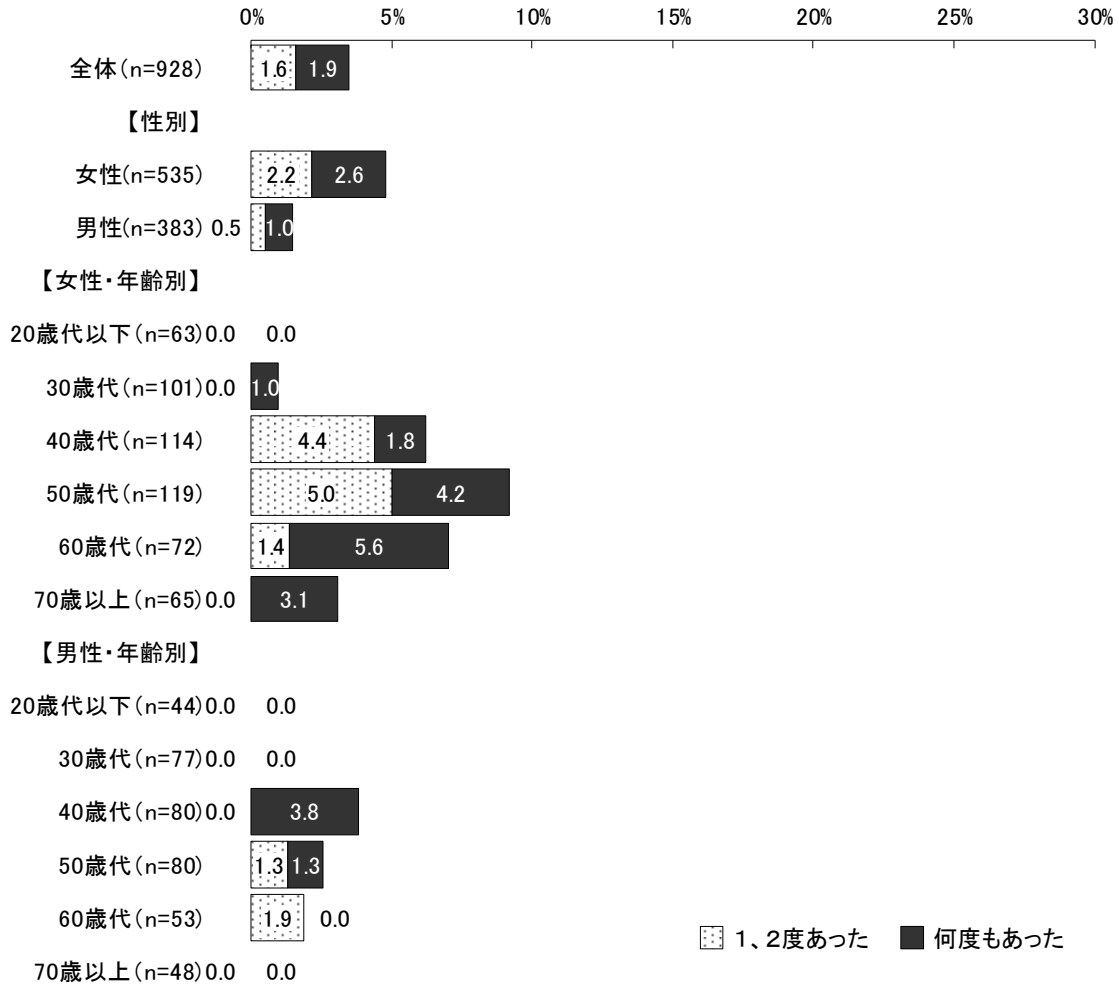
【G 見たくないのに、アダルトビデオなどを見せられる】

見たくないのに、アダルトビデオなどを見せられる暴力については、女性の30歳代を除いた女性の他の年代と男性の40歳代～60歳代で『被害を受けた』が出現しています。特に、女性の40歳代で「1、2度あった」が、女性の60歳代以上で「何度もあった」がそれぞれ高くなっています。



【H 生活費を渡されない】

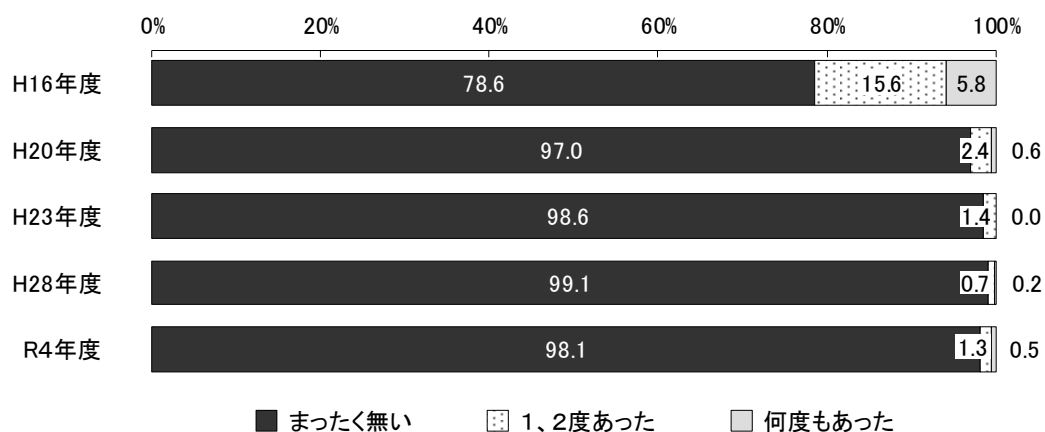
生活費を渡されない暴力については、20歳代以下を除いた女性の他の年代と男性の40歳代～60歳代で『被害を受けた』が出現しています。特に、女性の40歳代～60歳代で「1、2度あった」「何度もあった」が高くなっています。



経年比較

【A 医師の治療が必要となるくらいの暴行を受ける】

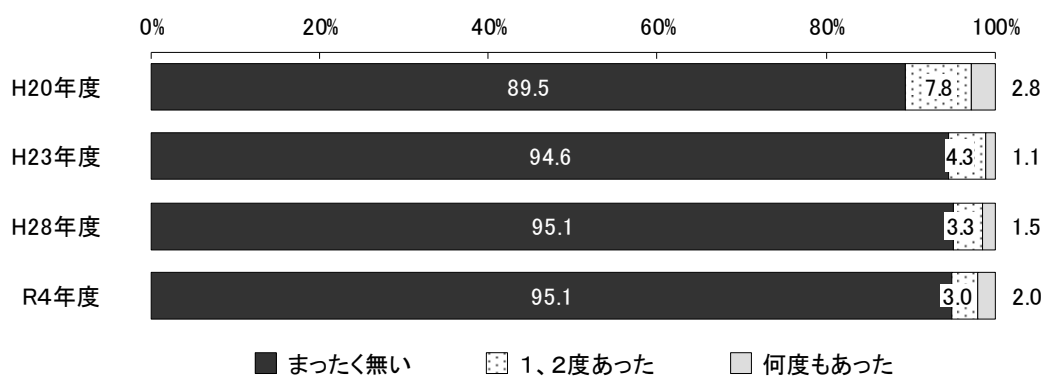
「1、2度あった」は、H16年度以降減少していたものの、R4年度に増加しています。「何度もあった」はH23年度に0.0%へ減少したものの、H28年度以降微増となっています。



※各年度の調査結果は、「不明・無回答」を除いて算出した割合です。

【B 医師の治療が必要とならない程度の暴力を受ける】

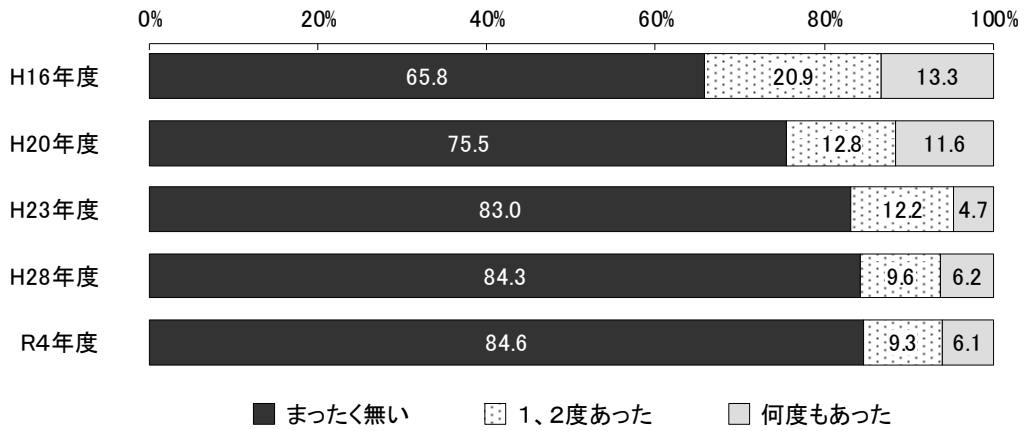
「1、2度あった」は、H20年度以降減少しています。「何度もあった」はH23年度に1.1%へ減少したものの、H28年度以降微増となっています。



※各年度の調査結果は、「不明・無回答」を除いて算出した割合です。

【C ののしる、おどす、大声でどなるなどの言葉による暴力を受ける】

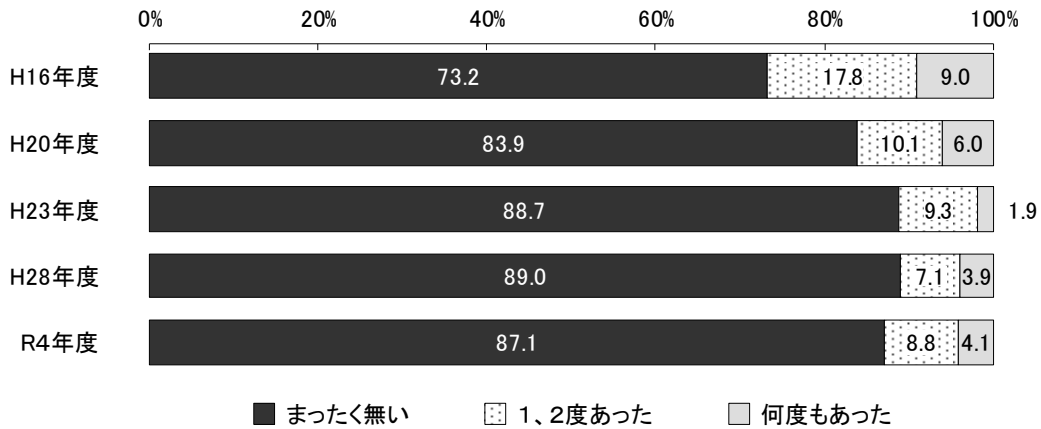
「1、2度あった」は、H16年度以降減少しています。「何度もあった」はH23年度に4.7%へ減少したものの、H28年度には増加し、R4年度はほぼ横ばいとなっています。



※各年度の調査結果は、「不明・無回答」を除いて算出した割合です。

【D 何を言っても長時間無視し続けられる】

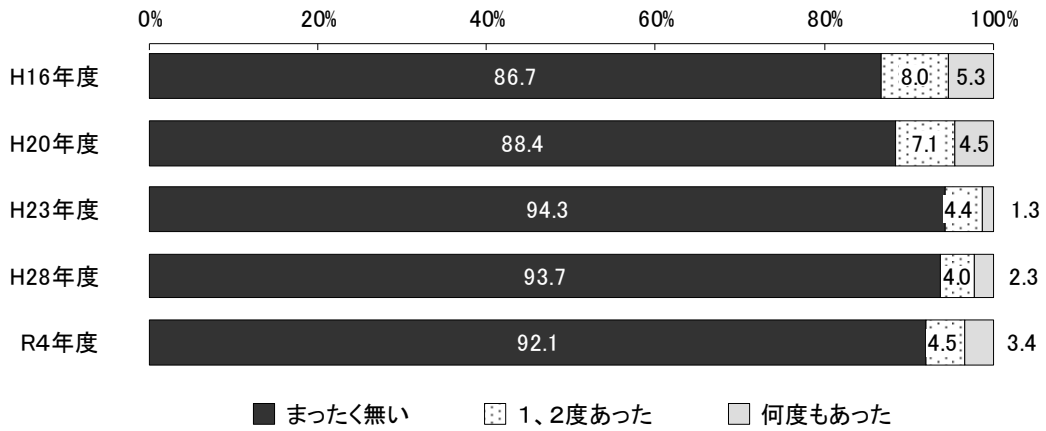
「1、2度あった」は、H16年度以降減少していたものの、R4年度に微増となっています。「何どもあった」はH23年度に1.9%へ減少したものの、H28年度以降微増となっています。



※各年度の調査結果は、「不明・無回答」を除いて算出した割合です。

【E 交友関係や電話を細かく監視される】

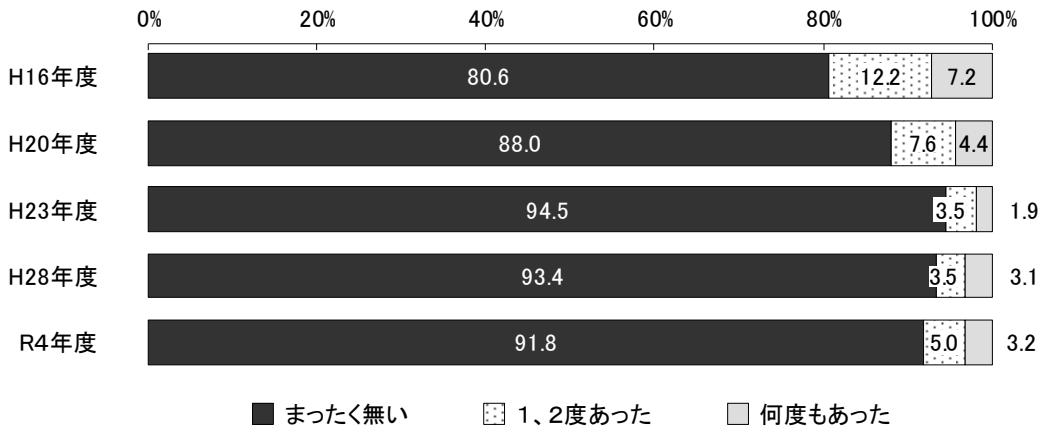
「1、2度あった」は、H16年度以降減少していたものの、R4年度に微増となっています。「何度もあった」はH23年度に1.3%へ減少したものの、H28年度以降微増となっています。



※各年度の調査結果は、「不明・無回答」を除いて算出した割合です。

【F 嫌がっているのに性的な行為を強要される】

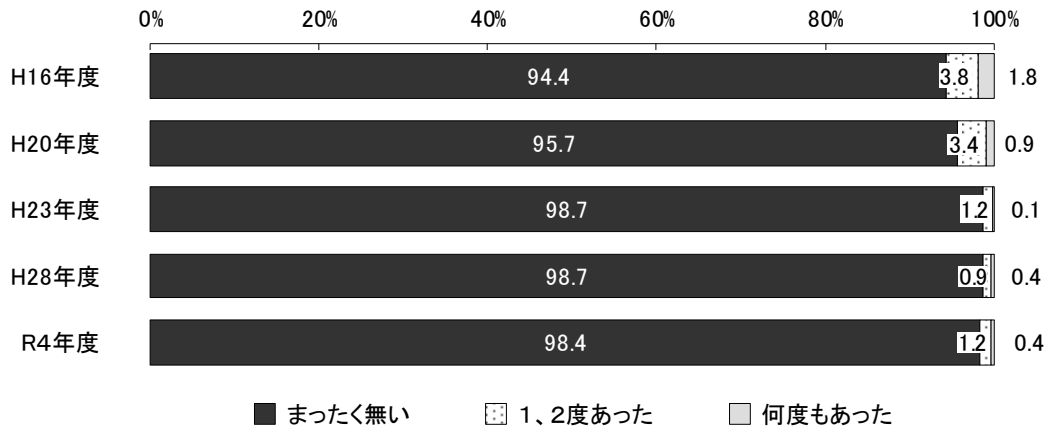
「1、2度あった」は、H16年度以降減少、横ばいとなっていたものの、R4年度に増加しています。「何度もあった」はH23年度に1.9%へ減少したものの、H28年度以降微増となっています。



※各年度の調査結果は、「不明・無回答」を除いて算出した割合です。

【G 見たくないのに、アダルトビデオなどを見せられる】

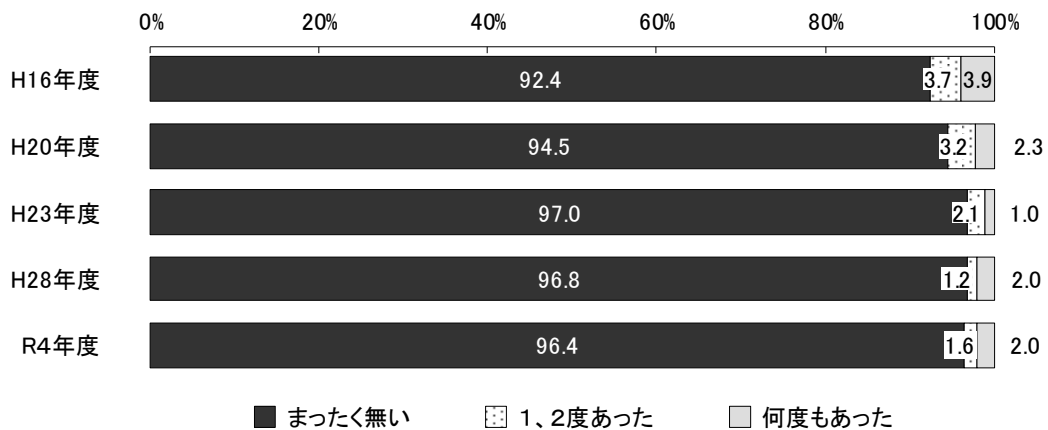
「1、2度あった」は、H16年度以降減少していたものの、R4年度に微増となっています。「何度もあった」はH23年度に0.1%へ減少したものの、H28年度には微増、R4年度は横ばいとなっています。



※各年度の調査結果は、「不明・無回答」を除いて算出した割合です。

【H 生活費を渡されない】

「1、2度あった」は、H16年度以降減少していたものの、R4年度に微増となっています。「何度もあった」はH23年度に1.0%へ減少したものの、H28年度には微増、R4年度は横ばいとなっています。



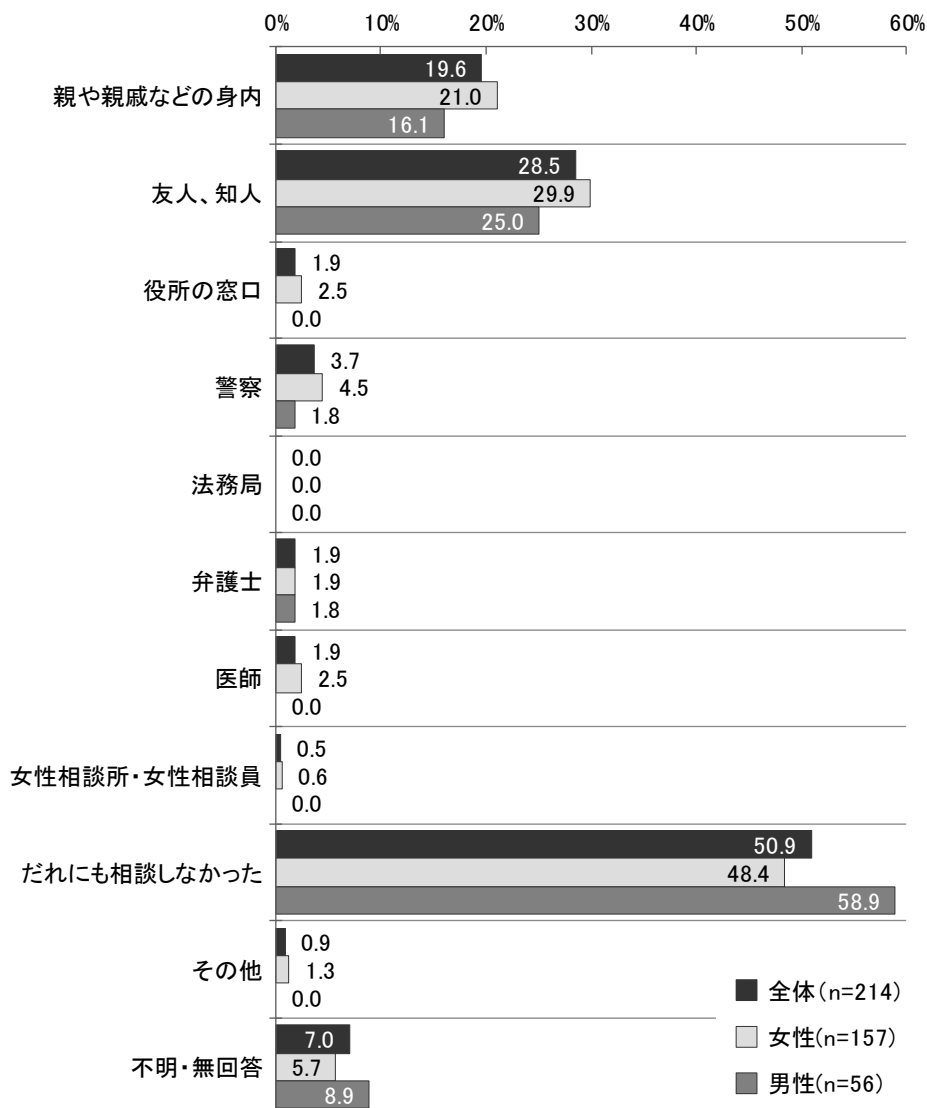
※各年度の調査結果は、「不明・無回答」を除いて算出した割合です。

問 29 で「1、2度あった」「何度もあった」に1つでも○をつけた方のみ

問 29-1 そのような行為を受けた後、だれか（どこか）に打ち明けたり、相談したりしましたか。（複数回答）

だれか（どこか）に打ち明けたり、相談したりしたかは、全体で「だれにも相談しなかった」が 50.9%と最も高く、次いで「友人、知人」が 28.5%となっています。

性別では、「だれにも相談しなかった」が男性で 58.9%と、女性と比べて 10.5 ポイント高くなっています。



性別・年齢別比較

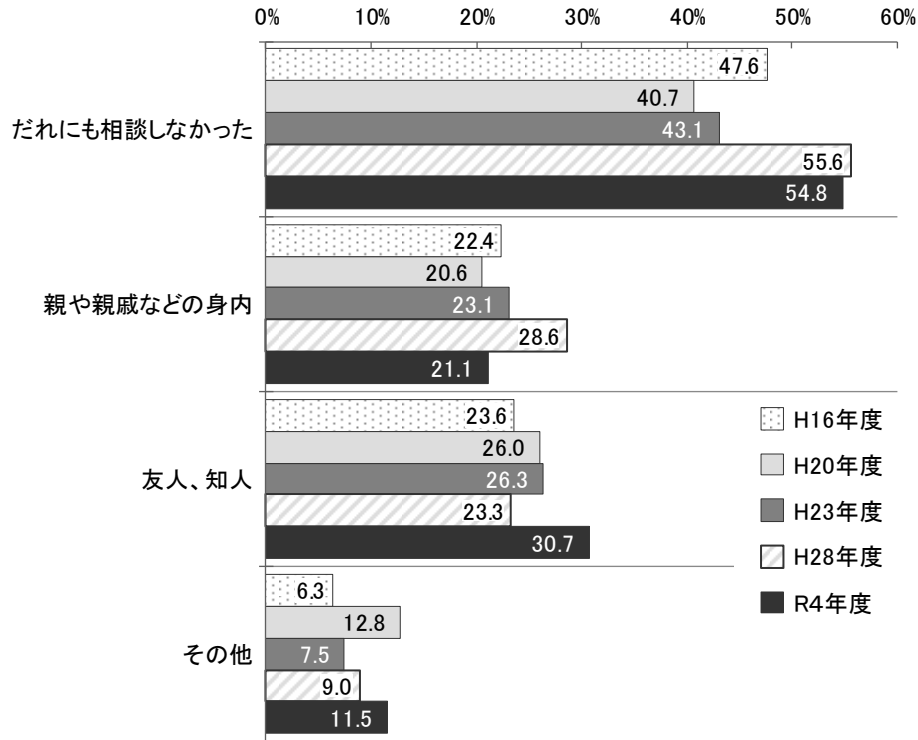
相談先として女性はいずれの年代でも「友人、知人」が高くなっています。また、男性の40歳代・50歳代で「だれにも相談しなかった」がそれぞれ約6割と、女性と比べて高くなっています。

(単位:%)	n=	親や親戚などの身内	友人、知人	役所の窓口	警察	法務局	弁護士	医師	女性相談所・女性相談員	だれにも相談しなかった	その他	不明・無回答
女性・年齢別												
20歳代以下	6	33.3	33.3	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0	33.3	0.0	0.0
30歳代	29	10.3	27.6	0.0	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	55.2	3.4	3.4
40歳代	43	25.6	34.9	7.0	7.0	0.0	2.3	4.7	2.3	44.2	0.0	2.3
50歳代	40	27.5	32.5	2.5	5.0	0.0	5.0	2.5	0.0	50.0	0.0	2.5
60歳代	22	13.6	22.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	22.7
70歳以上	17	17.6	23.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	47.1	5.9	5.9
男性・年齢別												
20歳代以下	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
30歳代	7	28.6	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	42.9	0.0	0.0
40歳代	18	27.8	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	61.1	0.0	5.6
50歳代	12	0.0	25.0	0.0	8.3	0.0	8.3	0.0	0.0	58.3	0.0	16.7
60歳代	9	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	22.2
70歳以上	8	12.5	37.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	62.5	0.0	0.0

※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目**第1位**と**第2位**に網かけをしています。なお、年齢別回答者(n)が10件未満の場合は、順位の表記を省略しています。

経年比較

「だれにも相談しなかった」は、H20年度以降増加しており、R4年度では54.8%と最も低かったH20年度と比べて14.1ポイント高くなっています。



※いずれの年度も上位3項目「だれにも相談しなかった」「親や親戚などの身内」「友人、知人」を除いた選択肢は「その他」として合計し、表示しています。

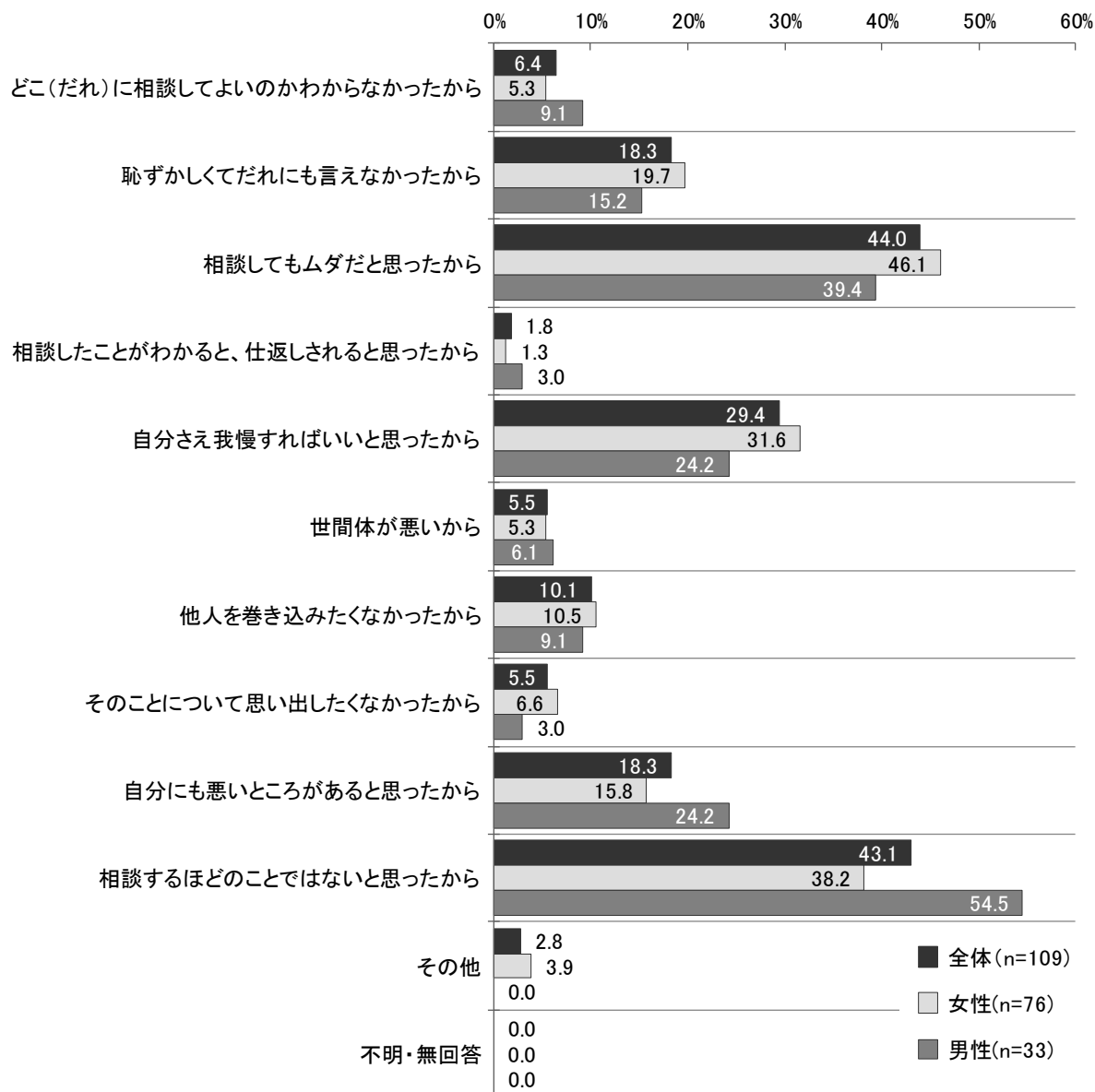
※各年度の調査結果は、「不明・無回答」を除いて算出した割合です。

問 29-1 で「9. だれにも相談しなかった」と答えた方のみ

問 29-2 だれにも相談しなかった理由は何ですか。(複数回答)

だれにも相談しなかった理由は、全体で「相談してもムダだと思った」が 44.0%と最も高く、次いで「相談するほどのことではないと思った」が 43.1%となっています。

性別では、「相談するほどのことではないと思った」が男性で 54.5%と、女性と比べて 16.3 ポイント高くなっています。同様に、「自分にも悪いところがあると思った」が 24.2%と、女性と比べて 8.4 ポイント高くなっています。



性別・年齢別比較

女性の30歳代以上で「相談してもムダだと思った」、30歳代・40歳代では「自分さえ我慢すればいいと思った」「相談するほどのことではないと思った」といった理由が高くなっています。

(単位:%)	n=	どこ(だれ)に相談してよいかわからなかったから	恥ずかしくてだれにも言えなかったから	相談してもムダだと思ったから	相談したことがわかると、仕返しされると思ったから	自分さえ我慢すればいいと思ったから	世間体が悪いから	他人を巻き込みたくなかったから	そのことについて思い出しなくなかったから	自分にも悪いところがあると思ったから	相談するほどのことではないと思ったから	その他
女性・年齢別												
20歳代以下	2	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳代	16	0.0	12.5	31.3	0.0	43.8	6.3	12.5	0.0	25.0	43.8	0.0
40歳代	19	15.8	15.8	42.1	0.0	21.1	5.3	10.5	0.0	15.8	42.1	10.5
50歳代	20	5.0	30.0	55.0	0.0	20.0	10.0	20.0	10.0	15.0	25.0	5.0
60歳代	11	0.0	9.1	63.6	9.1	36.4	0.0	0.0	18.2	9.1	36.4	0.0
70歳以上	8	0.0	12.5	50.0	0.0	62.5	0.0	0.0	12.5	12.5	62.5	0.0
男性・年齢別												
20歳代以下	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳代	3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0
40歳代	11	9.1	9.1	36.4	9.1	36.4	0.0	9.1	0.0	9.1	54.5	0.0
50歳代	7	14.3	14.3	71.4	0.0	14.3	0.0	14.3	0.0	57.1	57.1	0.0
60歳代	6	16.7	33.3	33.3	0.0	33.3	16.7	16.7	0.0	16.7	50.0	0.0
70歳以上	5	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	20.0	0.0	20.0	20.0	60.0	0.0

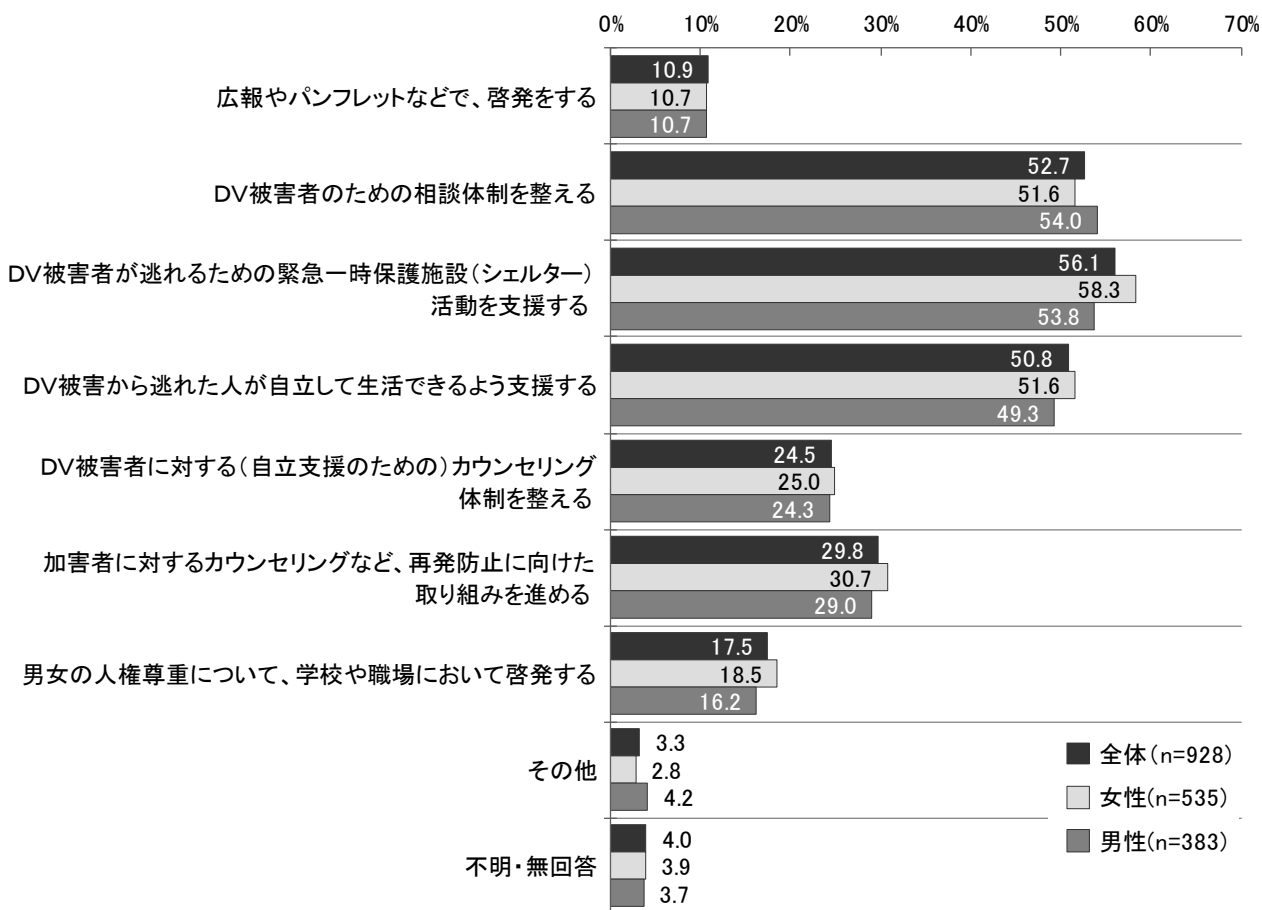
(単位:%)	n=	不明・無回答
女性・年齢別		
20歳代以下	2	0.0
30歳代	16	0.0
40歳代	19	0.0
50歳代	20	0.0
60歳代	11	0.0
70歳以上	8	0.0
男性・年齢別		
20歳代以下	1	0.0
30歳代	3	0.0
40歳代	11	0.0
50歳代	7	0.0
60歳代	6	0.0
70歳以上	5	0.0

※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目**第1位**と**第2位**に網かけをしています。なお、年齢別回答者(n)が10件未満の場合は、順位の表記を省略しています。

問 30 配属者や恋人からの暴力（DV：ドメスティック・バイオレンス）に対して、市はどのような対応をする必要があると思いますか。（複数回答）

配属者や恋人からの暴力に対して、行政はどのような対応をする必要があると思うかは、全体で「DV被害者が逃れるための緊急一時保護施設（シェルター）活動を支援する」が 56.1%と最も高く、次いで「DV被害者のための相談体制を整える」が 52.7%となっています。

性別では、女性・男性ともに 10 ポイント以上の大差はみられません。



性別・年齢別比較

女性の30歳代以下、50歳代及び男性の30歳代・40歳代で「DV被害者が逃れるための緊急一時保護施設（シェルター）活動を支援する」がそれぞれ6割以上、40歳代の男女で「DV被害から逃れた人が自立して生活できるよう支援する」がそれぞれ6割以上、男性の50歳代・60歳代で「DV被害者のための相談体制を整える」がそれぞれ6割以上となっています。

(単位: %)	n=	広報やパンフレットなどで、啓発をする	DV被害者のための相談体制を整える	DV被害者が逃れるための緊急一時保護施設（シェルター）活動を支援する	DV被害から逃れた人が自立して生活できるよう支援する	DV被害者に対する（自立支援のための）カウンセリング体制を整える	加害者に対するカウンセリングなど、再発防止に向けた取り組みを進める	男女の人権尊重について、学校や職場において啓発する	その他	不明・無回答
女性・年齢別										
20歳代以下	63	9.5	58.7	68.3	47.6	25.4	31.7	7.9	3.2	3.2
30歳代	101	11.9	41.6	71.3	48.5	30.7	30.7	19.8	2.0	1.0
40歳代	114	6.1	53.5	59.6	61.4	26.3	28.9	19.3	0.9	1.8
50歳代	119	14.3	51.3	61.3	49.6	26.9	26.9	19.3	5.0	2.5
60歳代	72	12.5	56.9	43.1	58.3	20.8	36.1	19.4	4.2	4.2
70歳以上	65	9.2	50.8	38.5	40.0	13.8	33.8	23.1	1.5	15.4
男性・年齢別										
20歳代以下	44	4.5	52.3	40.9	45.5	27.3	25.0	22.7	9.1	4.5
30歳代	77	3.9	46.8	64.9	44.2	27.3	32.5	10.4	7.8	0.0
40歳代	80	8.8	56.3	60.0	60.0	25.0	31.3	16.3	2.5	0.0
50歳代	80	16.3	62.5	52.5	56.3	27.5	25.0	13.8	1.3	0.0
60歳代	53	15.1	62.3	54.7	49.1	18.9	32.1	13.2	1.9	3.8
70歳以上	48	16.7	39.6	39.6	33.3	16.7	25.0	25.0	4.2	20.8

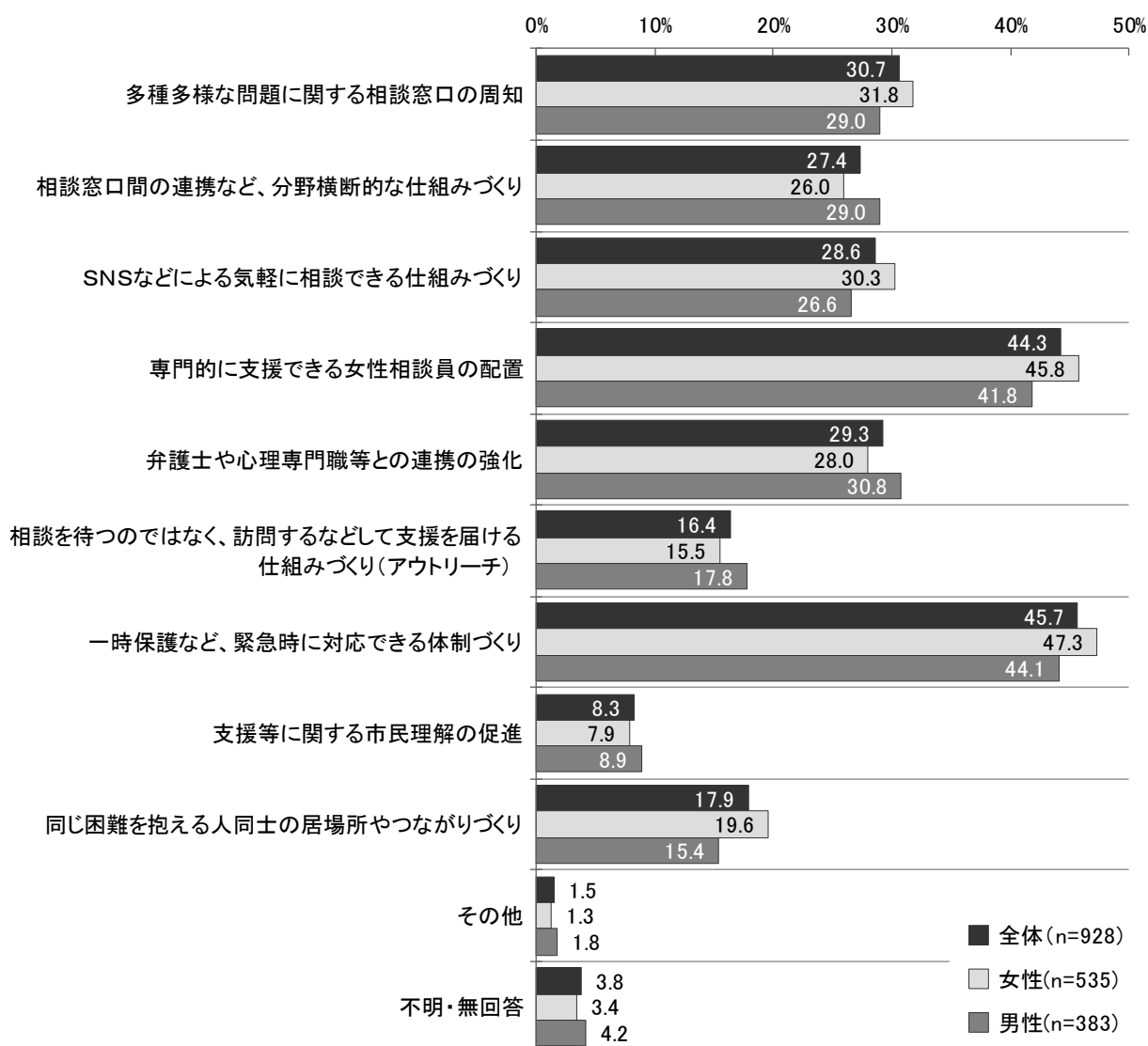
※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目**第1位**と**第2位**に網かけをしています。

8 困難を抱える女性への支援について

問 31 令和4年5月に、「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が成立しました。この法律は、貧困やDV、性暴力などに直面する女性の自立に向けて公的支援を強化していくものですが、このことについてあなたが特に市で取り組む必要があると思うものを教えてください。（複数回答）

「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が成立したことに伴い、特に市で取り組む必要があると思うものは、全体で「一時保護など、緊急時に対応できる体制づくり」が45.7%と最も高く、次いで「専門的に支援できる女性相談員の配置」が44.3%となっています。

性別では、女性・男性共に「一時保護など、緊急時に対応できる体制づくり」「専門的に支援できる女性相談員の配置」が上位となっています。



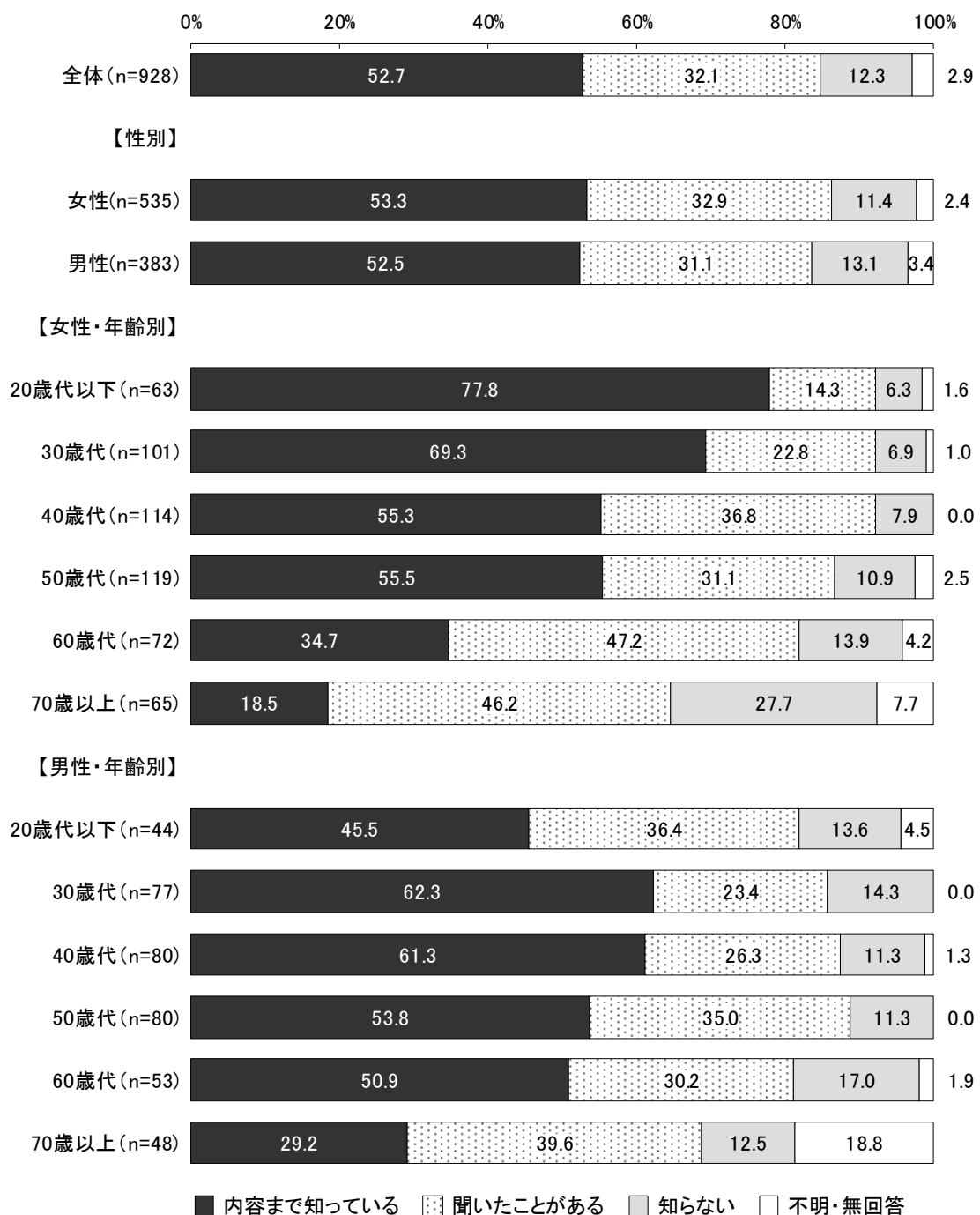
9 性的マイノリティについて

問32 あなたは、性的マイノリティ（LGBT等）という言葉を知っていますか。（単数回答）

性的マイノリティ（LGBT等）という言葉の認知度は、全体で「内容まで知っている」が52.7%、「聞いたことがある」が32.1%、「知らない」が12.3%となっています。

性別では、女性・男性ともに「内容まで知っている」がいずれも約5割となっています。

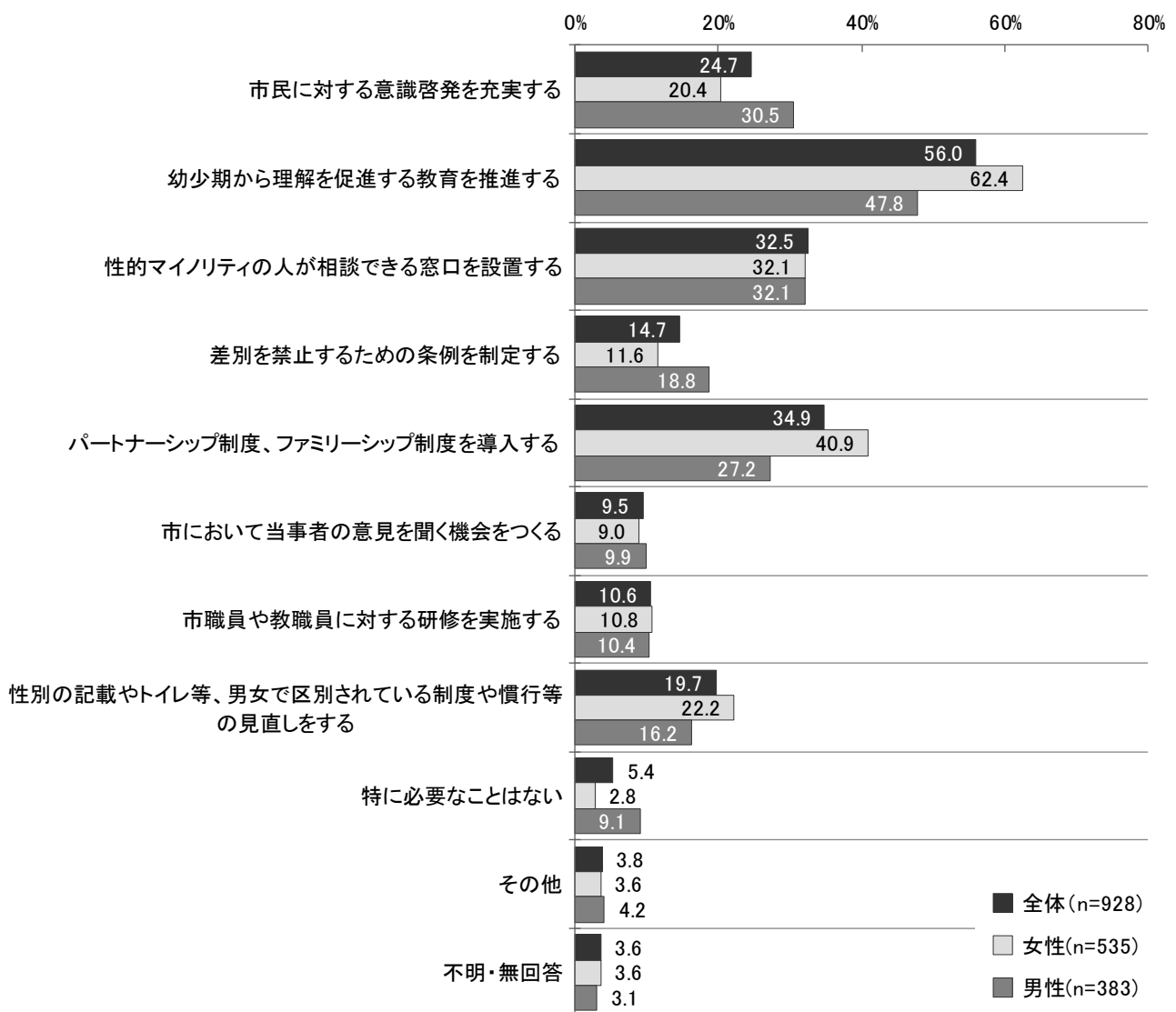
性別・年齢別では、女性では年代が上がるにつれ、「内容まで知っている」がほぼ低くなっています。男性でも同様の傾向があるものの、20歳代以下で45.5%と、女性の同世代の77.8%と比べて32.3ポイント低くなっています。



問 33 あなたは、性的マイノリティ（LGBT等）の人たちが暮らしやすい社会にするためには、どのような意識啓発や支援が必要だと思いますか。（複数回答）

性的マイノリティ（LGBT等）の人たちが暮らしやすい社会にするためには、どのような意識啓発や支援が必要だと思うは、全体で「幼少期から理解を促進する教育を推進する」が 56.0%と最も高く、次いで「パートナーシップ制度、ファミリーシップ制度を導入する」が 34.9%となっています。

性別では、女性で「幼少期から理解を促進する教育を推進する」「パートナーシップ制度、ファミリーシップ制度を導入する」が男性と比べて、男性で「市民に対する意識啓発を充実する」が、女性と比べて、それぞれ 10 ポイント以上高くなっています。



10 市の施策への女性意見の反映について

問 34 あなたは、社会問題や市政について関心がありますか。(単数回答)

問 34 の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

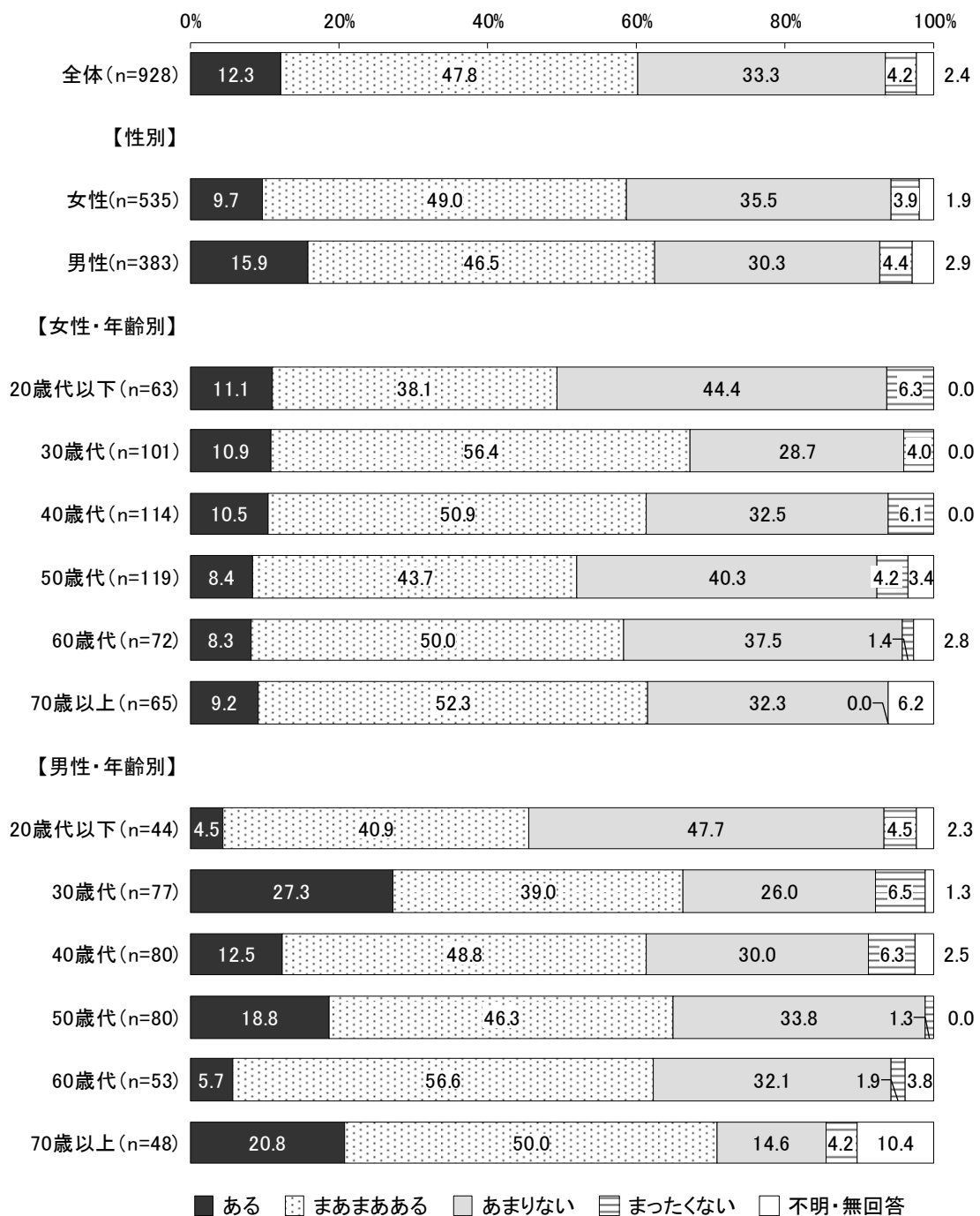
『ある』…「ある」と「まあまあある」を合算

『ない』…「まったくない」と「あまりない」を合算

社会問題や市政について関心の程度は、全体で『ある』が 60.1%、『ない』が 37.5%となっています。

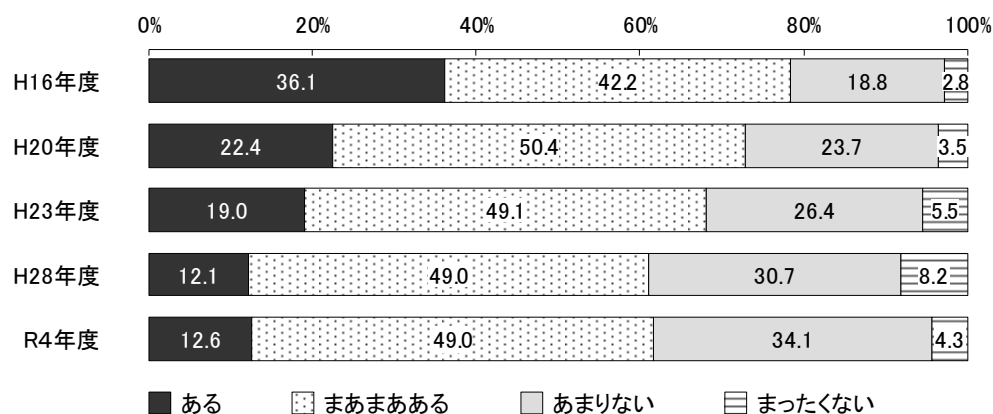
性別では、『ある』が女性で 58.7%、男性で 62.4%となっています。

性別・年齢別では、女性の 30 歳代・40 歳代及び 70 歳代以上、男性の 30 歳代以上で『ある』が 6 割を超えているものの、女性・男性ともに 20 歳代以下では 4 割台にとどまっています。



経年比較

『ある』はH16年度以降減少傾向にあり、特に「ある」はR4年度には12.6%とH16年度と比べて約3分の1となっています。その反面、『ない』はH16年度以降増加傾向にあり、特に「まったくない」はH20年度以降増加していたものの、R4年度には4.3%と減少しています。



※H16年度の「ふつう」は、母数から除外しています。

※各年度の調査結果は、「不明・無回答」を除いて算出した割合です。

問 35 市の施策に女性の意見や考え方が反映されていると思いますか。(単数回答)

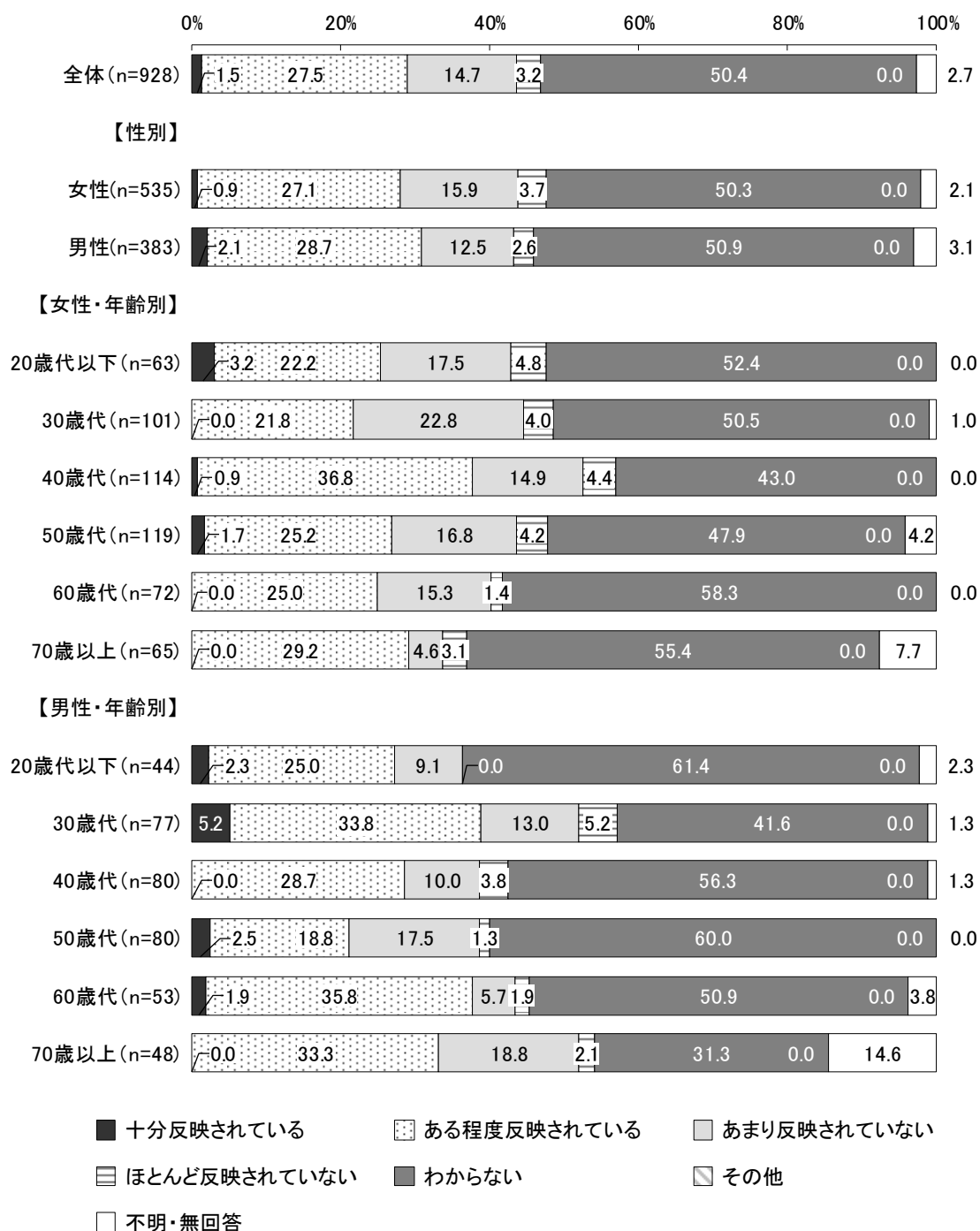
問 35 の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『反映されている』…「十分反映されている」と「ある程度反映されている」を合算
 『反映されていない』…「ほとんど反映されていない」と「あまり反映されていない」を合算

市の施策に女性の意見や考え方が反映されていると思うかは、全体で『反映されている』が 29.0%、
 『反映されていない』が 17.9%となっています。

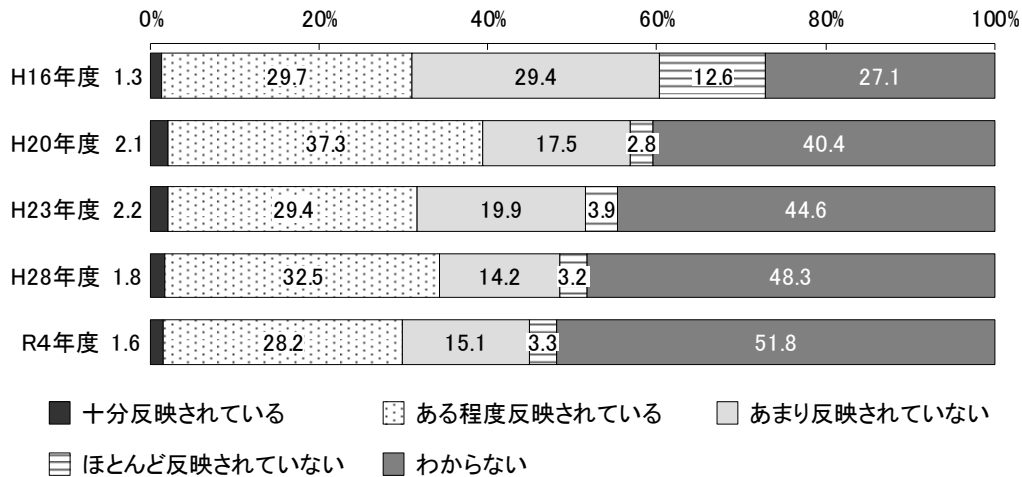
性別では、『反映されている』が女性で 28.0%、男性で 30.8%となっています。

性別・年齢別では、女性の 40 歳代、男性の 30 歳代及び 60 歳代では『反映されている』が約 4 割と
 高くなっています。なお、男性の 30 歳代で「十分反映されている」が他の年代と比べてもやや高くな
 っています。



経年比較

『反映されている』『反映されていない』はH16年度以降増減を繰り返している一方で、「わからない」は増加傾向にあります。



※H16年度の「全く反映されていない」、H23年度の「ふつう」、H28年度の「その他」は、母数から除外しています。
 ※各年度の調査結果は、「不明・無回答」を除いて算出した割合です。

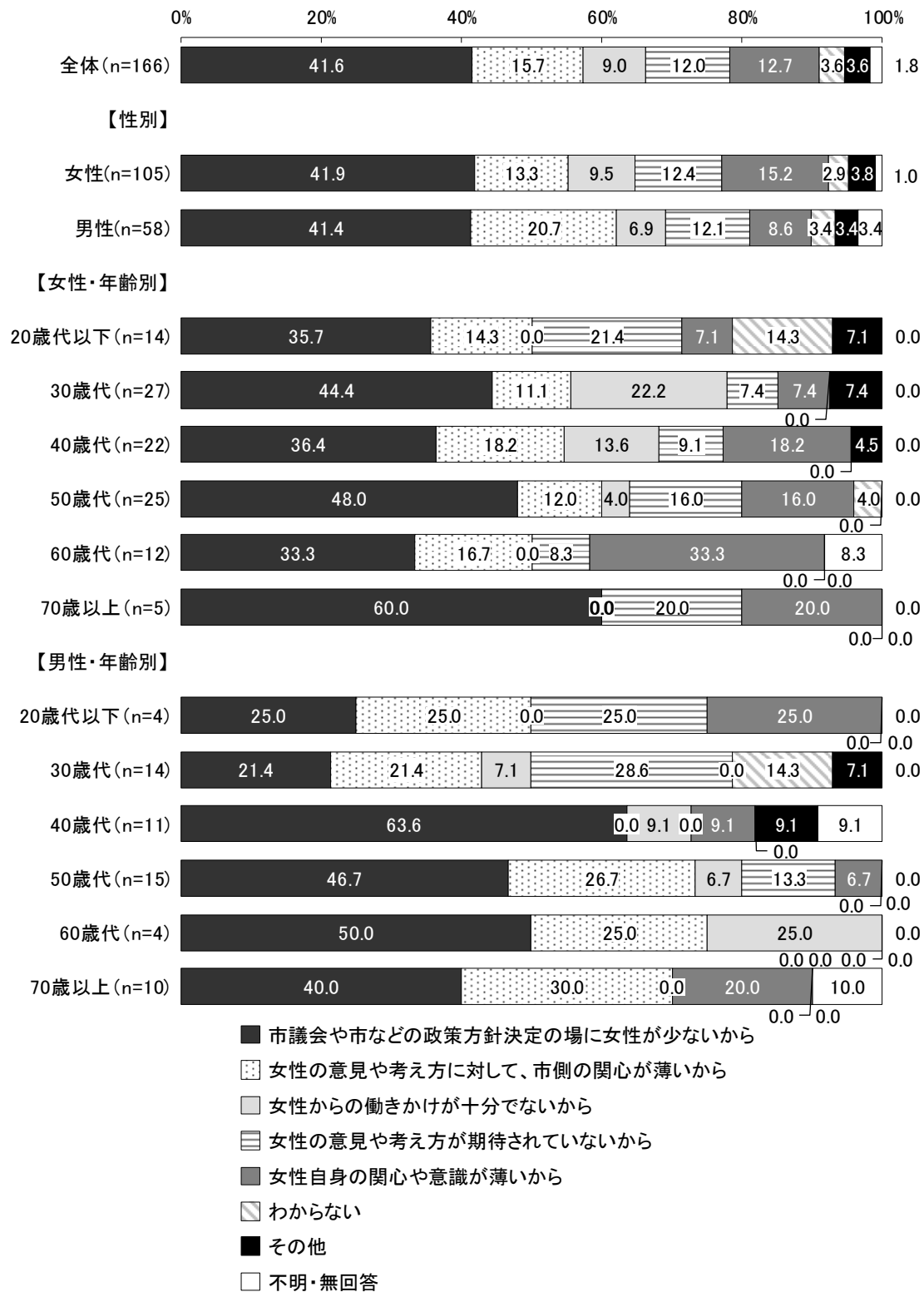
問 35 で「3. あまり反映されていない」または「4. ほとんど反映されていない」と答えた方のみ

問 35-1 市の施策に女性の意見や考え方が反映されていないと思われる理由は何ですか。(単数回答)

市の施策に女性の意見や考え方が反映されていないと思う理由は、全体で「市議会や行政などの政策方針決定の場に女性が少ないから」が 41.6%と最も高く、次いで「女性の意見や考え方に対して、市側の関心が薄いから」が 15.7%となっています。

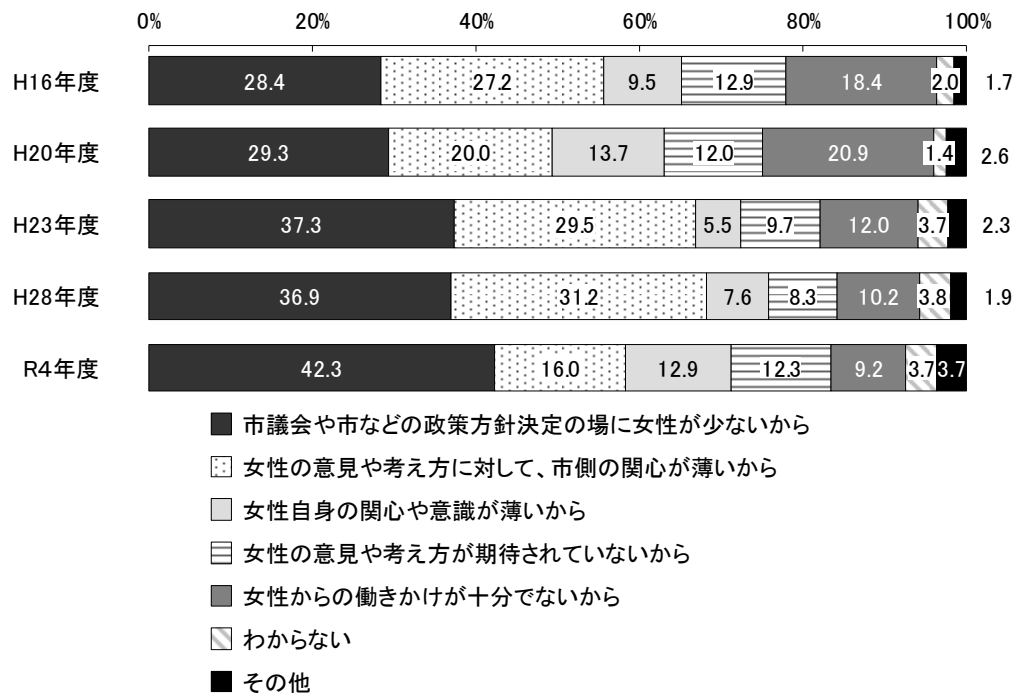
性別では、女性・男性ともに「市議会や行政などの政策方針決定の場に女性が少ないから」がそれぞれ4割強と高くなっています。

性別・年齢別では、男性の30歳代を除いて「市議会や行政などの政策方針決定の場に女性が少ないから」が上位となっています。



経年比較

H20 年度以降、「市議会や行政などの政策方針決定の場に女性が少ないから」が増加傾向にあります。また、R4 年度には「女性の意見や考え方に対して、市側の関心が薄いから」は減少し、「女性自身の関心や意識が薄いから」「女性の意見や考え方が期待されていないから」は増加しています。



※各年度の調査結果は、「不明・無回答」を除いて算出した割合です。

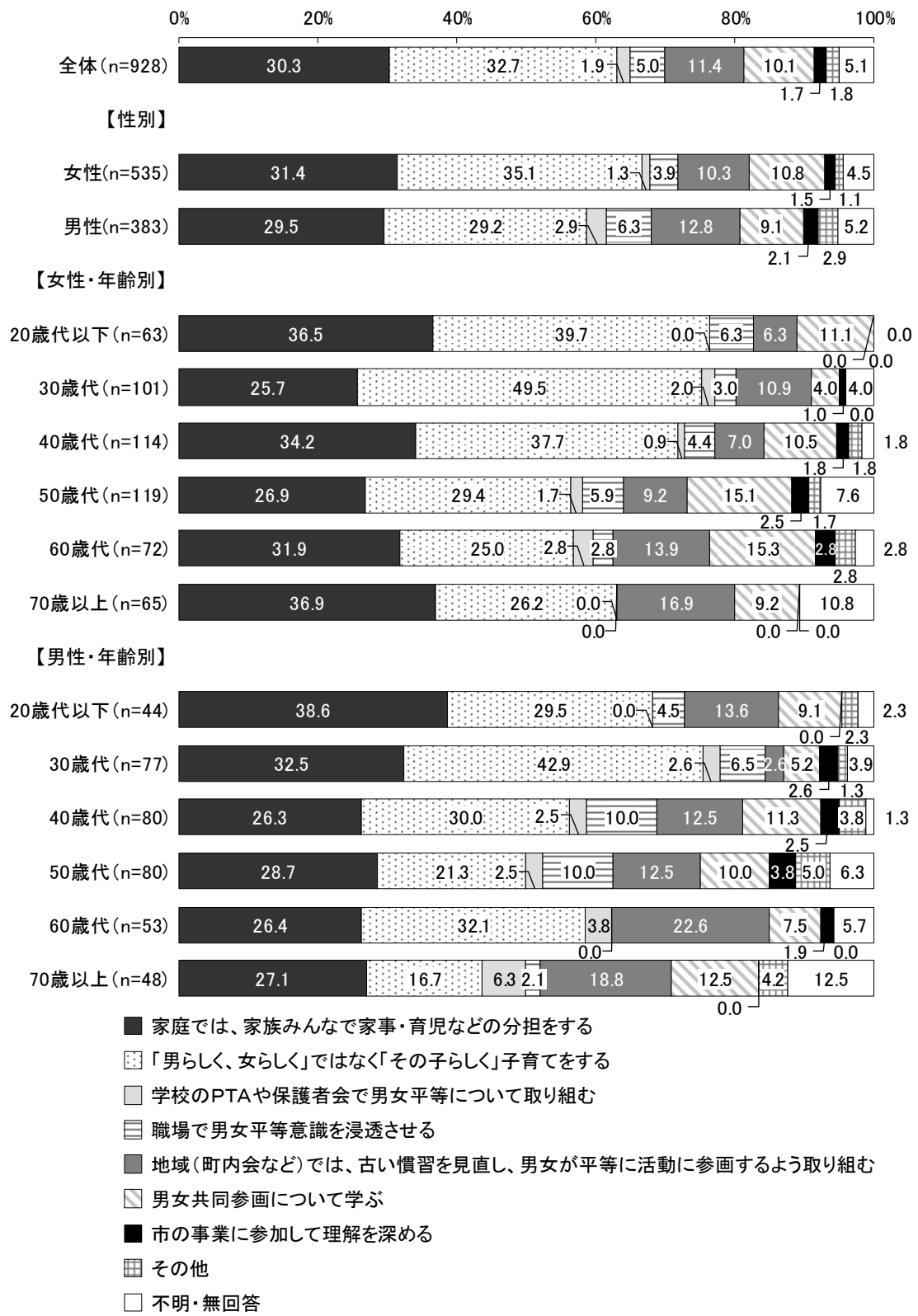
11 男女共同参画に関する考え方について

問 36 男女共同参画は、私たち一人ひとりの身近な課題です。あなたなら、どんなことができると思いますか。(単数回答)

男女共同参画でできることは、全体で「男らしく、女らしく」ではなく「その子らしく」子育てをする」が 32.7%と最も高く、次いで「家庭では、家族みんなで家事・育児などの分担をする」が 30.3%となっています。

性別では、「男らしく、女らしく」ではなく「その子らしく」子育てをする」が女性で 35.1%と、男性と比べて 5.9 ポイント高くなっています。

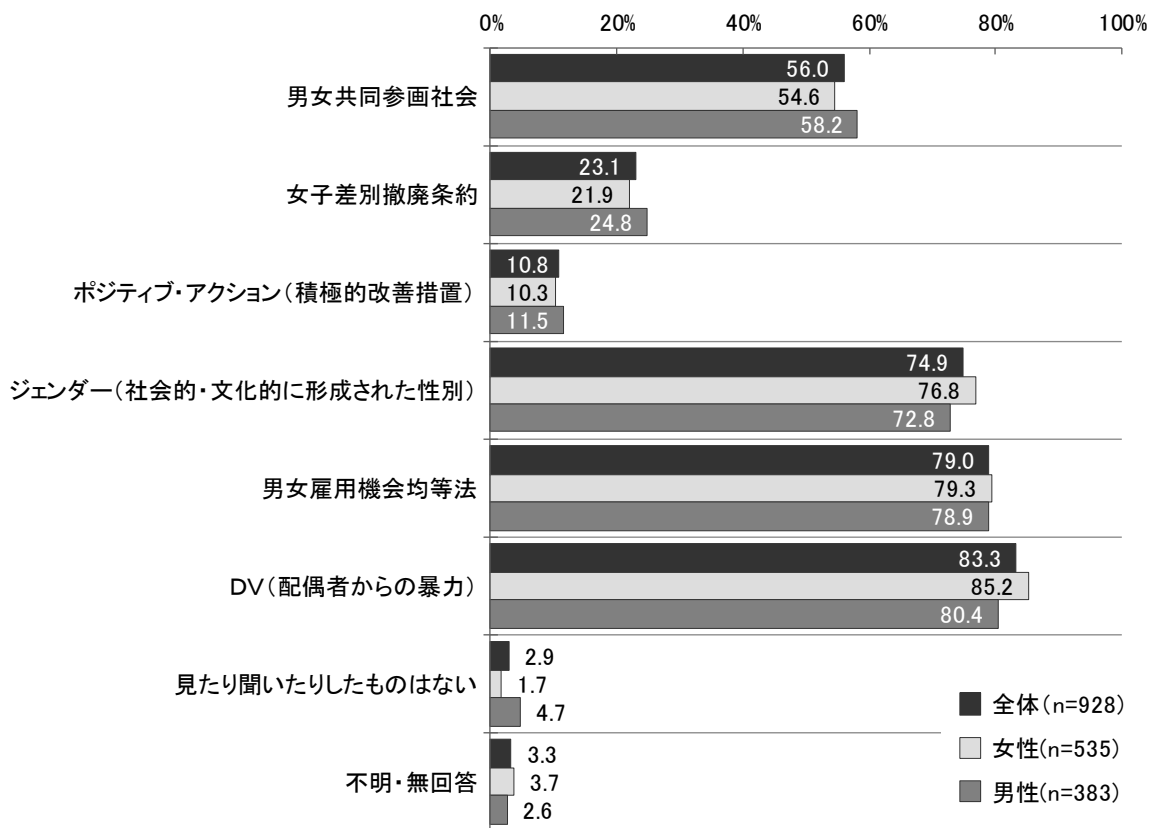
性別・年齢別では、女性の年代が若いほど「男らしく、女らしく」ではなく「その子らしく」子育てをする」が高い傾向があり、特に 30 歳代では 49.5%と高くなっています。また、男性の 30 歳代では「男らしく、女らしく」ではなく「その子らしく」子育てをする」が 42.9%と、男性の他の年代と比べて高くなっています。



問 37 次の言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものを教えてください。
(複数回答)

見聞きしたことがある言葉については、全体で「DV（配偶者からの暴力）」が83.3%と最も高く、次いで「男女雇用機会均等法」が79.0%となっています。

性別では、「見たり聞いたりしたものはない」が女性で1.7%、男性で4.7%であり、いずれの言葉も10ポイント以上の男女差はみられません。



性別・年齢別比較

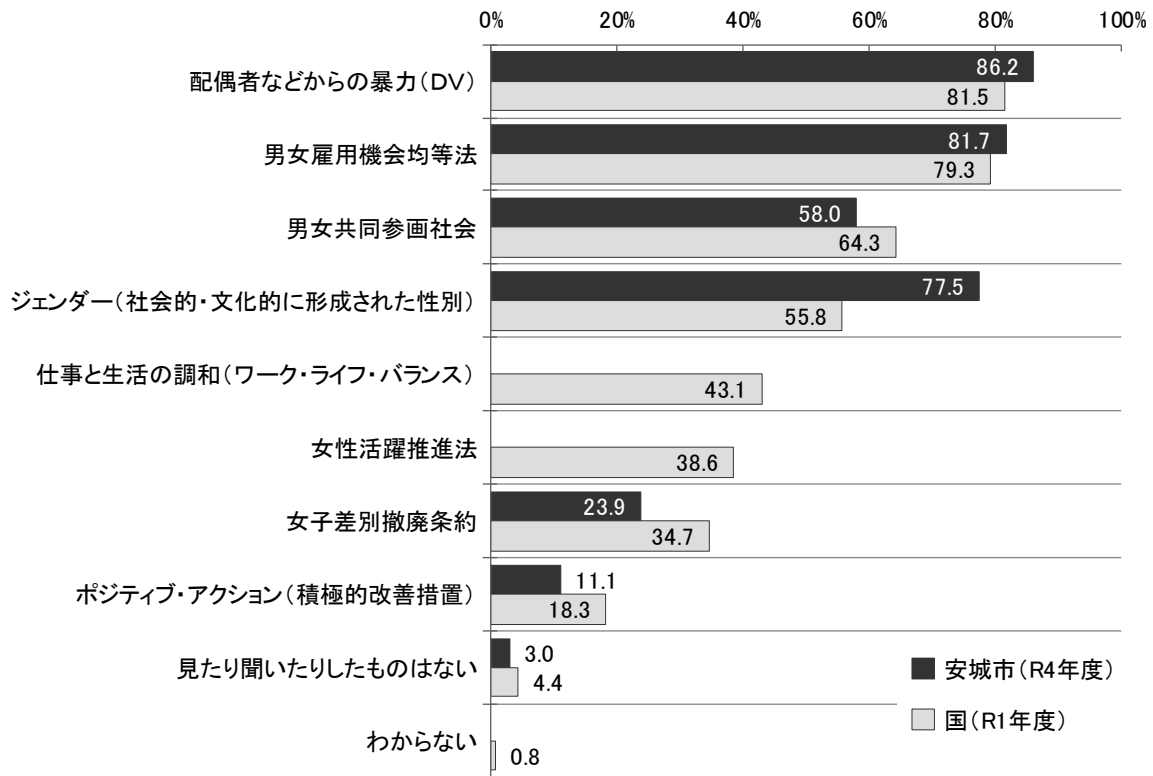
女性の30歳代以下及び男性の30歳代で、「ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）」の認知度がそれぞれ8割以上と高くなっています。

(単位: %)	n=	男女共同参画社会	女子差別撤廃条約	ポジティブ・アクション(積極的改善措置)	ジェンダー(社会的・文化的に形成された性別)	男女雇用機会均等法	DV(配偶者からの暴力)	見たり聞いたりしたものは ない	不明・無回答
女性・年齢別									
20歳代以下	63	88.9	31.7	9.5	88.9	77.8	85.7	1.6	1.6
30歳代	101	65.3	31.7	12.9	92.1	84.2	93.1	0.0	3.0
40歳代	114	43.9	19.3	8.8	78.9	81.6	86.8	1.8	0.9
50歳代	119	45.4	16.0	10.9	77.3	78.2	82.4	3.4	5.9
60歳代	72	52.8	16.7	6.9	66.7	84.7	87.5	0.0	2.8
70歳以上	65	43.1	18.5	12.3	47.7	64.6	72.3	3.1	9.2
男性・年齢別									
20歳代以下	44	63.6	22.7	18.2	75.0	63.6	81.8	9.1	2.3
30歳代	77	67.5	31.2	7.8	81.8	77.9	84.4	5.2	1.3
40歳代	80	41.3	25.0	8.8	73.8	80.0	82.5	5.0	2.5
50歳代	80	58.8	20.0	12.5	77.5	83.8	78.8	5.0	0.0
60歳代	53	62.3	22.6	15.1	69.8	86.8	84.9	1.9	1.9
70歳以上	48	60.4	25.0	10.4	50.0	77.1	68.8	2.1	10.4

※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目**第1位**と**第2位**に網かけをしています。

国比較

安城市が国との比較で差が大きい項目は、「ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）」が 21.7 ポイント高く、「女子差別撤廃条約」が 10.8 ポイント低くなっています。



※選択肢の「女性活躍推進法」「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」及び「わからない」は、国のみです。

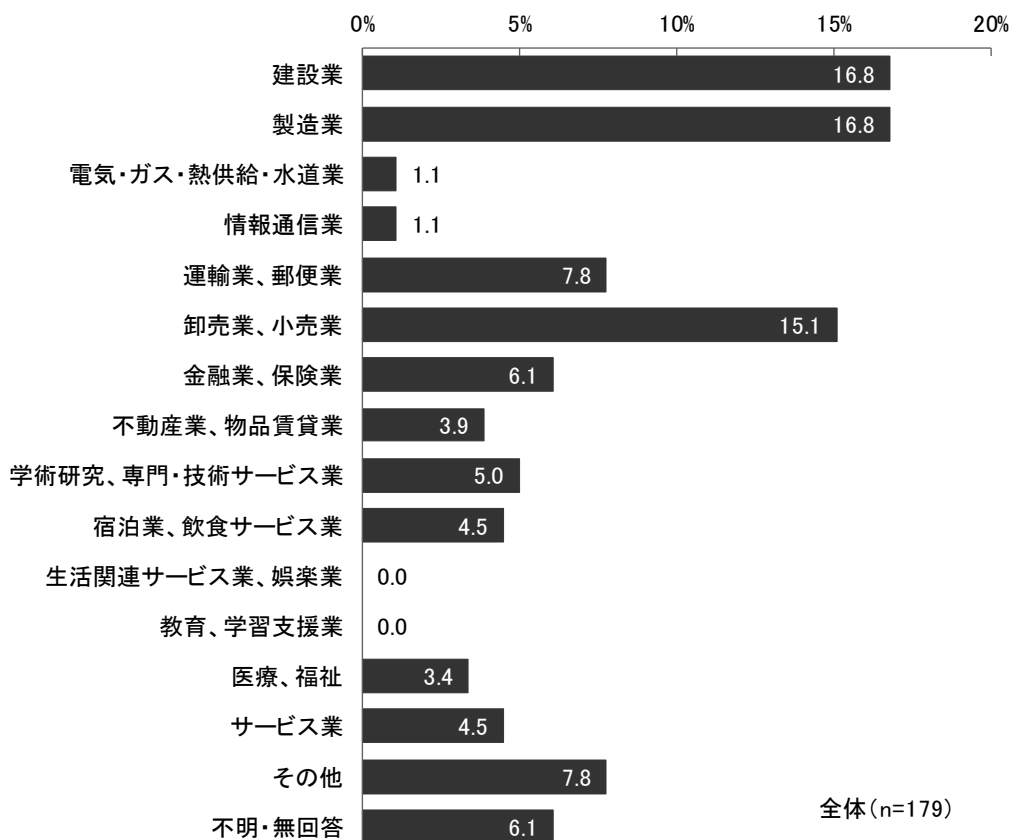
国の資料：男女共同参画社会に関する世論調査報告書（令和元年9月調査）

Ⅲ 企業調査結果

1 回答企業の概要

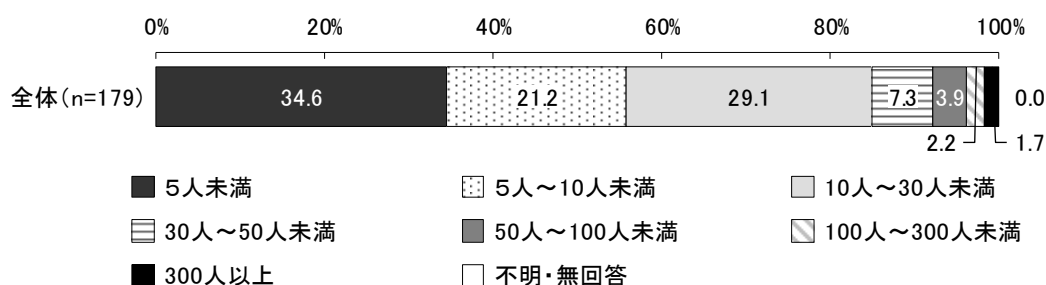
問1 貴社の主な業種について、あてはまるものをお答えください。(単数回答)

主な業種は、「建設業」「製造業」がそれぞれ 16.8%と最も高く、次いで「卸売業、小売業」が 15.1%となっています。



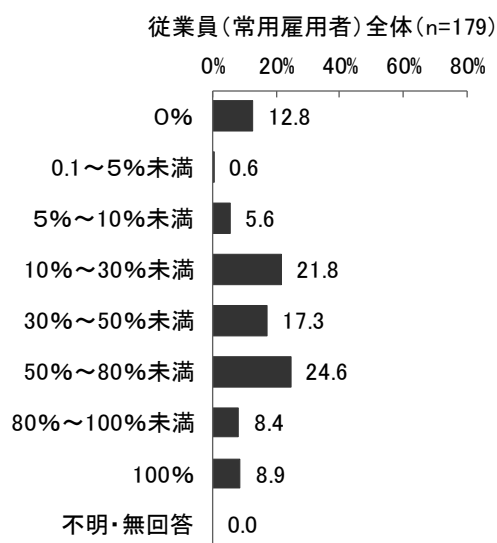
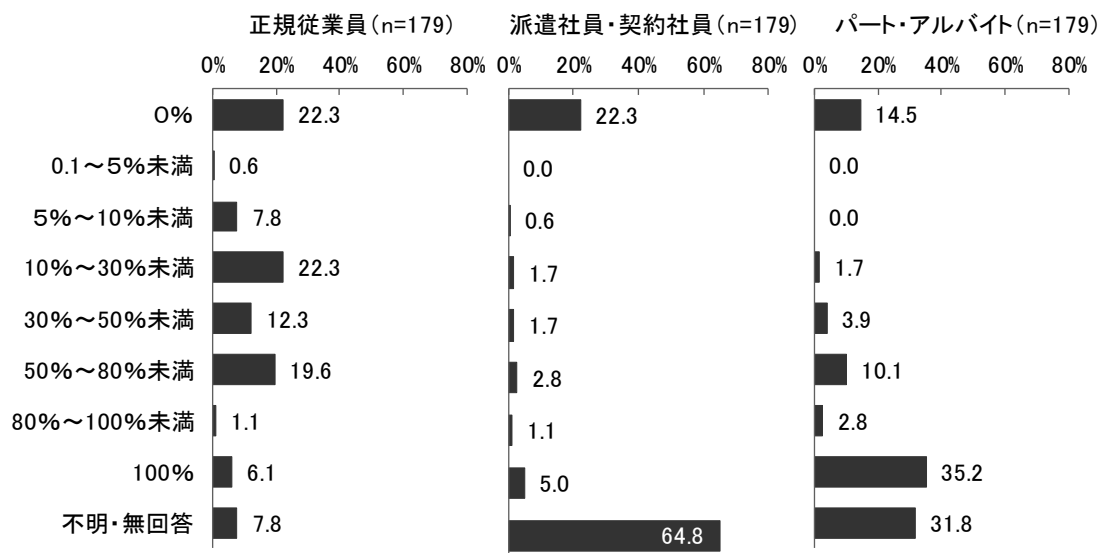
問2 貴社の従業員（常用雇用者）の人数を教えてください。(数量回答)

従業員（常用雇用者）の人数は、全体で「5人未満」が 34.6%と最も高く、次いで「10人～30人」が 29.1%となっています。なお、10人未満の事業所が 55.8%を占めています。



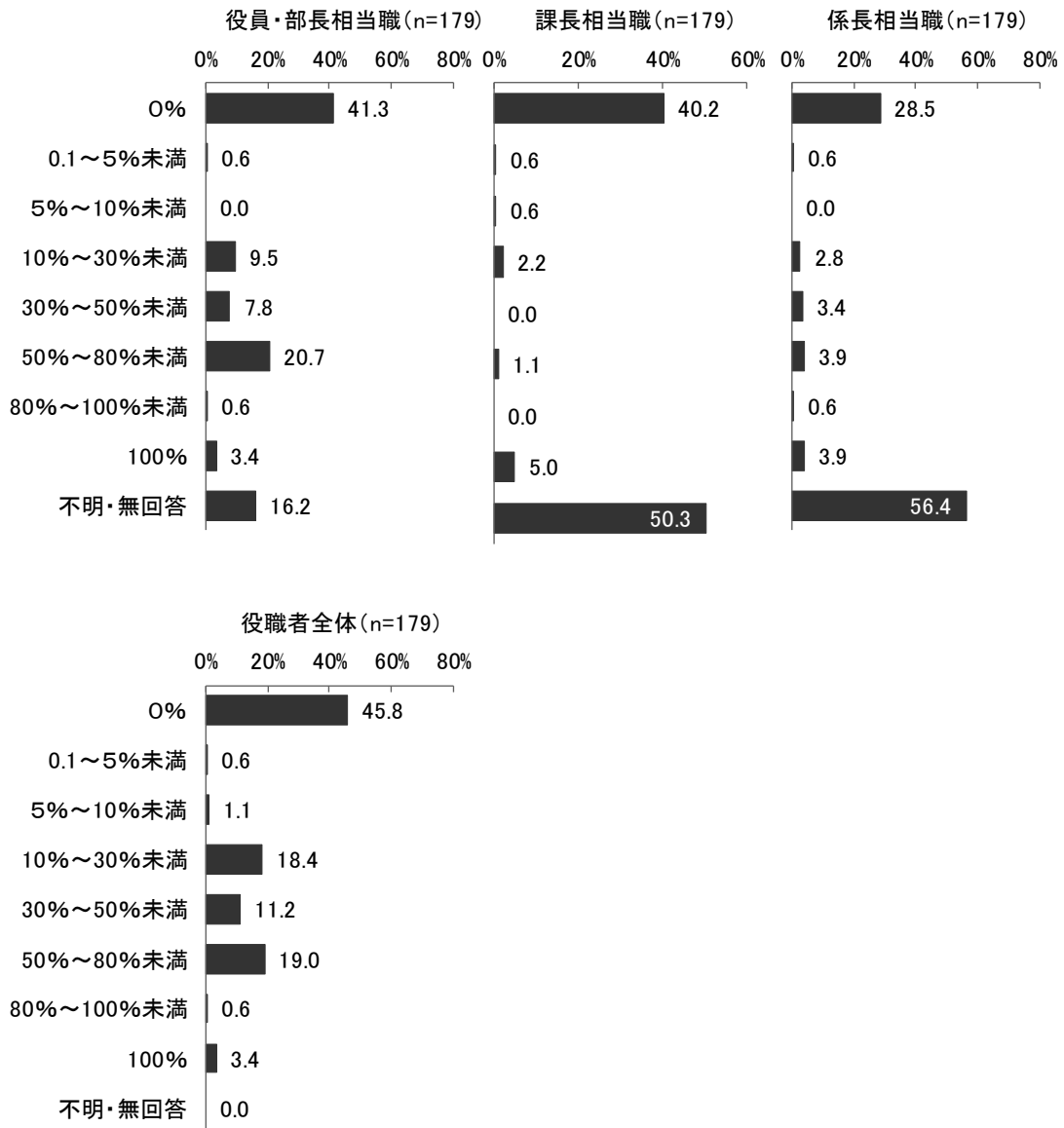
雇用形態別の女性比率

雇用形態別の女性比率についてみると、正規従業員は「0%」「10%～30%」がそれぞれ22.3%と最も高く、次いで「50%～80%」が19.6%となっています。パート・アルバイトは「100%」が35.2%と最も高くなっています。従業員（常用雇用者）全体では、「50%～80%」が24.6%と最も高く、次いで「10%～30%」が21.8%となっています。



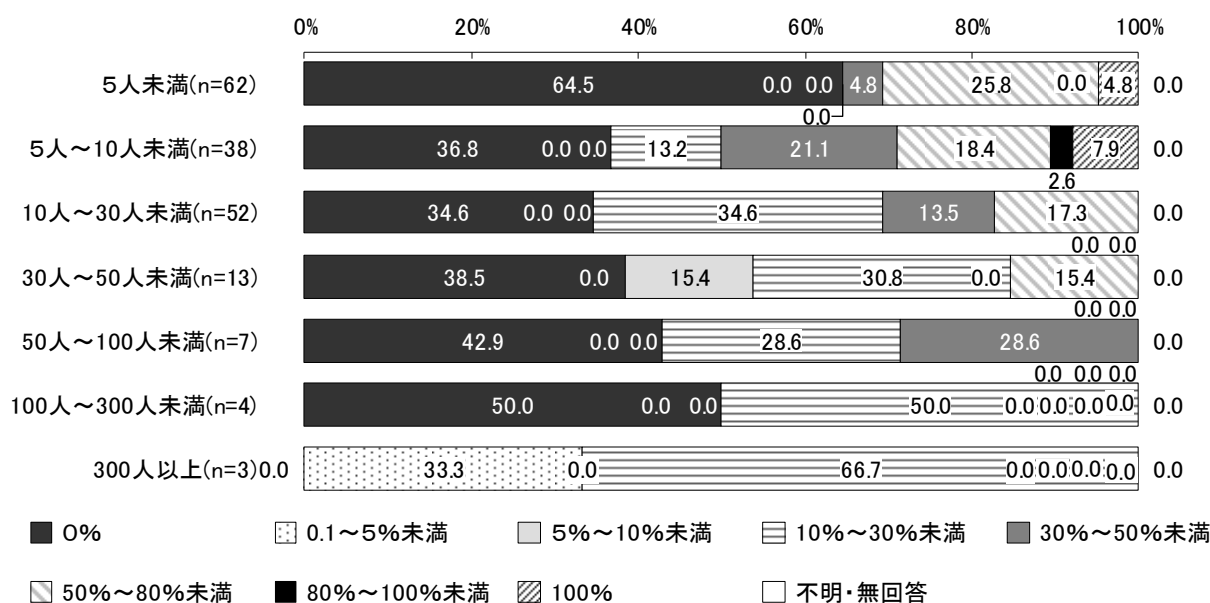
問3 役職者の女性比率

役職別の女性比率についてみると、役員・部長相当職、課長相当職及び係長相当職のいずれも、「0%」が最も高く、役員・部長相当職が41.3%、課長相当職が40.2%、係長相当職が28.3%となっています。役職者全体では、「0%」が45.8%と最も高く、次いで「50%~80%」が19.0%となっています。



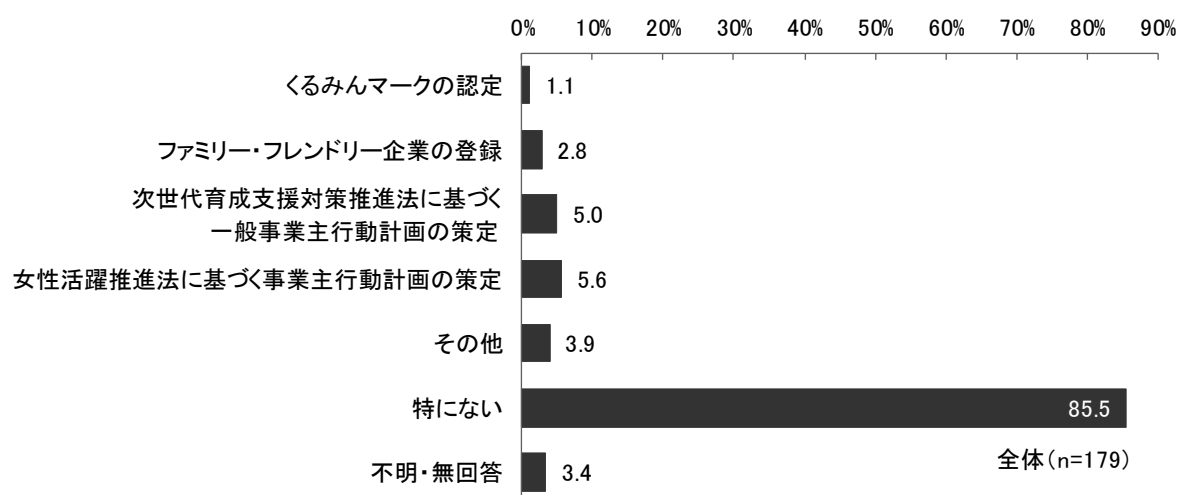
事業所規模別の女性比率

事業所規模別の女性比率についてみると、100人未満の事業所で「0%」がそれぞれ最も高く、5人未満の事業所では64.5%と高くなっています。



問4 貴社は、次のような取組を行っていますか。(複数回答)

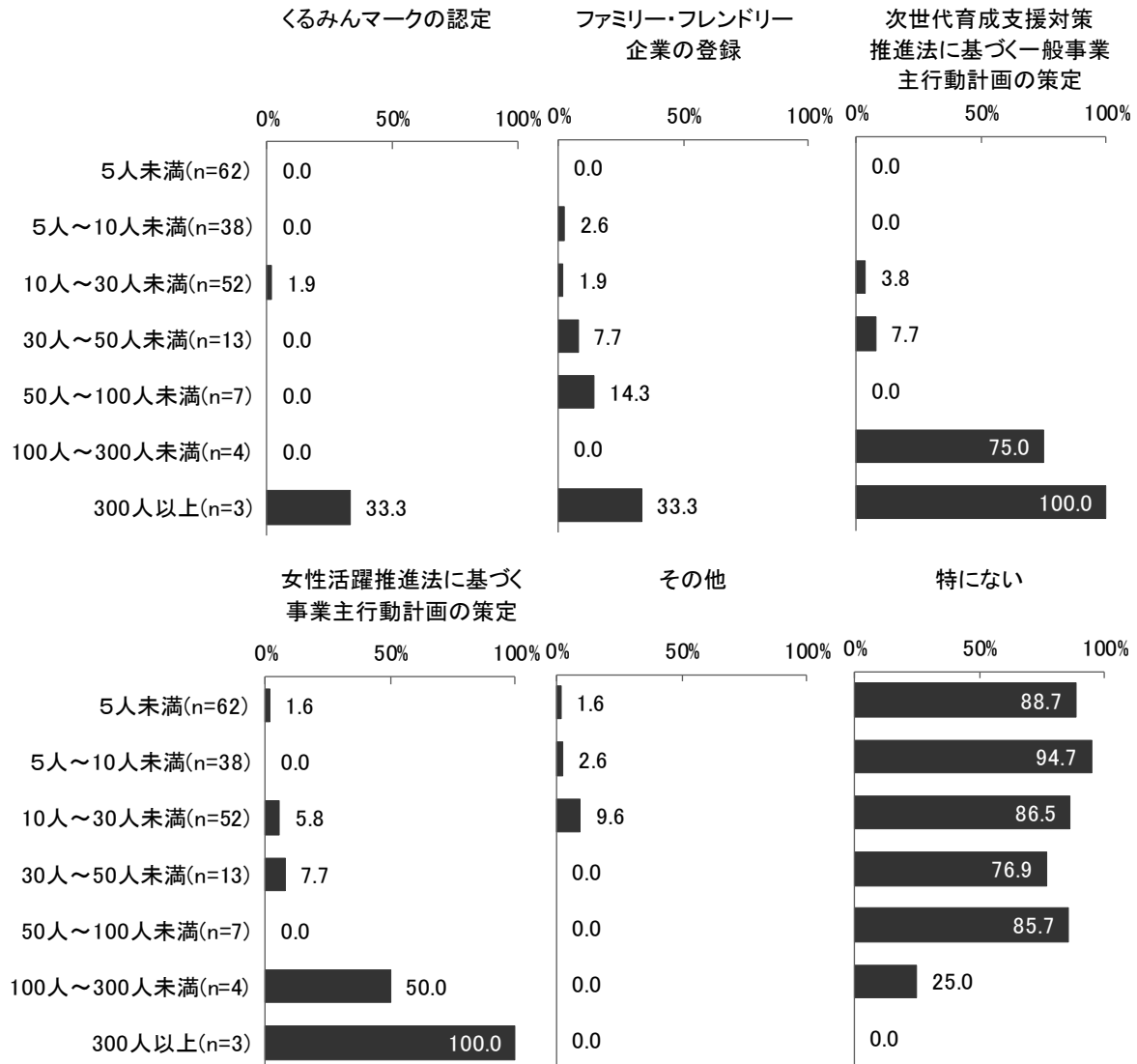
各企業における取組は、「特にない」が85.5%と最も高くなっています。なお、取組んでいる企業では「女性活躍推進法に基づく事業主行動計画の策定」「次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画の策定」がそれぞれ5%台となっています。



事業所規模別の取組

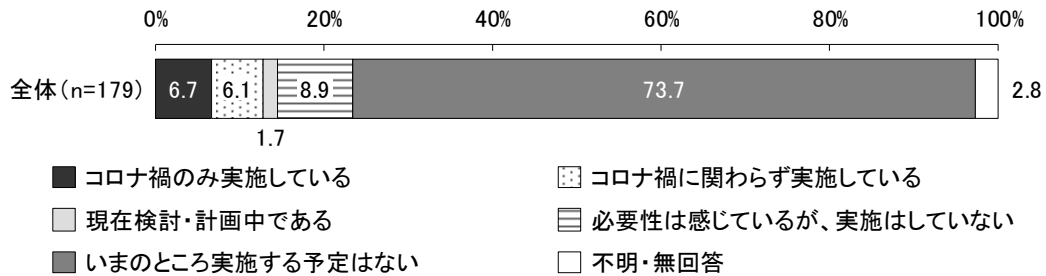
事業所規模別における取組は、100人未満の事業所で「特にない」が7割を超えて高くなっています。

なお、取り組んでいる項目のうち、100人以上の事業所で「次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画の策定」「女性活躍推進法に基づく事業主行動計画の策定」が、100人未満の事業所と比べて高くなっています。



問5 貴社のテレワークの実施状況を教えてください。(単数回答)

テレワークの実施状況は、「いまのところ実施する予定はない」が73.7%と最も高く、次いで「必要性は感じているが、実施はしていない」が8.9%となっています。



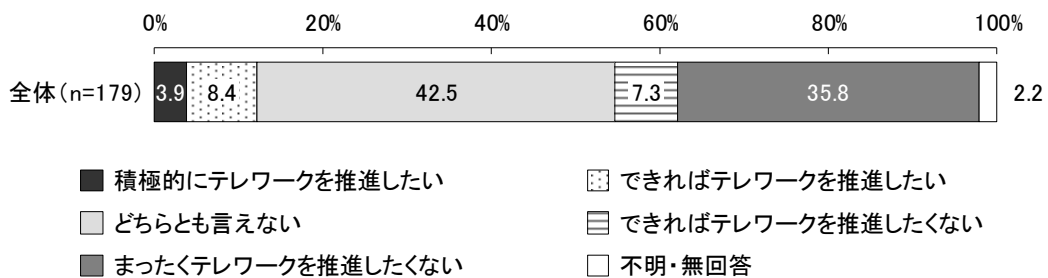
問6 貴社では、時間や場所にとらわれない柔軟な働き方を可能にするテレワークを推進していく方向性がありますか。コロナ禍の収束に関わらず、お答えください。(単数回答)

問6の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『推進したい』 … 「積極的にテレワークを推進したい」と「できればテレワークを推進したい」を合算

『推進したくない』 … 「できればテレワークを推進したくない」と「まったくテレワークを推進したくない」を合算

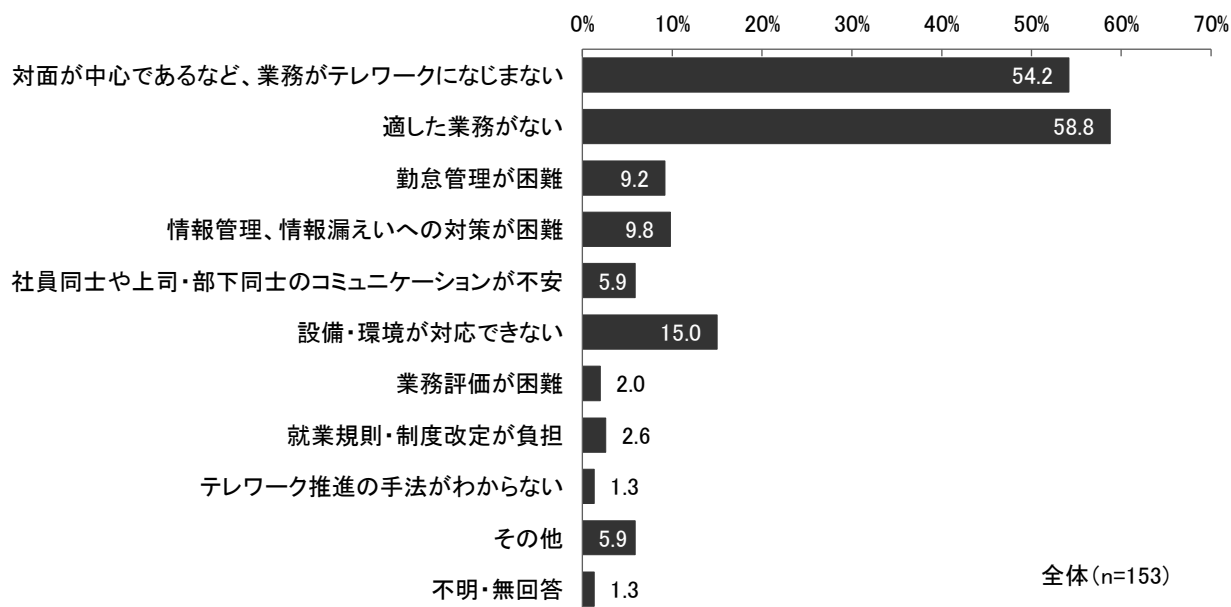
テレワークの推進については、『推進したい』が12.3%、「どちらとも言えない」が42.5%、『推進したくない』が43.1%となっています。



問6で「3. どちらとも言えない」「4. できればテレワークを推進したくない」「5. まったくテレワークを推進したくない」のいずれかと回答した方のみ

問6-1 テレワークの推進にあたって障害となっていることは何ですか。(複数回答)

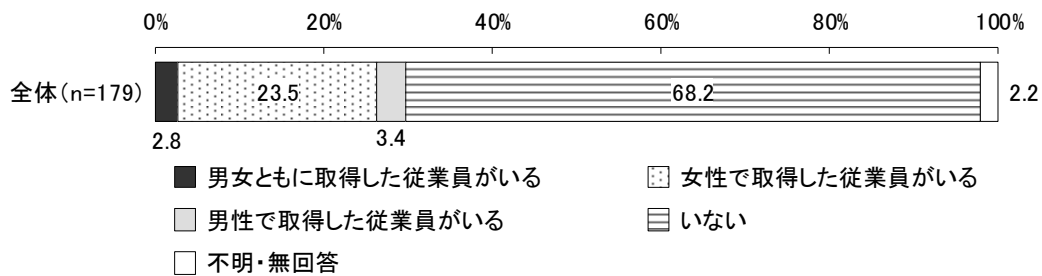
テレワークの推進にあたって障害となっていることは、「適した業務がない」が58.8%と最も高く、次いで「対面が中心であるなど、業務がテレワークになじまない」が54.2%となっています。



2 育児や介護に関する制度について

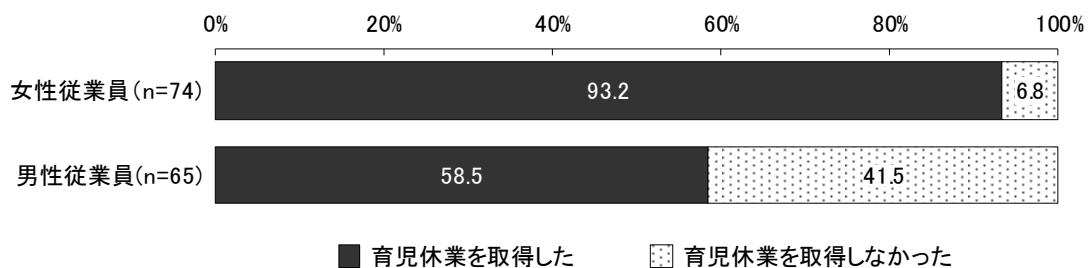
問7 貴社では、これまでに育児休業制度を利用した従業員はいましたか。(単数回答)

これまでに育児休業制度を利用した従業員は、「いない」が68.2%と最も高く、次いで「女性で取得した従業員がいる」が23.5%となっています。



問8 令和3年度の1年間の育児休業取得率

出産した女性従業員は93.2%が育児休業を取得していますが、配偶者が出産して育児休業を取得した男性従業員は58.5%となっています。



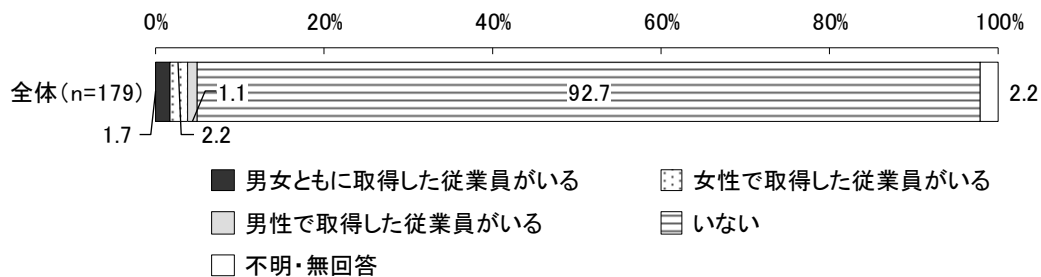
※「不明・無回答」を除いて算出しています。

$$\text{※女性従業員の育児休業取得率(\%)} = \frac{\text{出産した女性従業員のうち育児休業を取得した女性従業員数}}{\text{回答のあった企業(n=147)中で出産した女性従業員数}} \times 100$$

$$\text{※男性従業員の育児休業取得率(\%)} = \frac{\text{配偶者が出産した男性従業員のうち育児休業を取得した男性従業員数}}{\text{回答のあった企業(n=141)中で配偶者が出産した男性従業員数}} \times 100$$

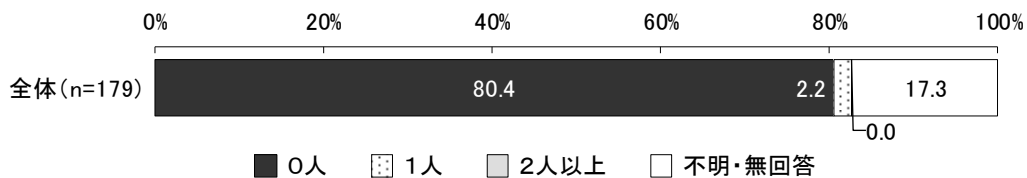
問9 貴社では、これまでに介護休業制度を利用した従業員はいましたか。(単数回答)

介護休業制度を利用した従業員は、「いない」が92.7%と最も高く、「男女ともに取得した従業員がいる」「女性で取得した従業員がいる」「男性で取得した従業員がいる」はいずれも数%にとどまっています。



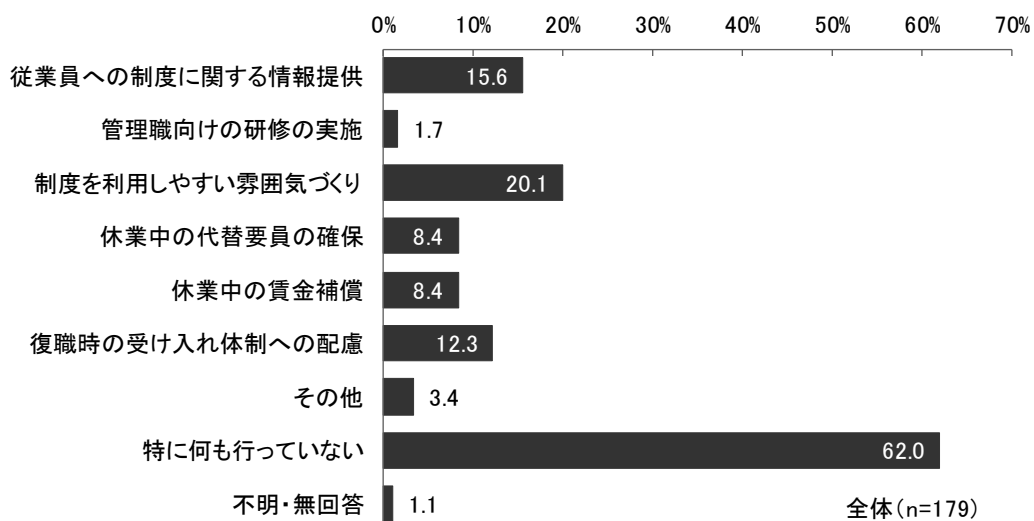
問10 令和3年度の1年間に介護休業を取得した人数を教えてください。(数量回答)

令和3年度の1年間に介護休業を取得した従業員は、全体で「1人」が2.2%となっています。



問11 貴社で育児・介護休業制度を定着させるために行っていることは何ですか。(複数回答)

育児・介護休業制度を定着させるために行っていることは、「特に何も行っていない」が62.0%と最も高く、次いで「制度を利用しやすい雰囲気づくり」が20.1%となっています。

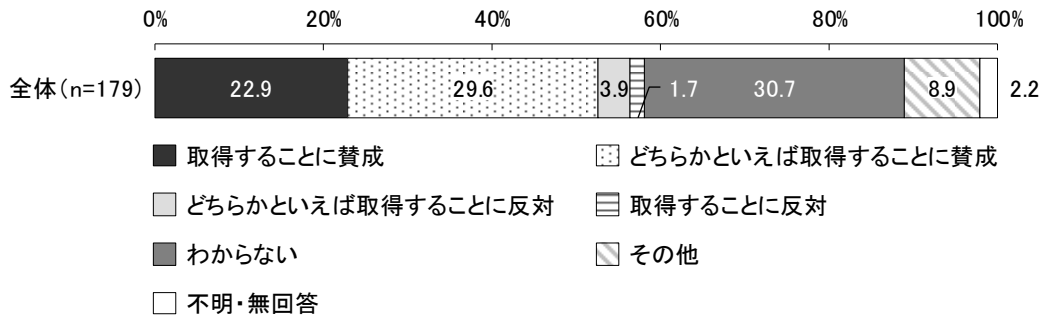


問 12 男性が育児休業や介護休業等を取得することについての貴社の考えに最も近いものはどれですか。(単数回答)

問 12 の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

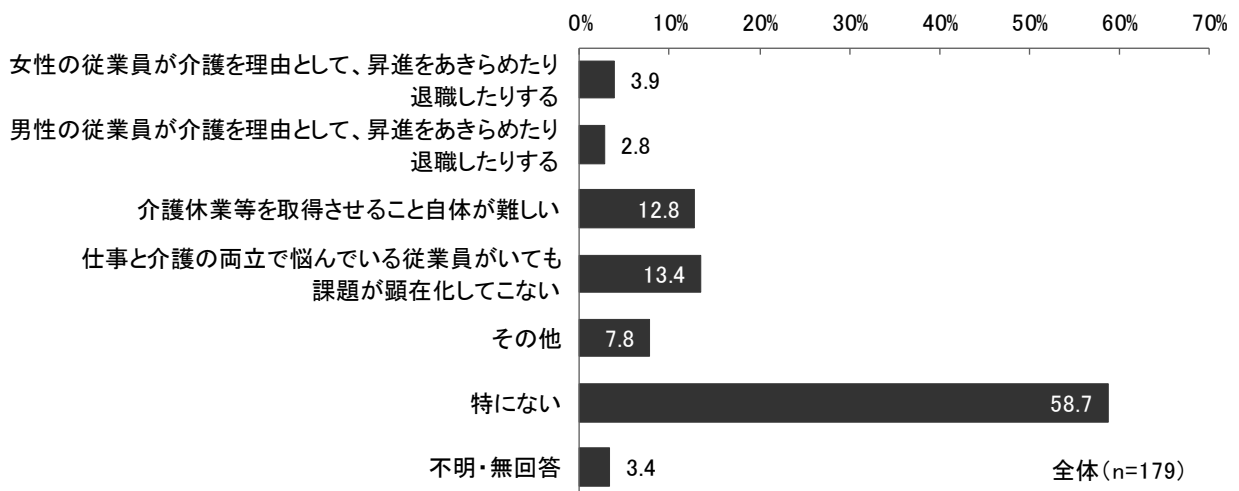
『賛成』…「取得することに賛成」と「どちらかといえば取得することに賛成」を合算
 『反対』…「取得することに反対」と「どちらかといえば取得することに反対」を合算

男性が育児休業や介護休業等を取得することについての企業の考えに最も近いものは、『賛成』が 52.5%、『反対』は 5.6%、「わからない」が 30.7%となっています。



問 13 貴社の従業員の、仕事と介護の両立における課題はありますか。(複数回答)

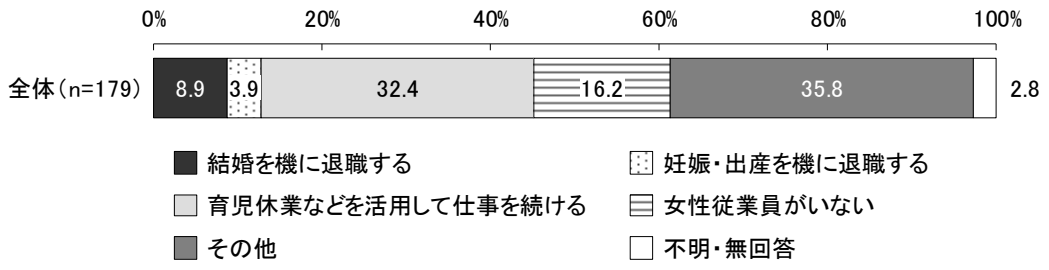
従業員の仕事と介護の両立における課題は、「特にない」が 58.7%と最も高く、次いで「仕事と介護の両立で悩んでいる従業員がいても課題が顕在化してこない」が 13.4%となっています。



3 女性従業員について

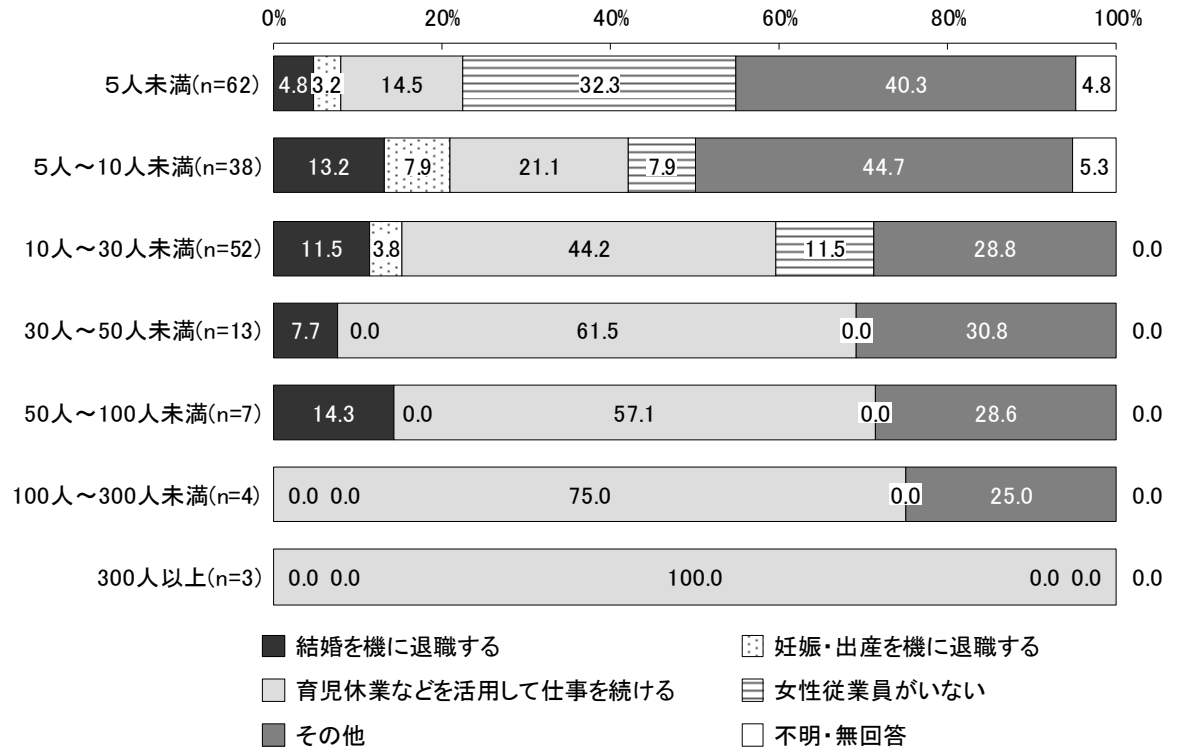
問 14 貴社の女性従業員の働き方として、どのようなかたちが多いですか。(単数回答)

女性従業員の働き方は、「その他」が35.8%と最も高く、次いで「育児休業などを活用して仕事を続ける」が32.4%となっています。なお、「結婚を機に退職する」は8.9%、「妊娠・出産を機に退職する」は3.9%となっています。



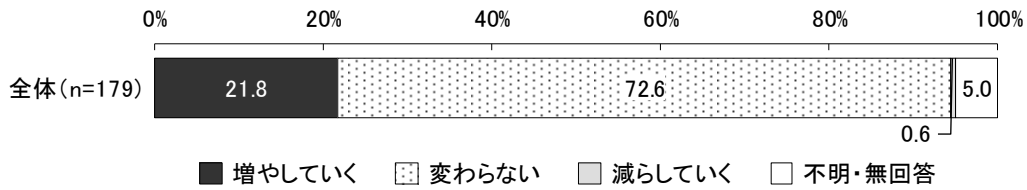
事業所規模別の働き方

事業所規模別の女性従業員の働き方は、「育児休業などを活用して仕事を続ける」が10人～30人未満の事業所で44.2%、30人～50人未満の事業所で61.5%となっています。なお、「結婚を機に退職する」は100人未満の事業所で1割程度みられ、10人未満の事業所では「その他」が4割程度みられます。



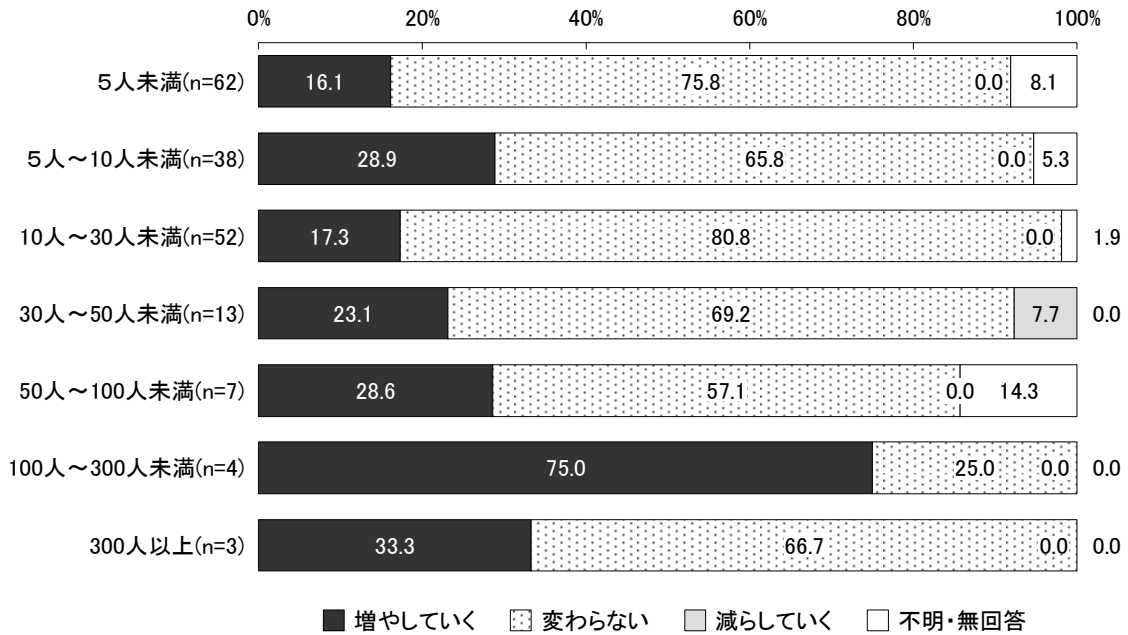
問15 女性従業員の数を現在と比べて増やしていく考えはありますか。(単数回答)

女性従業員の数を現在と比べて増やしていく考えは、「増やしていく」が21.8%、「変わらない」が72.6%、「減らしていく」が0.6%となっています。



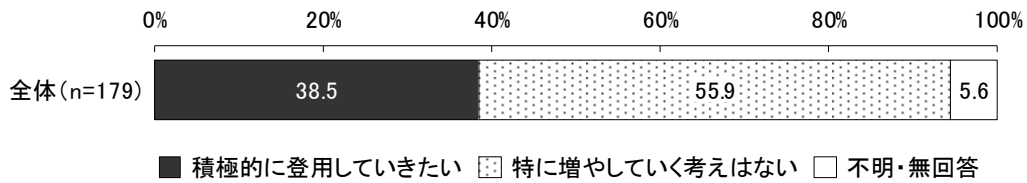
事業所規模別の増員計画

事業所規模別の女性従業員の増員計画は、「増やしていく」が50人未満の事業所で約2～3割となっています。



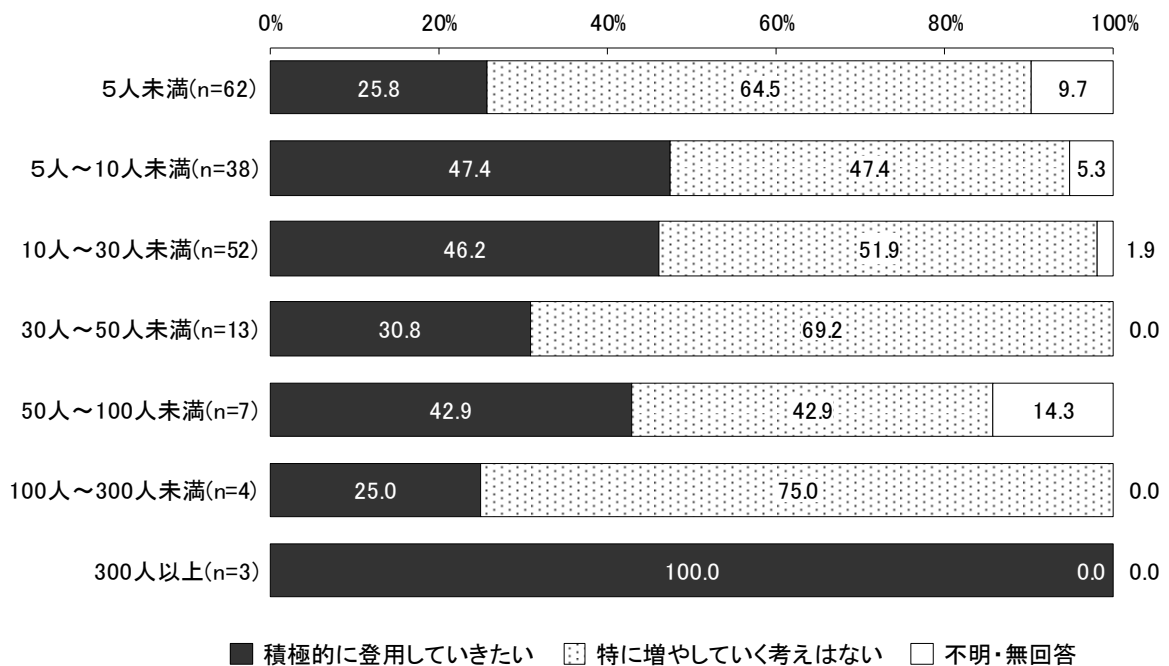
問16 今後管理職の登用にあって、女性を積極的に登用しようと考えていますか。(単数回答)

今後管理職に女性を積極的に登用しようと考えているかは、「積極的に登用していきたい」が38.5%、「特に増やしていく考えはない」が55.9%となっています。



事業所規模別の管理職登用

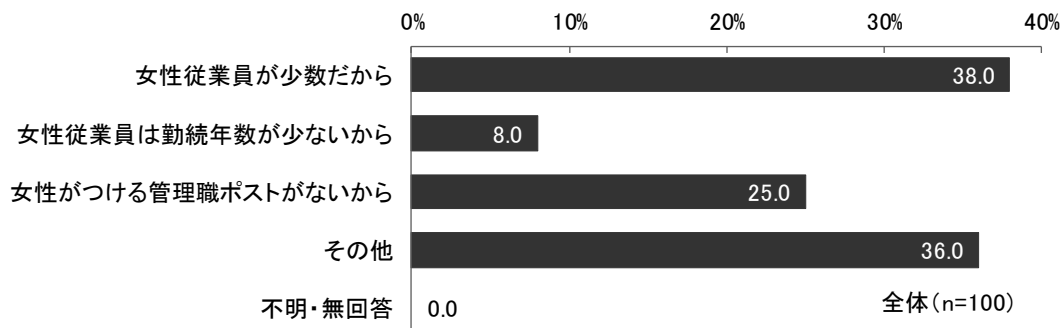
事業所規模別の女性従業員の増員計画は、「増やしていく」が5～30人未満及び50人～100人未満の事業所で約5割となっています。



問16で「2. 特に増やしていく考えはない」と回答した方のみ

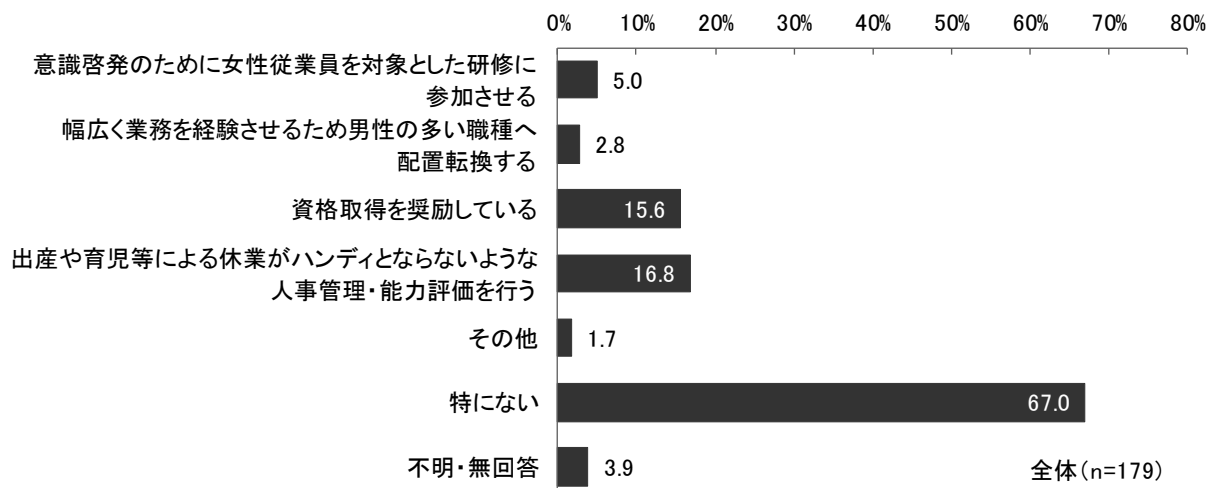
問16-1 その理由は何ですか。(複数回答)

特に増やしていく考えはない理由は、「女性従業員が少数だから」が38.0%と最も高く、次いで「その他」が36.0%となっています。



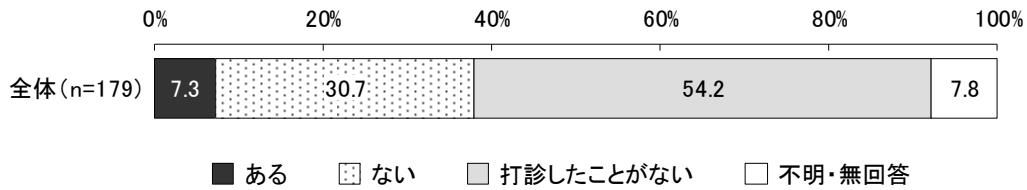
問17 女性の管理職の登用を促進するために取り組んでいることはありますか。(複数回答)

女性の管理職の登用を促進するために取り組んでいることは、「特にない」が67.0%と最も高く、次いで「出産や育児等による休業がハンディとならないような人事管理・能力評価を行う」が16.8%となっています。



問 18 管理職の登用にあたり、女性従業員に打診し断られたことがありますか。(単数回答)

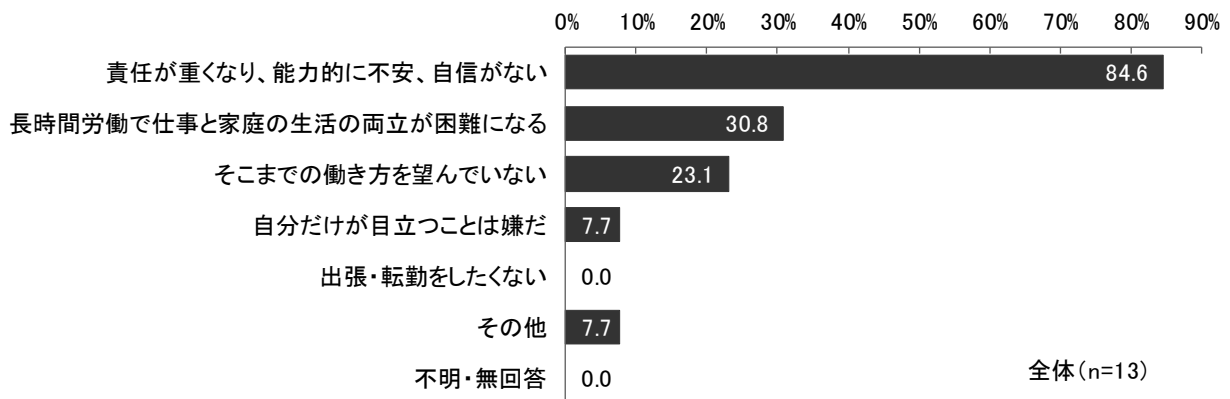
管理職の登用にあたり、女性従業員に打診し断られたことは、「ある」が7.3%、「ない」が30.7%、「打診したことがない」が54.2%となっています。



問 18 で「1. ある」と回答した方のみ

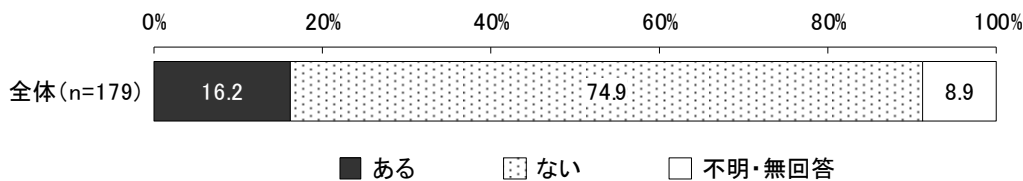
問 18-1 断られた理由は何ですか。(複数回答)

断られた理由は、「責任が重くなり、能力的に不安、自信がない」が84.6%と最も高く、次いで「長時間労働で仕事と家庭の生活の両立が困難になる」が30.8%となっています。



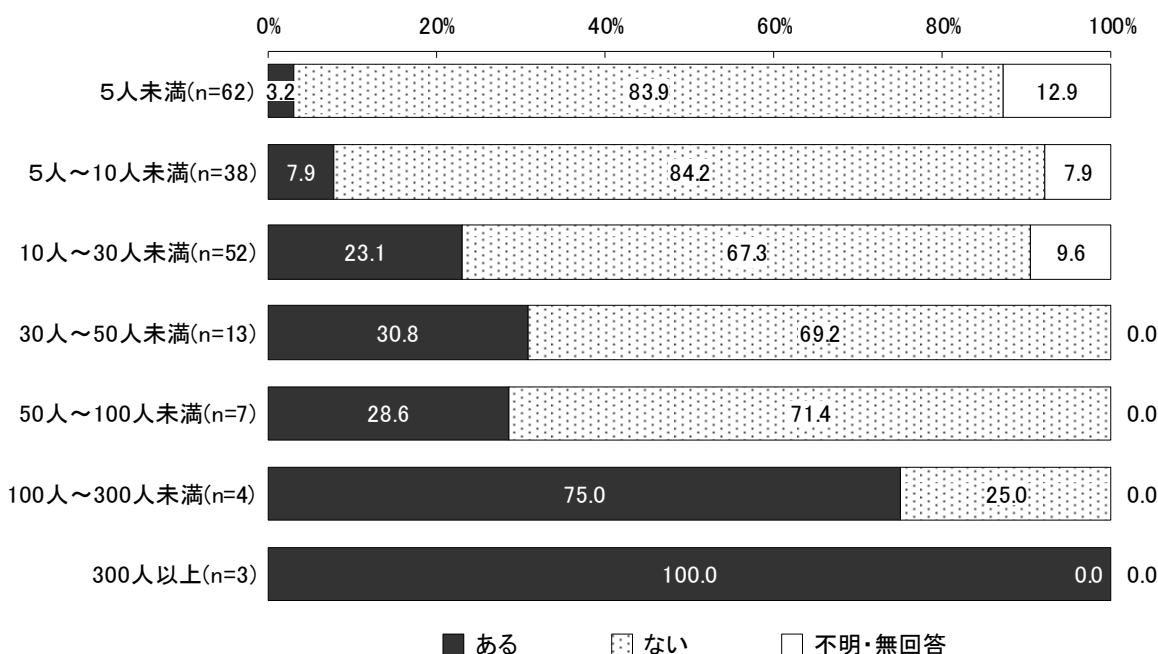
問19 今まで女性が少なかった職務に女性を配置したことがありますか。(単数回答)

今まで女性が少なかった職務に女性を配置したことは、「ある」が16.2%、「ない」が74.9%となっています。



事業所規模別の積極的登用

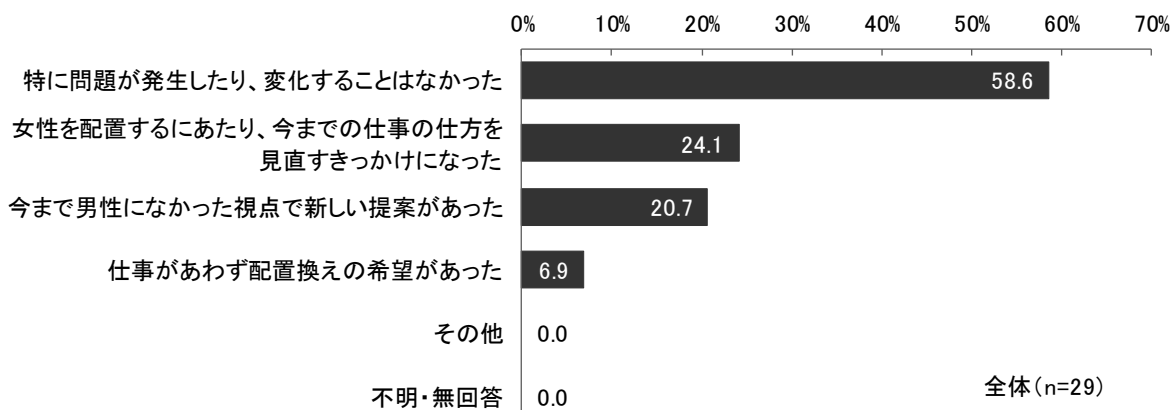
今まで女性が少なかった職務に女性を配置したことは、「ある」が10人未満で1割以下にとどまっており、10人～30人未満の事業所で23.1%、30人～50人未満の事業所で30.8%となっています。



問19で「1. ある」と回答した方のみ

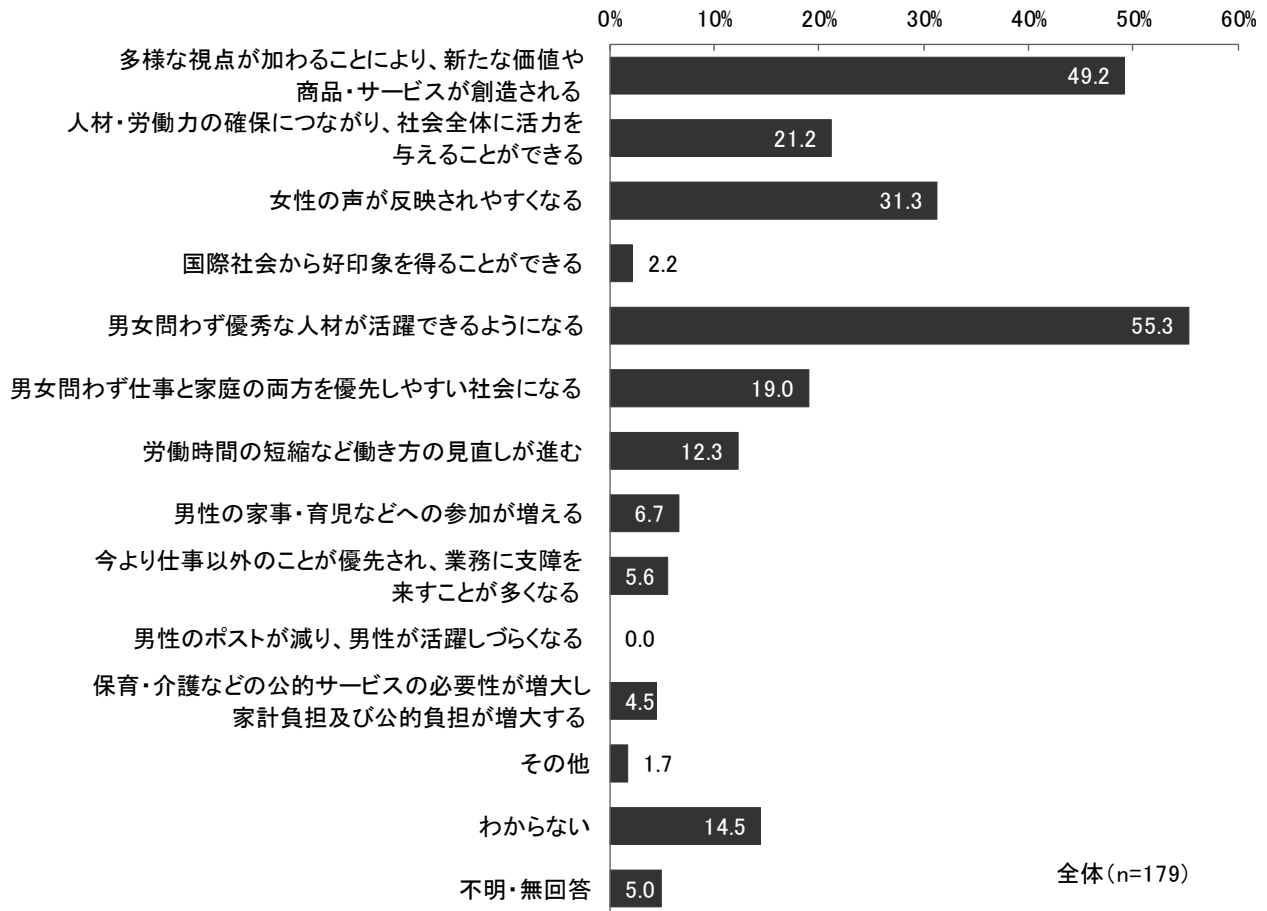
問19-1 配置してどうでしたか。(複数回答)

配置した結果は、「特に問題が発生したり、変化することはなかった」が58.6%と最も高く、次いで「女性を配置するにあたり、今までの仕事の仕方を見直すきっかけになった」が24.1%となっています。



問 20 女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思いますか。
(複数回答)

女性の参加が進み、女性のリーダーが増えることによる影響は、「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」が 55.3%と最も高く、次いで「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」が 49.2%となっています。



4 男女共同参画全般について

問 21 貴社では、次の項目の性別の状況はどの程度だと思われますか。(単数回答)

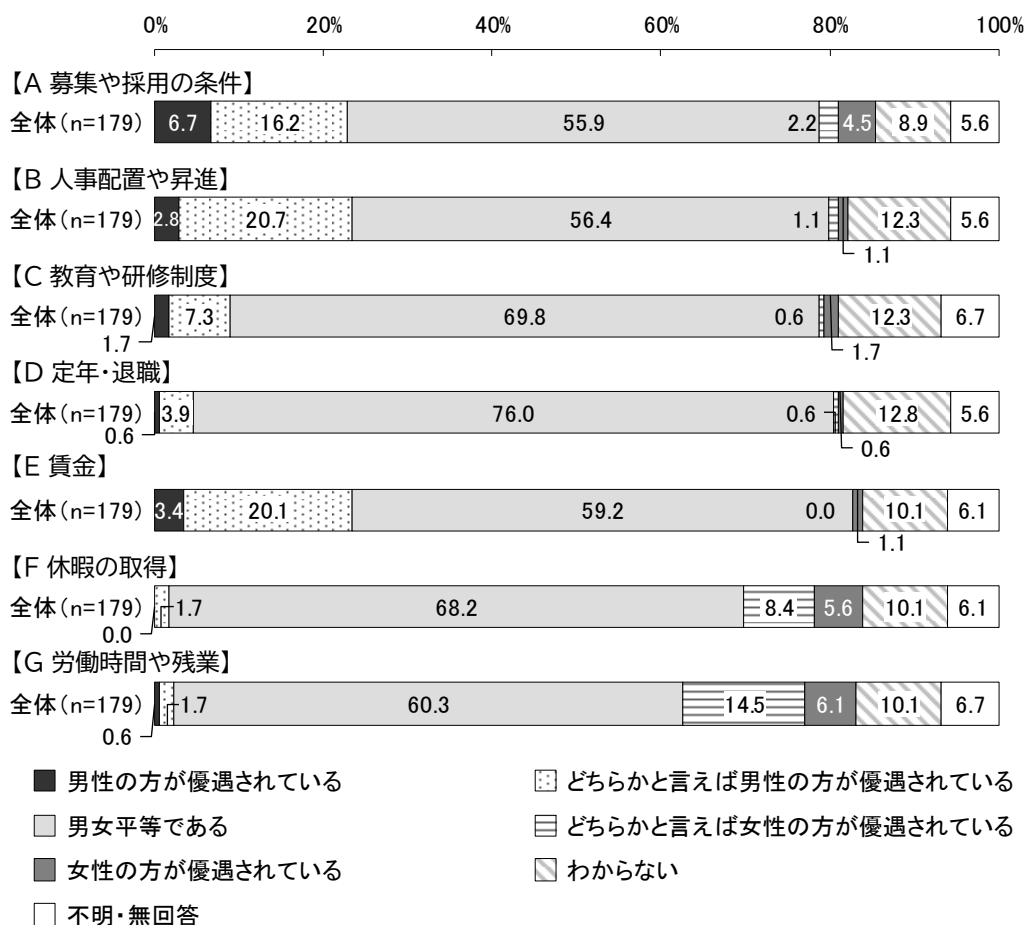
問 21 の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『男性優遇』…「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合算

『女性優遇』…「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合算

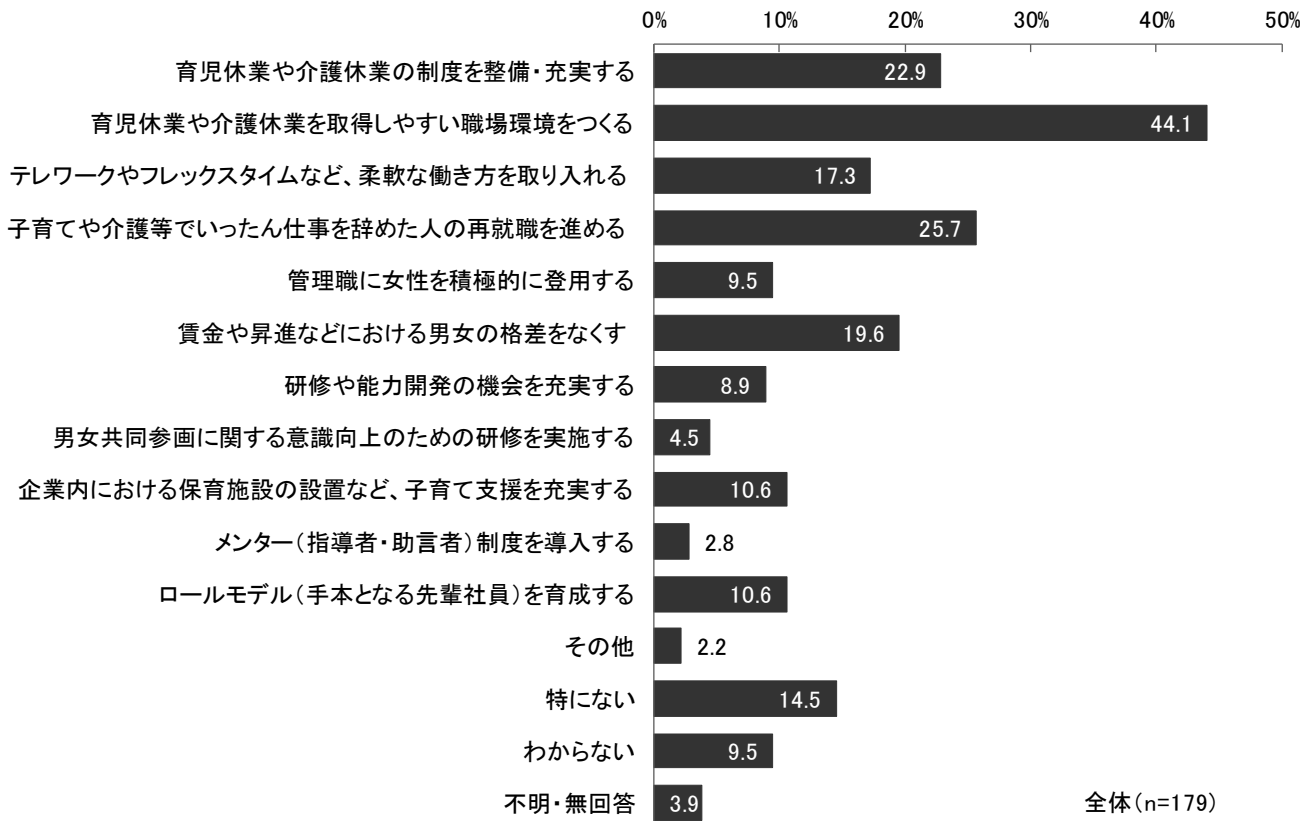
企業における性別の状況は、「A 募集や採用の条件」「B 人事配置や昇進」「E 賃金」について『男性優遇』が、「G 労働時間や残業」については『女性優遇』がそれぞれ2割を超えて高くなっています。

「C 教育や研修制度」「D 定年・退職」「F 休暇の取得」については、「男女平等である」が7割前後と高くなっています。



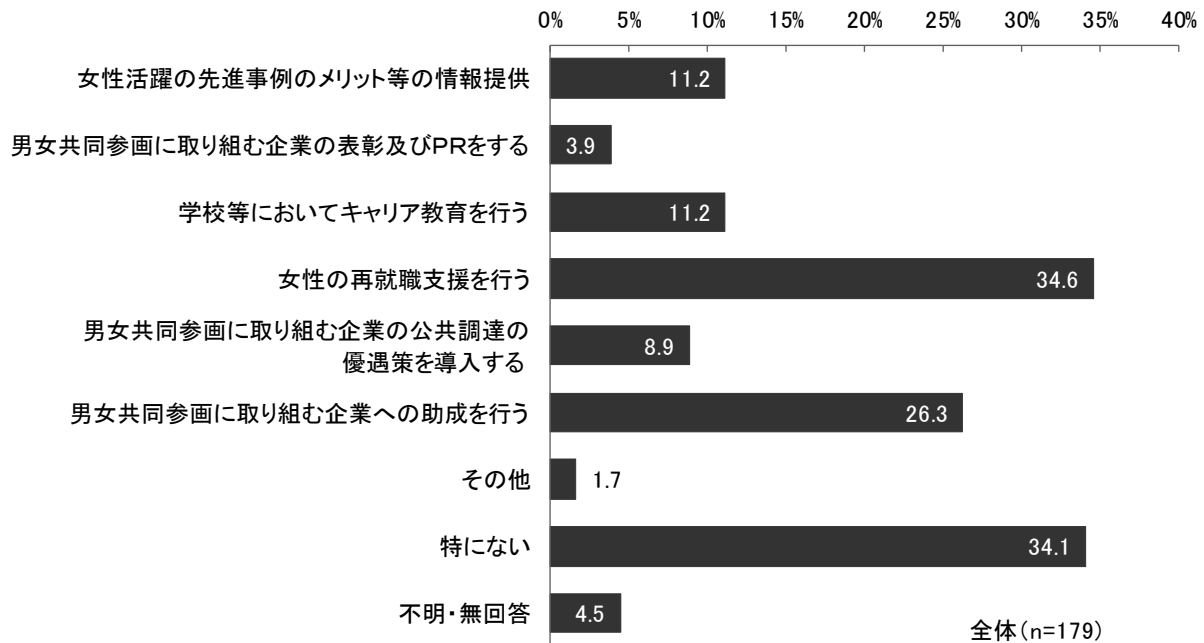
問 22 男女共同参画社会を実現するために、企業は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(複数回答)

男女共同参画社会を実現するために、企業が今後力を入れていくべきことは、「育児休業や介護休業を取得しやすい職場環境をつくる」が44.1%と最も高く、次いで「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を進める」が25.7%となっています。



問 23 職場における男女共同参画を推進するために、市に希望する支援にはどのようなものがありますか。(複数回答)

職場における男女共同参画を推進するために、市に希望する支援は、「女性の再就職支援を行う」が34.6%と最も高く、次いで「特にない」が34.1%となっています。



問 24 男女共同参画に関する独自の取り組みや優良事例がありましたら、ご記入ください。(女性従業員の活躍や、仕事と家庭の両立支援に関する実際の事例など)(自由記述)

業種	独自の取り組みや優良事例
建設業	社内に子どもを連れてきても良い職場になっていて、夏休みや冬休みなど預かり保育や、児童クラブの行けない場合でも事務所内や休憩室などで過ごすことが可能。職場の懇親会などに子どもたち(孫)も連れて行きます。
製造業	製造業で主にライン作業になるため、リモートでの就業は困難です。働き方に関して、子育て中の女性でも働きやすいよう就業時間内は好きな時間で働いていただいています。子どもさんの長期休み時期はお休みされても大丈夫。パートタイマーのみですが活躍されています。
サービス業	労働時間の見直し。

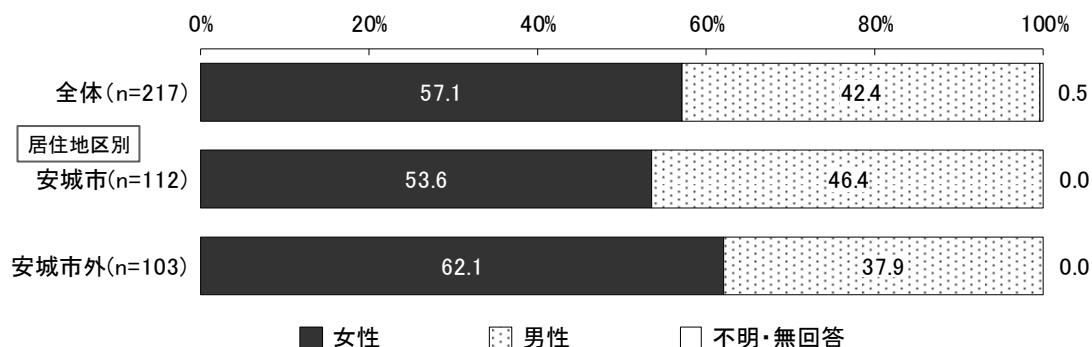
IV 高校生調査結果

1 回答者の属性

問1 性別（単数回答）

性別は、全体で「女性」が57.1%、「男性」が42.4%となっています。

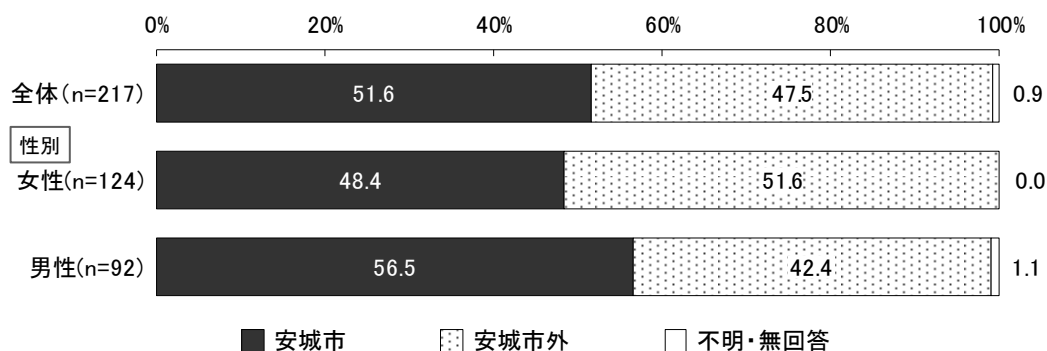
居住地区別では、「女性」が安城市で53.6%、安城市外で62.1%と、市内外のいずれも男性を上回っています。



問2 居住地区（単数回答）

居住地区は、全体で「安城市」が51.6%、「安城市外」が47.5%となっています。

性別では、女性で「安城市外」が51.6%、男性で「安城市」が56.5%と、それぞれ高くなっています。



2 男女共同参画の意識について

問3 次にあげる考え方について、あなたはどのように思いますか。(単数回答)

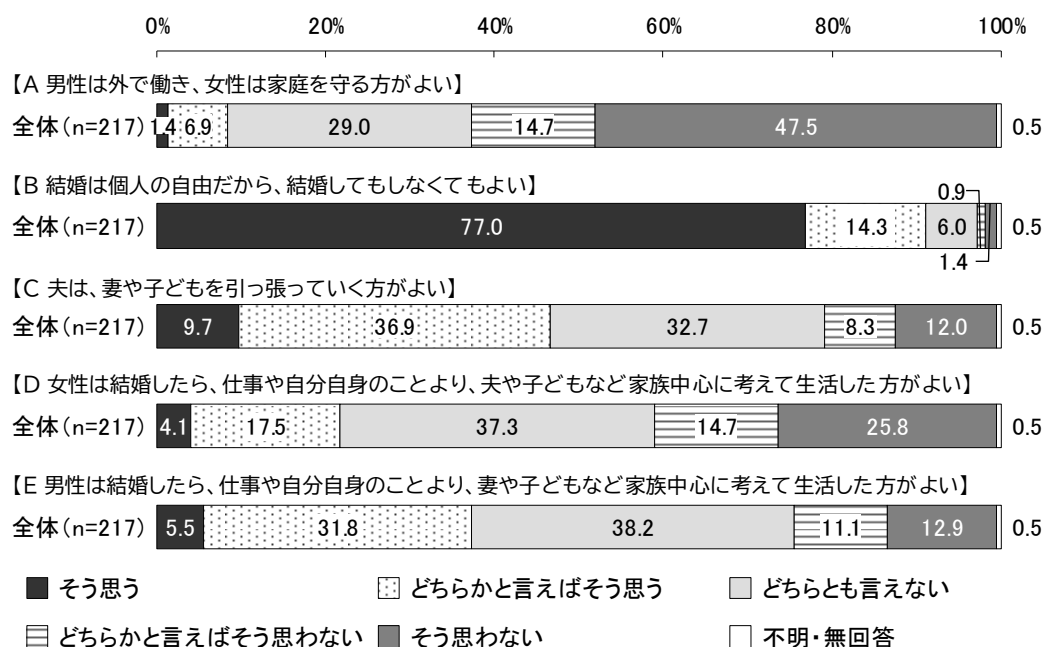
問3の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『そう思う』 … 「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合算

『そう思わない』 … 「そう思わない」と「どちらかと言えばそう思わない」を合算

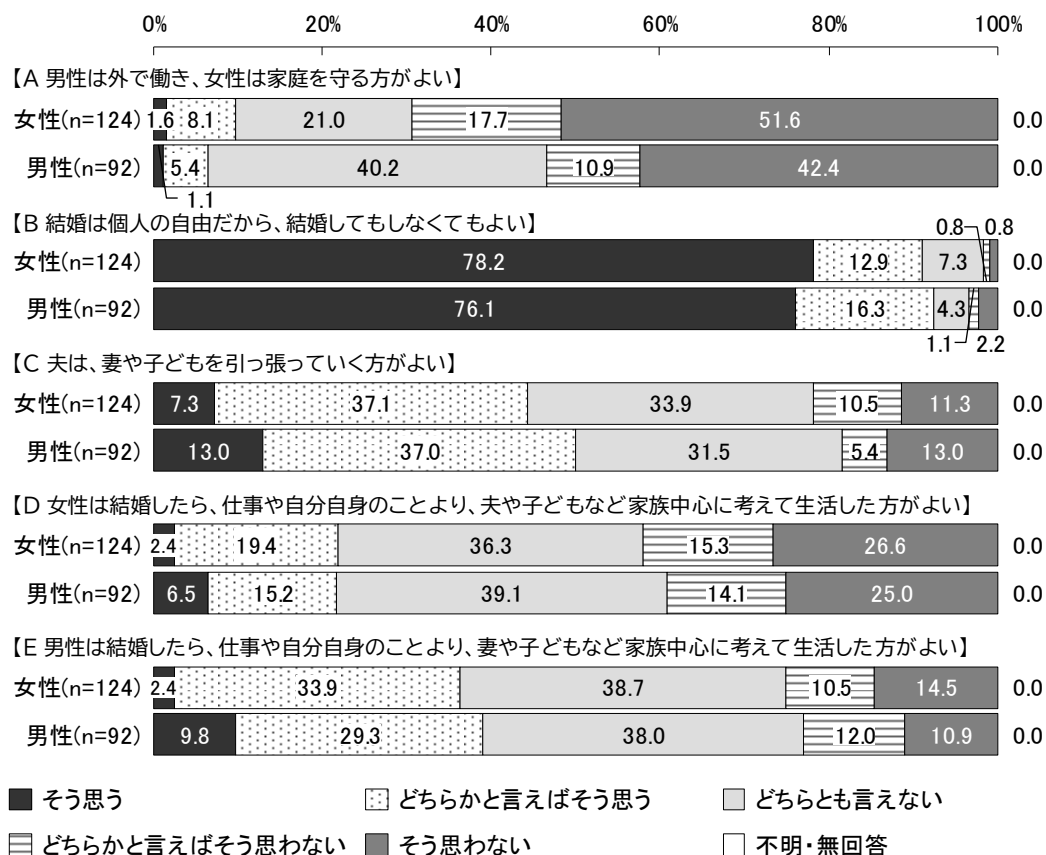
家庭生活や結婚への意識については、「B 結婚は個人の自由だから、結婚してもしなくてもよい」において『そう思う』が91.3%と高くなっています。

なお、『そう思わない』が「A 男性は外で働き、女性は家庭を守る方がよい」で62.2%、「C 夫は、妻や子どもを引っ張っていく方がよい」で20.3%、「D 女性は結婚したら、仕事や自分自身のことより、夫や子どもなど家族中心に考えて生活した方がよい」で40.5%、「E 男性は結婚したら、仕事や自分自身のことより、妻や子どもなど家族中心に考えて生活した方がよい」で24.0%と一定数あります。



性別比較

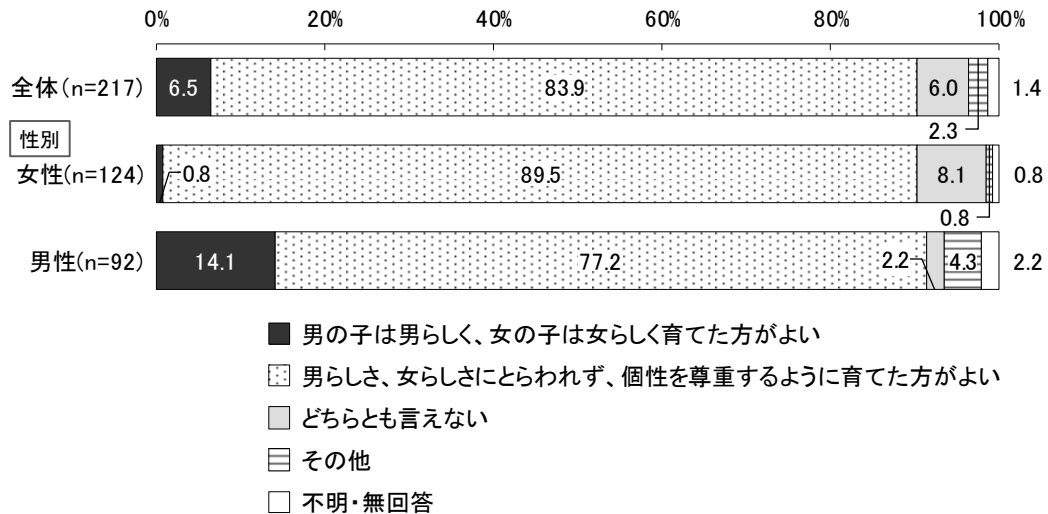
性別では、女性と男性で最も差が大きい項目は、「A 男性は外で働き、女性は家庭を守る方がよい」となっており、『そう思わない』割合は、女性で 69.3%、男性で 53.3%と 16.0 ポイント差となっています。この他、ほとんどの設問において男女差が 10 ポイントを超える明確な差はみられません。



問4 「男の子は男らしく、女の子は女らしく」という子どもの育て方について、どのように考えますか。(単数回答)

「男の子は男らしく、女の子は女らしく」という子どもの育て方については、全体で「男らしさ、女らしさにとらわれず、個性を尊重するように育てた方がよい」が83.9%と最も高く、次いで「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい」が6.5%となっています。

性別では、男性で「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい」が14.1%と、女性と比べて13.3ポイント高くなっています。



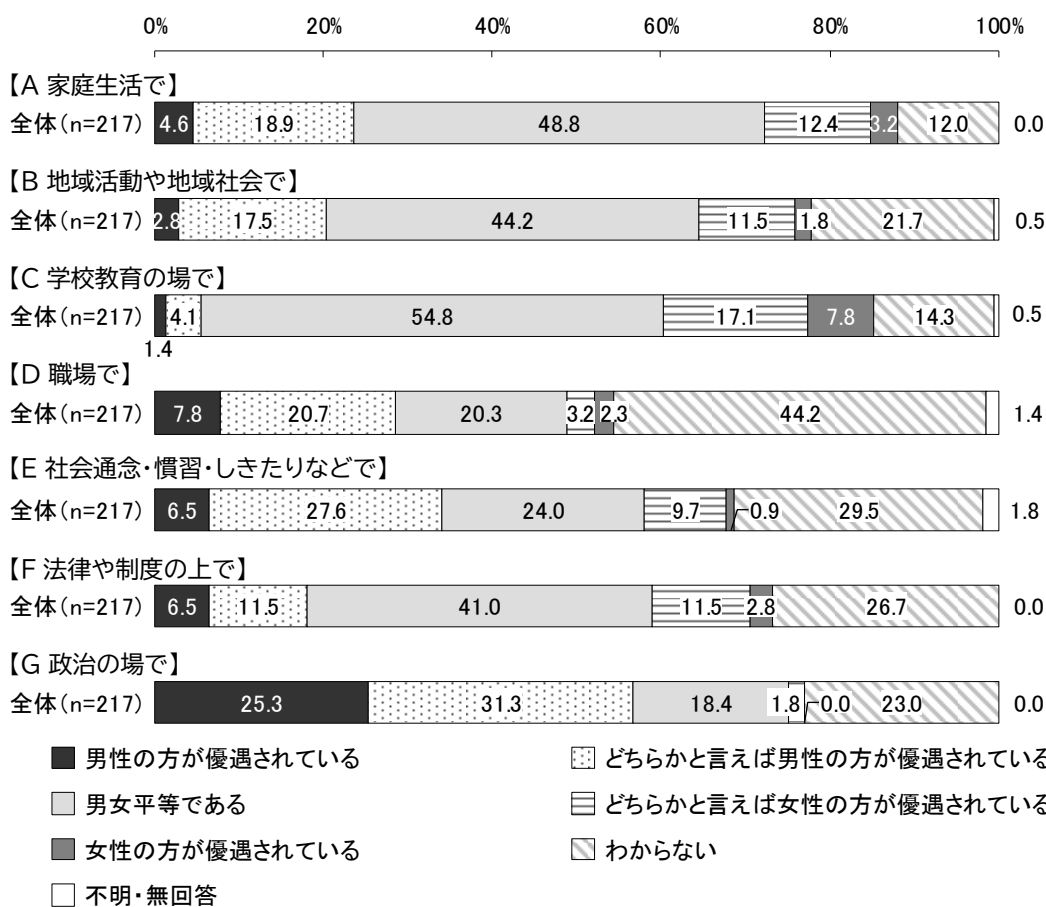
問5 あなたは、次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたの気持ちに最も近いものをお答えください。（単数回答）

問5の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『男性優遇』…「男性の方が優遇されている」と「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」を合算
 『女性優遇』…「女性の方が優遇されている」と「どちらかと言えば女性の方が優遇されている」を合算

男女の地位の平等感については、「A 家庭生活で」「B 地域活動や地域社会で」「C 学校教育の場で」「F 法律や制度の上で」において「男女平等である」が4割～5割強と高くなっています。

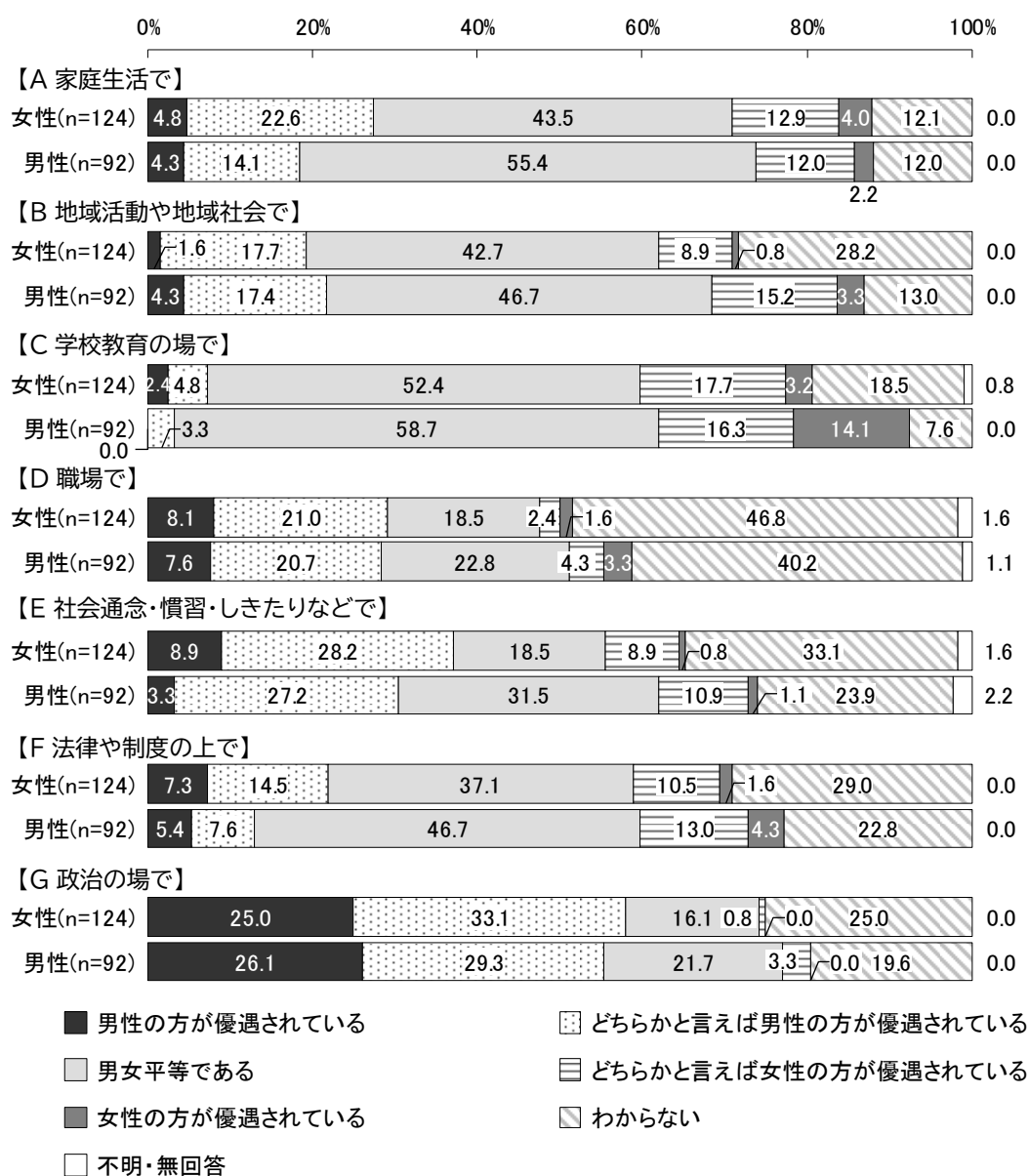
なお、『男性優遇』が高い項目として、「G 政治の場で」が56.6%、「E 社会通念・慣習・しきたりなどで」が34.1%となっています。



性別比較

性別では、女性と男性で最も差が大きい項目は、「E 社会通念・慣習・しきたりなどで」となっており、「男女平等である」割合は、女性で18.5%、男性で31.5%と13.0ポイント差となっています。

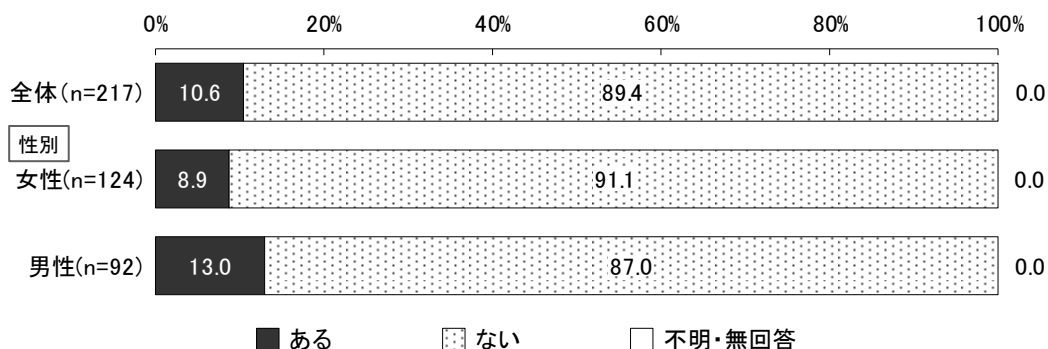
なお、「A 家庭生活で」「F 法律や制度の上で」においては男性と比べて『男性優遇』が女性でそれぞれ約10ポイント高く、「B 地域活動や地域社会で」「C 学校教育の場で」においては女性と比べて『女性優遇』が男性で約10ポイント高くなっています。



問6 あなたはこれまで、男だから、女だから、といった思い込みによって差別または不利益を受けたことがありますか。(単数回答)

男だから、女だから、といった思い込みによって差別または不利益を受けたことは、全体で「ある」が10.6%、「ない」が89.4%となっています。

性別では、「ある」が女性で8.9%、男性で13.0%となっています。



問6で「1. ある」と回答した方のみ

問6-1 具体的にどのような差別または不利益を受けましたか。(自由記述)

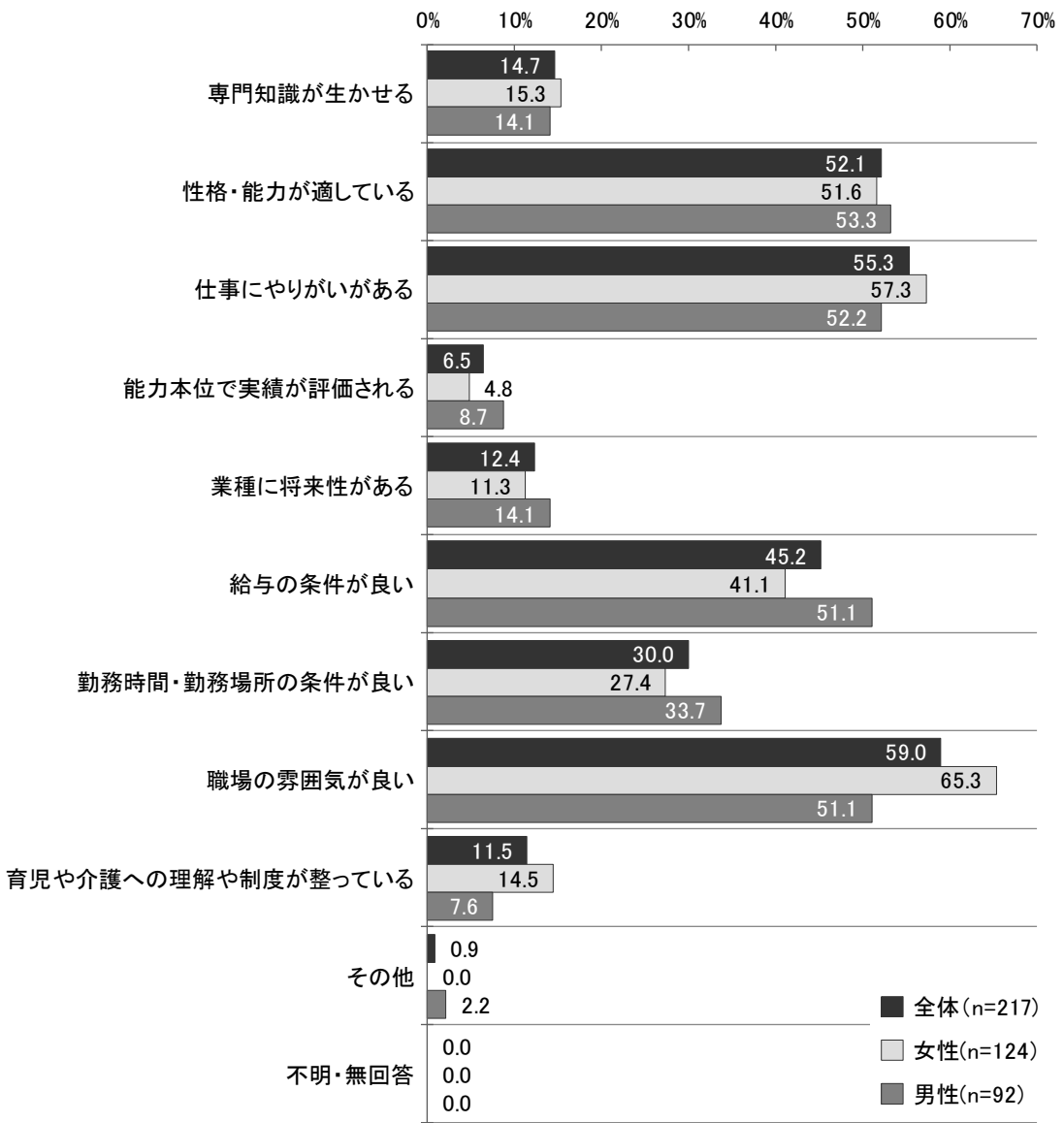
差別または不利益を受けた内容	
■男性	
男だから我慢しろ。男だからメイクはダメ。	
男だからという理由で親に趣味、服装、言葉遣い、一人称、進路を強制されている。	
男だから外で運動しろ。	
男だから力仕事で女はしなくてよい、など。	
重い机を運ぶのは力がある男女というバイアス。	
茶道を習おうとしても女性ばかりではばかられた。	
習い事でダンスの時に女性の割合が多く、衣装も女寄りになってる。	
男の子なんだから面白いことやってよ。	
■女性	
「女なんだから料理はできないといけない」と言われた。	
女だから家庭科の実習ができなければいけないと言われた。	
家事をやりなさいと言われること。	
「男はズボン、女はスカート」	
スカート着用の強制、話し言葉への注意。	
髪を短くしたときに「男の子みたい」と言われたことがある。言われたことは気にしていません。	
小学校に入る前、ランドセルを買う時に赤を選ばされた。	
小学校の子ども会で男子はソフトボール、女子はフットボールという考えがあり、私女一人でソフトボールをやっていた。ソフトボールやフットボールは男だからとか、女だからとかは関係ないと思う。	
同じことをしても対応に差があった。	

3 将来の働き方について

問7 あなたが仕事を選ぶ際に重視する(したい)ことは何ですか。(複数回答)

仕事を選ぶ際に重視する(したい)ことは、全体で「職場の雰囲気が良い」が59.0%と最も高く、次いで「仕事にやりがいがある」が55.3%となっています。

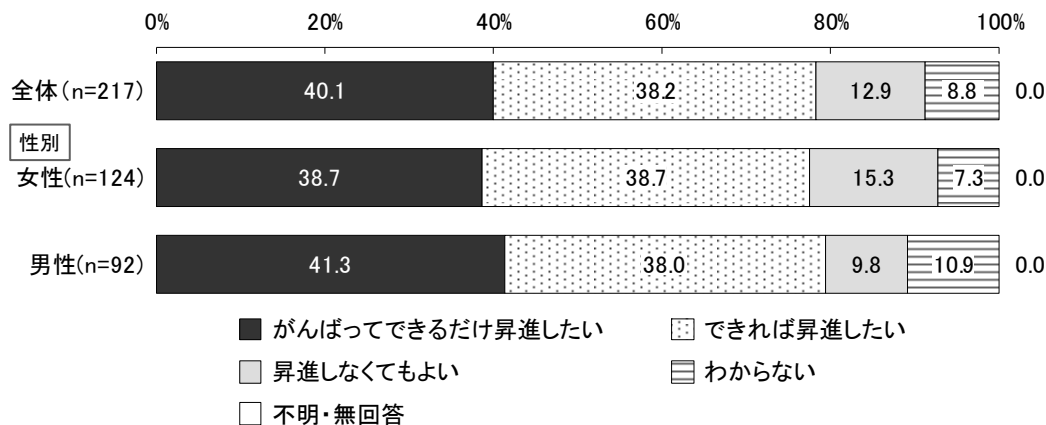
性別では、女性で「職場の雰囲気が良い」「仕事にやりがいがある」「性格・能力が適している」が、男性で「性格・能力が適している」「仕事にやりがいがある」「給与の条件が良い」「職場の雰囲気が良い」がいずれも5割を超えて上位となっています。「職場の雰囲気が良い」「給与の条件が良い」についてはそれぞれの男女差も10ポイント以上大きくなっており、性差が明確となっています。



問8 あなたは将来、就職先でどのくらいまで昇進したいですか。(単数回答)

将来、就職先でどのくらいまで昇進したいかは、全体で「がんばってできるだけ昇進したい」が 40.1%と最も高く、次いで「できれば昇進したい」が 38.2%となっています。

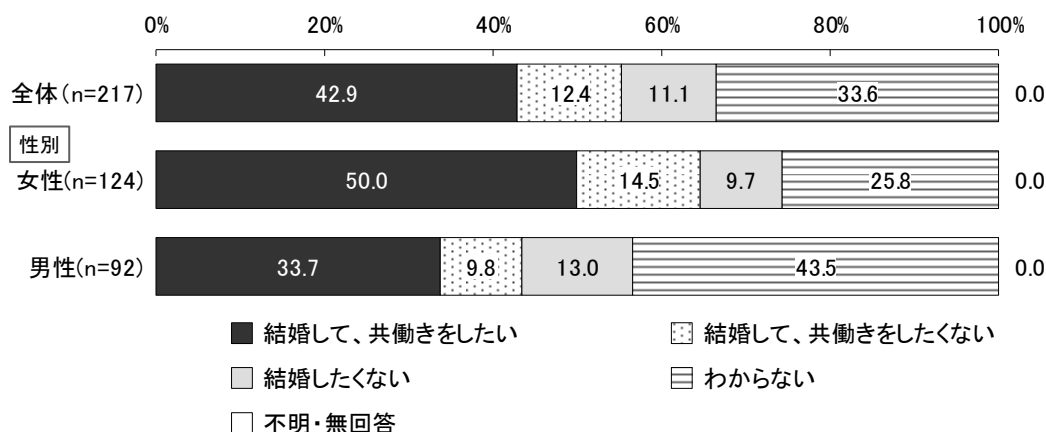
性別では、「がんばってできるだけ昇進したい」が女性で 38.7%、男性で 41.3%と差はみられません。



問9 あなたは、将来、結婚したら共働きをするつもりですか。(単数回答)

将来、結婚したら共働きをするつもりかは、全体で「結婚して、共働きをしたい」が 42.9%と最も高く、次いで「わからない」が 33.6%となっています。

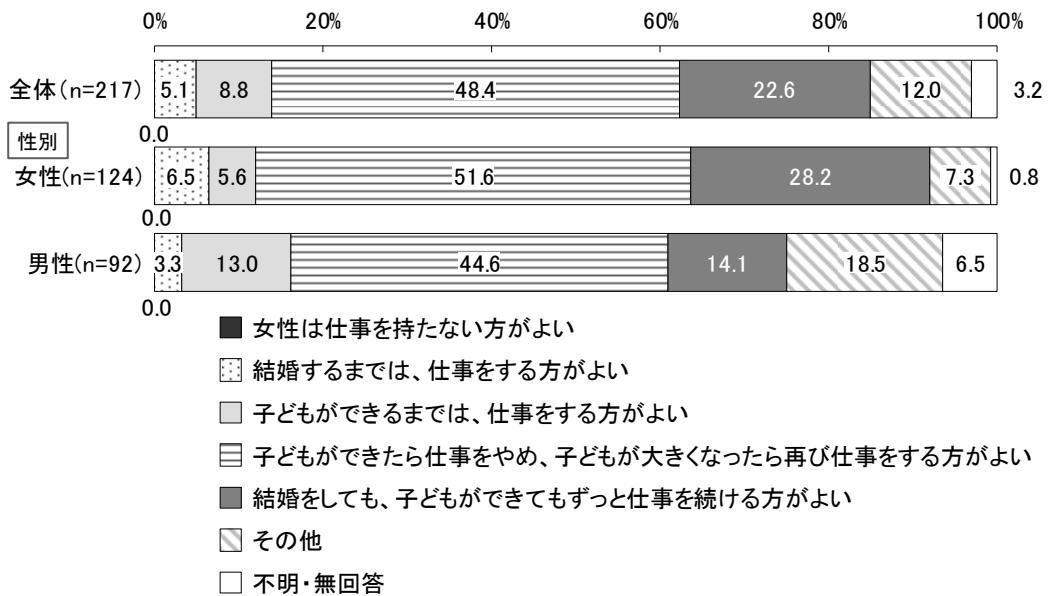
性別では、「結婚して、共働きをしたい」が女性で 50.0%と、男性と比べて 16.3 ポイント高くなっています。なお、「結婚したくない」が女性で 9.7%、男性で 13.0%と一定数みられます。



問10 あなたは女性の仕事について、どのような形が望ましいと思いますか。(単数回答)

女性の仕事について、どのような形が望ましいと思うかは、全体で「子どもができれば仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事をする方がよい」が48.4%と最も高く、次いで「結婚をしても、子どもができてもずっと仕事を続ける方がよい」が22.6%となっています。

性別では、女性で「結婚をしても、子どもができてもずっと仕事を続ける方がよい」が28.2%と、男性と比べて14.1ポイント高くなっています。

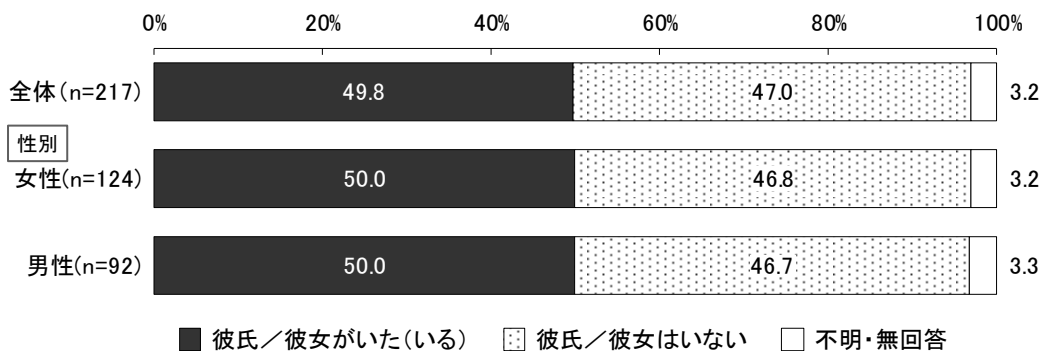


4 男女間の暴力について

問11 あなたは、現在、または過去において、彼氏／彼女がいましたか。(単数回答)

現在、または過去において、彼氏／彼女がいたかは、全体で「彼氏／彼女がいた (いる)」が49.8%、「彼氏／彼女はいない」が47.0%となっています。

性別では、男女ともに「彼氏／彼女がいた (いる)」がいずれも50.0%となっています。



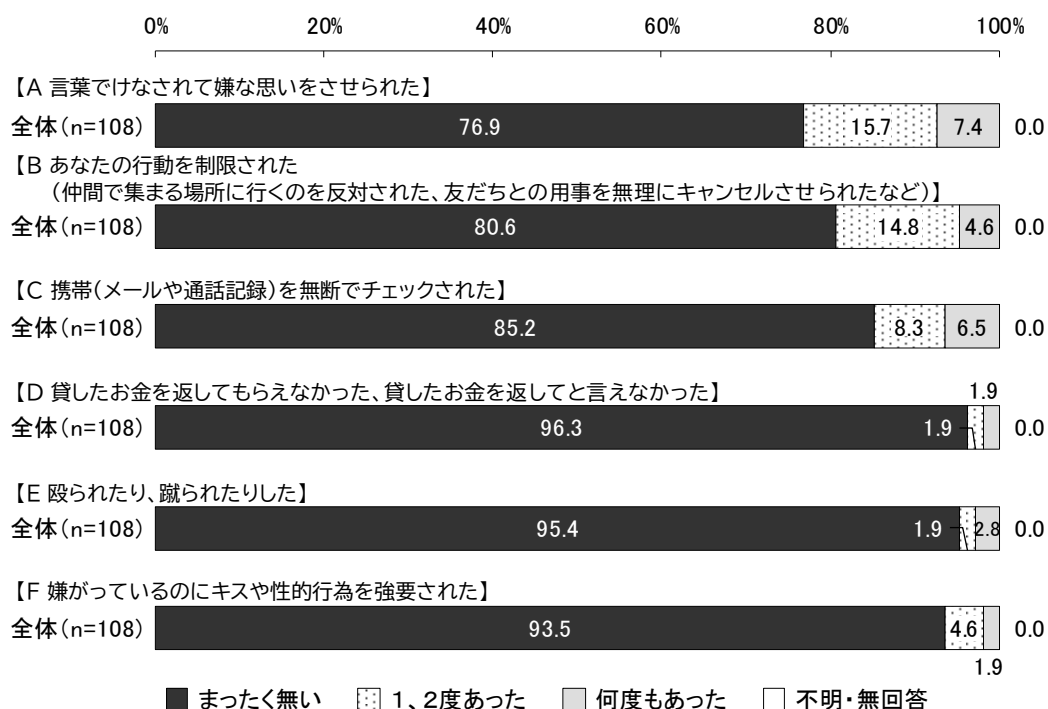
問11で「1. 彼氏／彼女がいた（いる）」と回答した方のみ

問11-1 あなたはこれまでに、次の行為を彼氏／彼女からされたことがありますか。（単数回答）

問11-1の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

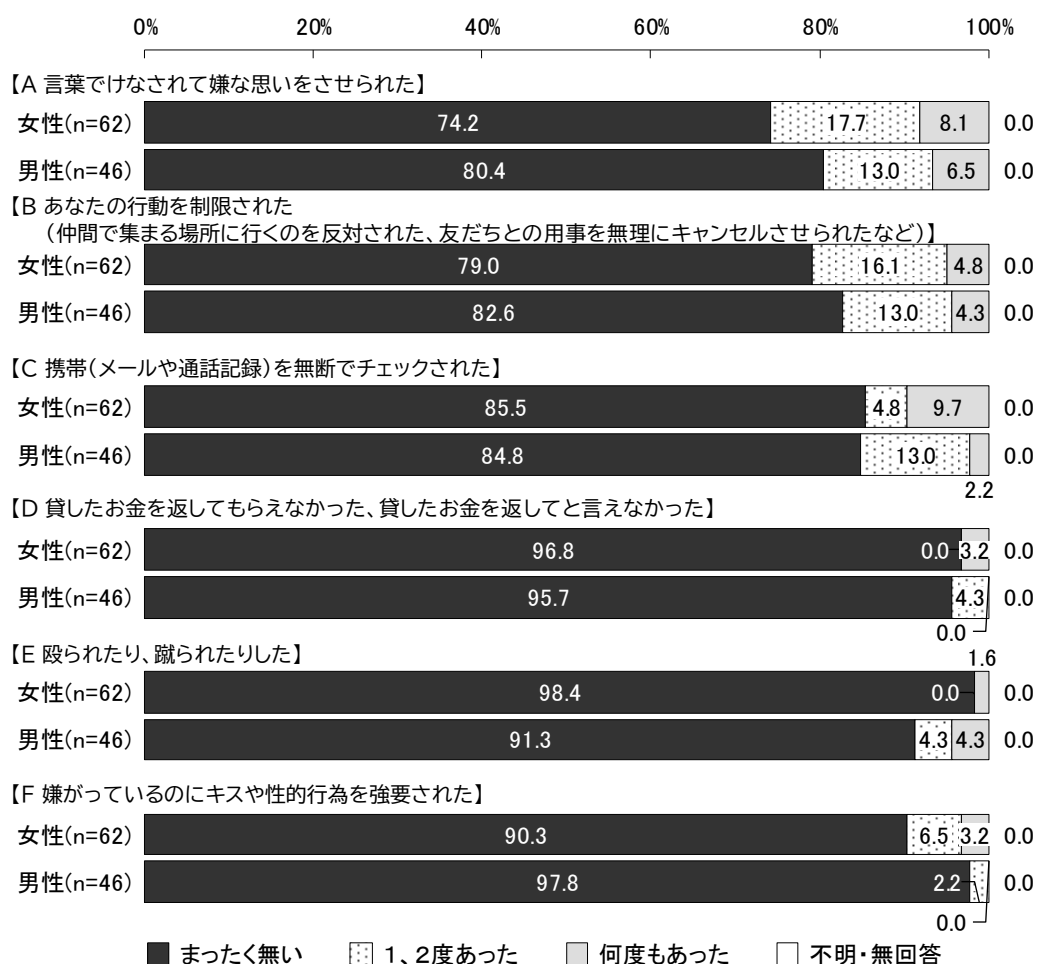
『DVの経験がある』…「1、2度あった」と「何度もあった」を合算

DVの経験の有無は、『DVの経験がある』が「A 言葉でけなされて嫌な思いをさせられた」で23.1%、「B あなたの行動を制限された（仲間で集まる場所に行くのを反対された、友だちとの用事を無理にキャンセルさせられたなど）」が19.4%、「C 携帯（メールや通話記録）を無断でチェックされた」が14.8%と高くなっています。また、経済的DVや身体的DVも一定数みられます。



性別比較

性別では、『DVの経験がある』が女性と男性で最も差が大きい項目は、「F 嫌がっているのにキスや性的行為を強要された」「E 殴られたり、蹴られたりした」「A 言葉でけなされて嫌な思いをさせられた」となっています。なお、女性で「C 携帯（メールや通話記録）を無断でチェックされた」が「何度もあった」が9.7%と、男性と比べて高くなっています。

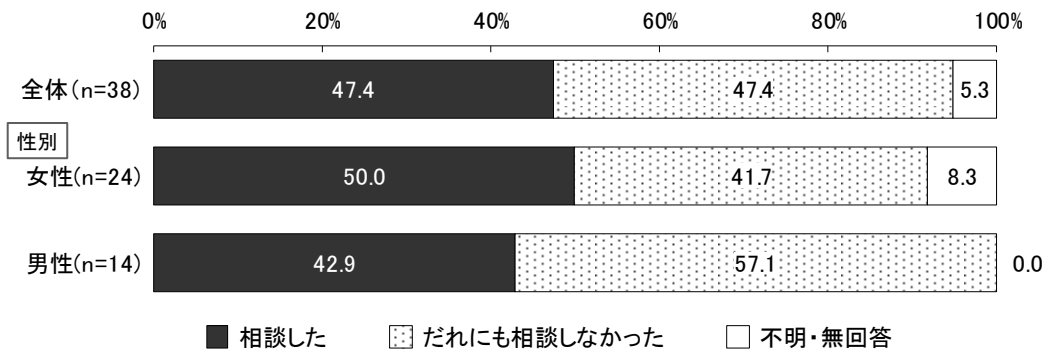


問11-1で「1、2度あった」「何度もあった」に1つでも○をつけた方のみ

問 11-2 そのような行為を受けた後、だれか（どこか）に打ち明けたり、相談したりしましたか。（単数回答）

DVを受けた後、だれか（どこか）に打ち明けたり、相談したりしたかは、全体で「相談した」が47.4%、「だれにも相談しなかった」が47.4%となっています。

性別では、「だれにも相談しなかった」が女性で41.7%、男性で57.1%となっています。

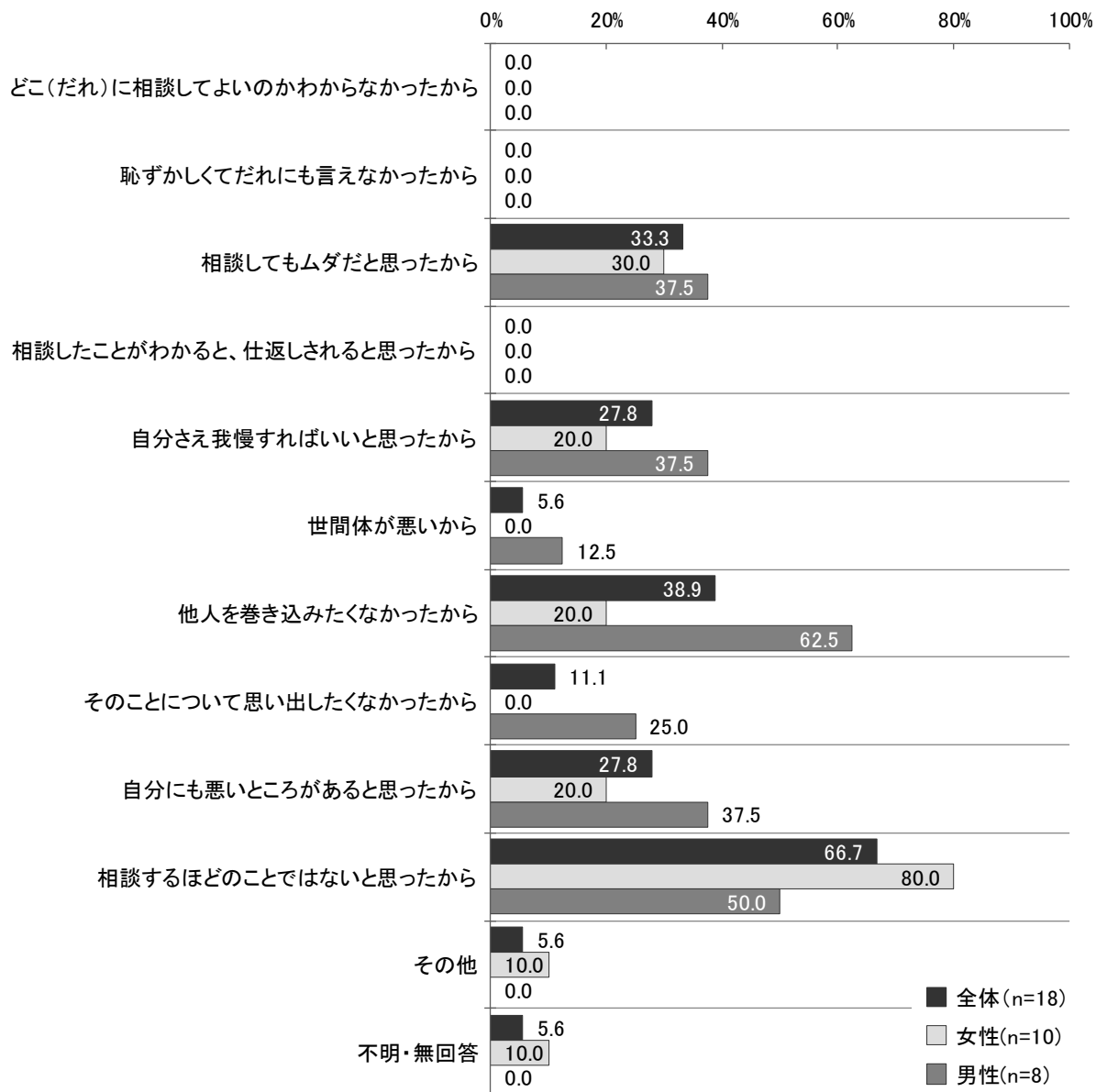


問11-2で「2. だれにも相談しなかった」と回答した方のみ

問11-3 だれにも相談しなかった理由は何ですか。(複数回答)

相談しなかった理由は、全体で「相談するほどのことではないと思ったから」が66.7%と最も高く、次いで「他人を巻き込みたくなかったから」が38.9%となっています。

性別では、女性で「相談するほどのことではないと思ったから」が、男性で「他人を巻き込みたくなかったから」が、それぞれ高くなっています。

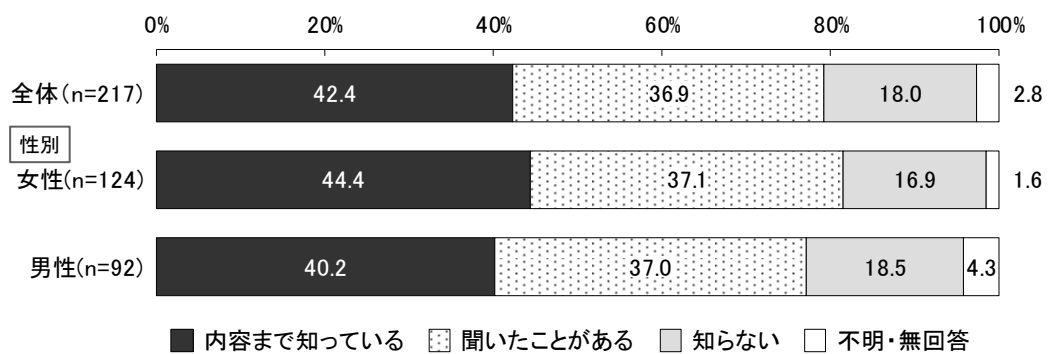


5 性的マイノリティについて

問12 あなたは、性的マイノリティ（LGBT等）という言葉を知っていますか。（単数回答）

性的マイノリティ（LGBT等）という言葉を知っているかは、全体で「内容まで知っている」が42.4%、「聞いたことがある」が36.9%、「知らない」が18.0%となっています。

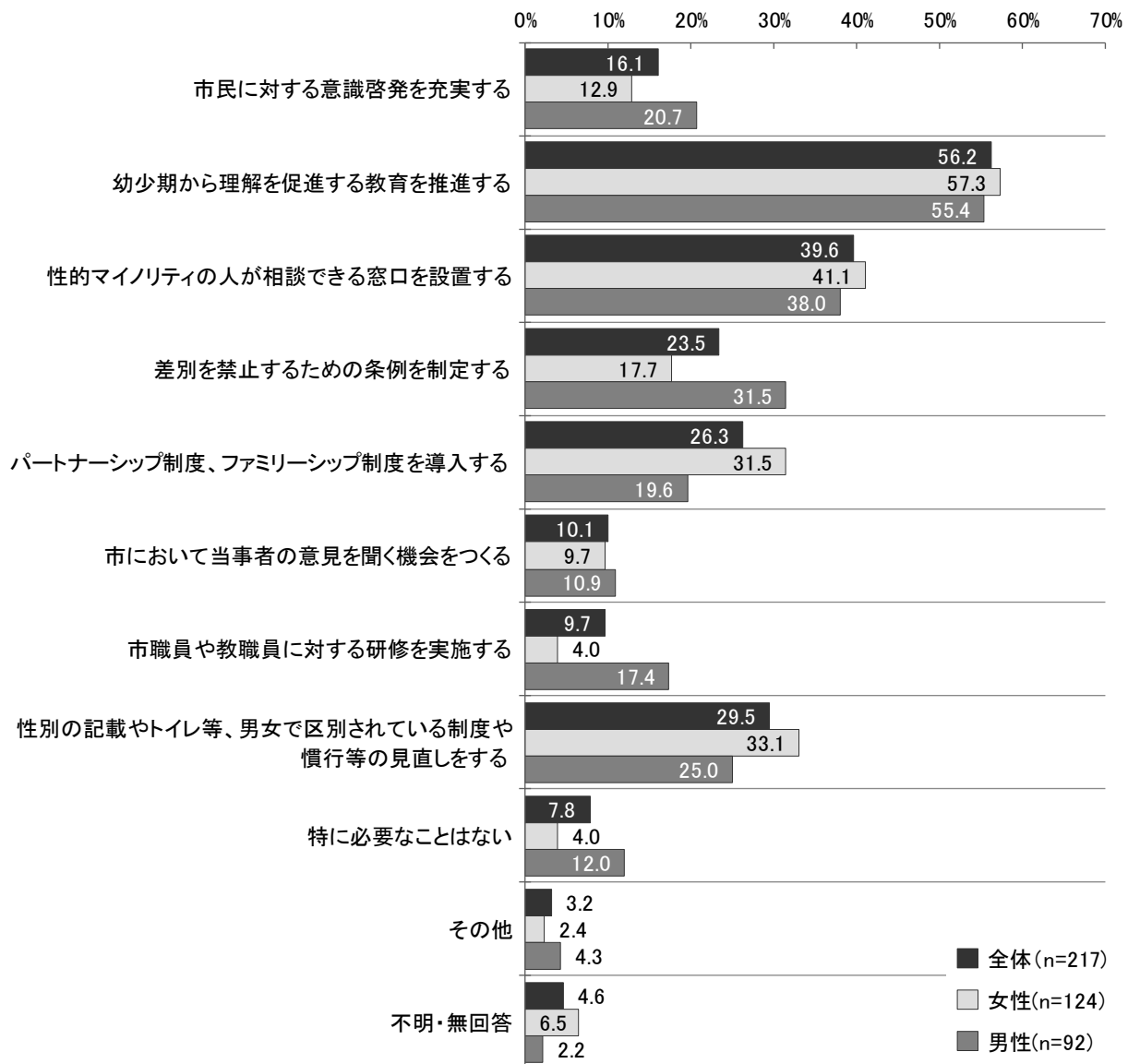
性別では、「内容まで知っている」が女性で44.4%、男性で40.2%と大差はみられません。



問 13 あなたは、性的マイノリティ（LGBT等）の人たちが暮らしやすい社会にするためには、どのような意識啓発や支援が必要だと思いますか。（複数回答）

性的マイノリティ（LGBT等）の人たちが暮らしやすい社会にするために必要な意識啓発や支援は、全体で「幼少期から理解を促進する教育を推進する」が56.2%と最も高く、次いで「性的マイノリティの人が相談できる窓口を設置する」が39.6%となっています。

性別では、女性では「パートナーシップ制度、ファミリーシップ制度を導入する」が男性より高く、男性では「差別を禁止するための条例を制定する」「市職員や教職員に対する研修を実施する」が女性より高く、いずれも10ポイント以上の差となっています。

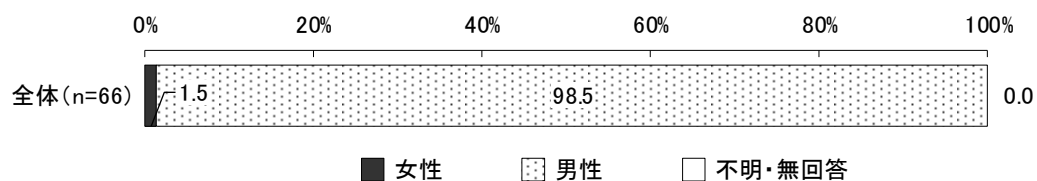


V 町内会調査結果

1 回答者の属性

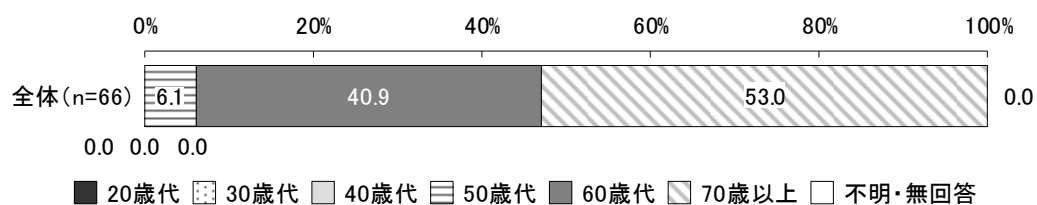
問1 性別 (単数回答)

性別は、「女性」が1.5%、「男性」が98.5%となっています。



問2 年齢 (単数回答)

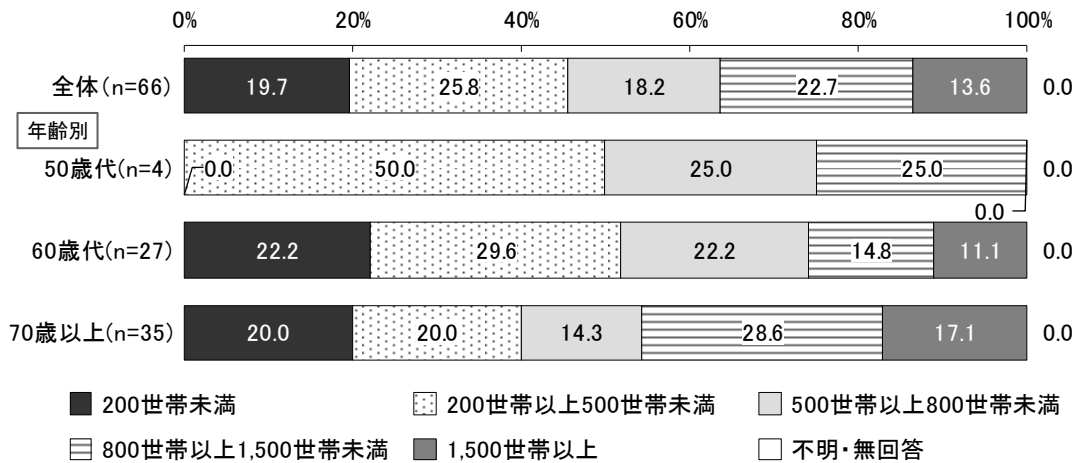
年齢は、全体で「70歳以上」が53.0%と最も高く、次いで「60歳代」が40.9%となっており、40歳代以下はいません。



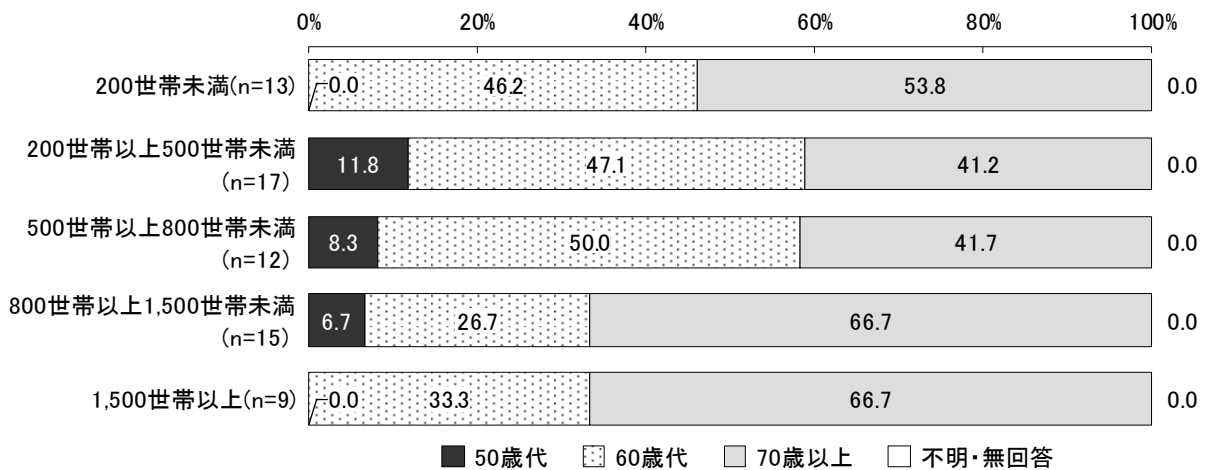
問3 町内会の加入世帯数（単数回答）

町内会の加入世帯数は、「200世帯以上500世帯未満」が25.8%と最も高く、次いで「800世帯以上1,500世帯未満」が22.7%となっています。

町内会長の年齢別では、60歳代の11.1%、70歳以上の17.1%で「1,500世帯以上」となっています。



なお、加入世帯別に町内会長の年齢をみると、800世帯以上で「70歳以上」がそれぞれ約7割となっています。

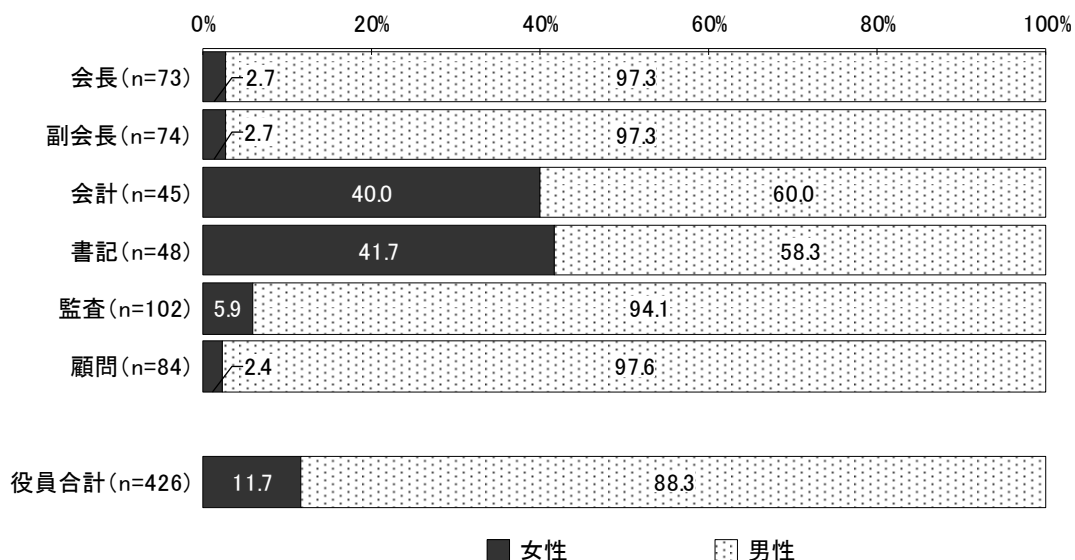


※20歳代、30歳代、40歳代の回答はなかったため、表記していません。

2 町内会活動における女性の参画について

問4 町内会役員構成員の女性比率

町内会役員構成員の女性比率は、会長・副会長いずれも 2.7%、役員合計では 11.7%となっています。会計及び書記において女性比率が 40%台と他の役員と比べて高くなっていますが、過半数を下回っています。

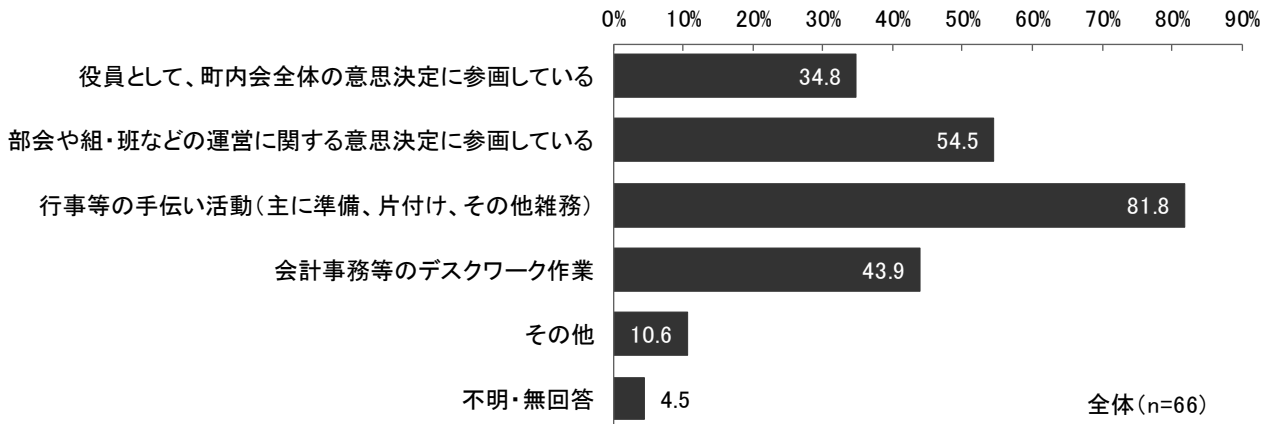


$$\text{町内会役員の女性比率(\%)} = \frac{\text{各役員の女性数}}{\text{回答のあった町内会中の各役員数計(男性+女性)}} \times 100$$

※各役職の合計には兼務者を含んでいます。

問5 あなたの町内会において、女性が担っているのはどのような役割、活動ですか。町内会全会員についてお答えください。(複数回答)

町内会において女性が担っている役割や活動は、「行事等の手伝い活動(主に準備、片付け、その他雑務)」が81.8%と最も高く、次いで「部会や組・班などの運営に関する意思決定に参画している」が54.5%となっています。

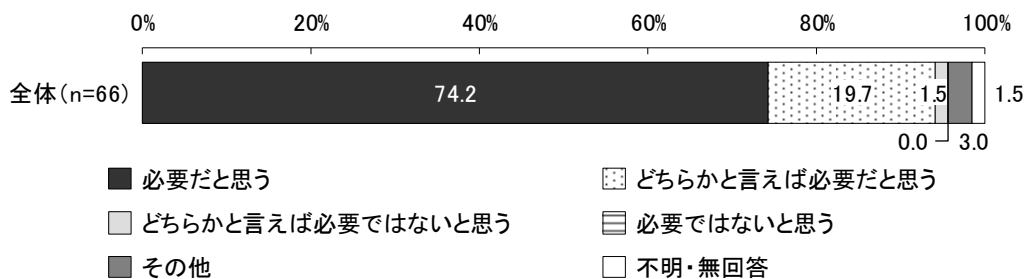


問6 町内会の役員など地域の意思決定の立場へ積極的に女性が参加することについて、どう思いますか。(単数回答)

問6の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

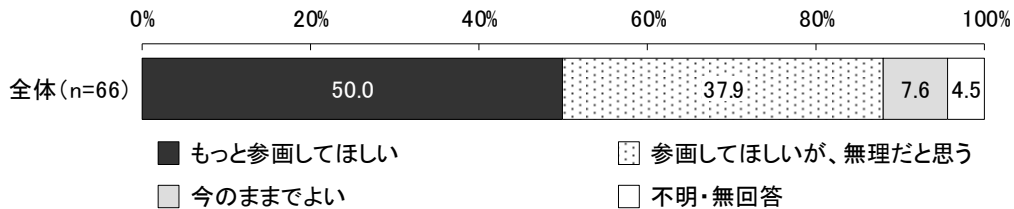
- 『必要だと思う』 … 「必要だと思う」と「どちらかといえば必要だと思う」を合算
- 『必要ではないと思う』 … 「必要ではないと思う」と「どちらかといえば必要ではないと思う」を合算

地域の意思決定の立場へ積極的に女性が参加することについては、『必要だと思う』が93.9%、『必要ではないと思う』が1.5%となっています。



問7 これからの町内会の役員への女性の登用や女性の参画について、どのように考えますか。(単数回答)

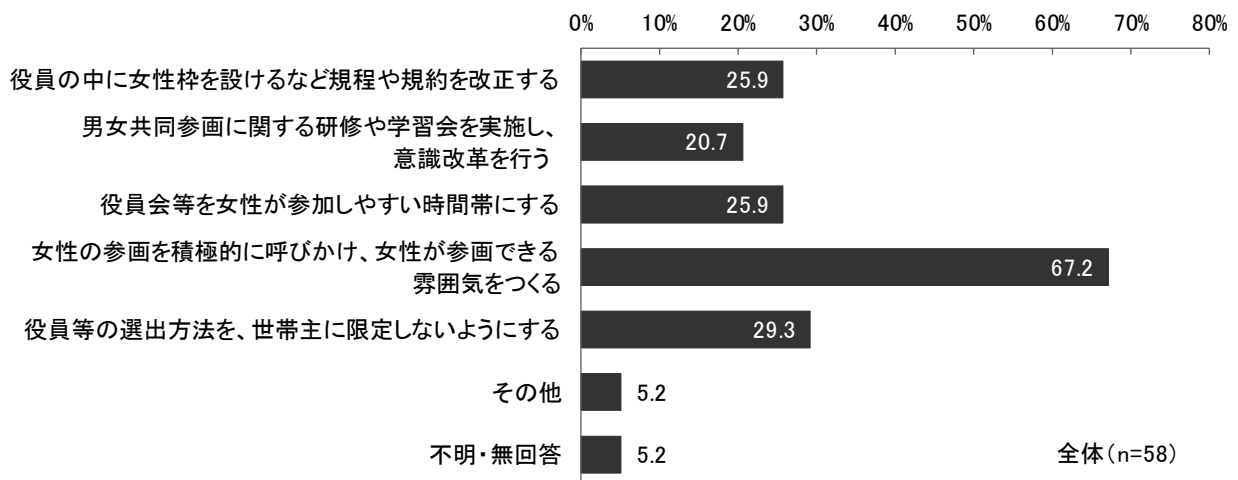
これからの町内会の役員への女性の登用や女性の参画については、「もっと参画してほしい」が 50.0%、「参画してほしいが、無理だと思う」が 37.9%、「今のままでよい」が 7.6%となっています。



問7で「1. もっと参画してほしい」「2. 参画してほしいが、無理だと思う」と回答した方のみ

問7-1 どのようにすれば、女性が参画できると思いますか。(複数回答)

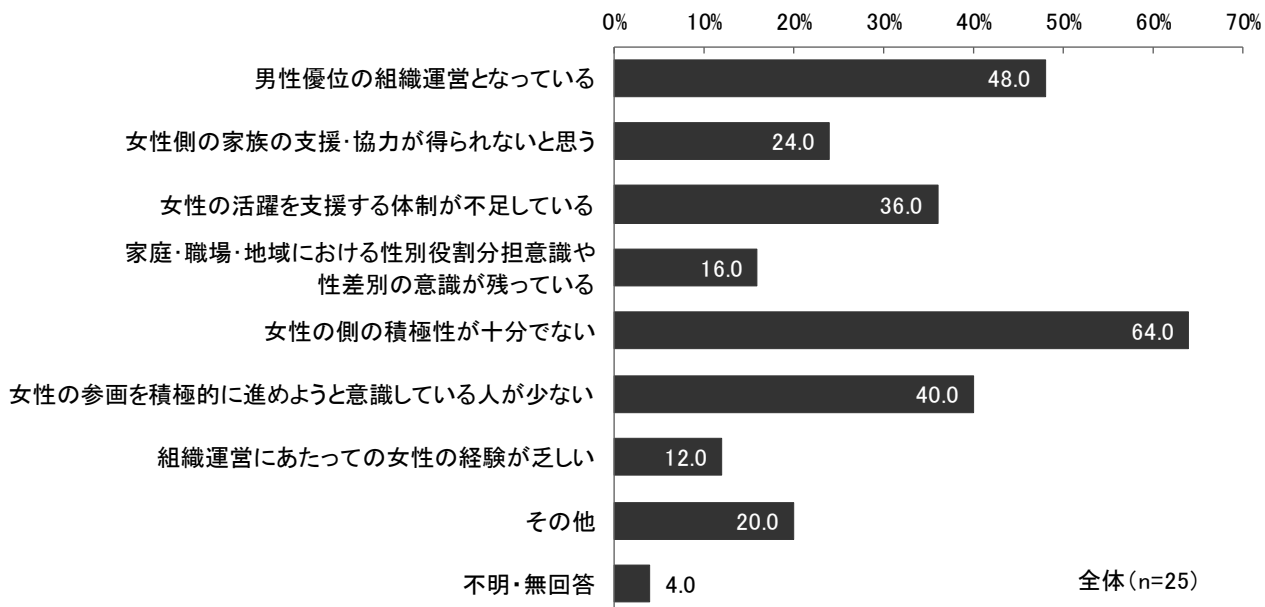
どのようにすれば女性が参画できると思うかは、「女性の参画を積極的に呼びかけ、女性が参画できる雰囲気をつくる」が 67.2%と最も高く、次いで「役員等の選出方法を、世帯主に限定しないようにする」が 29.3%となっています。



問7で「2. 参画してほしいが、無理だと思う」と回答した方のみ

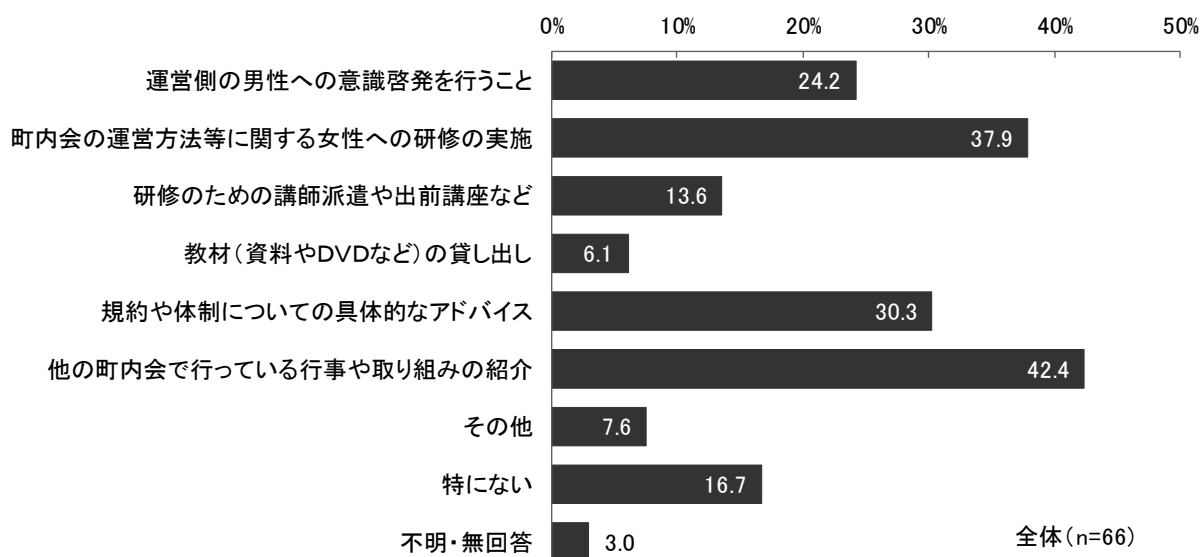
問7-2 無理だと思う理由をお聞かせください。(複数回答)

参画してほしいが無理だと思う理由は、「女性の側の積極性が十分でない」が64.0%と最も高く、次いで「男性優位の組織運営となっている」が48.0%となっています。



問8 町内会で男女共同参画を推進するため、市に取り組んでほしいことはありますか。(複数回答)

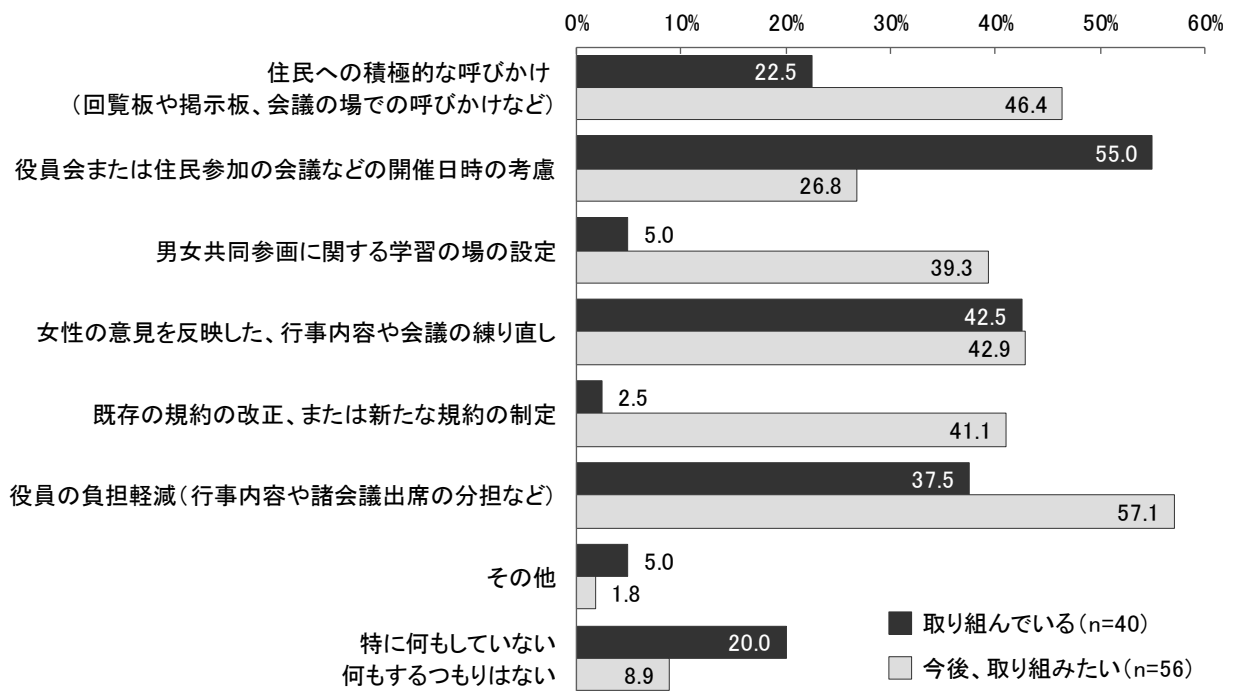
町内会で男女共同参画を推進するため、市に取り組んでほしいことは、「他の町内会でやっている行事や取り組みの紹介」が42.4%と最も高く、次いで「町内会の運営方法等に関する女性への研修の実施」が37.9%となっています。



問9 あなたの町内会では、女性が役員に就くため、または人数を増やすため、あるいは女性が意思決定に参加しやすくなるようにするために、何か取り組みを行っていますか。また、今後、取り組みたいと思いますか。(複数回答)

女性が町内会の役員に就くため、または人数を増やすため、あるいは女性が意思決定に参加しやすくなるようにするためにしている取り組みは、「役員会または住民参加の会議などの開催日時の考慮」が55.0%と最も高く、次いで「女性の意見を反映した、行事内容や会議の練り直し」が42.5%となっています。

また、今後取り組みたいことは、「役員の負担軽減(行事内容や諸会議出席の分担など)」が57.1%と最も高く、次いで「住民への積極的な呼びかけ(回覧板や掲示板、会議の場での呼びかけなど)」が46.4%となっています。

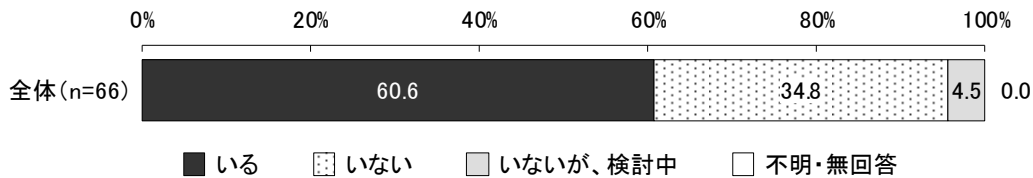


※「不明・無回答」が『取り組んでいる』で26件、『今後、取り組みたい』が10件と差があるため、「不明・無回答」を除いた値で計算している。

3 災害時対策について

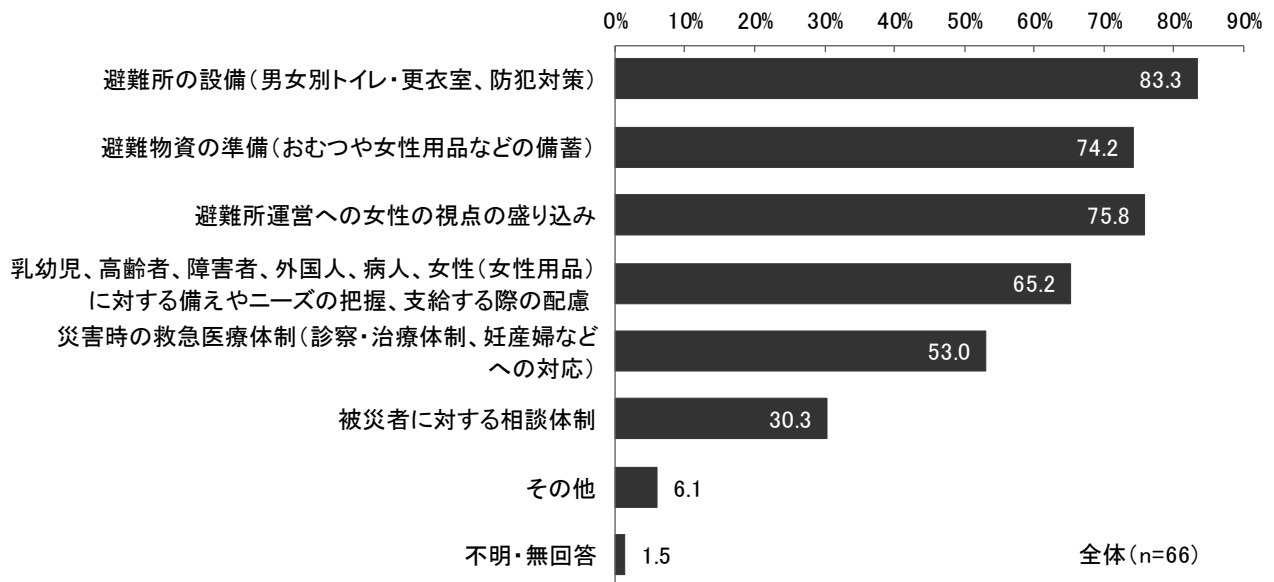
問 10 あなたの町内会では、自主防災組織の意思決定や取組検討の場に女性が参画していますか。(単数回答)

自主防災組織の意思決定や取組検討の場に女性が参画しているかは、「いる」が60.6%、「いない」が34.8%、「いないが、検討中」が4.5%、「いないが、検討中」が4.5%となっています。



問 11 防災・災害復興対策で男女の性別に配慮して取り組む必要があると思うことは何ですか。(複数回答)

防災・災害復興対策で男女の性別に配慮して取り組む必要があると思うことは、「避難所の設備（男女別トイレ・更衣室、防犯対策）」が83.3%と最も高く、次いで「避難所運営への女性の視点の盛り込み」が75.8%となっています。

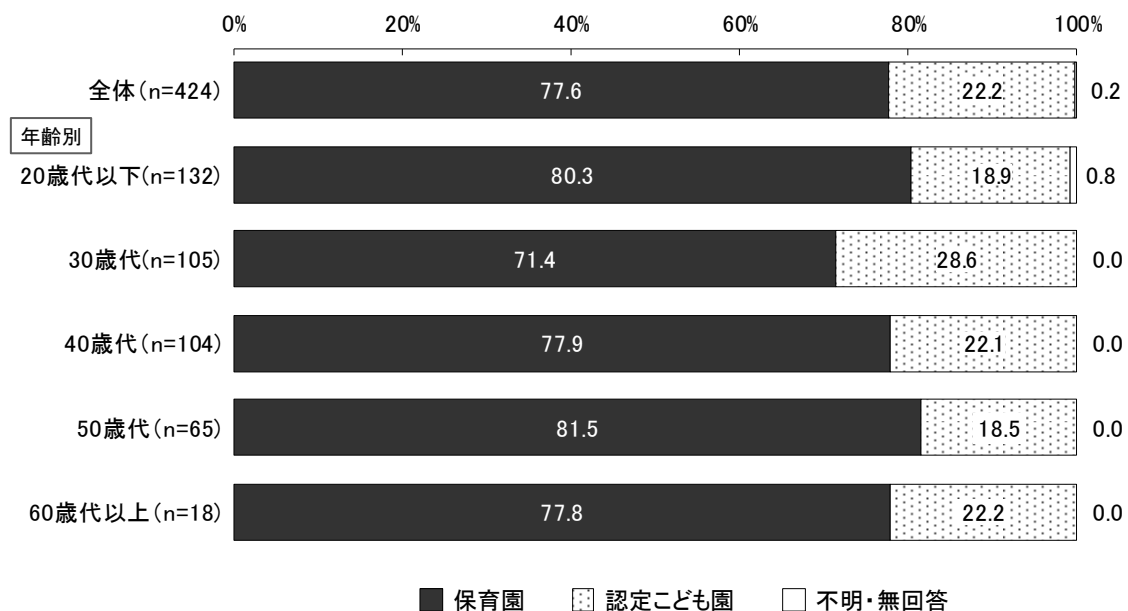


VI 保育士・幼稚園教諭調査結果

1 回答者の属性

問1 所属している施設の区分 (単数回答)

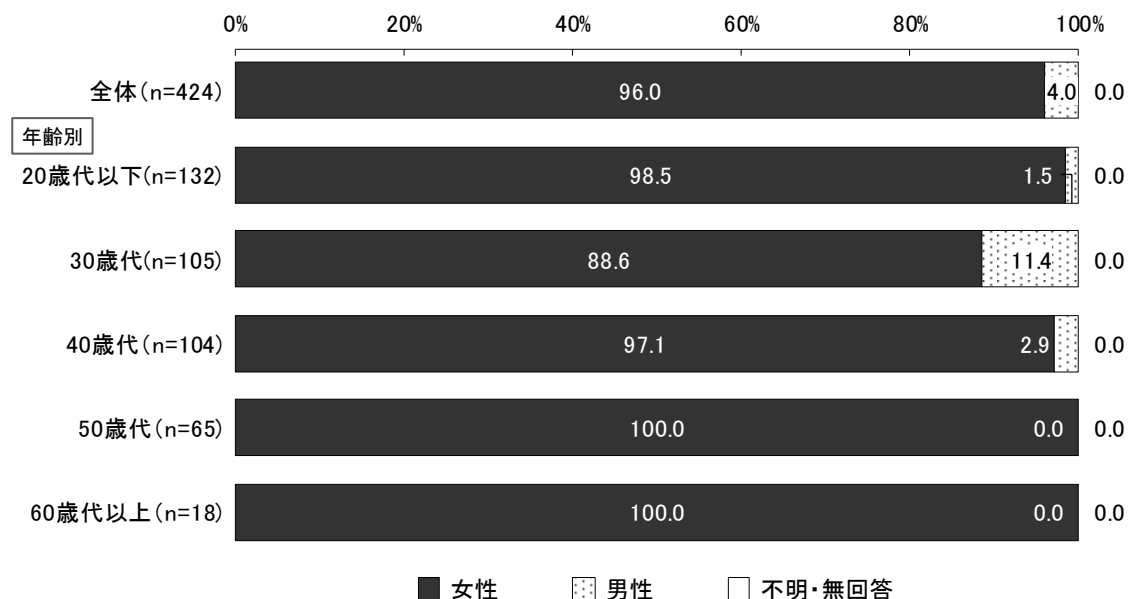
所属している施設の区分は、全体で「保育園」が77.6%、「認定こども園」が22.2%、となっています。



問2 性別 (単数回答)

性別は、全体で「女性」が96.0%、「男性」が4.0%となっています。

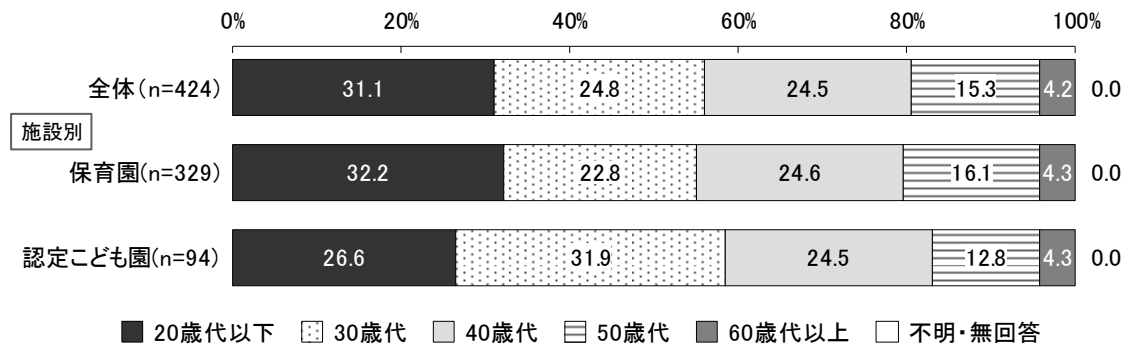
年齢別では、いずれの年代も「女性」が8割を超えており、50歳代以上では「男性」がいずれも0%となっています。



問3 年齢（単数回答）

年齢は、全体で「20歳代以下」が31.1%と最も高く、次いで「30歳代」が24.8%、「40歳代」が24.5%となっています。

施設別では、保育園で「20歳代以下」が32.2%、認定こども園で「30歳代」が31.9%と、それぞれ最も高くなっています。

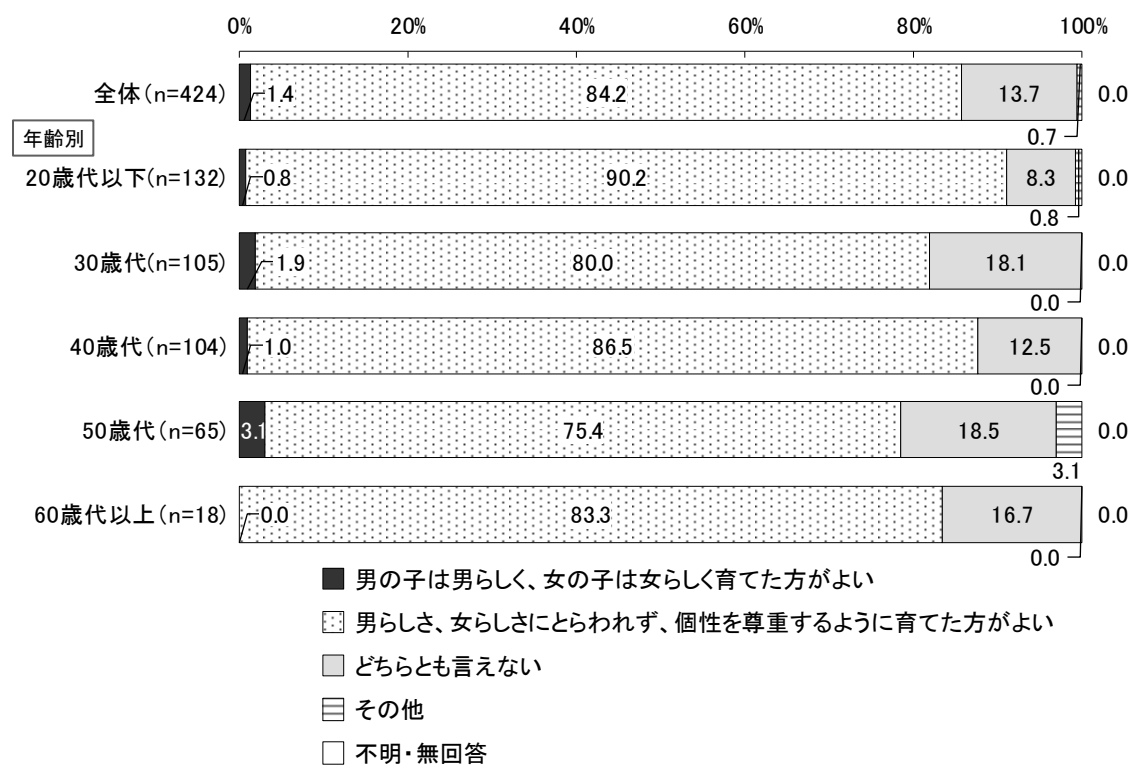


2 男女共同参画に関する意識について

問4 「男の子は男らしく、女の子は女らしく」という子どもの育て方について、どのように考えますか。(単数回答)

「男の子は男らしく、女の子は女らしく」という子どもの育て方についての考えは、全体で「男らしさ、女らしさにとらわれず、個性を尊重するように育てた方がよい」が 84.2%と最も高く、次いで「どちらとも言えない」が 13.7%となっています。

年齢別では、50歳代で「男らしさ、女らしさにとらわれず、個性を尊重するように育てた方がよい」が 75.4%と、他の年代と比べて低くなっています。60歳代以上を除いた年代で、「男の子は男らしく、女の子は女らしく」の割合が一定数見られます。



問5 就学前の子どもに、固定的な性別役割分担意識や性別による「無意識の思い込み」などの影響を及ぼしていると考えられる事例はありますか。保育・教育現場に限らずお答えください。(自由記述)

「無意識の思い込み」など影響を及ぼしていると考えられる事例
■20歳代以下
「女の子はピアノ、男の子は野球やサッカー」「男の子の競技だから女の子は参加できない」
男の子はズボン、女の子はスカート、男の子は車や乗り物が好き、女の子はままごとや可愛いものが好き。
髪が短い先生＝男の先生という認識が子どもの中である。男の子がおままごとをしようとすると、「〇〇くんは男の子だからやっちゃダメ」という子どもがいる。
男の子は車やブロックが好き、女の子はままごとが好き、というイメージがあり好きな遊びをできないことがある。
〇〇くん、〇〇ちゃん呼び。
男の子どうぞ 女の子どうぞと性別を分けて呼ぶこと。
男の子と女の子で分けて活動をしてしまう。
ねこのお医者さんの絵本を題材とした劇で役決めを行った時、看護師(赤ちゃんを産む)役を男の子が希望した。看護師は男の子でもできるが出産は女の子にしかできないため遠回しに違う役に誘いかけ、当日はお医者さん役になったが、普段のままごとでもスカートをはく姿が見られた。子どもの姿をありのまま受け止めてあげたい気持ちと、他の保護者や子どもからの視線を考えると、関わり方が難しかった。
ままごとなどで「ママ、お母さん」の役の子に「ご飯つくって～」「赤ちゃん泣いてるよ」などのやりとりがあること。
ぬりえの絵柄がポケモンや鬼滅などはどの子も使うが、プリキュアの塗り絵は女のイメージが強く感じている。靴の色や花柄などの柄物は、男女で分かれているイメージが強く感じる。
男女に分けて身体測定を行うこと。
男女別に並ぶ、男女別に色分けする。
スリッパのカラーがピンクと水色で、男女分かれて履こうとする傾向がある。
女の子はピンク、男の子は青という色のイメージがある。
小学生の黄色い帽子が、男の子がキャップタイプ、女の子がハットタイプをかぶっている姿を見かける。
色の区別。
色を選ぶ時に、男の子はピンクを選ばないなど子どもの中でも意識があるようだ。
男の子は青、女の子は赤などの色分け『女の子どうぞ』と呼ぶことなど。
男の子は青色、女の子は赤色。
「男の子なんだから泣かないの」「女の子なのに乱暴しません」というような大人から子どもへの声かけ。また、ままごとは女の子の遊び、ミニカーは男の子の遊びというように大人が勝手に決めつけること。
男の子は強いから泣かないや女の子だから言葉遣いに気をつけてなど。
「かっこいいね」「かわいいね」の声かけ、男女別の呼び方、男女のバランスを無意識に考える運動会等の並び方。
男の子をかっこいい、女の子をかわいいと形容すること。
洋服が男の子らしかったり女の子らしかったりするものを着用していると、男女の差を感じます。
両親共に働いていたとしても、母親が家事をすることが多いことなど。
男の子は立ってトイレをする方法を伝える。
特になし。
■30歳代
トイレスリッパにおいて、ブルーとピンクで分けて、男の子用や女の子用など分けがち。
ピンクは女の子の色というイメージ。
ランドセルの色を決めるときに迷った。
子どもの園で使うピアニカや縄跳び等が、男の子は青、女の子は赤と色分けされている。
女の子～男の子～と分けて呼ぶ。
色、服装、呼び名、排泄、怪我など様々です。
色を赤は女、青は男とかになってるところがある。
色別など。
男の子だから青色にすると選択することがあります。

「無意識の思い込み」など影響を及ぼしていると考えられる事例
男の子なのにピンクはおかしい！などの子どもからの声もまだあると思います。
男の子は寒色やかっこいいものが好き、女の子は暖色やかわいいものが好き。
男の子は青、女の子はピンク。
男の子は青、女の子は赤などスカートを履くのは女の子、髪の毛が長いのは女の子、ハートやリボンが好きなのは女の子、男の子は泣かない、強くなりなさいという言葉、ランドセルの色など。
男は寒色、女は暖色。
男は青、女は赤又はピンクと決めつけてしまう。
男児が誕生日のリボンでピンクを選んだ時、「男の子だけどピンクが好きなんだね」と言っていた場面がありました。からかうように言った様子はなかったのですが、不思議そうな感じで言っていました。
保育室内で表示を作る時に、男女が分かりやすいように色で分けることはあると思います。
褒め言葉は、男の子はかっこいいで女の子はかわいいじゃなきゃいけないという固定概念。
おままごとで男の子がお父さん、女の子がお母さん、と役割が決まること。
お遊戯など強い役は男の子、プリンセスは女の子。ポンポンの色など。
プールの着替えの時などに男女別になっている。整列の際に男の子、女の子と呼ぶことがある。
マスクの柄でキティちゃんやマイメロ、すみっコぐらしは女の子。
園では男女の区別なく保育をしているが女の子はかわいいものが好きで男の子はかっこいいものや恐竜や車などが好きな子もいるので友達に影響されて自分の意見を言えないのかなと思うような場面を見かけることがある
絵本の中の昔ながらの父母の役割について、子どもはお父さんがお仕事に出かけて、お母さんがおうちの中にいるものという描写が多いように感じる。
更衣室が男女別。必然的に男の子はこっちよ。など声をかける事になり意識させることとなる。
女の子はズボン、スカートどちらも着られるが男の子はスカートを履いてると個性的に思えてしまう。
制服の違い。男が家を継ぐ。
男の子なのにプリンセスが好きなんだってー、という言葉子どもから聞いたことがある
男女別に分けることがある。
男女別の整列。
保育園の着替えの貸し出しはスカートは女の子だけ、髪の毛を縛るのは女の子だけということは無意識的にしている気がします。
母の日や父の日について子どもと考える時、母→家事をしてくれる、父→働いてくれていると子どもも考えがち。
子どもを誉める際、無意識に男の子はかっこいい、女の子はかわいいと言い分けていることがある。
小さい子どもたちを下の名前で「ちゃん、くん」の使い分けで呼ぶ時点ですでに性別分担意識を高めているかもしれない。
男の子なんだから泣かないのって言っている場面があった。
男の子にはトイレを立てるように声をかけがちである。
トイレの使用時に男の子は立って、女の子は座っておしっこをすると流れになっている時がある(常にはではない)。
プリキュアや仮面ライダーなどの男女がわかりやすいテレビ番組。
女性は家事、育児をして当たり前という考えの男性が多く、今多くの女性が働いているのに女性は仕事して、家に帰ったら家事育児をする。男性は仕事して家庭では女性任せっきりで何もしない。
男の子は、力がつよい。
男の子は髪の毛が短いのが普通。
娘が女の子は髪の毛が長いもの(短いのは変)、可愛い物が好き(かっこいいのは男の子)というイメージを持っているので、テレビのアニメや、大人が持っている思い込みをなんとなく子どもも感じ取っているのかな、と思います。
■40歳代
「ぼく」「わたし」など、一人称の呼び方。5歳児の女の子が自分のことを「ぼくちんねえ。。。と言った際、「あなたは女の子だから、僕じゃなくて私って言うんだよ」と伝えていた。
「男の子なんだから～」という言葉のかけ方。
「男の子取りに来てね、女の子取りに来てね」など、グループごとと呼ぶ時に男女別に呼ぶことがある。
『女の子はおままごとをお片付けしてね』『男の子はブロックをお片付けしてね』などの言葉がけ。
かわいい女の子、かっこいい男の子と、呼んでしまうことがあるので、かっこいい女の子もかわいい男の子もいるよね、と伝え方に気を付けています。

「無意識の思い込み」など影響を及ぼしていると考えられる事例
スーパーで近くにいた子どもが泣いていました。その子のお母さんと思われる方がその子に向かって『男の子なんだから泣かないの。』と声をかけている場面に遭遇しました。とても違和感がありました。
トイレなど男女別(男の子は立って、女の子は座って)を当たり前のように声掛けしてしまう。
今はだいぶ少なくなってきたと思います。ふとした時に都合がいいからと男女で分けようとしたり、「女の子はピンクのところ置いてー」みたいなことをしがちですが、今は誰かが気づいて声をかけてくれるようになりました。
女の子がぼくと自分のことを呼んでいる場合、私だよと今までは直していたが今後はどうしていきべきか悩みます。
クラスの半分ずつ呼んだり並んだりする等に、女の子、男の子で分けて声をかけていることがある。
ズボンに男の子、スカートは女の子、おままごと遊びでスカートを出すとクラスでは男女関係なく履いて遊んでいます。
トイレに行く時に、男の子でも洋式に入って座ってしないとできない子がいて、他児に言われてしまう。
靴や服装等、男の子っぽい、女の子っぽい服を身につけていると、違和感を感じて口に出す事がある。
劇遊びで、お姫様役は女の子がするものという意識は、保育者側にあると思います。
個人シールを決めるときに、女の子は可愛らしいもの、男の子は乗り物や虫系を選びがち。
順番などでも、男の子から、女の子からなど、普段の保育の中で、自然と使っていることがあると思います。以前よりは少なくなっていることも感じます。
女の子にはままごとを、男の子には車を買って与える家庭が多く、またその逆をしている家庭は少数派に思える。
整列で並ぶときに男女分かれて並ばせること。
男の子が女の子のキャラクターを持ってると違和感があり、変なのと言う子がいる。
男の子にはズボン、女の子にはスカート。男の子には車や電車のおもちゃ、女の子には人形やままごと等。親が子どもに買い与えるものを、なんとなく性別による思い込みで与えることがある。
以前、トイレのスリッパの色が青と赤で、男女で分かれていて疑問に思ったことがある。
色についてこの色は女の子の色だから嫌だと言う姿があった。
色の好みや服装など。
色の選別。
色や服装など、やはりとらわれている部分が少しはあると思う。
色分け、マークの使い方、服装、化粧。
用品販売のシューズが青色と赤色のラバーになっているためなんとなく男女で区別されそうです。
コマーシャルなど、商品に多いと思います。
園では、ないように努めているため、ありません。以前は、名簿や整列が男女別、トイレのスリッパが赤と青などありましたが。
警察官のイラストが男性だったり、看護師が女性だったりするところ。
子どもの名前シール。
髪の毛が長いのは女のこっぼいな。と思うこと。
服装や髪型など、女の子らしさ、男の子らしさが表れるものが多いと思うが、自分で選べる年頃になったら、親の好みに合わせるのではなく、選択できるようにするべきだと思う。
無い。
特にありません。 (8件)
■50歳代
〇〇ちゃん、〇〇くと名前の呼び方で性別を意識すると思います。
ちゃんとくんで、呼ぶこと。
行動を認めてのほめ言葉として、「優しかったね」は男女問わず使うが、「強かったね」は男の子に使う頻度が多い。
最近では保育園でもいろいろ配慮されて、男女を意識することなく生活できていると感じます。しいて言うなら、「〇〇くん、〇〇ちゃん」という呼び方だけは変わっていません。
男の子列、女の子列に並ぶ時、～君～ちゃんという呼びかた、生活発表会で男の子役、女の子役に選ぶ時など。
遊びの中で、つい男の子、女の子と呼んだりする事がある。
こどものロッカー、くつ箱等に貼る、シールのマークに、男の子は象やライオン、カブトムシなど、女の子はちゅうりっぷ、ウサギ、ちょうちょなど、それぞれ男の子っぽい物、女の子っぽい物を選んで決める事が多い。

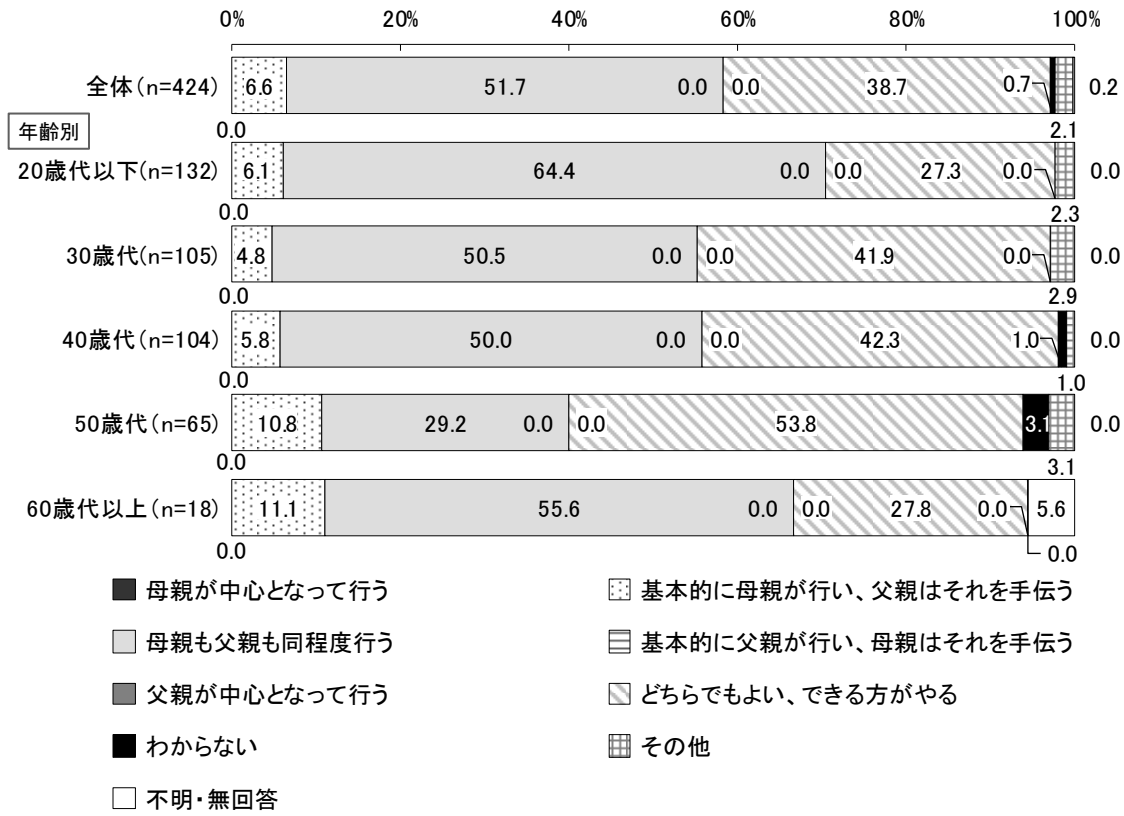
「無意識の思い込み」など影響を及ぼしていると考えられる事例
トイレに誘う時に、個室のトイレは女の子優先、男の子は男子用トイレに誘ってしまうが、男の子も個室を使いたい子もいるのかもしれないと思う。
言葉遣いなどは、あるかなと思う。
個人のマークシール。入園前に保育士が決めている。男の子だと動物や虫、女の子はお花やフルーツで決めてしまっている。
男の子なのに泣かない 女の子なのにやんちゃなど無意識に性別の決めつけをしてしまうことがある。
男の子色や怪獣が男の子のものという思い込み。
並び順。
目印のシールを男の子らしい物、女の子らしい物をえらんでいた。
まだ男の子は男の子色みたいな風潮がある。
男の子の好きな色、女の子の好きな色を、無意識に選んでしまうこと。
園では、そのようなことはないが、世間では、男の子は、たくましく、女の子は、おしとやかにという、風潮は、まだまだあると思う。
ここ数年、男女を分けたり区別したりすることのないようにしているので、思いあたることはありません。
自然と感じてしまうことはあると思う。
男のは泣いちゃいけないんだよ。という子どももいる。
男の子が好きな柄が決して車等に限らず、プリンセス柄が好きな子もいるということを知りました。
男は仕事をする、女は家事をする。
服装や髪型など 言葉での意志の疎通が難しいので、大人が決めて与えているのはやむを得ない。
特になし。 (2件)
■60歳代以上
エプロンを買う場合女の子は、ピンク。男の子は、水色がいいかな?と無意識に考えてしまうが、子どもが決めれば良いと思う。
くん、ちゃん、さんの使い分けにとまどう。
ふつうに、その子らしさを尊重することがいいと思います。
自分自身、固定概念があるので変えていきたいと思っています。
生活発表会などの表現遊びの役決めで考えるところはありますが、子どもの思いを尊重しています。
なし。

3 子育て家庭の状況について

問6 望ましい子育てをどのように考えますか。(単数回答)

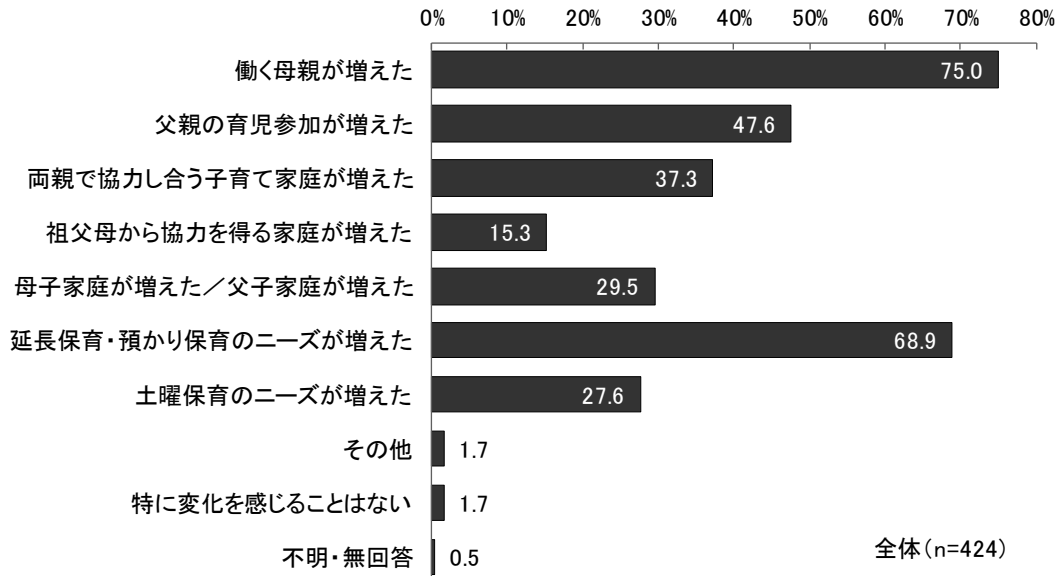
望ましい子育ては、全体で「母親も父親も同程度行う」が51.7%と最も高く、次いで「どちらでもよい、できる方がやる」が38.7%となっています。

年齢別では、「母親も父親も同程度行う」が20歳代以下で64.4%と他の年代と比べて高くなっている一方、50歳代では29.2%と他の年代と比べて低くなっています。また、50歳代以上で「基本的に母親が行い、父親はそれを手伝う」がそれぞれ約1割と、40歳代以下と比べて高くなっています。



問7 以前（5年前くらい）と比較して、次のようなことで子育て家庭の状況が変わったと感じることはありますか。（複数回答）

5年前くらい前と比較して子育て家庭の状況が変わったと感じることは、全体で「働く母親が増えた」が75.0%と最も高く、次いで「延長保育・預かり保育のニーズが増えた」が68.9%となっています。



年齢別比較

40歳代以下及び60歳以上で「働く母親が増えた」が、30歳代～50歳代で「延長保育・預かり保育のニーズが増えた」が、それぞれ7割を超えて高くなっています。

(単位: %)	n=	働く母親が増えた	父親の育児参加が増えた	両親で協力し合う子育て家庭が増えた	祖父母から協力を得る家庭が増えた	母子家庭が増えた／父子家庭が増えた	延長保育・預かり保育のニーズが増えた	土曜保育のニーズが増えた	その他	特に変化を感じることはない	不明・無回答
20歳代以下	132	77.3	31.8	29.5	22.7	24.2	57.6	29.5	1.5	2.3	0.8
30歳代	105	77.1	47.6	41.0	14.3	37.1	75.2	35.2	1.0	1.0	0.0
40歳代	104	76.0	58.7	41.3	9.6	28.8	77.9	23.1	1.9	1.0	0.0
50歳代	65	67.7	61.5	44.6	12.3	26.2	72.3	26.2	3.1	1.5	0.0
60歳代以上	18	66.7	50.0	22.2	11.1	38.9	50.0	0.0	0.0	5.6	5.6

※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目第1位と第2位に網かけをしています。

問8 男女共同参画の観点から、子育て家庭の状況をみて課題を感じることや相談を受けることはありますか。(自由記述)

感じる課題や相談内容等
■20歳代以下
いまだに、父親が育児にあまり関心がないと言う母親からの言葉を聞いたことがあった。
まだ男性の子育て参加が少ない。
子育てを分担して行なっている家庭もあれば、職種（出張が多い等）などによってどちらか一方に偏ってしまっていることもある。
男性が子育ては「手伝う」という意識がまだまだ強いと感じる。イクメンという言葉があるが、そもそも自分の子どもなのだから男性でも女性でも育児をするのが当たり前だという考え方がもっと根付くべきである。
父親が協力してくれない（できない）ということがある。
父親の方が仕事で帰れないことが多く、その分子育てに関われない。父親の会社が子育てに理解がなく、育休が取りにくかったり、帰りにくかったりする。
父母共に働く家庭が増えて、延長保育の利用や土曜日利用の子が増え、職員の不足などが課題になる。
保育園からの緊急連絡先の順番について、母親→父親の順になっている家庭が圧倒的に多く、子どもの怪我や病気の際に仕事を休んで迎えに来るのは母親であることが割的に多い。
保育中に子どもの体調が悪化すると、こどもを迎えに行くために母親が仕事を抜けなければいけなくなってしまうため、病児保育が充実すると良いと思う。
共働きが増えたため、家庭への時間配分が減り、子どもへの教育やしつけができない親が増えたように思う。
共働き夫婦の子どもの様子を見ると、母(もしくは父)が家にいて、保育園にいる時間が短くなる家庭の子の方が精神的に落ち着いていることが多い。男女が平等に社会に出ることで犠牲になっているのは幼い子どもたちだと感じる。子どもたちのためだけを考えたら片親がフルタイムで働かなくても暮らしていけるような社会の仕組みが必要だと思う。
仕事が長引いてしまうと迎えの時間がギリギリになってしまうこと。
仕事に育児に疲れ果てている親の姿がある。
子どもの利用時間が長い為、保育士の人数不足を感じる。
男性も、女性も子どもを育てながらの仕事をする環境が整えられるともっと働きやすく、子どもとの関わりも増えるのではないかと思います。
預けること、働くことばかりに声掛けがいきってしまい、子どもの気持ちはどうなるの?とか感じるがあります。
男性の育休の取りにくさ 育児は母親の固定概念。
男性の育休期間を長く取れると良い。
父親の育児参加(育休など)が社会的にまだ普通のこととして理解されていないように感じる。働く母親が子どもが熱を出して会社を早退して迎えに行くことも理解されていない会社もあると感じる。
協力しながら家事や育児を行なっていく中で、分担したところしかやらない。言われていないからやらない。ということが少なからず出てくると感じる。
近くに相談する人がいない。
特になし。(6件)
■30歳代
お迎え時間がギリギリになってしまう。食事の準備が大変。主に母親から。
どうしても母親が時短をとったり、家事育児をしていることがほとんどだと思う。
共働きだが、父親が仕事が忙し帰りが遅いため母親のみで育児家事をしなければならず、余裕がない家庭からの相談がよくあります。
共働きなのに母親が育児のメインを担っている気がする。
普段から家事育児をする時間がないからなのか、母親が仕事が休みの時は子どもも保育園は休み。でも父親が仕事が休みでも子どもは保育園を休まないことが多い。
父親が育児をしてくれないと言う相談を受けたことがある。
父親が保育参加は増えたが、園への関心や理解は低く感じる。ただお迎えにくるだけなど。
母親と父親の育児に対する責任感の差が激しい。
親御さん自身が共働き等増え、子どもと接する時間が減ったのか、どうやって子どもと接したらいいのか、

感じる課題や相談内容等
わからないと相談を受けることがある。
男性の仕事と家庭のワーク・ライフ・バランスが企業側にとってのメリットが見られない。
働き世代が夫婦で協力しながら育児するためには、祖父母や地域の協力が不可欠、これがなければ共倒れもありえる、もしくは仕事か育児の選択を強いられる。一方で祖父母も働き続ける人が増えている印象で協力を得にくいのが課題だと痛感しています。
働く時間が増え、子どもとの関わる時間がなく、自分の子がどのように成長しているか分かっていない保護者が増えたように思う。
父母共にフルタイムで働く人が増え、延長保育を遅くまで使う子が多いが、家庭にいる時間が格段に少なくなっている。
保育士は特に、祖父母がそばに住んでないとフルタイムでは仕事できないように感じる。
母が妊婦で出産や育児で父がお迎え時にどうしてもお迎え時間が遅くなる状況がある。子どもからすると同等の親なのにお迎えが遅くなることで不安を感じる子もいる為、子どもへの配慮が会社でもできることはないのかという課題は感じる。また、出産時は特に(コロナになって面会に行けないことで)母と別れて過ごし不安も多いので園での様子を聞いてくる父は多い。
特にありません。 (2件)
■40歳代
お子さんのお熱が出た時にやはりお迎えに見えるのはお母さんが多く、職場の方のお父さんの子育て参加の考え方も関わっているのではと感じました。
お父さんの帰りが遅いので、平日の子育ては母親ひとりで頑張っていると聞くことがある。
どうしても女性に子育てがいきがち。
まだまだ送迎は母親が多く、こどもの状況に合わせているのは母親が多いように感じる。
まだまだ母親中心の子育てが多いと思う。
やはり、共働きとなったことで、母親の負担が大きい。年齢によっては、やはり母を求める子の姿もあり、育児の比重が母親に寄ることはやむを得ないと思うし、家事もやむを得ないと思うが、やはり疲れた母親が多いと感じる。
共同になってはきましたが、まだまだ母親の負担が大きいと感じます。
今は、まだ男性が子育てに消極的という状況があるので一律に参画を求めるが、性別に関わらず、性質の向き不向きはあると思う。
仕事が父親が休みでも、母親が送り迎えをするなど、育児の負担が以前多い家庭がある点。
男親が協力してくれる家庭も増えてはいるが、協力するという立ち位置で主体的に育児家事を行う父親は少ない様に感じる。
男性の育休取得をしている家庭が未だに少ないと感じます。それによって、母親の負担が変わっていない状況が見られ、母親が苦しんでいる姿を見ることがあります。
父親が子どもを見るのが難しいため、父親が休みでも保育園に預けたいと言われることがある。
父親の子育て参加について。子どもの体調不良の際に仕事を休むのは母親という状況について。
子どもの調子が悪い時に、お互いが休みをとりやすい環境。父親のが取りにくい。
子育て仕事を両立してがんばっていて…たまには、息抜きもあっても良いと思う。
親が時間や人間関係の悩みに忙しくてイライラしていると感じることはある。
一人親家庭の支援は必要だと思う。また、何か病気でお迎えのときはまだまだ父親より母親が来る人が多いので。平等になるよう組織で制度を整える必要がある。
母子家庭の親は大変そうだなと感じることがある。
個人や年齢によって、男女観についての考え方が違うので正解は無く、お互いの意見を尊重するのが良いと思うがなかなか難しいところでもあると感じる。
当事者以外の地域や親族の意識改革に課題があると思います。
母親が働き、父親が子育てを支援する家庭が増えているが、両親の考えの違いから問題点が浮かび上がり、育児相談を受けることが増えてきた。
特にありません。 (6件)
■50歳代
母子家庭になった方が、同じような家庭は、他にいるかなど、聞かれた。お応えはできなかったが、やはり、不安を抱えて見えると感じた。
保育現場から見て、子どもが熱を出した時には、仕事をしていてもほとんど母親が迎えにきています。これは、まだ母親の負担がおおいのでは、と感じます。
まだまだ、仕事で父親が遅くまで働いている家庭があり、子育ての負担が母親にのっていると思う。

感じる課題や相談内容等
仕事が休みでも、特にお父さんが休みの場合でも保育園に預ける親が多い。
子どもが体調を崩した時の対応は母親が行っている割合が多いように思う。就職先を選ぶ際の条件に（子どもさんへの対応など皆で協力し合っています）という一文が入っているのをたま目にするのは、そういう状況があるからだろうと思う。
子育てに協力的な父親が増えたと思うが、一方で協力してもらえないと相談されることもある。
就学相談など母親任せになっていることが多い。
父親1人だと面倒が見られない。母親もしくは祖母の手をかりないと年齢が低いほど難しい。任せられないと思いついでいる。
父親の育児参加。
父親の育児参加が増えてきたとはいえ、やはりどうしても育児の負担は母親の方に偏りがちになってしまいます。例えば子どもの発病時に休みを取るのは母親が多いと感じますが、父親にも休みを取ってもらえるような制度が進むとよいと思います。
母親も仕事をする時間が増えてきた。中には、父親があまり子育てに関わらない、母親が手伝ってと言えない家庭もある。そんな母親からの悩みを聞く。どちらも折り合いをつけて協力して子育てをすると子どもにも良い影響を与えると思う。
子どもが母親を求める気持ちが置き去りと感じる場面がある。
子どもと親の関わる時間が減ってしまっていると思う…。それは母親、父親限らずですが…。
子どものことについて、～保育園との連絡 子育ての考え方の一致 子どもとの関わり方などが、両親とも仕事が忙しくてうまく連携できずに、子ども自身が不安定になること。
祖父母の協力を得られない家庭や、リモート勤務などで、なかなか子育てとの両立が難しい。
あまりないです。
パートなのであまりありません。
複雑な家庭が増えてきているのを感じる。
特にない。（3件）
■60歳代以上
まだまだ、男性の育児参加と世代間における理解の固定概念は大きいと思います。
まだまだ、母親が子育て中心のようです。
核家族が増えて、助けてくれる祖父母が近くにいない。病気などの時に大変だと思ふことがある。
父親が育児休暇を取る人が、少しずつ増えてきているように感じる。社会全体が取りやすい、雰囲気になってほしい。
特にありません。（3件）

令和4年度
安城市男女共同参画に関するアンケート調査
【調査結果報告書】

令和5年1月発行

発行 安城市 市民生活部 市民協働課

〒446-8501
安城市桜町18番23号
TEL : 0566(71)2218
FAX : 0566(72)3741

自由意見

【市民】

男女共同参画に関する事で何かご意見がありましたら、自由にお書きください。

意見等内容

■10歳代 ・男性

国がとか地域がってよりも結局は会社やその偉い人間、あるいは個人が変われるかどうかかなって思う。そこに対しての援助という形で市が協力していく形がいいのかなと思う。全体にというよりは「協力して～！」とか「助けてください…」みたいに困っている人や協力を要請してきた人への援助という形を取った方が多くの方が気になるし興味を持ってくれる人が増えると思う。

■20歳代 ・女性

女性はどうしても出産育児があるために男性との差が産まれてしまいますがその点に対する支援が手厚くなれば男女差を感じにくくなると思う。LGBTの問題については更衣室やトイレ等の問題が解決しないと社会の意識が変化しても社会的な生きづらさは変わらないと思う。

性別問わず個人が有する能力に目を向けて、向き不向きを判断する事が大事であり、それを推奨して実現される社会が来る事が良いと思います。

幼い頃からの教育を変えていかないと、ここ数年でどうにかなるものとは思えません。それでも変えようという努力は無駄にはならないので、私自身も意識を変えていこうと思います。

私の友達で女同士のカップルがいます。とても幸せそうで長く続いています。でも今の制度だと結婚もできず法的に2人の関係が認められないのは少し悲しいです(本人たちはどう思っているのかわかりません)。また、そういった子が周りにいるので自分の世代(20代くらい)では理解があると思いますが、親世代(50代くらい)だと理解がないように見受けられます。例えばTVでLGBTQのことをやっている「気持ち悪い」とか言っているのを聞いたことがあります。どの世代にも少しでも理解が広がって同性愛のカップルでも幸せに生きていける制度や雰囲気ができていくといいなと思います。

女性が今よりもっと働きやすい、仕事を長く続けられやすい社会になってほしい。パートでも育休や産休がある、男女でお給料の差がない、パートの最低賃金アップなど。男の人には育児にもっと協力できる制度が整ってほしい。家庭と仕事を両立したい人が(男も女も)もっと両立しやすく、どちらも大切にできる制度が整ってほしい。もっと進んでほしい。

■20歳代 ・男性

無作為ではなく、ある程度の選別をしてほしいです。本人がアンケートを回答する事は非常に難しいです。

自由回答ではなくある程度の強制力を持ってアンケートを実行しないと大衆の本当の意見なんてわからないと思う。市や国は力を持っているのだからもっと積極的に多くの人々にアンケート等やって貰える様な活動をした方が良く思う。

■30歳代 ・女性

108時間と決められるよりも週に〇時間と有れば子育てし易いし、家事との両立(夫の支援)も受けやすい。公務員の勤務時間が給料は減ってもある程度は自由になると良い。

P T A、子ども会の活動に関して、昔は女性が家事育児をしていていつでも家に居るので動けると思っていたと思います。今は夫婦共働きの家庭が多く、P T A、子ども会活動が苦痛と感じる方や、塾や習い事で活動に参加できない子どもも増えました。そのために時代に合わせてやり易くする必要があります。町内の老人達はそれについて否定的でP T A、子ども会、町内会活動に参加しないのは有り得ないと言います。考え方が違うので話を聞くのが苦痛です。

男女共同参画に関係していない事でしたら申し訳ないのですが、現在子どもが少しだけ手が離れて仕事を探しているのですが子どもがいる、さらにその子どもが未だ未就学児で小さい等の理由だけで断られる事も多いです。子持ちの主婦にはまだまだ厳しいと言う現実が解りました。仕事をしたいと思う子育て中の方はとても多いと思います。勿論、断られる理由はそれだけではないですが、もう少し理解のある世の中になるといいなと願ってます。

言葉だけで、実態が伴っていない制度だと感じる。昔から言われ続けているが、何年経っても何も変わっていない。古い体制の企業が多くあると思う。

子育てをしている女性が働きやすいようにしてほしいです。やりたい事たくさんがまんしてます。日曜日でも働きたいですが、なかなか預け先がありません。両家実家遠方で大変困っております。子どもの体調が悪くなると休むのは女性です。男性は仕事のみ、女性は仕事、家事、子育て、やる事多すぎて嫌です！少子化はどんどん進むと思います。学校のP T Aなど、旗番などなんとかありませんか？仕事しながらムリです。扶養103万超えられないのもツライです。以上日々のモヤモヤでした！

社会において男性の休暇取得についての体制ができて、働く人々(特に年配の男性)の理解が大切なため、管理職だけでなくすべてのスタッフの理解を充実していくことが大切。そのための教育制度を整えてほしい。私がフルタイムで働き、4才・1才の双子を育てているため、夫のサポートが不可欠なためぜひよろしくをお願いします。

男女差別は今の時代には全く合っていないと思うので、高年齢の方から変わってもらう必要がある。上の人が変わらないから変わらない。

そうは言っても祖父母等の協力なしで子どものことに積極的に時間を割くには、誰かに頭を下げてお願いしないと成立しないので、結局根底にある部分は変わらないと思う。そういうことを気にしない人は制度とか関係なく気にしないで生きていけるだろうし、仕組みが整ったとしても気にする人は気にする。

子の看病に有休を使うのではなく、有給の特別休暇にしてほしい。低年齢の場合、1週間はお休みする事がほとんどです。なぜ母親ばかり気まずい思いをして、給料も減るのに父親はいつも通りなのか… 入る懐は同じで、子どもの事とはいえ、自分の給料が少なくなるとモヤモヤします。また男性も育休を取ってほしいと思います、積極的に協力してくれるのであれば！が条件です…「休み」と喜び休まれるのは迷惑です。そうならないためにも家庭や学校、地域イベントなどで性教育をどんどん進めてほしいし、あるなら参加したい。生理の話もしっかり男の子にも聞いてもらいたい。結局はそれぞれ家庭次第な所はありますが、お互いを知る事で優しくなれる事はあると思います。

漠然としすぎてよくわからない。

昔からの考えは無意識に染み付いてるので、何を変えていくべきかを理解し行動にうつすことが必要だと思います。まずは、身近な家族等に向けての洗脳的な考えなどを無くし接することができれば、社会も変わっていくのではないかなと思います。

男性らしく、女性らしくが悪いことのように言われる社会の流れですが、むしろ性別の特性を考えると男女平等というのは逆差別だと思います。(女性が力仕事に従事するなど)女性が子育てをしながら働くということの背景には、金銭的な問題が大きく関係しているように思います。働きたいのに働けないというより、働かざるを得ないから働くように思えてなりません。もちろん、男女での賃金の差別は反対です。しかし、家庭内において能力を発揮するのはやはり女性が多いと思いますし、仮にそうでない女性が一部いるとしたら、その時は選択する自由と、男性が家庭に入る権利も認められるべきだし、制度も充実させる必要があると思います。まずはその場しのぎの安易な制度ではなく、安心して子育てができるための金銭的な補助制度が重要だと考えます。

生まれながらにして男女は身体的に平等ではないのですべてを平等にするのは無理だとは思いますが。その中でどれだけ男女共に思いやってくれるかなので難しいところです。

性被害が無い世の中になるといいですね。

日本では今は移行期で問題も出やすい時期と思う。男女ともに、国民全体で意識を変えていく必要がある。ワークライフバランスは欧米が進んでいると感じたので、制度等参考にしながら日本に合うよう取り入れ、より多くの方が充実した生活が送れるようになることを期待する。

「男性と女性を同数程度活躍させる」ということが、男女共同参画では無いと思う。その役割に適性のある人間かどうか重要で、その人が男女どちらであろうと関係ない。また最近、どちらも積極的に家事育児に取り組む家庭が増えているように思うが、祖父母の世代にはまだ意識の隔りがあるように感じる。時代によって家事育児も変化しているため、親世代のみならず広い世代に周知されるとよいと思う。

体の構造的に、男女平等は難しいと思う。お互いの特徴を知り男女尊重を目標にしてほしい。

長年、こうあるべきと思ってきた人の考え方は、なかなか変えることが難しいものがあり、会社でも男女差別の研修を受けてきた上司が、そのすぐあとに平気で差別的な発言をしていた場面を見たことがあります。私自身も、近所のご年配の方から、子どもがいないなんて寂しい生活ねって言われたことがあります。どんなに、研修を受けたり、啓発運動をしても結局最後は、一人ひとりの思いやり、相手の気持ちをどれだけ考えられるかにかかってくるのだと感じます。そういうことを言ったら、この人はどう感じるのかと、発言するまえに考えることが大切なんだと思います。そのためにも、やはり幼少期からの道徳教育や家庭での日々の過ごし方の中で、思いやり、相手の立場になって考えるということ、いかに身につけていけるかということが、未来のために必要なのだと思います。

男女平等はとても大切。しかし男女それぞれに得意分野があることも事実。女性として家事育児をすることはとても充実して素晴らしい人生経験で立派な社会参画だと思う。問8や12、23などから、女性が家庭に入ることを否定的に捉えているように感じられてしまった。女性それぞれの選んだ生き方が尊重される社会になってほしい。

■30歳代・男性

出産・育児に対する出費が補助金および手当では足りていない。新築・リフォームに対する補助金が足りていない。

男女平等については賛成します。ただ、企業における女性管理職の数を増やすということには反対です。女性が望んで昇進したいというならば平等であるべきだと思うが、外からの見目のために数だけ増やしているは何の意味もないと思う。

このアンケート自体が男性優位となっていると感じる。男性が主で作成した？女性が主で作成したアンケートにも回答したい。差別は完全になくす必要があるが、区分(区別)は必要だと思う。PTAや地域の会合など男性が一步でもよいので引くようになってほしい(市長も)。メディアによる〇〇男子、男性向け等の表現をなくし、その人が自由に選択できるような社会を目指す。

働きたい女性を否定はしないが、生理や妊娠、出産など、そもそも女性は働くのに向いていない、無能な女性を女性というだけで参画させるのは町や国の発展には何の利益にもならない。こどもを産めるのは女性だけで、男性はその女性を尊重し大切にすること。女性は結婚をし、子を産み、家庭を守ることが幸せと感じる社会にすべき。子どもが豊かにならないと発展は無い。

多様性とは自分の価値観と違う人の意見も目に入るようになることでもあると思います。男女も個性もすべて認められた上で個人が生きやすい世の中になるといいと思います。

負の連鎖から抜け出せない、一人孤独に考えて行き詰まってしまう人をいかに救い出すか、そしてその人達の事に関心を持てるかが重要だと思います。一人ひとりの意識を変えるために、他人に興味を持ち、多様性を受け入れる環境ができると良いです。まずは学校教育で子ども達に教えて行くのが、将来を見据えると、効果的だと思います。

スピードを求めるのであればまずは教育と感ずる。

差別を無くすことは賛成だが、なんでもかんでも差別だと声を荒げる事例も見かけるので過剰な保護は危険だと思う。その線引きが難しい。

子どもが生まれ、夫婦共働きをしたいが、0歳から預けられる環境がまだまだ整っていないと思います。保育園、幼稚園の数を増やす、希望者全員があたり前に預けられる様に、入園基準の緩和など、男女問わず、出産、育児休業後、仕事に復帰しやすくなる環境の整備を進めていただきたいです。

イクメンなどと言う男性に都合の良い名称の使用は止めるべき。女性側の意識にある問題も積極的に議論されるべき。

■40歳代・女性

男性も赤ちゃんのお世話がしやすい様に配慮してあげてほしい。(授乳スペースやおむつの交換)未婚の男女(子どものいないカップル)の権利も尊重してほしい。特に育休中のサポートに対する対価(育休中の賃金見直し分を分配)。子どもを産まない人の権利の尊重。

会社にも浸透するように働きかけていただけるとうれしいです。

男女にこだわらず、1人ひとりが分担意識をもって、得意をのばす、足りないは補い合う。

最近「女性のための～」や、管理職に女性を採用～とか、対外的にアピールして、取り組んでいるというアピールが多いように思う。実際は、男性の意見も大事だし、優秀であれば性別関係なく昇進するべきだと思う。ジェンダー平等というわりに、女性ばかりを重視するのどうか。

男女共同と言ってもやっぱり男性が優先だと思うから、言葉だけじゃなく行動を先にやってもらえると変わると思う。

男女共同参画プランがすでにあることを知りませんでした。市民の声を聞き、積極的に取り組んでいることはいいことだと思います。みんなが暮らしやすい社会であってほしいです。

すべてを平等にすることは不可能だと思います。身体の構造も違うので。男女平等ではなく、お互いの性別の特長や個人の個性を尊重し合う社会づくりを目指してほしいです。また一部の不当な差別に苦しんでいる人達の相談窓口を相談しやすい方法で(フリーダイヤルにするとかLINEでも相談できるなど)充実させてほしいです。

女性自身の意識・考えをしっかりと発信すべきと思う。

大人が、身近な子どもに対して家庭内や小中学校などで、男女平等の意識をもてるように行動することが大切だと考える。男女間に差があることに無意識だったり、あたり前だと感じてしまったりすることに問題がある。現実を知り、自分ごととして捉え、これからどうすべきか考えるためにも、男女共同参画やジェンダーについて学ぶ機会が必要である。

女性が活躍するのが素晴らしいとかではなく、あたり前の社会になると良いと思う。そのためには、女性自身の意識改革も必要。

「男女共同」とうたうよりも、個人の考えを尊重し適材適所に能力を活かす結果そこに「男女」を含め様々な垣根が無くなる、という形が望ましい。

自分も含め、染みついてしまった意識を変えるのは難しい。そのため、幼少時からの教育で意識づけをしていくことが重要だと思います。それと同時に、共同参画につながる仕組みを作っていくことで、否応なく人の行動を変えていき、それにより意識改革も進んでいくと思います。行政の主導が重要だと思います。(たとえば、少し前に小学校の名簿順が男女混合になったこと⇒あたり前だったことが、男女不平等だったことに気付いた人も多いかと思いますが)

まだまだ女性の意見を取り入れているとは言えないと思う(議員が少ない、PTA幹部は男性・雑用は女性など)安城市はかなり保守的で、先進的なことはしない印象。もっと女性や母に対してのサポートがあれば、社会で活躍できる。労働力は増えるし、活性化する。市議会議員の定年制を設けるべき。いい年したオジサンが偉そうにしている姿を晒すべきではない。もっと若い人、特に女性を増やすべき。多数派の声にならないと、ジイさんが女性をホステスか飾りにしか思わない。安城市がもっと積極的に男性に育休を取らせたり、時短勤務もさせて、ワークライフバランスを進めていることをアピールすべき。安城市は福祉や生活サポートについては進んでいると思っていたが、例えば子どもの医療費について高校生は無償にしていなかったり、他市に先がけてやれていない。もっと経済的な負担が減らせるよう取り組むべき。生活に余裕があれば男性も女性も輝く。

■40歳代・男性

税金を使ってアンケート等をしているのだから外注を使わずに市役所職員でしっかりとマーケティング作業をしてほしい。

制度を整え、世間に周知させ、継続的に行っていくなど基本的な事をすべきだと思います。

このアンケートが届いている時点で安城市は少し遅れているのかな？と感じる。市民の声をアンケートで聞くのは間違いだと思う。アンケートには理想などの感情が入り、現実との差が発生するので。市の方が街に出て直接声をひろう方が良いと感じます。

子どもの頃から理解できる様に教育の場で学べば理解が深まるかなと思います。

女性にしかできないことは存在します。だからこそ、男性は女性を大事にする世の中にしなければいけないと思います。だからといって女性が偉いという訳ではなくて、お互いに、尊重し合えば理想的だと思います。誰がやるべきとかではなくて、やれる人がやれば良いと思うし、人それぞれ得手不得手があるので、それを補い合う世の中にできたらと思います。できる人が突っ走るのではなくて、全員で進んでいける世の中にしていきたいですね。

男性に対するケアもお願いします。

設問が女性寄り(女性が不利益を被っている)の印象を受けた。男性側にも同様の設問を設けるなど、調査項目から平等にすべきではないか。

実感のある活動を。

地域の活動、婦人会や消防団など特に男女が平等でない。

この質問は仕事をしたい女性からの質問に感じます。最近は働く女性が増えて来てるのも有りますが、子育てに対しての考え方は置き去りな気がします。私はそこについても質問すべきだと思います。

差別のない社会の実現。

■50歳代・女性

特別な才能や能力のある女性は働けば良いが平均的な女性は家族や育児に専念できる社会になった方が子どもも増えて将来の日本のためになると思います。現状保育園や介護施設は充実していて女性は十分働ける環境にあります。LGBTの方は様々なので行政で一律に対応するのは困難です。周囲の方々に理解し個別に配慮して行けばよいと思います。

スマホからのQRコード読込だけでWebページのアドレス記載が無く、パソコンから回答する方法が解りませんでした。

母子家庭でも学校の役員などやった。同居だったのでできたがもし同居でなかったら大変だと思う。勤務がバラバラだったのでできたが土日休みの仕事ならキツイと思う。今はコロナなので行事の中止が多くとても楽です。防火クラブ、婦人部などの町内会行事が多いのでとても大変。今の若い人はお金を払っても良いのでやりたくないと言われる方が多い。もっと楽しくやりたいと思うような町づくりを心掛けてほしいです。

性的な枠ぐみではなく社会的な枠ぐみの中で機能していく社会が望ましい。

アンケートじたいがめんどくさいです。時間がないのに答えたくないです。アンケートして変わるんですか？と聞きたいです。

だんだんと「男」「女」とわりきらず、「個人」を第一として生きていける生活ができていけるといいですね。

とても大変な事がらだと思えます。子どもの頃から意識の植え付けをされたみたいなたちが今の大人世代。この大人たちが次のまた次の世代の意識を変えるためにも今伝えていける事、学校・会社・社会すべてに人は平等だと。男だから女だからとかじゃなく、がんばっている人たちがずっとがんばれる世の中になればいいと思う。

結婚することへの不安感が無くなり将来を明るくとらえられるようになれば人口も増え、いろいろな事が良い方向へ変わっていけるように思えます。

安城市にある中以上の企業に女子の代表者を出してもらい、働きやすくするにはどうしたらいいのかの本音トークができる体制を数回持ち、市の方針を打ち出して(条例にするなど)他の市町村とは違った女子が生活しやすい町づくりに取り組んではどうでしょうか。明石市の泉市長の女子へのサポートは街を活気づけています(ナプキンを各学校のトイレに設置するなど)。

誰もが自分らしく生きられる社会になるとよいですね。安城市の政策に期待しています。

いろんな年齢の人を交えて、話をする。大人だけではなく、学生から、幅広い人の意見を聞く。

年代が上になるほど古い考えに固執している現状があると思うので、意識が変わるように交流の場を設けてほしいです。

男女共同参加画は社会にはまだまだ浸透してないように思います。特に高齢者には。PRが必要だと思います。

個人の考え方にもよりますが、女性だけに家事や育児、介護を任せるより、男女が協力して分担する方が、より発展的で、質の良い生活が実現すると思います。

年齢が上がる程、理解されてる方が少ないと思う。それによって、地域・家庭など小さい単位で嫌な思いをしている人が多いと感じる。企業内でも必要だと思うが、町内会や学校などで周知する機会を増やすとよいのではないかな。

■50歳代・男性

男女共同強制参画には意味はない。国として成長するにはどうすれば良いのかを考えよう。

自ら出世や昇進を望まない女性や、夫の扶養の範囲内に所得を抑えるために敢えて非正規の就労を続けるケースが良く見受けられます。このために管理職に於ける男女比率や女性の非正規就労の割合を持って男女共同参画の進捗度を計る事に少々疑問を感じます。

うちは、3：1で男の負け。安城市で、男女共同参画事業として何が行われているか、まったく知りません。市民にもっと知って貰う取り組みをすべきだと思います。女性側の意識改革もとても大事だと思います。

まだまだ安城市は古い慣習が多いと思います。お年寄の意見は大切ですが、それが強すぎます。出しやばり、一言多いお年寄が目立ちます。もっと若い男女の方が意見が言えると良いかと。PTA、子ども会などから負担がかからない時間で、お父さん、お母さんから意見を聞かれては。

難しいアンケートが多いのでもう少し簡単に枚数少なめのが良いかと思ひます。

女性活躍や男性育児介護参画も大事だから、市政として社会が子育てや介護支援事業を活性化し、生活しやすい環境をつくる事が人口や税収増に繋がる。

経済的に参画したくてもできない男性も少なくないのではないかと。

男性の労働時間短縮が必要と思ひます。

広報誌、SNS等の媒体を使つての議案質疑を拜見できる様にして下さい。

■60歳代・女性

社会的な地位や給与面ではまだまだ男女差を感じます。少しでも男女差別が無くなる条例などが確立されると良いです。

家庭の中での古い習慣を考え直す機会が有つても良いと思ひますが、親がいる以上は中々言い出せない。嫁のくせにとか女のくせにとか自分の考え方も変えないといけなひと思ひています。

質問に対して回答が3つ、1つと有りましたが質問の内容に依つては答えられない内容が有りました。無作為の2,000人のみのアンケート調査では人数が少ないと思ひます。

女性の能力がもっと発揮できる社会になるといいと強く思ひます。まずは、このようなアンケート調査が実施されたことで、今後に期待したいです！

家族関係が重要・大切と思ひます。

世界的に見ても恥づかしい日本の考え方を変えなくてはいけない！！男性よりも、女性の方が平和主義者で、真面目、働き者だと思ひます！！

男性を肩書きにした組織が有れば、女性は反発すると思ひのに、女性は女性〇〇という組織を作る。その意識こそが、男女差別であると思ひます。

■60歳代・男性

家庭、職場、地域社会など海外と比べると未だ男性の方が優遇されている事が多いと思ひます。昔ながらの封建的な考えを持った高齢者の方が沢山おられます。時代はどんどん新しくなつてますので私達も時代に合った考えに変えて行かないと世界から取り残されてしまふと思ひます。先ずは市政の方から男女共同参画社会をアピールして頂きたいと思ひます。

男女平等はそうあるべきだと思います。でも、すべてが男女平等になるとも思ひません。オスとメスの違いを理解した上で…と言うか、ちょっと引っかけます。

今…男女共同参画ですか。私は男女雇用機会均等法ができた時点で、男子と女子の差別はないと思ひていました。現実はずいぶん違ふでしょうが。現在私の職場では、育休も男女関係なく取得しています。他の職場は知りませんが、まだ、昔のように男と女の差別はあるのでしょうか？それこそ、市の職員が、職場（会社）を訪問して事実を掴む必要があると思ひます。それぞれの家庭で何が起きているのかもわかりません…職場と家庭の状況確認が良い市であるために必要です。

法律や条例の制定が必要だと思います。

市民への施策より先ずは市幹部職員と市会議員の女性比率を上げる取り組みを推進すべき。

意識づけのスタートとして、選択的夫婦別姓を実現してほしい。

■70歳以上・女性

70才代の私達の世代では特に義父から「男の子を産め」と言われてきました。息子の結婚に際しては天に「結婚は彼らが幸せな家庭を築くためにする者であつて家系を守る、墓を守るためにするものではない」事をよくよく理解して貰うように努めました。子育てに関しては自分自身の男女共同参画にはできませんでした。「男でも女でも結婚してもしなくても自立して生きて行く人になる事」を第一に育てたつもりです。このアンケートで考える社会以上に便利になつた分だけ地球環境の悪化について考える必要があると考へています。

年齢がもうすぐ77才になるのでこの度のアンケートは余り参考にならないと思ひますが、若い頃の事を思い出したりまた、現在これから先の世の中がもっと良くなるようにと参加させて頂きました。

あくまでも私が社会人として働いていた頃を振り返つての参考までの意見です。今では老人会にて自分のために参加しています。

今の時代の男性は学校行事、家事を良く手伝っていると思ひます。

60才以上の男性の古い考えをいい加減新しく令和の時代に合った考えにしてほしい。

男性の子育て家事負担が有つてもどうしても女性の方が負担が多い。でも少しずつ変わつてきていると思ひます。ジェンダーに於いても私自身解つていた訳では有りません。小さい頃から隠さず色々な人がいるんだと言う事教えて一緒に身近に育てて行けたらいいなと思ひます。

このアンケート自体、回答を記入するのに1時間30分かかりました。72才ですが50年前だったら興味がありました…今さらという気持ちですが、若い人を応援してあげたいけれど…。

男性には男性の特徴があるし、女性も出産という男性ではできない事もあるので、お互いを尊重して協力していくことが大切だと思う。すべてのことに男女の差をなくすのはむずかしいと思う。思いやりが大事です。

まず、これだけのアンケートを考えてくださる方々がいらっしゃる事が素晴らしいと思います。大変なことも多いかと思いますが、これからもお困りの方々のため、頑張ってください。

地域によっては、未だ排他的・保守的な考えが先行しているところもあります。また、女性が働く背景にはさまざまな事象があり、対価を伴わなくても家事・子育ては、労力を必要とします。それぞれの生き方が受け入れられ、多様性が尊重されるような社会であってほしいと思います。

昔は何もかも女がガマン、家のため、子どものため、納得いかない。子どもを育てやすい国になってほしい。女の負担が多い。男は仕事だけすればいい、おかしい。今は女も仕事をしている。昔ながら固定観念多い。今はできる事は自分自分やるべき。食事は女、決め付けてる。男はできないからやらない。男は嫌な事は押し付ける。昔は女は上中下。

女性は家庭で家事をするのにどんな順序でやたらうまく家事を済ませられるか。整理整頓・清潔清掃と会社や仕事での法則があるように女性の家事は会社などでの仕事に大いに通づるものがあると長年働いてきて思いました。

男女共同参画、賛成ですが子どもさんが生まれた場合少なくとも1年位はママとして育児に専念してほしいと思います。勿論父親の協力は必要です。乳児にはやはり母親が寄り添ってほしいと思います。それも大事な仕事だと思います。本当は2年位余裕があるといいなと思います。その間テレワークを活用するなど職場の理解と家族の協力は欠かせないですね。子どもの成長は速いです。子育ての経験を大切にしてほしいと思います。もうすぐ後期高齢者の婆さんより。

■70歳以上・男性

70才を過ぎるとまったく関心が無い。

公衆浴場、脱衣場等で男女の表示があるのも仕方がないと思う。LGBTの方は自分でどちらか選んで利用されているものと思う。「LGBT者専用」とは難しいでしょう。今の社会では公に「自分はLGBT者」とわざわざ知らせるような事はあまり意味を感じない。健常者も世の中すべてが健常であるとは決めつけない事が大切で、互いを認めて欠ける所は助け合う社会にしたい。

アンケート調査の内容がよく理解できない。先のない年よりもアンケートをしても答がわからない。女性には女性の病があるため、同じことができないように思われる。例として、飲食店で料理長といわれる人がいないのはなぜか、同じ事がわりとできない。

女性は一般的に男性に比べハンディーを背負っていると思う。例えば出産・子育て・育児とそれは職場で昇進にも影響している。国・県・市の行政がもっとここの域に人を入れ真の男女平等の仕組みを構築してほしい。女性の能力、男性には気配りのできない素晴らしいものを持っている。日本の女性おとなしすぎる。

家から核家族化に変化してきたが、本当にこれがよかったのか。現在の教育は良いのか。自由と義務、今は時代が違う。特にハングリー精神がない。弱い若い男性が多い。

一流病院内で看護師の意見を医師がもっと良く聞くこと。そして患者に対して解るように説明すること。入院した者として看護師の助言程力になることはない（一入院患者として）。

1. 個人的に生きがいをもてる社会を構築することを前提に、お互い理解共助が大切。2. 私自身が常に心がけている事は、年齢を問わず誰に対しても「謙虚」な気持ちを心掛け対応している点です。なかなか難しい事ですが、心掛けるべき言葉だと思います。この事業における推進のハートとして指導して行って下さい。

【企業】

男女共同参画に関する事で何かご意見がありましたら、自由にお書きください。

意見等内容

建設業は女性の数がそもそも少なく業者内の団体や協力会などの組織の役員がほぼ全員男性で占められている。そういうところにも女性を活用していかないと業界全体として女性の声が届くことがほぼなく、女性の就業が増えることがない。

男女共同参画には賛成です。

男女というよりもそれぞれの家族、家庭にある優先すべきことに寄り添える働き方を提供するように心がけています。各家庭にある役割が働き方に関係しているからです。会社が社会的責任を全うする一番近い目的は社会全員の生活を守る事です。そのためには会社存続が大きな意味となります。倫理ある会社と倫理ある社員がどちらも大事に思います。男女だからという括りは現在の働く中でないように感じています。

特にありません。人材不足で男、女、外国人などと差別することは会社に損害を与えます。当社は次期社長が女性なので、全員で参画してもらいます。

求人の際に女性でもできる仕事としてハローワーク等で募集しますが、運送業のドライバーとしては応募はほとんどなく、男性職場に現在なっております。

従業員やパートさんの人数が少ないので、あまりあてはまることが少ない。

「ガラスの天井」という言葉のとおり、大企業等には資質、実績があっても女性を一定の職位以上には昇進させようとしないう障壁があります。目では見えない障壁に阻まれているということです。日本においても2020年までに指導的地位に女性が占める割合を30%とする目標が閣議決定されましたが、結果10%に届いていません。しかし、基本計画が作成されたということは大きな改革であると評価しています。

意見は特にありませんが、当院では女性柔道整復師の活躍の場を増やすために、今後女性柔道整復師の正規雇用を考えております。

次の市長は女性がいいかな。男、女、言っていることがどうなのかなって思います。このアンケートがどのように使われるか楽しみにしています。

そもそもこのアンケートが当小売店にはお答えしにくいです。女性経営者(二代目)、従業員(45年前に起業しました前経営者)、パート1名すべて女性です。対面販売です。男性の参加を考えていません。

男女共同参画に関するアンケート調査票をいただきましたが、現在は従業員はなく、本人一人で税理士業務に従事しており、ほとんど参考になるお答えができず誠にすみません。

家族経営なので男女に関わらず、全員で経営していくしかないので、問い合わせの件については答えようがありません。

当社は業務を委託しているため、社員、従業員がありません。このため今回のアンケートにお答えできませんので、ご了承ください。

【高校生】

男女共同参画に関する事で何かご意見がありましたら、自由にお書きください。

意見等内容

■男性

LGBTQの理解において特に重要だと思うのが、幼少期から理解することだと思う。私も理解しようと努力はしていますが、大きな違和感を感じているのが現状です。すぐに理解できるものではないと思います。

政治などで無理に女性が役職につかなくてもいい。能力が優れていたら全員男でも、全員女でもいい。わざわざ調整する必要はない。

同性の結婚を安城市の条例で認めてもらえるよう努力してほしいです。

パートナーの意見・意思を尊重して生活していくのも大事だと思います。

一人ひとりの意識がすごく大切だと思う。いろいろな意見があるのはいいけどそれを他人に押し付けるのは違う(男女共同参画という名前が性的マイノリティについて考えられていない)。

無理にLGBTを強要するのはよくないことだと思う。

レディーファーストを都合よく言う女を注意したほうがいいと思う。

自由でいさせてくれ。

■女性

LGBTという概念にとらわれず、どんな人がどんな人を好きになってもいいと思う。

男女ともにきちんと仕事したら、その分のお金をもらえるようにしたほうがいい。

一人ひとりが認められる世界になりますように。

名簿番号がごちゃごちゃになるのは嫌だった。当番などで女子が一人になったり、男子が一人になったりするから。

【町内会】

地域活動における男女共同参画に関する事で何かご意見がありましたら、自由にお書きください。

意見等内容

■加入世帯規模200世帯未満

女性は年金額や給与の額も男性と比べて少なく、ちょっとしたアルバイトや仕事をしている方も多し。そういう方に地域活動に取り組むための時間を生み出したり、経費を補填するための補助金を市からも出してほしい。例えば民生委員に払うお金をもっと増やしたり、福祉委員への活動時間に対する金銭的補償をしてあげたい。

現状女性の役割は各種行事の応援(町内会役員の奥さんあるいは子ども会の役員に限定)のみとなっている。今後は表舞台で活躍できる体制作りを構築したいと考えています。例えば子ども祭、例大祭等のイベント企画など、女性の視点で参画していただくことを望む。

やる気のある人(男女問わず)を育成することが重要(ボランティア)。

■加入世帯規模200世帯以上500世帯未満

市から町内会報酬の補助をぜひお願いします。

防災に関しても福祉に関しても町内会活動(行事)に関しても女性の視点が大変大切に思っている。私自身、妻から意見をうかがうことが多いが本当は町内会役員(事務員でもよいが)ブレインとしても女性が入った方がよいと思っている。男だけの考えでは狭かったり気付かない事も多い。

現状、子ども会や福祉活動には、女性が積極的に参加していただいているので、町内会役員に女性が参加しやすくする為には、まずは男性側の意識改革が必要と思う。

高齢化が進んでいる中、男性自体役員選任が困難な状況で更に女性もとなると大変と考えます。

自主的に意見や参加できる雰囲気や体制づくりが課題、仕事、家庭、生活の中での理解が必要。

町内会のことは男の人に任せておけばよいという風潮が非常に強い地域である。しかし、組長会議には女性が組長として参画しているし、衛生係についても女性が活躍している。老人クラブでは女性の活躍が多く見られる。

■加入世帯規模500世帯以上800世帯未満

町内会の役員(町内会長等、重要なポスト)は、高齢の方がやられる場合が多い。(無意識のうちに。)意識改革は難しいがやった方がよい。仕事も1人でなく複数で分散するようであれば、男女問わず多くの人が参画しやすいと思います。

平時の災害を想定した場合、地域には女性、高齢者、障害者に病人しかいないので、在宅者(女性)だけの自主防災訓練を実施したい。種々な課題が発見できる。

男女共同参画が理想ですが、町が保守的であり現実女性の参加は難しいのか?ただし福祉委員会の女性比率は高く、5割であるし、今後も女性による委員として考えている。

男女共同参画に向けての町民全体の意識改革が必要と思いますが、そのためには町内会活動が行政と一体となった組織運営体であるとの基盤を構築することが大切であると思います。市は町内会の位置づけを見直し、軽く扱わないでいただきたい。

男性の活動に代わって女性に参画してもらおうという事ではなく、女性の目線で気付いた点を指摘してもらような役割分担を増やしていく事がもっと必要であると思います。

土木(工事)において女性でも資格取得が可能の場合は積極的に受験して習得してほしい。

■加入世帯規模800世帯以上1,500世帯未満

男性でさえ役職を受ける方々が減ってきているのに女性はなおさら困難と考えられる。役員以外の役職であれば現在でも女性枠のある役職もあるので、全く女性の出番なしではないが、男性2年任期に対し、女性1年任期といった負担軽減が必要。

アンケートを取って機械的に集計しても現実的な問題点は見えてこないと思う。市はこの調整項目に基づき各町内会に出向いてヒアリングをしていただきたい。

時代と共に女性の活躍できる環境作りが必要かと考える。小学校、中学校のPTA会長は女性でやっているとよい。

子育て年代の女性は既存のPTA、こども会などで十分活動してもらっている。また、一般的にはこれ以上望むのは難しいかも。今狙いを定めているのは子育てが終わった年代(50代~)への役員参画を考えている。

上記でも記載しましたが町内会においての男女共同参画の差別はありません。勤務体制も比較的自由に他の業務にも取り組みしていただいている。女性の意志を参考に業務を実施している。町内会関連の役員(男女関係なく)になる人がいないのが現実。

町内会では女性参画に対する制約、規約等はなく、参加参画したい人があれば大いに参画していただきたいと思っています。残念ながら参加する(公民館行事の企画含)ことはあるが、町内会運営については難しいそうです。

問7-1、新たな役を設けることには難色。ただでさえ役員になりたくない(男性も)という中で、新設はどうか。会合の時間も男女関係ないと思う。

地域性があると思われませんが、まだまだ住民の皆さんの認識が足りない。

■加入世帯規模1,500世帯以上

女性も男性も町内会役員としての育成を市で検討していただきたい。

日本社会における評価は世界中で下位となっている。啓発ではなく実践、実行が急務となってしまった。法律、条例で女性参加を義務化しないと、この遅れた状況は安城市でもかわらないと思う。

町内会の運営全般で、全て費用発生予定時に町内会役員審議を経て評議員会(2ヶ月に1回開催)で審議決裁、その評議員に女性参画者を多く任命を主としますが、今後防災(物資倉)対応を女性評議員副委員長へ取りまとめを要望中。各部会(防災、防犯)へ女性参画を計画し進めます。

町内会の規約には男女の文字はありません。現状は町内会運営に婦人防災クラブ、婦人クラブなど女性による活動があり、町内会行事や予算の計画運営に関して要望を聞く場を設けています。また、行事や各活動に積極的に協力、活動してもらっています。ただ、役職名が伴うポジションでの参画は難色を示されることが多い。

【保育士・幼稚園教諭】

男女共同参画に関する事で何かご意見がありましたら、自由にお書きください。

意見等内容

■20歳代以下

劇の配役など、男女で分けてしまいそうになるが男の子が女の子役をやりたいと言ったら、周りの子の理解も深めながらやらせてあげたいなと思った。

幼少期の性差による心のもやもやを生じさせてしまわないように、保育士として〇〇ちゃん、〇〇くんと呼ばないようにした方がよいのかなと思うのですが、なかなか〇〇さんと距離を感じてしまい、区別が難しいなと感じています。

■30歳代

近隣市町村に習わず、県や国を超えて先進的に進めて行ってください。

自分の経験上でも、海外のように、子育て世代は男性も早く帰らなければならない制度にすれば、もっと早く家に帰れるし母親の負担が減ると思う。

男性の育児参加の可能にするため保育園の開園時間を早めてもよいのではないかと

3年程育児休暇を取得し、昨年度から仕事に復帰しました。家に帰るのが20時過ぎになることが多いですが、食事の準備や洗濯、子どもたちの世話も私の仕事です。家事や育児は女性がするものという固定概念がある方が多いため、夫も何もしてくれないのだと思います。世間一般が、夫婦で協力するものだという事になれば少しは変わるのではないかと思います。

保育、教育環境の中でとりわけ男女で区別することはないと思うが、状況によっては男女を分けるケースもあると思います。しかし、それは生活をする上で、男女の違いを知らせる観点からと大切な場合もあると思います。

母親との愛着関係をまず形成する幼児期に、母親がフルタイムで働かなければならない状況の家庭が多く、延長保育を使っている。その分子どもと関わる時間が減っていることは事実。必然的に母親と関わる時間が少なくなるため、子が満足するまで関わるのができず、情緒が安定しないまま年齢を重ねていく子が多い。落ち着きのない子、情緒が安定せず個別に対応の必要な子が増えている原因の一つだと感じる。もちろん、父親との関わりも大切だが、母親との関わりすら満足にできていないのが現代の現状だと感じる。

■40歳代

小さいうちから、個人を尊重できるような考え方や声のかけ方などしていきたいと思っている。

性差ならではの身体や力の強い弱い、得意不得意な事はあると思うが、それがその人の個性として捉えられるようになってほしいと思います。

国全体で、働き方を変えるか(本気でやらないと中小企業は取り組みないと思う)、雇用の制度を柔軟にするか、育児休業を義務付けるとよいと思う。正直、保育士にも家庭があるのに、需要が多くて休んでられないし、人不足で困ります。

保育園にあずけているお子さんが病気になった場合、お母さんが仕事をお休みしてみられる家庭が多いと思いますが、お父さんも仕事のために休みが取りやすい考え、環境が浸透したら良いな。と思います。

シングルマザー、シングルファーザーの家庭が多くなっていると思うので、家庭での役割が父親として、母親として…とは考えるのが難しくなっていると思います

女性の社会進出にともなって、保育園に預かる子も低年齢児からが増えている。保育士不足も解消すべき。

■50歳代

お母さんなら伝えてお父さんなら伝えないことがないようにしたい。皆んなで育児をしていけるようにしていきたい。

最近では働く母親が増え、共働きが当たり前になってきていますが、家庭内での役割分担はまだまだ母親の方に偏っていると感じます。父親も同等に家事を分担して協力し合いながら育児をするという意識が社会の中で高まるといいと思います。

できれば低年齢児については、両親どちらかの仕事を軽減して子どもと関わるのが大切だと思う。あまりにも、自分の仕事のキャリアを優先しているのではないかとと思われる家庭が多いと思う。

育児休暇、育児参加の父親が時短取得しやすい環境を整えられるといい。

その都度どうするべきか、話し合い決めていけばいいかと思います

まだまだ女性の格差はあると思います。

育ってきた環境とは社会の感覚が大きく変わってきていると感じる事が多い年代です。経験してきたことや目指してきた事が否定されている寂しさのような思いは多少ありますが、現在の様式にアンテナを張るようにしていくことの大切さも強く感じます。

若い世代は、男女の区別はあまり感じないと思いますが、年齢が上がるにつれ、なかなか受け入れるのは難しく感じます。育った環境もありますので、難しいです。

男女は必ずしも一緒ではなく、それぞれの役割を持った生物であると思う。全て平等は精神的にも肉体的にも無理があると思う。

